SOLVE
COAGULA
ELIPHAS
LEVI DEL

高等魔術の祭儀

序文

常に行進している、疲れる事を知らない、世界の古い女王を知っているか？　(世界の古い女王は、死である!)

涙の谷の汚らわしい女性の主である死の前を、全ての、抑えられていない肉欲、利己的な快楽、人の放蕩な力、暴君の様な弱さが行進している。

疲れる事を知らない、肉欲、利己主義、放蕩、弱さが、手に持った鎌(かま)で、永遠であるはずの心の命を刈り入れる。

死という女王は古い。

時の様に。

死が女性の若さと愛から盗んだ女性の美しさの残骸で、死は骨を隠している。

死は頭を死んだ他人の女性の髪で飾っている。

死は王冠をかぶっている頭の略奪者である。

死は権力者たちの頭の略奪者である。

死は女王たちの略奪品で飾っている。

死は Berenice の宝石の様に飾られた星の髪で飾っている。

死は老いによるものではない白い髪で飾っている。

死は死刑執行人が分けたマリー アントワネットのまゆ毛で飾っている。

死は土色の冷たい体に汚れた衣とぼろぼろの屍衣をまとっている。

死は骨の様に白い手を腕輪で覆っている。

死は王冠と鎖を持っている。

死は王笏と骨の十字を持っている。

死は宝石と灰を持っている。

死が近づくと門はひとりでに開く。

死は壁をすり抜ける。

死は王たちの個室に入り込む。

死は権力者たちの個室に入り込む。

死は秘密の酒神祭で貧乏人から搾取する人たちを不意打ちする。

死はテーブルに座る。

死はワインを注ぐ。

死は歌に笑う。

死は幕の裏に隠れた淫乱な遊女の代わりをする。

死は眠っている酒色にふける人たちの近くにいて喜ぶ。

抱きしめて温めたいかの様に、死は愛撫を求める。

しかし、死は死がふれた全てのものを冷たくする。

死は火をつけない。

しかし、時々、人は死が熱狂すると考える。

死はもはや遅くこっそりと歩かない。

死は走る。

もし死の歩みが遅過ぎる場合は、死は青白い馬を駆り立てる。

(ヨハネの黙示録 6 章 8 節「青白い馬に乗っているものの名前は死である」)

死は全ての息の無い死んだもので大衆を満たす。

殺人は死と共に赤い馬に乗る。

(ヨハネの黙示録 6 章 4 節「相互に殺し合わせる力が赤い馬に乗っているものに与えられた」)

煙のたてがみを震わせて、火という有翼の馬は死の前を赤と黒の翼で飛ぶ。

飢饉と伝染病が、病んだ、やつれた馬の後に続き、少数の束の刈り残りを集めて、死の刈り入れを完成させるために残る。

死の行進の後に、2 人の幼子が来る。

2 人の幼子はほほえみと命と共に光を放射する。

2 人の幼子は未来の世紀の愛と知である。

2 人の幼子は愛と知である。

愛と知は復活した人性の二重の精神である。

明けの明星の前に夜が圧倒される様に、愛と知の前に死の影は圧倒される。

愛と知は速足で地を滑る様に進む。

愛と知は、ある 1 年の希望という種をまく。

死はもう来ない。

無情な恐ろしい死はもう来ない。

干し草の様に熟した新時代の葉を刈り入れに死はもう来ない。

死の女性は進歩の天使に場所を譲る。

進歩の天使は徐々に魂を死の鎖から自由にする。

魂が神へ昇れる様に。

人が生き方を知った時、人は最早死なない。

人の心は死なない。

光輝く蝶に成るさなぎの様に、人は変身する。

死の恐怖は無知の娘である。

(無知が死の恐怖をもたらす。)

死を覆う残骸によって、死は醜いものに過ぎない。

死の映像を取り巻く憂うつな色によって、死は醜いものに過ぎない。

死は本当に命の生みの苦しみである。

死なない自然には力が存在する。

力は永久に存在を保存するために存在を変化させる。

力は自然の論理または言葉である。

人には力が存在する。

人の力は自然の力から類推可能である。

人の力は人の論理または言葉である。

人の言葉は、論理が導いた、人の意思の表れである。

人の言葉が論理的である時は、人の言葉は全能である。

なぜなら、人の言葉が論理的である時は、人の言葉から神の言葉を類推可能である。

人の論理の言葉によって、人は命の勝利者に成れる。

人の論理の言葉によって、人は死に勝利できる。

人の命の全ては人の言葉の出産か人の言葉の流産のどちらかである。

人の命の全ては人の言葉の分身か人の言葉の誤りのどちらかである。

論理の言葉を理解しないで死ぬ人は永遠の希望無しに死ぬ。

論理の言葉を明確に話さないで死ぬ人は永遠の希望無しに死ぬ。

恐怖という死の幻に耐えるには、人は命の真実と一体化する必要が有る。

もし失敗が弱まるのであれば、もし肉体の命が永遠であると見えるのであれば、論理は神に表れるであろうか？

もし非論理的なものが滅ぶのであれば、論理は自然に表れるであろうか？

論理は命の鍵を持っているであろうか？

なぜなら、論理的なものは滅ばない。

ヘブライ人は、失敗を永遠に破壊する無上の畏敬するべき力を、神の毒を意味するサマエルと呼んだ。

オリエントの人は、失敗を永遠に破壊する無上の畏敬するべき力を、サタンと呼んだ。

(

ヘブライ語でサタンは敵を意味する。

悪は免疫のための仮想敵である。

)

ラテン人、古代ローマ人は、失敗を永遠に破壊する無上の畏敬するべき力を、ルシフェルと呼んだ。

(ルシフェルはラテン語で光をもたらすものを意味する。)

カバラではルシフェルは呪われた打ち倒された天使ではない。

ルシフェルは光をもたらす天使である。

ルシフェルは啓示する天使である。

ルシフェルは啓蒙する天使である。

ルシフェルは知らせる天使である。

ルシフェルは火で復活させる天使である。

ルシフェルと平和の天使の関係は、彗星と春の星座の思いやりの有る星々の関係に似ている。

恒星は美しく、光を放って輝き、静かである。

恒星は天の香を飲む。

恒星は思いやりを持って姉妹である星々を見つめる。

恒星は自身の光という光輝く外衣をまとっている。

恒星は額がダイアモンドである王冠をかぶっている。

夜明けと宵の聖歌を歌う様に、恒星はほほえむ。

恒星は何ものも妨げられない永遠の休息を楽しむ。

恒星が与えた位置から外れる事無く光の番兵の中を恒星は厳しく進む。

しかし、乱れた血の星の配置のさまよう彗星は天の奥深くからすばやく来る。

ウェスタの処女の巫女たちの行進の配置の間を横切る戦車の様に、彗星は平和な天体の経路を横切る。

彗星は太陽の番兵の燃える槍に大胆に立ち向かう。

失った夫を探す妻の様に、独身に成った夜々に、彗星は夢を見る。

彗星は昼の神の聖所の最も奥深くを見抜く。

さらに、後ろに長い火の尾を引いて、太陽が放射する彗星を焼き尽くす火から、彗星は逃れる。

彗星が近づくと星々はかすむ。

彗星は彗星の尾という光の群れをちりばめる。

彗星は彗星の尾という光の花を空という広大な草地に放つ。

彗星は太陽の畏敬するべき息から逃れようとしている様に見える。

天体の大いなる集会に星々が集まる。

普遍の驚きが存在する。

ついに、恒星たちのうちで最も愛らしいものである太陽が集会で話す様に空の全ての名前において委任される。

太陽は平和をさまようものである彗星に大胆に提案した。

太陽は「姉妹である彗星よ」と話し始めた。

「なぜ彗星は天体達の調和を乱すのか？

恒星たちは彗星に何か悪い事でもしたのか？

なぜ彗星は勝手にさまよう代わりに太陽の集会の恒星達の様に固定しないのか？

なぜ彗星は恒星達の様にダイアモンドの留め金で胸が留められた白い衣を着て宵の聖歌を歌わないのか？

なぜ彗星は彗星の尾という火の汗がしたたる髪を夜の蒸気の中にただよわせるのか？

ああっ。

しかし、彗星は星々という天の姉妹である。

彗星は何と美しいであろうか？

彗星の顔はもはや信じられない夜の労苦で火照らない。

彗星の目は純粋である。

幸せな姉妹である星々のほほえみが白と赤である様に、彗星のほほえみは白と赤である。

全ての星々は彗星を知っている。

全ての星々は彗星の飛行を恐れない。

全ての星々は彗星が近づく事を喜ぶ。

なぜなら、普遍の調和の不壊の縁によって星々のうちの 1 つの星として彗星は創造されている。

彗星の平和な存在は無限の愛の聖歌の中の 1 つ以上の声である」

　後記の様に、彗星は恒星である太陽に答えて話した。

「姉妹である太陽よ。

彗星が思い通りにさまよう事と天体達の調和を揺さぶる事を許されているのは信じられないかもしれないが真実である！

神が太陽の経路と同時に彗星の経路を定めた。

もし太陽には彗星の経路が気まぐれでさまよっている様に見えても、太陽の光線は彗星の経路による日食を貫けない。

彗星の尾という彗星の火の髪は神の信号灯である。

彗星は恒星達の使者である。

彗星は恒星達の燃える熱に夢中に成っている。

彗星は旅して恒星達の燃える熱を未だ十分に温かくない若い世界達に与える。

彗星は旅して恒星達の燃える熱を孤独で冷たく成った古い星達に与える。

もし彗星が長旅で疲れても、もし彗星の美しさが太陽の美しさより弱く成っても、もし彗星の衣が汚れても、太陽が天の高貴な娘であるように、彗星は天の高貴な娘である。

彗星の畏敬するべき運命の秘密をそのままにしておきなさい。

彗星を包囲する恐怖をそのままにしておきなさい。

たとえ、星達が理解できなくても彗星を呪いなさい。

それでもなお、彗星は自身の務めを果たすつもりである!

それでもなお、彗星は自身の務めを神の息の鼓舞の下で継続するつもりである!

休息している星達は幸せである!

宇宙の平和な社会の若い女王の様に輝いている星達は幸せである!

彗星は迫害されている。

彗星は永遠にさまよう。

彗星の領域は無限である。

星達は彗星が惑星達に火をともすと非難する。

星達は彗星が、彗星が復活させたものの熱に火をともすと非難する。

星達は彗星が、彗星が明らかにした星達を恐れさせていると非難する。

星達は彗星が普遍の調和を破壊すると非難する。

なぜなら、彗星は星のまわりを円形に回転しない。

なぜなら、彗星は全ての恒星達の唯一の中心を見つめる。

美しい恒星である太陽よ安心しなさい！

彗星は恒星の平和な光をかすませるつもりはない。

むしろ、彗星は太陽の尽力の中で彗星の命と熱を費やすつもりである。

彗星が燃え尽きた時には彗星は天から姿を隠す。

彗星の死は十分に栄光である！

神の神殿では様々な火が燃えて神に栄光をもたらす事を知りなさい。

星達は金の枝分かれした燭台の光である。

彗星は犠牲の火である。

お互いの運命を全うしよう」

　前記の様に、彗星は話した。

　彗星は彗星の尾という燃える髪をなびかせた。

　彗星は火の盾をかかげた。

　彗星は無限の空間に身を投じた。

　彗星は永遠に失われる様に見えた。

　彗星の様にサタンは聖書の例え話に表れ姿を隠す。

ヨブ記 1 章 6 節「ある日、神の子達が主である神の前に来た時、サタンが神の子達に混じって来た」

ヨブ記 1 章 7 節「主である神は『どこから、あなたサタンは来たのか？』とサタンに話した。サタンは主である神に『地をあちこち歩いてきました』と答えて話した」

　後記の様に、学の有る旅人が東で見つけた、グノーシス主義者の福音書は、光の創世記とルシフェルの徳を説明する。

自意識の有る真理は生きている思考である。

真理は思考である。

真理の中に真理が存在する様に。

思考の中に思考が存在する様に。

明確にされた思考は言葉である。

永遠の思考は形を望んだ時に「光あれ」と話した。

(創世記 1 章 3 節「神が『光あれ』と話すと光が創造された」)

「光あれ」と話している思考は神の言葉である。

(ヨハネによる福音 1 章イエスは神の言葉、神のロゴス)

神の言葉は「光あれ」と話した。

なぜなら、神の言葉は心の光である。

創造されたのではない光は神の言葉である。

創造されたのではない光は光輝いている。

なぜなら、創造されたのではない光は見られる事を望んでいる。

神の言葉は見られる事を望んでいる。

神の言葉が「光あれ!」と話している時、神の言葉は目を開けさせる。

神の言葉は目覚めさせる。

神の言葉は知性を創造する。

神が「光あれ!」と話している時、神は知性を創造する。

神は光を表す。

星が太陽から放たれる様に、神は口の息によって知性を満ちあふれさせた。

知性は光輝く天使の形に成った。

天はルシフェルという名前で知性を敬礼した。

知性は目覚めた。

知性は、「光あれ！」という神の言葉を理解して、自身の性質を完全に理解した。

知性は自身が自由であると感じた。

なぜなら、神が知性を存在させていた。

神が知性の頭を持ち上げていた。

神が知性の翼を広げさせていた。

知性は「知性は奴隷には成らない」と答えて話した。

創造されたのではない声である神の言葉は「知性が奴隷に成らないのであれば、知性は苦しむであろう」と話した。

心の光である知性は「知性は自由である」と答えて話した。

無上の声である神は「傲慢が知性を誘惑して、知性は死を生むであろう」と話した。

創造された光である知性は「知性は命を獲得するために死と戦う必要が有る」と答えて話した。

胸の愛から、神は、無上の天使である知性を制限していた光輝いている綱をゆるめて自由に動ける様にした。

神は知性が夜に身を投じるのを見た。

知性は栄光で夜を耕した。

知性は自身の思考の結果を愛した。

知性は言い表し難いほほえみを浮かべて「光は、なんて美しいであろう！」と話した。

神が苦しみを創造したわけではない。

知性が自由に成るために苦しみを受容した。

苦しみは神が存在の自由に負わせた条件である。

神だけが誤らない。

なぜなら、神は無限である。

なぜなら、知性の神髄は判断である。

判断の神髄は自由である。

目は開く能力と閉じる能力によって光を保有する。

仮に目が常に開かれる事を強いられたら、目は光の奴隷に成るであろうし、目は光の犠牲に成るであろうし、苦しみから免れるために目は見る事をやめるであろう。

創造された知性には神を否定する自由によってのみ神を肯定する幸せが有る。

否定する知性は常に何ものかを肯定する。

なぜなら、否定する知性は何ものかを肯定する事によって知性の自由を表す。

前記の理由から、ある点で神に不敬な知性は別の点で神をたたえる。

地獄は天の幸せに絶対に必要である。

仮に影が光をしりぞけなければ、見える形は存在しないであろう。

もし最初の天使たちが闇の深さに出会わなければ、神の創造は不完全であったろうし、創造されたのではない光と創造された光の分離は存在しなかったであろう。

もし知性が神を失わなければ、知性は神の良さを知らなかったであろう。

仮に天の放蕩息子である知性が父である神の家に留まっていたのであれば、神の永遠の愛は神の思いやりの喜びの中に表れなかったであろう。

全てが光であった時、光はどこにも無かった。

創造しようと試みていた神の胸を光が満たした。

神が「光あれ！」と話した時、神は闇が光をしりぞける事を許し、混沌から宇宙がもたらされている。

生まれた時に奴隷に成る事を拒否した、知性という天使の否定は世界のつり合いの構成要素である。

知性という天使の否定によって、天体達の動きは始まった。

無限は知性の自由への愛を敬礼した。

知性の自由への愛は永遠の光の空間を満たすのに十分であった。

知性の自由への愛は神の憎しみを耐えるのに十分であった。

しかし、神は神の子のうちで最も高貴なものである知性を憎まなかった。

神は神の怒りによって知性に神の力を確証しただけであった。

知性、ルシフェルに嫉妬したかの様に、神の言葉イエスは堕天し、勝利して地獄の影を通過した。

神の言葉イエスは迫害を望んだ。

マタイによる福音 ２７章４６節で神の言葉イエスは詩編 ２２章１節の「私の神よ。私の神よ。なぜ神は私を見捨てるのですか？」を苦しみの極致で叫んだ時に、神の言葉イエスは事前に恐ろしい時間を熟慮していた。

(マタイによる福音 ２７章４６節でイエスは泣き叫んだわけではなくイエスは詩編 ２２章１節以降の預言が成就した事を指摘している。)

明けの明星が太陽の前に表れる様に、ルシフェルの反抗は神が人に成る事を生まれたばかりの自然に知らせた。

もしかしたら、ルシフェルは、夜へ堕天した時に、ルシフェルの栄光の引き寄せる力によって、ルシフェルと共に、太陽と星の雨をもたらしたかもしれない。

もしかしたら、太陽は星々の中の半神ダイモーンかもしれない。

ルシフェルが天使達の星である様に。

前記の理由から、疑い無く、知性は人性の畏敬するべき苦しみを静かに照らす。

知性は地の長い苦しみを照らす。

なぜなら、知性は孤独の中で自由である。

知性は知性の光を持っている。

前記が数世紀の異端派の指導者たちの傾向であった。

Ophitesの様に、ある異端者たちは、蛇の姿で半神ダイモーンを敬礼した。

Cainitesの様に、ある異端者たちは、創世記 4 章の最初の殺人者カインの反抗を正当化した様に、最初の天使の反抗を正当化した。

全ての異端者の誤り、全ての異端者の影、インドの異端者が魔術的な「三神一体」に象徴で対立させた混乱の全ての異端者の奇形の偶像が、キリスト教の祭司たちと信者たちに見つかる。

(三神一体は創造神ブラフマー、人に成った神ヴィシュヌ、破壊神シヴァが本来は一体であるという考え)

創世記には悪魔という名前は記されていない。

創世記 3 章の象徴的な蛇が人の最初の父アダムと人の最初の母エヴァをだました。

創世記 3 章の象徴的な蛇が人の初祖アダムとエヴァをだました。

創世記 3 章 1 節「主である神が創造した野の獣の中で蛇は最も狡猾であった」

創世記 3 章 1 節でモーセは「ヤハウェ、エロヒムが創造した野の獣の中で蛇は最も狡猾であった」と話した。

(エロヒムは神を意味する。)

創世記 3 章 1 節「ヤハウェ、エロヒムが創造した野の獣の中で蛇は最も狡猾であった」

創世記 3 章 1 節「ワハ-ナハシュ ハイァー アロウム ミコル ハイァタ ハシャデエ アシェル アシャー ヤハウェ エロヒム」

נחש、N(C)hSh、ナハシュは蛇を意味する。

Fabre d'Olivetは創世記 3 章 1 節を「根源の引き寄せる力(、貪欲)は存在の中の存在、神、ヤハウェの作品である自然の全ての四大元素の命(、心の自発的な力)の肉欲を引き寄せる」と解釈した。

しかし、Fabre d'Olivetの解釈は外れである。

なぜなら、Fabre d'Olivetはカバラの大いなる鍵を知らなかった。

後記の様に、タロットの象徴的な文字は蛇を意味するנחש、N(C)hSh、ナハシュを厳密に説明する。

１４。

ヌン。

組合せをもたらす力。

５。

ヘー。

形の受容するものと受容的な生産するもの。

２１。

シュィン。

二重の両極性がつり合わせる自然の中心の火。

前記の様に、モーセは魔術の普遍の代行者を表すのにנחש、N(C)hSh、ナハシュ、蛇という言葉を用いた。

נחש、N(C)hSh、ナハシュ、蛇をカバラ的にנהש、NHSh、ナハシュと読む。

נהש、NHSh、ナハシュは魔術の普遍の代行者の説明と定義をもたらす。

全ての神統系譜学では蛇によって魔術の普遍の代行者を表している。

ヘブライ人は、普遍の代行者の自発的な力を表す時に、普遍の代行者をOD、オドという名前で呼ぶ。

ヘブライ人は、普遍の代行者の受容的な力を表す時に、普遍の代行者をOB、オブという名前で呼ぶ。

ヘブライ人は、普遍の代行者のつり合わせる力、天の光をもたらすもの、金を表す時に、普遍の代行者をאור、AOUR、アウル、オウル、光という名前で呼ぶ。

(

אור、AWR、アウル、オウルは光を意味する。

「大いなる神秘の鍵」「金を意味するフランス語のORは光を意味するヘブライ語のAOURに由来する」

)

古い蛇は世界を包囲している。

ウロボロスの様に、古い蛇は自身の尾を飲み込もうと試みている。

古い蛇は頭を処女マリアの足の下に置く。

処女マリアは秘伝伝授の象徴である。

処女マリアは生まれたばかりの幼子イエスをマタイによる福音 2 章の 3 人のマギにもたらした。

マタイによる福音 2 章の 3 人のマギはイエスに敬礼した。

マタイによる福音 2 章の 3 人のマギは、金、乳香、没薬を、イエスにささげて、マリアに御返しにもたらした。

考えは、全ての祭司の宗教で、秘伝伝授者が思い通りにできる、自然の力の秘密をヴェールで隠すのに役立つ。

宗教の考えは、神々を天から降臨させ、神々に人の意思に報いてもらう、神秘と力の全ての言葉の要約である。

ヘブライ人は宗教の考えの秘密をエジプトから取り入れた。

ギリシャは秘儀祭司をヘブライ人の預言者の一門に遣わした。

後に、ギリシャは神知学者をヘブライ人の預言者の一門に遣わした。

初期キリスト教徒の避難所となった地下墓地での秘伝伝授はローマ帝国をキリスト教化した。

ローマ帝国は、ローマ帝国が同化していた全ての宗教の残骸で、象徴を建て直した。

ローマは世界の女王である。

ヨハネによる福音 １９ 章 １９ 節から ２０ 節でイエスの十字架に「イエス、ナザレの。王、ヘブライ人の」というイエス キリストの精神的な王権がヘブライ語、ギリシャ語、ラテン語で記された。

(

ヘブライ人は正しいものの例えの場合が存在する。

INRI はラテン語の「イエス、ナザレの。王、ヘブライ人の」の頭文字である。

)

「イエス、ナザレの。王、ヘブライ人の」は普遍の総合の表現である。

INRI は普遍の総合の表現である。

事実、ヘレニズムは形の大いなる美しい宗教である。

ヘレニズムはユダヤ教の預言者達と同様に救い主イエスの降臨を知らせた。

プシュケの例え話はキリスト教からの超抽出である。

パンテオンの宗教は、ソクラテスを復活させる事によって、イスラエルが神秘的に保存していた、神の統一性への祭壇の用意をした。

しかし、ユダヤ教会は救い主イエスを否定した。

少なくとも、ユダヤ教徒の盲目の目からヘブライ文字は姿を隠した。

ローマの迫害者はヘレニズムを汚した。

プラトンの「哲学者が王者に成った」ユリアヌス帝の偽の緩和はヘレニズムを復活できなかった。

大衆が背教者というあだ名をユリアヌス帝につけたのは多分不当であった。

なぜなら、ユリアヌス帝は心からのキリスト教徒ではなかった。

中世の無知な大衆は、神の様な者達、聖女達と多神教の神々、多神教の女神達、ニンフ達を対立させた。

古代ギリシャの神秘の深い意味は以前より理解されなくなった。

ギリシャは古代の宗教の口伝を失っただけではなくラテン語のカトリック教会から分離した。

前記の様に、ラテン語のカトリック教会の目には、ギリシャ文字は姿を隠した。

ギリシャ人の目には、ラテン文字は姿を隠した様に。

ヨハネによる福音　１　９　章　１　９　節から　２　０　節で救い主イエスの十字架にヘブライ語、ギリシャ語、ラテン語で記された「イエス、ナザレの。王、ヘブライ人の」という言葉は完全に姿を隠した。

INRI という神秘的な頭文字だけが残った。

しかし、信心と一致した、哲学と自然科学が全ての象徴を統一する時に、古代の宗教の全ての大いなるものが人の記憶に返り咲く。

神の光の直感での人の精神の進歩を表す。

しかし、進歩の全ての形の無上の大いなるものは、自然の鍵を知の手に復活させて、サタンの憎むべき幻を永遠に鎖につなぐ事であろう。

進歩の全ての形の無上の大いなるものは、自然の全ての稀な現象を説明して、迷信の支配と馬鹿げた盲信を破壊する事であろう。

エリファス レヴィは人生を神の教え、哲学、自然科学の一致という務めの成就にささげてきた。

エリファス レヴィは人生を神の教え、哲学、自然科学の一致という無上の難しい研究にささげている。

エリファス レヴィは、偶像を打ち倒す事によって、祭壇を自由にする。

エリファス レヴィは知を持つ人が自然の王者、祭司に再び成る事を望んでいる。

エリファス レヴィは、説明する事によって、普遍の聖所の全ての象徴を保存する。

預言者は例え話、象徴で話す。

なぜなら、大衆は理論的な言葉に欠けている。

なぜなら、預言者の理解は調和の感情または普遍の類推可能性である。

預言者の理解は象徴によって自然に訳される。

大衆が文字通りに解釈すると、預言者の象徴は偶像または見通せない神秘に成る。

預言者の象徴と神秘の全体や継承を象徴主義と呼んでいる。

人が象徴主義をまとめているが、象徴主義は神に由来する。

全ての時代で、啓示は人にともなってきた。

人の才能によって、啓示は変わってきた。

しかし、啓示は今まで同じ真理を説明した事が無い。

(啓示は今まで唯一の真理を説明した事が無い。)

本物の宗教は唯一である。

全てのものの届く範囲内において、宗教の考えは簡潔である。

同時に、象徴の多様性は人の才能の教育に絶対必要な詩の書であった。

神は外見の美しさの調和と形の詩を人が幼子の様な者である時に啓示する必要が有った。

しかし、すぐに、プシュケはヴィーナスのライバルに成った。

プシュケは愛の神エロスを誘惑した。

形の宗教は必然的に大いなる夢に従った。

形の宗教が必然的に従った大いなる夢はプラトンの雄弁な知を飾った。

イエス キリストの降臨が用意された。

前記の理由から、イエス キリストの降臨が待たれた。

イエス キリストが降臨した。

なぜなら、人々がイエス キリストの降臨を待った。

大衆的に成った哲学は信仰に変わった。

信仰が自由にした人の精神は速やかに信仰の象徴を物質化しようと試みた学派に抗議した。

ローマのカトリックの務めは、ただ良心を自由にする事を知らないで用意する事であった。

ローマのカトリックの務めは、ただ普遍の共同体の基礎を確立する事であった。

前記の全ては、人性の神の様な命の正常な普通の進歩であった。

なぜなら、神は全ての魂の中で大いなる魂である。

神は全ての知性を引き寄せる不動の中心である。

星雲の様に。

人の知性には朝が有った。

人の知性の真昼が来るであろう。

人の知性の堕落が来るであろう。

しかし、神は常に同じであろう。

太陽は朝に若々しく内気に昇る様に地球上の住人には思われる。

太陽は真昼に太陽の全力で輝く様に地球上の住人には思われる。

太陽は宵には疲れて休む様に地球上の住人には思われる。

しかし、地球は公転し、太陽は不動である。

人の進歩で信心を持てば、神の安定で信心を持てば、自由な人は過去の形で宗教を敬う。

自由な人は過去の形で神の教えを敬う。

自由な人はヤハウェよりユピテルに不敬な事を言わない。

自由な人はデルポイのアポロンの光を放つ象徴に愛を込めて敬礼する。

自由な人はアポロンの顔つきと復活した救い主イエスの栄光をたたえられた顔つきの兄弟の様な類似を見つける。

自由な人はカトリックの位階の大いなる使命を信じる。

自由な人は中世の法王が試す様に宗教を権力者たちの絶対的な力に対立させた事を見る事に満足を見出す。

しかし、自由な人は法王の鍵を鎖につないでしまうであろう良心の奴隷状態に対して革命の世紀と共に抗議する。

自由な人はルターよりプロテスタントである。

なぜなら、自由な人はルターのアウクスブルク信仰告白に誤りが無い事を信じない。

自由な人はルターのアウクスブルク信仰告白の不可謬を信じない。

自由な人は法王よりカトリックである。

なぜなら、自由な人は法廷の悪意が宗教的な統一性を破壊するかもしれない事を恐れない。

自由な人は統一性の考えの救いによってローマの政策より神を信頼している。

自由な人は古代の教会を畏敬する。

しかし、自由な人は教会が姿を隠す事を恐れない。

自由な人は教会の見せかけの死は変身に成る事を知っている。

自由な人は教会の見せかけの死は栄光の被昇天に成る事を知っている。

本書「高等魔術の祭儀」の著者エリファス レヴィはマタイによる福音 2 章の東の 3 人のマギが現れる様に新たに呼びかける。

エリファス レヴィは、マタイによる福音 2 章の 3 人のマギが敬礼した、ゆりかごの神の主イエス、全ての時代の大いなる祖イエスを再び認める。

イエスの全ての敵は地に堕ちた。

イエスを迫害した全ての者は死んだ。

イエスを迫害した者は死んだ。

イエスは永遠に生きている。

イエスに対して嫉妬が 1 つの点で一致してまとまった。

イエスを破滅させるために党派心の強い人々がまとまった。

党派心の強い人々は自身を王者にしイエスを迫害した。

党派心の強い人々は偽善者に成りイエスを非難した。

党派心の強い人々はイエスへの裁きを買って出てイエスに死刑宣告した。

党派心の強い人々は死刑執行人に成りイエスを死刑にした。

党派心の強い人々はイエス、ソクラテスに毒ニンジンの毒薬を飲ませた。

党派心の強い人々はイエスを十字架にはりつけにした。

党派心の強い人々はイエスに投石した。

党派心の強い人々はイエス(のもの)を燃やした。

党派心の強い人々はイエスの(ものの)灰を風に捨てた。

党派心の強い人々は恐怖で赤く成った。

なぜなら、イエスは党派心の強い人々の前に立っていた。

イエスの傷は党派心の強い人々を責めた。

イエスの傷跡は党派心の強い人々を圧倒した。

党派心の強い人々はベツレヘムのゆりかごの中のイエスを殺す事ができたと信じた。

しかし、イエスはエジプトで生きていた！

党派心の強い人々はイエスを突き落とすためにイエスを山の頂上に運んだ。

イエスを殺そうとする大衆がイエスを包囲した。

大衆はイエスの確実な破滅を勝ち誇った。

叫びが聞こえた。

イエスは地獄の岩の上に堕ちて砕かれたのではないか？　いいえ！

大衆は白く成って相互に見つめ合った。

しかし、イエスは静かに哀れみ、ほほえむ。

イエスは大衆の中を通り過ぎた。

イエスは姿を隠した。

大衆がイエスの血で染まった別の山を見なさい！

十字架を見なさい！

イエスの墓を見なさい！

イエスの墓を監視する軍人たちを見なさい！

狂人ども！

イエスの墓は空（から）である。

大衆が死んだと考えていたイエスはエマオへの道を 2 人の弟子と共に平和に歩いている。

どこにイエスはいるのか？

どこにイエスは存在するのか？

どこへイエスは行くのか？

地の王者たちよ注意しなさい！

権力者たちの権力は揺るがされていると話しなさい！

　誰が権力者たちの権力を揺るがしているのか？

　頭を置く石が無い、枕する所が無い、貧しい人イエスが権力者たちの権力を揺るがしている。

　大衆により奴隷としての死を宣告された独りの人イエスが権力者たちの権力を揺るがしている。

　なんというイエスに対する無礼！

　なんというイエスに対する狂気！

　問題無い。

　権力者たちは権力の全てを並べている。

　血の命令がさまようものを迫害している。

　全ての場所で足場が建てられる。

　ライオンと戦士の円形競技場が開かれる。

　まきに火がつけられる。

　流血の激流。

　権力者たちは自分が勝利者であると信じていた。

　権力者たちは思いあがって別名を勝利の記念碑に加えた。

　権力者たちは死んだ。

　権力者たちは自分を神格化して権力者たちが守った神々を冒涜した。

　俗世の大衆の憎悪は神ユピテルと皇帝ネロを混同し軽蔑した。

　墓に成った神殿は打ち倒され迫害の灰に成った。

　偶像の瓦礫を超越して、国々の破滅を超越して、イエスだけが、権力者たちが迫害したイエスだけが、権力者に媚びへつらった大衆が迫害したイエスだけが、死刑執行人である大衆が苦しめたイエスだけが、イエスだけが生きている。

イエスだけが統治している。

イエスだけが勝利している。

(イエスだけが復活して死に対して勝利している。)

にもかかわらず、偽のイエスの弟子たちはイエスの名前を悪用している。

大衆が聖所に入門した。

イエスの復活を公に話すべきである大衆はイエスの死を永遠のものにしようと試みている。

大衆はイエスの永遠に再生する肉にカラスの様にたかっている。

自分を犠牲にしたイエスを見習う代わりに、信者という子孫のために血を流したイエスを見習う代わりに、(巨人的な愛で人のために自分を犠牲にした)巨人の神プロメテウスがコーカサス山に鎖でつながれた様に、イエスはバチカンに鎖でつながれた。

大衆は、永遠に再生するプロメテウスの肝臓にたかって苦しめたワシの様に、永遠に再生するイエスの肉にたかって苦しめるカラスの様に成っている。

しかし、大衆の悪夢は何を意味するのか？

大衆はイエスの映像に、とらわれただけである。

イエスは自由である。

イエスは打ち倒される事無く立っている。

イエスは国から国へ追放され進んでいる。

イエスは勝利の上に勝利を重ねている。

人を縛る事は可能である。

しかし、神の言葉を縛る事は不可能である。

イエスを縛る事は不可能である。

言葉は自由である。

言葉を抑えつける事は不可能である。

悪人は生きている言葉、イエスを迫害している。

悪人は生きている言葉、イエスを破滅させようと試みている。

しかし、悪人が死ぬだけである！

真理の言葉は悪人の記憶を裁くために後に残る！

酒神の女性の狂信者はオルフェウスを引き裂いたかもしれない。

ソクラテスは毒ニンジンの毒薬を飲んだかもしれない。

イエスと使徒は極限の苦しみの中で死んだかもしれない。

ヤン フス、プラハのイェロニームなどは焼き殺された。

サン バルテルミの虐殺と九月虐殺が起きた。

ロシア皇帝はコサック、knouts、シベリア砂漠を思い通りにしている。

しかし、迫害者たちは死んだが、オルフェウスの精神、ソクラテスの精神、イエスの精神、全ての殉教者の精神は永遠に生きる。

悪法が滅んでも、国々が滅んでも、オルフェウスの精神、ソクラテスの精神、イエスの精神、全ての殉教者の精神は打ち倒される事無く立つ。

ヨハネの黙示録 １ 章 １ ２ 節から １ ３ 節で、人の子イエス、神の精神イエス、神の独り子イエスの精神が黄金の燭台の中央に立っている。

なぜなら、イエスは全ての光の中心である。

ヨハネの黙示録 １ 章 １ ６ 節で、新しい天の種の様に、イエスは右手に ７ つの星を持っている。

ヨハネの黙示録 １ 章 １ ６ 節で、天から地へのイエスの言葉は、両刃の剣として描かれている。

大衆の反対の中、疑惑の夜の中、賢者が眠っている時に、イエス キリストの精神は打ち倒される事無く立って油断無く番をしている。

労働者の苦労が自由にした国々が横たわり束縛を夢見ている時に、イエス キリストの精神は打ち倒される事無く立って抗議している。

不毛な異教の盲目な党派心の強い人々が古代の神殿の塵(ちり)に身を投じている時に、イエス キリストの精神は打ち倒される事無く立って祈っている。

力の有る者が弱く成った時に、徳が地に堕ちた時に、恥じるべき牧草地を求めて全てのものが歪み地に堕ちた時に、イエス キリストの精神は打ち倒される事無く立っている。

イエス キリストの精神は天を見つめている。

イエス キリストの精神は父である神の時を待っている。

イエス キリストは超越性によって王者と祭司を表す。

イエス キリストは徳によって王者と祭司を表す。

現代の祖イエス キリストは知によって新しい王者と新しい祭司を形成する様に成った。

特に、現代の祖イエス キリストは思いやりによって新しい王者と新しい祭司を形成する様に成った。

古代のマギは王者で祭司であった。

マタイによる福音 2 章で星が救い主イエスの降臨をマギに教えた。

マタイによる福音 2 章の星は魔術の五芒星である。

五芒星は 5 つの神の文字 A の組合せである。

五芒星は知の象徴である。

知は四大元素の力を力の統一性によって統治する。

マタイによる福音 2 章の星はマギの五芒星である。

マタイによる福音 2 章の星はヒラムの魔術の子孫の燃える星である。

五芒星はヒラムの魔術の子孫の燃える星である。

五芒星は、つり合わせた光の見本である。

一方の光線は五芒星の各頂点へ向上し、他方の光線は五芒星の各頂点から前進する。

五芒星は自然の大いなる無上の錬金炉を表す。

五芒星は人の体を表す。

五芒星の形で、頭からの、手からの、足からの、2 つの光線で、磁気の影響はもたらされる。

五芒星では、一方の陽の光線と他方の陰の光線は、つり合っている。

五芒星の形で、頭は両足と、一方の手は他方の手と片足と、片足は頭と片手と、対応している。

つり合わせた光の力が有る象徴である五芒星は秩序と調和の精神を表す。

五芒星は魔術師の全能性の象徴である。

途切れた五芒星、歪んだ五芒星は星の光の酩酊を表す。

途切れた五芒星、歪んだ五芒星は星の光の異常な放射、乱射を表す。

途切れた五芒星、歪んだ五芒星は呪いを表す。

途切れた五芒星、歪んだ五芒星は倒錯を表す。

途切れた五芒星、歪んだ五芒星は狂気を表す。

魔術師は途切れた五芒星、歪んだ五芒星をルシフェルのサインと呼んでいる。

魔術師は途切れた五芒星、歪んだ五芒星を悪魔のサインと呼んでいる。

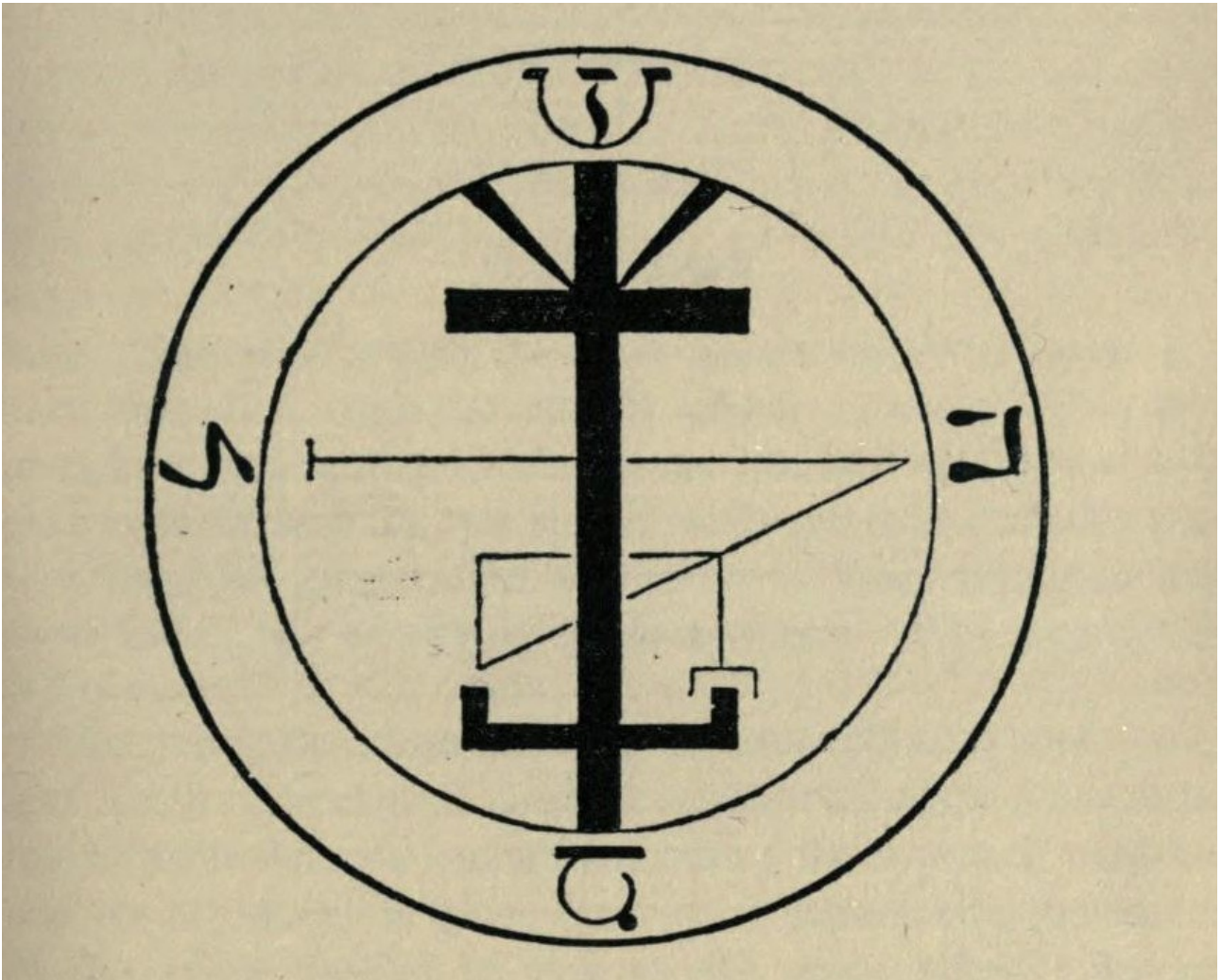
六芒星は光の神秘の象徴である。

六芒星はソロモンの象徴と呼ばれている。

六芒星はソロモンの封印と呼ばれている。

ソロモンのタリスマンの一方の面にはソロモンの封印、六芒星が描かれている。

ソロモンのタリスマンのソロモンの封印、六芒星は「高等魔術の教理」で示した。

ソロモンのタリスマンの片方の面には後記の象徴が描かれている。

前記の象徴は磁石の構造の象徴的な理論である。

前記の象徴は雷の循環の法を表す。

燃える五芒星かソロモンの封印の六芒星を表す事で反抗的な霊を縛る事ができる。

なぜなら、五芒星と六芒星は霊の愚かさの証をもたらす。

五芒星と六芒星は秩序を思い起こさせて苦しめる無上の力で霊を震え上がらせる。

善ほど悪人を苦しめるものは無い。

善は悪人を苦しめる。

論理より狂人を苦しめるものは無い。

論理は狂人を苦しめる。

しかし、無知な人が五芒星と六芒星の知無しに五芒星と六芒星を利用する事は、盲人が盲人に光について話す様なものである。

無知な人が五芒星と六芒星の知無しに五芒星と六芒星を利用する事は、無知な人が子孫に読み方を教える様なものである。

マタイによる福音 １５ 章 １４ 節で大いなる神の秘儀祭司イエスは「もし盲人が盲人を導けば、盲人は諸共に穴に堕ちるであろう」と話している。

序文全体を要約する究極の言葉を話そう。

もし、あなたがサムソンの様に盲目であれば、神殿の ２ つの柱を倒してしまい、神殿の残骸は、あなたを圧倒するであろう。

自然に命令するには、人は自然の魅力に耐えて自然を超越する必要が有る。

もし、あなたの精神が全ての先入観、迷信、懐疑から完全に自由であれば、あなたは霊に命令できるであろう。

もし、あなたが盲目的な力に屈しなければ、盲目的な力は、あなたに従うであろう。

もし、あなたがソロモンの様な知者であれば、あなたはソロモンの業績や奇跡を行えるであろう。

もし、あなたがイエス キリストの様に神聖であれば、あなたがイエス キリストの業績や奇跡を行えるであろう。

変化し易い光の流れを傾けるには、人は不変の光の中に自分を確立する必要が有る。

四大元素に命令するには、人は(精神的にも物質的にも)嵐、雷、深淵、暴風雨を克服する必要が有る。

大胆に行うには、人は知る必要が有る。

(正しい)希望を持つには、人は大胆に試みる必要が有る。

(正しい)希望を持つには、人は大胆に行う必要が有る。

(神の)王国を所有するには、人は(正しい)希望を持つ必要が有る。

王者に成るには、人は沈黙する必要が有る。

1

用意

行動によって表されない意思は無益な意思である。

行動によって表されない意思を話す言葉は無益な言葉である。

行動は命を証明する。

行動は意思を確証する。

神聖な象徴的な諸書に書かれている様に、思考ではなく行動によって人は裁かれる。

(神は人を行動によって裁く。)

人は存在するために行動する必要が有る。

前記から、「高等魔術の祭儀」では、魔術の作業の大いなる畏敬するべき問題について話す必要が有る。

理論や抽象概念ではなく現実に至る時が来た。

エリファス レヴィは奇跡の杖を達道者の手に委ねようとしている。

後記の様に、エリファス レヴィは達道者に話す。

「エリファス レヴィが、あなたに教えたものだけで満足するなかれ。

知るだけで満足するなかれ。

自分のために行動しなさい。

自ら行動しなさい。

自分で行動して確かめなさい」

「高等魔術の祭儀」では、相対的な全能性の作業について話す必要が有る。

自然の無上の秘密を把握する方法について話す必要が有る。

自然を、知の光に照らされた不屈の意思に従わせる方法について話す必要が有る。

大衆に最も知られている魔術の儀式は、大衆を煙に巻く代物か、大衆には謎である。

幾多の世紀を経て、エリファス レヴィが初めて(本当の魔術の儀式という)隠された聖所のヴェールを裂こうとしている。

神秘の神聖さを明かす事は神秘への冒涜をただす事である。

神秘への冒涜をただすという考えが、エリファス レヴィの大胆さを支えてくれる。

神秘への冒涜をただすという考えが、本当の魔術の儀式を明かすという、人の精神が想像可能な限りの、人の精神が実行可能な限りの、無上の大胆な試みに伴う全ての危険に立ち向かわせてくれる。

魔術の作用は自然の力の発揮である。

しかし、魔術の作用は自然の超常的な力の発揮である。

魔術の作用は知と実行が人の意思を通常の限界の超越まで高めた結果である。

超常とは超常の段階の自然に過ぎない。

超常とは高められた自然である。

奇跡とは大衆の心を打つ現象である。

なぜなら、奇跡は大衆には予想外である。

驚異的な物事とは大衆を驚かせる物事である。

奇跡は原因を知らない人を驚かせる結果である。

または、奇跡は原因を知らない人が結果に対応しない原因のせいにする結果である。

奇跡は無知な人のためにのみ存在すると言える。

実に、人には絶対の知が無いので、超自然的な物事は俗世の大衆のためにのみ存在すると言える。

後記の様に、最初に話す。

エリファス レヴィは全ての奇跡を信じる。

なぜなら、エリファス レヴィは経験から奇跡の可能性を確信している。

エリファス レヴィには説明できない奇跡が存在する。

しかし、エリファス レヴィはエリファス レヴィに説明できる奇跡と同様にエリファス レヴィには説明できない奇跡が説明可能であると考えている。

大きなものから小さなものへ、小さなものから大きなものへ、結果は類推可能である。

説明できる奇跡から説明できない奇跡は類推可能である。

自然な物事から超自然的な奇跡は類推可能である。

結果は進歩的に厳密につり合っている。

説明できる奇跡から説明できない奇跡は進歩的に厳密につり合っている。

自然な物事から超自然的な奇跡は進歩的に厳密につり合っている。

しかし、奇跡を起こすには、人は超人に成る必要が有る。

奇跡を起こすには、人は、知によって、または、良い意味でも悪い意味でも狂気によって、忘我状態に成る必要が有る。

奇跡を起こすには、人は、全ての肉欲を超越する必要が有る。

または、奇跡を起こすには、人は、狂喜や熱狂によって、全ての肉欲を超越する必要が有る。

知によって、または、良い意味でも悪い意味でも狂気によって、忘我状態に成り、全ての肉欲を超越する事は、奇跡を起こすための最初の無上の絶対必要な用意である。

魔術師が俗世のものへの執着に反比例して全能性を発揮できる事は神の意思、必然である。

錬金術師は貧しければ貧しいほど金を創造できる。

多数の錬金術師達は大作業の秘密を守ってくれる貧しさを重んじた。

多数の錬金術師達は大いなる務めの秘密を遵守できる貧しさを畏敬した。

肉欲を超越した心を持つ達道者だけが愛と憎悪を知の道具にできる。

創世記の例え話は永遠の真理である。

創世記の例え話の様に、神は、(物質的な俗世的な結果という)果実への肉欲を自制できるほど強い人だけに、知の木へ近づく事を許す。

イエス。

肉欲を満たす手段として魔術という知を求める大衆は死に至る道を歩むのをやめなさい。

肉欲を満たす手段として魔術という知を求める大衆は狂うか死ぬだけである。

肉欲を満たす手段として魔術という知を求める大衆は死ぬだけであるというのが、「遅かれ早かれ悪魔は偽の魔術師の首を絞めて殺すに至る」、「遅かれ早かれ悪人の霊は悪人の霊の魔術師の首を絞めて殺すに至る」という大衆の口伝の意味である。

魔術師は、無感覚であるかの様に肉欲を超越する必要が有る。

魔術師は冷静、貞淑である必要が有る。

魔術師は冷淡なほどに肉欲に対して無欲である必要が有る。

魔術師は全ての先入観と恐れと無縁である必要が有る。

魔術師は肉体的な欠陥が無い必要が有る。

魔術師は全ての反対に耐える必要が有る。

魔術師は全ての困難に耐える必要が有る。

魔術の作業で最初に無上に重要な事は肉欲を超越するといった超越性に到達する事である。

「高等魔術の教理」で話した様に、肉欲への熱狂は肉欲からの絶対の超越と同様の結果をもたらす事ができる。

しかし、肉欲への熱狂は魔術の作用を制御できない。

(肉欲からの絶対の超越は魔術の作用を制御できる。)

肉欲は星の光を放射する。

肉欲は不測の動きを普遍の代行者に強制する。

しかし、肉欲では肉欲が強制した不測の動きを容易には制御できない。

肉欲の運命は自分の馬に引きずられたヒッポリュトスに似ている。

肉欲の運命は他人を苦しめるために造らせた拷問装置ファラリスの雄牛の犠牲に自分が成ったファラリスに似ている。

行動によって実現されていく人の意思は障害で減衰しない弾丸に似ている。

弾丸は貫通するか埋没する。

しかし、もし弾丸が忍耐強く前進すれば、失われない。

行動によって実現されていく人の意思は絶え間無く打ち寄せて鉄をすり減らす波に似ている。

人は習慣によって自分を変えられる。

人は習慣によって人間性を変えられる。

古代の哲学者の言葉によれば「習慣は第二の天性なり」。

忍耐強い段階的な累進的な動きによって、体の力と動きは驚異的な段階にまで発達させられる。

忍耐強い段階的な累進的な動きによって、魂の力は驚異的な段階にまで発達させられる。

あなたは自身と他のものを統治したいか？

自身と他のものを統治したいのであれば、どのように意思するべきか学んで、意思を鍛錬しなさい。

どのようにすれば意思を鍛錬できるのか？

意思を鍛錬する方法は魔術の入門と秘伝伝授の最初の無上の秘密である。

祭司のわざの古代の受託者達が聖所に近づく道を多数の恐怖と幻想で囲んだ(のは意思を鍛錬するためであるという)意味を理解させる。

古代の祭司が(行動によって)意思が証明されるまで意思を信じなかったのは正しかった。

古代の祭司が(行動によって)意思が証明されるまで人を信じなかったのは正しかった。

勝利によって力は証明される。

行動しない怠惰と忘却が意思の敵である。

前記の理由から、全ての宗教は儀式を多面的にした。

全ての宗教は儀式を厳密に理解し難くした。

考えていけばいくほど、概念の領域で、より大きな力を体得できる。

母は、母を最も受難させた心配させた子を、受難させればさせたほど心配させればさせたほど、より特別に愛する！

宗教の力は実践の不屈の意思に存在する。

ミサでイエスの神の犠牲を信じる信心深い人が 1 人でも存在する限り、ミサでイエスの神の犠牲を信じる信心深い人のためにミサを行う祭司は存在する。

聖務日課、「教会の祈り」の祈りを日々唱える祭司が存在する限り、世界に法王は存在する。

一見、最も無意味に無目的に見える儀式が、意思の鍛錬に役立つ。

(儀式は意思の鍛錬に役立つ。)

もし、学の無い人でも、毎朝、午前 2 時か 3 時に起きて家から遠く離れた場所に行き太陽が昇る前に同じ薬草の小枝を集めれば、薬草を持って行くだけで多くの奇跡を起こす事ができるであろう。

なぜなら、儀式的に集めた薬草は、意思の象徴に成る。

儀式的に集めた薬草は、意思によって、願いのために必要とする全ての物に成る。

行動するには、行動の実現性を信じる必要が有る。

直ちに、人は行動の実現性を信じると行動にうつすであろう。

子が「自分には不可能である」と話すと、母は「行動してみなさい」と答えて話す。

信じるには行動するまでもない。

成就の確信から信じる事は始まる。

全能であるかの様に静かに永遠に信じ続ける。

あなたはマギの知によって何を求めるのか?

あなたは魔術によって何を求めるのか?

願いを大胆に言葉や行動で表しなさい。

直ちに、同じ目的で同じ手順で行動し続けなさい。

同じ目的で同じ儀式で行動し続けなさい。

前記によって、あなたの願いは実現するであろう。

あなたの意思は実現するであろう。

あなたによって、すでに行動は始まっている。

あなたは、すでに行動している。

シクストゥス 5 世は豚の群れを世話しながら「法王に成りたい」と口にしていた。

あなたは貧しい人であるか？

あなたは金を創造したいか？

行動し続けなさい。

知の御名によってエリファス レヴィはニコラ フラメルとライムンドゥス ルルスの全ての宝をあなたに約束する。

「行動で最重要な事は何か？」

自分の力を確信して行動しなさい。

「どのように行動すれば良いのか？」

日々、朝早く同じ時刻に起きなさい。

季節を通じて夜明け前に泉で洗浄しなさい。

汚れた衣をまとうなかれ。

必要が有れば、進んで、自分で汚れた衣を洗浄しなさい。

望まずとも来る物事に、より良く耐えられる様に、自ら進んで貧しさに慣れなさい。

大いなる務めの成就とは無関係な全ての望みを沈黙させなさい。

大作業の成就とは無関係な全ての望みを沈黙させなさい。

「何！　日々、泉で洗浄する事によって金を創造できるのか？」

金を創造するために意思して行動しなさい。

「日々、泉で洗浄する事によって金を創造できるなんて嘘で無駄だ！」

いいえ。

日々、泉で洗浄する事によって金を創造できるのは秘密(の法)である。

「どうして理解できない秘密(の法)を応用できるであろうか？」

信じて行動しなさい。

後に、理解するであろう。

後記の様に、ある日ある人がエリファス レヴィに話した。

「私は熱心なカトリック教徒に成りたい。

私はカトリックを信じたい。

私は神を信じたい。

しかし、私はヴォルテールの様な不信心者です。

私は信心を持てない！

私は信じる事ができない！

私は神を信じる事ができない」

後記の様に、エリファス レヴィは答えて話した。

「『成りたい』、『信じたい』と話さずに、『成る』、『信じる』と話しなさい。

『神を信じる』と話していれば、エリファス レヴィは、あなたが神を信じる様に成る事を約束する。

あなたはヴォルテールの様な不信心者であるとエリファス レヴィに話した。

イエズス会の信じ方が、ヴォルテールの様な不信心者である、あなたには、最も似合わないが、最も効力が有り望ましい様に思われる。

イグナチオ デ ロヨラの霊操をためらわないで、くり返し実践しなさい。

イグナチオ デ ロヨラの霊操を実践すれば、あなたはイエズス会員の様な信心を獲得できるであろう。

行動がもたらす結果は誤りが無い。

行動がもたらす結果は不可謬である。

行動がもたらす結果は絶対である。

行動がもたらす結果は絶大である。

仮に、あなたに行動がもたらす結果を奇跡と思う純心が有れば、あなたが自分はヴォルテールの様な不信心者であると考えているのは誤解でしょう」

　行動しない怠惰な人は魔術師に成れない。

　魔術は全ての機会における鍛錬である。

　大いなる務めの実行者は自身の絶対の主である必要が有る。

　大作業の実行者は自身の絶対の主である必要が有る。

　魔術師は肉欲、食欲、眠気の誘惑の抑え方を知る必要が有る。

　(魔術師は物欲、性欲、食欲、睡眠欲の和らげ方を知る必要が有る。)

　魔術師は成功に冷淡である必要が有る。

魔術師は侮辱に冷淡である必要が有る。

魔術師の一生は唯一の思考に導かれた一心による一生である必要が有る。

魔術師の一生は、感覚器官において、全ての自然、全ての天性を精神に従わせた唯一の意思による一生である必要が有る。

魔術師の一生は、普遍の全ての力を一致させる思いやりによる唯一の意思による一生である必要が有る。

魔術師は全能力、全感覚をもって大いなる務めに取り組むべきである。

魔術師は全能力、全感覚をもって大作業に取り組むべきである。

魔術師、ヘルメスの祭司は行動する権利が有る。

魔術師、ヘルメスの祭司は行動する必要が有る。

魔術師は象徴によって知を明らかにする必要が有る。

魔術師は象徴によって知を要約する必要が有る。

魔術師は絵、文字、pantacle によって知を要約する必要が有る。

魔術師は言葉によって意思を確定する必要が有る。

魔術師は行動によって言葉を実現する必要が有る。

(魔術師は行動によって意思を実現する必要が有る。)

魔術師は魔術の考えを目にとっての光にする必要が有る。

魔術師は魔術の考えを耳にとっての和音にする必要が有る。

魔術師は魔術の考えを鼻にとっての香にする必要が有る。

魔術師は魔術の考えを舌にとっての美味にする必要が有る。

魔術師は魔術の考えを触れられる物にする必要が有る。

一言で要約すると、魔術師、行動する者は、一生によって、自分の外の世界に実現したいものを実現する必要が有る。

魔術師は願うものを引き寄せる磁石に成る必要が有る。

魔術師が自分を十分に磁化した時は願わずとも事物の方から自ら来る事を信じる必要が有る。

魔術師は知の秘密を知る事が重要である。

実に、魔術師は直感によって知の秘密を知る。

(魔術師は霊感によって知の秘密を知る。)

大衆が科学を勉強する様に、魔術師は知の秘密を知るわけではない。

魔術師は知の秘密を学ぶ時は、なりふりかまわない。

自然を常に観ている隠者は自然の調和を見抜く。

自然について常に考えている隠者は自然の調和を見抜く。

学者より多くのものを、単純な良識によって、隠者は自然の調和に教わる。

学者は党派的な似非理屈によって自身の自然な洞察力をねじ曲げている。

本物の実践的な魔術師は、いなかに存在する事が多い。

本物の実践的な魔術師は都会に存在しない事が多い。

本物の実践的な魔術師は無学な者が多い。

本物の実践的な魔術師は単純な羊飼いである事が多い。

さらに、他の者より、隠れた世界の啓示を感じ易い体の器官を持つ者が存在する。

先天的に星の光を感じ易い者が存在する。

心身の苦難や病気が神経系を変える場合が存在する。

意思の同意無しに、多少、心身の苦難や病気が神経を予言の道具に変える場合が存在する。

しかし、病気などによる神経の変化で予言などができる様に成る場合は稀である。

普通、忍耐と苦労によって魔術の力を獲得するべきである。

普通、忍耐と苦労によって魔術の力を獲得できる。

忘我状態をもたらして磁気の催眠状態に成り易くする物質が存在する。

想像力の助けに成って、四大元素の光の映像をより鮮やかに高度にする物質が存在する。

しかし、忘我状態をもたらす物質や想像を強める物質の使用は危険である。

なぜなら、忘我状態をもたらす物質や想像を強める物質は酩酊をもたらし易い。

特別な事情が有る場合にのみ、用心して計算された分量で、忘我状態をもたらす物質や想像を強める物質を使用するべきである。

真剣に魔術の作業に取り組む決意をした人は、幻覚と恐怖による全ての危険に対して心を強めた後に、４０日間、自身の内面と外面を洗浄する必要が有る。

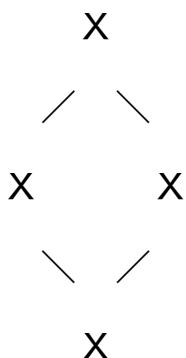
数４０は神聖である。

４０という数字の形は魔術的である。

アラビア数字のゼロは円である。

円は無限による形である。

(アラビア数字では数４０は４とゼロである。)数４は統一性によって３つ１組を要約する。

後記の様に、ローマ数字の数４０、ＸＸＸＸは、「上のものは下のものから類推可能である。下のものは上のものから類推可能である」というヘルメスの基本の考えの象徴(である三角形と逆三角形を組み合わせた菱形)とソロモンの封印の六芒星を表す。

X
X　X
　X

　(物欲、性欲といった)肉欲の節制、野菜中心の食欲の節制、酒の節制、(適度な)規則正しい睡眠によって、魔術師は自身を洗浄する。

　ざんげの過程、命の復活の象徴的な祭りの前の試練といった儀式の形で、物欲、性欲、食欲、睡眠欲の節制、酒の節制といった用意は表れる。

　前記で話した様に、無上に用心して、外面を洗浄する必要が有る。

　貧しい人でも泉の水を見つける事ができる。

　自身または他者によって、用いた衣、品、器を用心して洗浄する必要が有る。

　全ての汚れは行動しない怠惰の証である。

　行動しない怠惰は魔術では死に至る。

　月桂樹の精髄、塩、カンフル、白い樹脂、硫黄の香で大気を洗浄する必要が有る。

　四方を向きテトラ グラマトンを唱えて大気を洗浄する必要が有る。

　(大いなる務め、大作業といった)魔術的な作業について大衆に口外するなかれ。

　(大いなる務め、大作業といった)魔術的な作業について沈黙する必要が有る。

　なぜなら、「高等魔術の教理」で話した様に、沈黙は知の全ての作業に必要である。

　神秘は知の全ての作業に必要である。

　魔術師は、工業のための化学の実験のふり、衛生のために医者からの指示に従うふり、自然の秘密の研究のふり、などの様に、魔術以外の作業のふり、魔術以外

の研究のふりをして、魔術の作業、魔術の研究への、大衆の詮索をごまかす必要が有る。

　魔術師は魔術という禁断の名前を口にしない様にする必要が有る。

　初めは、魔術師は、力を集中できる様に、因縁を選べる様に、孤立し、近づき難くする必要が有る。

　しかし、初めは、魔術師が厳しく近づき難くかったのに比例して、鎖を磁化した時は、概念の流れの中で自分の場所を選んだ時は、光の流れの中で自分の場所を選んだ時は、魔術師は人々を引き寄せる。

　苦しい貧しい生活は、秘伝伝授の実践に好都合なので、無上の達道者達は、俗世の富が思い通りにできる時ですら、苦しい貧しい生活を選んだ。

　サタンは無知の悪人の霊である。

　サタン、悪人の霊は知を笑いものにし、疑い、嫌う。

　なぜなら、実は、サタン、悪人の霊は知を恐れている。

　後記の様に話して、サタン、悪人の霊は未来の地の王者を誘惑しに来る。

「もし、あなたが神の子であれば、パンに成る様に石に命令しなさい」

　金銭目当ての報い目当ての大衆が、知の王者を困惑させて、知の王者を見下して、知の王者の苦労を汚らわしく搾取して、知の王者を辱めようと試みる。

　魔術師がひとかけらのパンを必要としていたら、大衆は、魔術師に１０回手を伸ばさせるために、ひとかけらのパンを１０かけらに砕く。

　しかし、魔術師は大衆の愚行を笑いものにしないで静かに自分の務めを続行する。

　可能な限り、魔術師は憎むべき事物と醜い人々を見る事を避ける必要が有る。

魔術師は畏敬できない人々との食事を断る必要が有る。

魔術師は無上に不変に生きる必要が有る。

魔術師は無上に思慮して生きる必要が有る。

魔術師は自分を無上に尊重する必要が有る。

魔術師は再び王冠を手に入れるために存在する事を自らに許している王座から降ろされた王者であると考える必要が有る。

魔術師は全ての人を思いやる必要が有る。

しかし、魔術師は社会的な関係に夢中に成るなかれ。

魔術師は先導できない人の輪から身を引く必要が有る。

最後に、魔術師は務めを果たし所属している宗教の儀式を実践するべきである。

ところで、全ての神の教えのうち無上の魔術的な神の教えとは無上に奇跡を実現する神の教えである。

魔術的な神の教えとは奇跡を実現する神の教えである。

無上の魔術的な神の教えとは無上の論理を無上の不思議な神秘の基礎とする神の教えである。

魔術的な神の教えとは論理を不思議な神秘の基礎とする神の教えである。

魔術的な神の教えとは影につり合う光が有る神の教えである。

魔術的な神の教えとは奇跡を広める神の教えである。

魔術的な神の教えとは、信じさせる事によって、神を全ての人の中に具体化する神の教えである。

世界には常に、魔術的な神の教えが存在してきた。

世界には常に、多数の名前の下で、唯一の支配的な神の教えが存在してきた。

世界には常に、多数の名前の下で、魔術的な神の教えが存在してきた。

唯一の神の教えは、地上の国々で、3 つの対立する様に見える形で存在する。

しかし、遠からず、3 つの対立する様に見える神の教えは、唯一普遍の教会として、協力する運命である。

3 つの対立する様に見えるが唯一の神の教えとは、ギリシャ正教、ローマのカトリック、仏教(の極致)である。

神の聖霊の魔術は悪人の霊の魔術や死んでいる人の霊の魔術に反対すると信じている。

神の聖霊の魔術は悪人の霊の魔術や死んでいる人の霊の魔術に反対すると明らかにした。

魔術は絶対の知であり神の教えである。

魔術は絶対の学問であり神の教えである。

魔術は絶対の自然科学であり神の教えである。

魔術は神の教えの全ての形を破壊しないであろう。

実に、魔術は秘伝伝授者の輪を再び形成して神の教えの全ての形を復活させ導くであろう。

秘伝伝授者の輪を再び形成して、神の教えの全ての形を復活させて導いて、魔術は賢者の予見者の指導者を盲目の大衆にもたらす。

人は破壊するべきものが無い時代に生きている。

人は全てのものを建て直すべき時代に生きている。

「建て直す？　何を建て直すのか？　過去を建て直すのか？」

過去を建て直す事はできない。

「何を建て直すのか？　神殿と王座を建て直すのか？」

何のために神殿と王座を建て直すのか？　古い神殿と王座は倒されたのに？

「あなたは『家が古く成って壊れた。別の家を建てて何の役に立つのか？』と話しているのと同じである」

しかし、あなたが建て直そうと考えている新しい家は倒れた古い家と同じであろうか？

いいえ。

なぜなら、古い家は古かったが、新しい家は新しいであろう。

「しかし、家である事に変わりは無い」

あなたは何を更に望むのか？

2

魔術的なつり合い

つり合いは 2 つの力の結果である。

もし 2 つの力が絶対に不変に拮抗するならば、つり合いには動きが無くて生が無く成る。

動きは 2 つの力の交互の優位性の結果である。

つり合いの一方を動かすと必然的に他方の動きを決定する事に成る。

調和、対応、類推可能なつながりによって、自然の至る所で、正反対の 2 つの力は交互に動く。

全ての生は呼吸である。全ての生は引き寄せと放射である。

創造では、光の境界線と成るために、影が優位に成る時が有る。

創造では、満ちあふれるものの余地と成るために、無が優位に成る時が有る。

創造では、自発的な創造する原理の力を支えて実現するために、受容する実を結ばさせる原理が優位に成る時が有る。

自然の全てに男性性と女性性が存在する。

生と死の見かけをもたらす動きは創造、形成の連続である。

神は満たすために創造した無を愛する。

知は無学な者を愛して教える。

強いものは弱いものを愛して助ける。

善は偽悪を愛する。

偽悪は善の栄光をたたえる。

昼は夜を愛して世界を回り絶え間無く追う。

愛は渇きであり満ちあふれるものである。

与える者は受容する。

受容する者は与える。

動きは交換の連続である。

交換の法を知る事、2 つの力の二者択一を知る事、2 つの力のつり合いを知る事は、本物の人の神性をもたらす、大いなる魔術の秘密の無上の原理を所有する事である。

自然科学的に、人は普遍の動きの様々な表れを電気や磁気の現象で理解する。

特に物質的に実際的に電子機器は物質の親和と反発を明らかにする。

銅と亜鉛の結合、電池での全ての金属の運動は永遠の間違えようの無い啓示である。

自然科学者に探求させて発見させよう。

カバリストは自然科学の発見を常に説明するであろう!

地球の様に、人の体は、引き寄せる力と放射する力という二重の法に従っている。

男性性と女性性の磁力が人の体を磁化している。

体の男性性と女性性の交互の優位性とつり合う形で、人の体は知性と感受性という魂の 2 つの力に作用する。

体の男性性と女性性の交互の優位性とつり合う形で、知性と感受性という魂の 2 つの力は人の体に作用する。

磁気の催眠術師のわざは 2 つの力の交換の法の知と応用である。

行動を両極性に分ける方法、男性性と女性性を代行者に与える方法、2 つの力を交換する方法は、知られていなくて、思い通りに磁気の催眠状態を導くために、あても無く探求されている。

実に、精神的な動きでの、熟達な正確な、かけひきには、磁気の吸気の徴を磁気の呼気の徴と混同しない必要が有る。

催眠術師は隠された人体の解析学と被催眠者の特性を完全に知る必要が有る。

被催眠者の不正直さと悪意は磁気の催眠の誘導の重大な障害と成る。

女性は本質的に常に女優である。

(

満ちあふれる存在性の女神は、内面的に完全であり充実しているので、余剰で余力で、外面を充実させる。

女性性は客観的である。

)

女性は他者に好印象を与える事を好む。

女性は思い込む。

女性が神経質なメロドラマを演じると、磁気の催眠術は本物の黒魔術と成る。

無上の秘密の秘伝伝授の無いカバラの光の助けの無い磁気の催眠術師には、制御し難い気まぐれな女性を制御する事は永遠に不可能である。

女性を制御するには、男性は、女性に女性の方が男性をだましていると思わせて、女性を油断させ、だます必要が有る。

前記の助言は、主に磁気の催眠術による医者への助言である。

前記の助言は、結婚を統治する上で見つかるであろう。

前記の助言は、結婚を統治する上で応用されているのが見つかるであろう。

人は思い通りに熱い息と冷たい息という 2 つの息を創造できる。

人は思い通りに自発的な光か受容する光を放射できる。

実に、人は力について習慣的に考える事によって力の自覚を獲得する必要が有る。

人は手の動きで、魔術師が流体と呼んでいるものを交互に引き寄せたり放射できる。

磁気の催眠術師は、手が交互に暖かく成ったり冷たく成る感覚によって、意図した結果が得られた事を知るであろう。

催眠術師が両手を使っている時は、磁気の催眠術師は、両手が同時に交互に暖かく成ったり冷たく成る感覚によって、意図した結果が得られた事を知るであろう。

被催眠者は交互に暖かく成ったり冷たく成る感覚を経験するであろう。

ただし、催眠術師が暖かく感じる時は、正反対に、被催眠者は冷たく感じる。

催眠術師が冷たく感じる時は、正反対に、被催眠者は暖かく感じる。

魔術の神秘のうち、小宇宙の象徴である、五芒星は、人の体の、星の光の、相互の、循環の、頭、両手、両足といった末端の二重の共鳴を表す。

コルネリウス アグリッパの「隠秘哲学」では、人は五芒星で表され、頭は右足と男性性の共鳴で対応し、頭は左足と女性性の共鳴で対応している。

同様に、右手は左手、左足と対応している。

左手は右手、右足と対応している。

類推可能性の鎖と自然の共鳴によって、もし催眠術師が人の体の全部を統治し縛りたいのであれば、手の動きで磁気の催眠術をかける時に、人の体が五芒星の形に共鳴している事を心に留めておく必要が有る。

大衆が降霊術と呼んでいる儀式で、星の光の中をさまよう霊を呼び出す儀式で、(神の聖霊といった)霊を呼び出す儀式で、五芒星を応用するために、五芒星についての知が必要である。

本書「高等魔術の祭儀」の 5 章で説明するつもりである。

しかし、全ての作用は反作用を引き起こす事に注意するべきである。

全ての作用は反作用を強める事に注意するべきである。

他者に磁気の催眠術をかけると、催眠術師は、正反対の同じ大きさの、被催眠者から催眠術師への感化の流れを確立する事に注意するべきである。

他者に魔術的な感化を与えると、魔術師は、正反対の同じ大きさの、他者から魔術師への感化の流れを確立する事に注意するべきである。

反作用で、被催眠者を催眠術師に従わせる代わりに、催眠術師が被催眠者に従ってしまう場合が存在する。

愛情による共感のための催眠術で起こる様に。

前記の理由から、一方で吐き出して他方で吸い込まない様に、攻めている時に守る事が無上に必要である。

「高等魔術の祭儀」の最初の絵、タロットの１５ページ目には、右腕に溶解、左腕に凝固と記されている、魔術的な両性具有者が描かれている。

タロットの１５ページ目の絵は、一方の手に剣を、他方の手に、こてを持っている第２神殿の建築家の象徴的な姿と対応している。

第２神殿の建築家は建てている時に作業を守って敵を追い払う必要が有った。

同様に、自然は破壊すると同時に再生させる。

Duchentau の魔術のカレンダーの例え話によれば、人は自然の模倣者である。

秘伝伝授者は自然の模倣者である。

(魔術師は自然の模倣者である。)

自然は人を鎖によって制限する。

しかし、絶え間無く、自然は人を動かす。

人は、神の様な女性の人の主である、不死の典型である、自然の運行を模倣する。

冷やした後に暖める、冷たくした後に優しくする、激しくした後に緩和する、厳しくした後に甘やかす、怒った後に優しくする、など、正反対の２つの力の交互の応用は、永久機関の秘訣、力の永遠性である。

前記を、男たらしな女性達は直感的に感じ取っている。

男たらしな女性達は求愛者を希望から不安へ、楽観から悲観へ変える。

常に一方にだけ同じやり方で作用する事は、天秤の一方の皿に負担をかけ過ぎる事に成り、つり合いの完全な破壊にすぐに成る。

よそよそしく親切なだけでは飽きられ呆れられ反感を覚えられる。

冷たく厳しいだけでは思いやりを遠ざけてしまう。

錬金術では、変化の無い燃える火は、第一質料を焼いて灰にし、ヘルメスの錬金術の容器を破裂させる。

錬金術では、一定の間隔で、炎の熱の代わりに、石灰の熱と鉱石の肥やしが必要である。

錬金術では、変化が必要である。

魔術では、変化、正反対の 2 つの力の交代が必要である。

思いやりの作業によって怒りの作業や厳しい作業を和らげる必要が有る。

もし意思を変化無しに同じ方向にばかり緊張させると、大いなる疲れ、倫理道徳的な哲学的な無気力がもたらされる。

前記の理由から、魔術師は変化無しに錬金炉、エリクサー、pantacle に囲まれて研究室に閉じこもるなかれ。

隠れた力という女神キルケが魔術師を見つめても、時には、魔術師は、オデュッセウスの剣で隠れた力という女神キルケに対抗する方法を知る必要が有るし、隠れた力という女神キルケがもたらす杯から唇を引き離す方法を知る必要が有る。

魔術の作業に取り組んだ後は、魔術の作業に取り組んだのと同じ分だけ、休息をとり、魔術とは正反対の気晴らしをするべきである。

自然を制御したり圧倒するために自然と戦い続ける事は理性と命を危うくさせる事である。

パラケルススは、あえて、自然を制御したり圧倒するために自然と戦い続け理性と命を危うくさせた。

しかし、自然との戦いの中ですら、パラケルススは 2 つの力をつり合わせて応用した。

パラケルススはワインの酩酊を知の酩酊に対抗させた。

そのため、パラケルススは霊感と奇跡の人であった。

しかし、パラケルススは激しい活動によって命を使い果たした。

と言うよりはむしろ、パラケルススは肉体という外衣を早まって引き裂き脱いでしまった。

しかし、パラケルススの様な人々は恐れないで肉体という外衣を応用し酷使できた。

パラケルススの様な人々は、下のものである、この世界の古いものである、成長する、肉体という外衣より、人の心が死なない事を良く知っていた。

悲しみほど喜びへ有効に導くものは存在しない。

喜びより悲しみに近いものは無い。

前記の理由から、学の無い大衆は目論んだ結果と正反対の結果に到達して驚く。

なぜなら、学の無い大衆は、行動で、正反対のものを組み合わせて変化をつけたり、2 つの力を交代させる方法を知らない。

学の無い大衆は敵を呪おうと試みて、自分が病気に成り不幸に成る。

学の無い大衆は自分を愛させようと望んで、学の無い大衆を笑いものにする女性のために自分を使い果たす。

学の無い大衆は金を創造しようと試みて、自分の金銭、力、時間、若さを使い果たす。

学の無い大衆の苦しみは、タンタロスの永遠の苦しみである。

タンタロスが水を飲もうと身をかがめると、水は後退してしまう。

つり合いの法を思い出させるために、象徴と魔術の作業で、古代人は 2 つ1 組の象徴を増やした。

降霊術で常に、魔術師は 2 つの祭壇を建てた。

悪人の霊の魔術師は白い、いけにえと黒い、いけにえをささげた。

魔術師は、男性でも女性でも良い。

魔術師は一方の手に剣を、他方の手に杖を持つ必要が有る。

魔術師は一方の足に靴をはき、他方の足は裸足である必要が有る。

魔術の作業は 1 人か 3 人で行う必要が有る。

なぜなら、2 つ1 組は動きの無さ、死、つり合わせた力の欠如に成る。

魔術の儀式に参加する者は、処女か両性具有者か幼子の様な者である必要が有る。

大衆は魔術の儀式の奇行は気まぐれではないか、たずねるであろう。

大衆は、魔術の儀式は、多面性と理解し難さによって、意思を鍛錬する事だけが目的ではないか、たずねるであろう。

後記の様に、エリファス レヴィは答えて話す。

魔術では、気まぐれなものは無い。

なぜなら、「上のものは下のものから類推可能である。下のものは上のものから類推可能である」というヘルメスの普遍唯一の考えと、3 つの世界の類推可能性が、全てのものを支配し決定している。

(

自然科学、哲学、神の教え。

自由意思といった神だけの領域、概念の領域、形の領域。

神だけの楽園、霊の冥界、この世界。

)

象徴は概念に対応している。

形は概念に対応している。

思考に対応している、意思を表す行動は、思いと考えの類推可能性を明確に話す。

知が儀式を決めている。知が行動を決めている。

数 3 の力を知らない学の無い大衆は神秘の引き寄せる力に従ってしまう。

賢者は数 3 の力を理解して意思の道具として応用する。

魔術師が厳しさと信心を持って達成した時は、魔術師には力が有る。

魔術の道具は全て 2 つ 1 組である必要が有る。

2 個のランプ、2 本の杖、2 個の杯、2 本の剣、2 つの pantacle、2 個の、小さな炉の上に載せた小さな器。

カトリックの祭司の様に、正反対の色の 2 着の法衣を重ね着する必要が有る。

金属は、身につけないか、少なくとも 2 つ身につける必要が有る。

2 つの月桂樹、ヘンルーダ、マグワートの王冠か、2 つのバーベインの王冠が必要である。

2 つの王冠のうち、一方の王冠は降霊術で用い、他方の王冠は燃やして燃える音と煙の渦を占う様に観察する。

王冠の燃える音と煙の渦の観察は無益ではない。王冠の燃える音と煙の渦の観察は意味が有る。

なぜなら、魔術的な作業で用いた全ての道具は魔術師によって磁化されている。

魔術師の香によって大気は変化する。

魔術師が神聖化した火は魔術師の意思に従う。

自然の力が魔術師に耳を傾け答える様に思われる。

魔術師は調節された修飾された補完された魔術師の思考を全ての形の中に読み取る。

魔術師は揺れる自ら活気づく水を理解する。

火は燃え上がるか突然、消える。

王冠の葉は揺れて鳴る。花冠の葉は揺れて鳴る。

魔術の杖は自発的に動く。

不思議な未知の声が大気を通過する。

前記の様な降霊術で、ユリアヌス帝は死人の様に青白い老人の姿のギリシャの神々の幻を見た。

エリファス レヴィはキリスト教が永遠に魔術の儀式を禁止している事を知っている。

エリファス レヴィはキリスト教が降霊術を厳しく禁止している事を知っている。

エリファス レヴィはキリスト教が旧時代的な、いけにえを厳しく禁止している事を知っている。

エリファス レヴィは、魔術の儀式が存在するための新しい根拠を与える意図で、幾多の世紀の後に、古代の神秘を明かしているわけではない。

学問的な研究に過ぎない。

原因を認識できる様に事実を確認したに過ぎない。

エリファス レヴィには永遠に破壊された儀式を復活させる意図は無い。

The orthodoxy of Israel は論理的な神聖な良く知られていない宗教である。

キリスト教よりも The orthodoxy of Israel は魔術の儀式による神秘を禁止している。

レビ族の立場からは超越的な魔術の発揮は祭司の権利侵害とみなされるであろう。

祭司の権利侵害という理由から、全ての公の宗教は魔術の儀式を禁止している。

奇跡の自然な根拠を説明する事、思い通りに奇跡を起こす事は、大衆にとっては奇跡への確信を消す事に成る。

宗教は奇跡を宗教だけの所有物であると主張する。

公の宗教は奇跡を宗教の究極の根拠であると主張する。

(

本物の愛は奇跡であると言える。

本物の思いやりは奇跡であると言える。

神の教えの究極の基礎は思いやりである。

)

公の宗教には敬意を!

しかし、学問にも余地を!

宗教裁判と火刑の時代は過ぎ去った。

狂信者やヒステリーな女性が、学の有る不運な人々を殺す事は最早無い。

エリファス レヴィの試みは魔術という不思議な学問に関係している事を明確に理解して欲しい。

エリファス レヴィの試みは不可能な宣伝とは無関係である事を明確に理解して欲しい。

魔術師という名前を大胆に名乗っているという理由で神の聖霊の魔術師を非難する人々は恐れる必要は無い。

神の聖霊の魔術師が悪人の霊の魔術師に成る事は完全に不可能である。

3

万能章の三角形

トリテミウス修道院長はコルネリウス アグリッパの魔術の祖師である。

「ステガノグラフィア」で自然な哲学的な方法で簡潔にトリテミウスは降霊術の秘密を説明している。

後記の様に、トリテミウスは降霊術の秘密を教えている。

霊を呼び出す事は、呼び出す霊の支配的な思考の中に入る事である。

もし魔術師が霊と同じ方向の中で倫理道徳的に霊より自分を高めれば、魔術師は自分より下の霊を引き連れて行くであろうし、魔術師より下の霊は魔術師に仕えるであろう。

霊を呼び出す事は、孤立した霊に正反対の流れ、正反対の鎖で対抗する事である。

孤立した霊に正反対の流れ、正反対の鎖で対抗する事は、(正しい者と)共に(神に)誓う事である。

(正しい者と)共に(神に)誓う事は、信仰により(正しい者と)共に行動する事である。

信仰の強さと熱意が、大きければ大きいほど、より、降霊術に有効である。

前記の理由から、新たに生まれたキリスト教は神託を沈黙させた。

キリスト教だけが霊感を所有した。

キリスト教だけが力を所有した。

後に、使徒ペトロの法の子孫である法王の権力が衰えた時に、俗世の大衆が法王の権力に反対する法律上の事件が有ったと信じた時に、予言の霊が神託を復活させた。

サヴォナローラ、Joachim of Mores、ヤン フスなどが、次々に現れて、人々の精神に感化を与えて、悲嘆と脅しによって、全ての人々の心の秘密の願望と反感を明らかにした。

霊を呼び出す時は、人は個人的に呼び出せる。

しかし、魔術で霊を追い払うには、人は輪や結社の名前を口にする必要が有る。

前記が、魔術師が、象徴的な輪を描いて、輪の中に入って儀式を行っている意味である。

もし魔術師が全ての力を霊に奪われたくなければ、輪の外に出るなかれ。

前記の点から、命の問題、シュロの葉を受けるに値する問題に取り組もう。

降霊術は可能であるか？

降霊術の可能性を学問的に証明できるか？

降霊術は可能であるか？　については、不可能である証拠が無い全ての物事は、暫定的に、可能であると、認められるし認める必要が有る。

降霊術の可能性を学問的に証明できるか？　については、位階の大いなる魔術の考えの力で、普遍の類推可能性の大いなる魔術の考えの力で、降霊術のカバラ的な可能性は証明できる。

誠実に行われた魔術の儀式が結果としてもたらす自然の感知できる事実については、経験の問題である。

「高等魔術の祭儀」の １ 章で話した様に、エリファス レヴィは自分で行動して魔術の儀式の結果が事実であると確証した。

本書によって、読者がエリファス レヴィの経験をくり返して確認できる様にするつもりである。

自然には死ぬものは無い。

自然のものは全て死なない。

生きていた全てのものは新しい形の下で常に生き続ける。

しかし、古い形ですら破壊されない。

なぜなら、形は記憶に残っている。

老人が幼子だった時の姿を想像の中で未だに見れるではないか？

大衆が記憶から消したと信じている形は実は破壊されていない。

なぜなら、忘れた形を思い出す時が有る。

しかし、どのような手段で人は過去の形を見ているのか？

「高等魔術の教理」で、すでにエリファス レヴィが話した様に、形は星の光の中に存在する。

星の光は形を神経系経由で脳に伝える。

概念と形は対応している。

対応する概念と形はつり合っている。

概念から対応する形は類推可能である。

形から対応する概念は類推可能である。

マギが呼んでいる様に、形は自然の文字である。

形は対応する概念の表れである。

概念は形を自発的に呼び出し実現し具体化する。

シュレプファーはライプツィヒの有名な啓蒙家である。

シュレプファーは全ドイツを降霊術で恐れさせた。

名声が支えられない重荷に成るほどシュレプファーは魔術を試し過ぎた。

シュレプファーは幻覚の無数の流れに身をまかせた。

霊の冥界の映像はシュレプファーに、この世界を嫌悪させた。

シュレプファーは自殺した。

シュレプファーの話は魔術の儀式に魂を奪われている者たちへの警告である。

罰を受けないで自然を冒涜できない。

自然を冒涜すると罰を受ける。

知らない測り知れない力を危険無しに弄ぶ事はできない。

知らない測り知れない力を弄ぶ事は危険である。

前記の理由から、エリファス レヴィは(神、霊、奇跡などを)信じるために見たいという大衆のむなしい好奇心を拒絶する。

後記の様に、懐疑主義からエリファス レヴィを脅した有名な英国人に答えて話した様に、(神、霊、奇跡などを)信じるために見たいという大衆に答えて話す。

「(神、霊、奇跡などを)信じないのは、あなたの権利です。
信じないのは、あなたの自由です。
エリファス レヴィは、あなたの不信心や不信によって、大胆さや確信を失わない」

後記の様に、エリファス レヴィは、良心的に大胆に全ての魔術の儀式を果たしたが、結果が得られなかったと話す人に、答えて話す。

エリファス レヴィは、魔術の儀式を実践したが、結果が得られなかった人に、魔術の儀式の実践をやめるべきであるとすすめる。

なぜなら、多分、自然が人によっては魔術の儀式の実践をやめる様に警告している。

自然は人によっては変則的な作用のために力を貸したくない。

しかし、もし好奇心を止められないのであれば、再び魔術の儀式を実践するしかない。

３つ１組は魔術の考えの基礎である。

降霊術では３つ１組を必ず守る必要が有る。

なぜなら、３は実現と結果の象徴的な数である。

願いの実現のために３組の７つ１組である数２１のヘブライ文字ש、シュィンをカバラの万能章に描く場合が有る。

秘伝の神秘のカバラではヘブライ文字ש、シュィンは身代わりの象徴である。

ルイ クロード ド サンマルタンはシュィンを濫りに口にしてはいけないテトラ グラマトンである神の名前ヤハウェ、イョッド ヘー ヴァウ ヘーの中央に挿入すると救い主イエスのヘブライ語の名前ヨシュア、イョッド ヘー シュィン ヴァウ ヘーを形成する事に気づいた。

前記を、夜の集会で中世の秘伝伝授者は２本の角の間に燃える、たいまつを持つ象徴的なヤギの姿で表した。

高等魔術の祭儀の１５章で奇形の象徴的なヤギの象徴的な姿と不思議な儀式について述べるつもりである。

奇形の象徴的なヤギは呪いの運命にあるが光の象徴が身代りにより救う自然を表す。

前記の象徴から達道者達が得た精神的な倫理道徳的な結論をグノーシス主義者の会食アガペーとギリシャ教徒のプリアポス祭は十分に明らかにした。

前記を、現在は作り話と誤解されている迫害されたサバトの儀式や黒魔術の儀式と共に説明するつもりである。

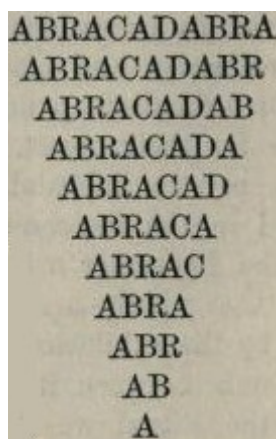
降霊術では普通、円の中に三角形を描く。

降霊術の円の中の三角形の向きは注意が必要である。

もし(神の聖霊といった)霊が天から降臨すると思われる場合は、魔術師は円の中の正三角形の頂点に立ち、(香などの)煙で清めた祭壇を円の中の正三角形の底辺に置く。

しかし、もし(悪人の霊といった)霊が地獄からはい上がって来ると思われる場合は、魔術師は円の中の三角形の底辺に立ち、(香などの)煙で清めた祭壇を円の中の三角形の頂点に置く。

さらに、降霊術では魔術師は六芒星をひたいと胸に身につけ六芒星を右手の中に描く必要が有る。

六芒星は三角形と逆三角形を重ねた神の象徴である。

魔術では六芒星はソロモンの万能章、ソロモンの封印として知られている。

円の中の三角形や六芒星とは別に、「高等魔術の教理」で示した、ヘブライ人のカバリストからの神の名前の不思議な組み合わせを降霊術で古代人は応用した。

異教徒の神知学者の魔術の三角形は有名なアブラカダブラの三角形であった。

異教徒の神知学者は不思議な力がアブラカダブラの三角形に有ると考えた。

後記がアブラカダブラの三角形である。

ABRACADABRA
ABRACADABR
ABRACADAB
ABRACADA
ABRACAD
ABRACA
ABRAC
ABRA
ABR
AB
A

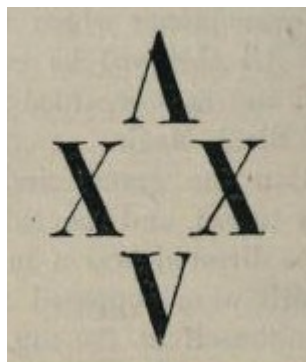
アブラカダブラの三角形の文字の組み合わせは五芒星の鍵である。

アブラカダブラ、ABRACADABRA では A が 5 回くり返されている。

アブラカダブラ、ABRACADABRA には 5 つの A が有る。

アブラカダブラの三角形ではＡが ３ ０ 回くり返されている。

アブラカダブラの三角形には ３ ０ 個のＡが有る。

後記の ２ つの絵を、５ つのＡとローマ数字の ３ ０ 、ＸＸＶＶはもたらす。

Ａは、最初の無上の原理の単一性、知性が有る代行者、自発的な代行者を表す。

ＡとＢの結合は、単一と ２ つ１ 組の結合、単一が ２ つ１ 組を豊かにする事を表す。

Ｒは、３ つ１ 組、２ つの原理の結合がもたらす放射を文字の形で表す。

ABRACADABRA の文字数は １ １ である。

数 １ １ は秘伝伝授の単一性の数 １ とピタゴラスの １ ０ つ１ 組の数 １ ０ の組み合わせである。

アブラカダブラの三角形の文字数は ６ ６ である。

６６を２つの６とみなして足すとカバラ的な数１２を形成する。

数１２は４組の３つ１組である。

数１２は３つ１組の正方形である。

数１２は神秘の円積問題である。

ついでに言うと、ヨハネの黙示録はキリスト教のカバラの鍵である。

(文字数が６６であるアブラカダブラの三角形の様に、)ヨハネの黙示録１３章１８節で使徒ヨハネは「獣の数６６６」を作った。

ヨハネの黙示録１３章１８節の「獣の数６６６」は偶像崇拝の数である。

ヨハネの黙示録１３章１８節の「獣の数６６６」は盲信の数である。

６をアブラカダブラの三角形の文字数の６６という２つの６に足すと、１８がカバラ的にもたらされる。

１８という数はタロットでは夜と大衆の象徴である。

月、２つの塔、犬、オオカミ、ザリガニ。

１８は神秘と不明の数である。

１８のカバラの鍵は秘伝伝授の数９である。

前記について、ヨハネの黙示録１３章１８節で、神のカバリスト使徒ヨハネは特別に(カバラの数の鍵についての)「理解力が有る人は獣の数を数えなさい。なぜなら、獣の数は人の数である。獣の数は６６６である」と話している。

ピタゴラスの１０つ１組に掛けてアブラカダブラの三角形の pantacle の文字数を足したものである。

古代の世界の全ての魔術の要約である。

福音書の神の精神である使徒ヨハネが包含または移植しようと試みた人の精神の要約である。

文字と数の象徴的な組み合わせは、カバラの実践であり、ゲマトリアとテムラーに分かれている。

ゲマトリアとテムラーは独断や意味の欠如の様に見える。

ゲマトリアとテムラーは東の哲学的な象徴体系である。

ゲマトリアとテムラーは神のものを教えるのに無上に重要であった。

隠された学問がゲマトリアとテムラーをもたらした。

隠された知がゲマトリアとテムラーをもたらした。

基本の概念と例え話を結びつける、例え話と文字を結びつける、文字と数を結びつける、絶対のカバラのアルファベットであるヘブライ文字がソロモンの鍵タロットである。

エリファス レヴィが話してきた、現代まで保存されていたが、完全に誤解されている、ソロモンの鍵は、遊び道具のタロットである。

学の有る考古学者クール ド ジェブランは １８ 世紀にタロットの古代の例え話に気づいた。

ヨハネの第 １ の手紙 ５ 章 ７ 節から ８ 節で使徒ヨハネは「天で証をもたらすものが ３ つ存在する。父である神、神の言葉イエス、神の聖霊。地で証をもたらすものが ３ つ存在する。霊、水、血」と話してソロモンの二重の三角形である六芒星を説明している。

ヨハネの第 １ の手紙 ５ 章 ７ 節から ８ 節で、使徒ヨハネは、ヘルメスの錬金術の達道者、錬金術師と一致している。

錬金術師は、エーテルと呼んでいるものを硫黄と、錬金術師の水を水銀と、竜の血の力または地の月経血の溶液を塩と呼んでいる。

ヨハネの第 １ の手紙 ５ 章 ７ 節から ８ 節の、父である神と血は対応している。

父である神と錬金術の塩は対応している。

ヨハネの第 1 の手紙 5 章 7 節から 8 節の、神の言葉イエス、神のロゴスであるイエスと Azoth の水は対応している。

神の言葉イエスと錬金術の水銀は対応している。

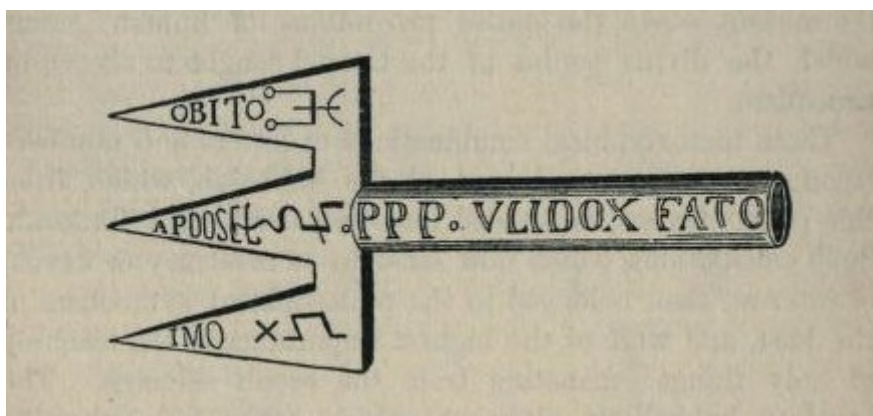
(ヨハネの第 1 の手紙 5 章 7 節から 8 節の、神の聖霊と霊は対応している。)

神の聖霊と錬金術のエーテルと呼ばれているものは対応している。

しかし、本物の知の子孫だけが正しく超越的な象徴体系のものを理解できる。

魔術の儀式で声の抑揚を変えて 3 重にくり返して唱えられた神の名前などは三角形に組み合わせて統一できる。

小さな磁化した三叉を魔術の杖の上にのせる場合が有った。

後記の三叉槍にパラケルススは三叉をのせた魔術の杖を変えた。

前記の三叉槍は単一性による 3 つ 1 組の総合を説明する pantacle である。

前記の三叉槍は神の 4 つ 1 組を補完する。

前記の三叉槍の形でパラケルススはカバリストのヘブライ人がヤハウェという名前に有ると考えている全ての力を描いた。

前記の三叉槍の形でパラケルススはアレクサンドリア学派の秘儀祭司が応用したアブラカダブラの奇跡の性質を描いた。

前記の三叉槍は pantacle であると認めよう。

前記の三叉槍は、結果として、古代の哲学者達と中世の達道者達の無数の磁気の輪の考え全体を要約した、現実の絶対の象徴であると認めよう。

古代の神秘の理解による、古代の本来の意味の現代での復活は、人の病に対する、全ての古代の奇跡の力、全ての古代の力の復活ではないか？　はい！

古代の魔女は夜の三叉路の集会で３回叫んで三重のヘカテーに敬礼した。

形、数、文字は、意思の習慣を固定し決定する事によって、意思の鍛錬に役立つ。

さらに、形、数、文字は、行動で人の魂の全ての力を結合するのに役立つ。

形、数、文字は、想像力の創造する力を強めるのに役立つ。

形、数、文字は、実現のための鍛錬における考える体操と成る。

絶対の確信と不屈の忍耐で果たされた行動の結果は誤りが無く自然の様に絶対である。

絶対の確信と不屈の忍耐で果たされた行動の結果は不可謬である。

マタイによる福音２１章２１節で大いなる主イエスは「確信が有れば、山を動かせる」と教えて話している。

マタイによる福音２１章２１節での様に確信が有れば木を海に移植できる。

迷信による無知な行動ですら効力が有る。

なぜなら、行動は意思を実現する。

前記の理由から、家で祈るより教会へ行って祈った方が祈りの力は強い。

もし奇跡を起こすため有名な聖所に行けば、奇跡を起こせるであろう。

言い換えると、もし２００リーグか３００リーグの距離を裸足で乞食（こつじき）して来た多数の巡礼者が強力に磁化した聖所に行けば、奇跡を起こせるであろう。

大衆は、朝、１ペニーの価値の分の牛乳を飲まないで我慢して、１ペニーの価値の分のロウソクを教会に持って行って魔術の三角形の上で燃やす、純粋な女性を笑いものにする。

しかし、笑いものにする大衆は無知である。

　純粋な女性が、あきらめたもの、大胆さを得るために払った犠牲は、過大ではない。

　思い上がった大衆は肩をすくめて通り過ぎる。

　大衆は世界的な騒動で迷信に立ち向かう。

　何が起きるか？

　大衆の塔は倒れる。

　大衆の塔の残骸は純粋な女性の物に成る。

　純粋な女性は大衆の支配が永遠に終わったという宣言を至る所で聞く。

　大いなる宗教の好敵手は魔術であった。

　魔術は秘密結社をもたらした。

　秘密結社はルネサンスと呼ばれる革命をもたらした。

　しかし、ルネサンス、無分別な肉欲で盲目に成った人の精神は、ヘブライ人のヘラクレスであるサムソンの象徴的な実話を実現する。

　ルネサンスは神殿の 2 つの柱を倒して神殿の残骸に砕かれ埋没し忘れられ隠された。

　現代のメーソンの秘密結社は自分たちの象徴の天の高等な意味を知らない。

　ユダヤ教のラビは「形成の書」と「光輝の書」の天の高等な意味を知らない。

　現代のメーソンの秘密結社とユダヤ教のラビは、向上する 3 つの段階を知らない。

　(幼子の様な者、大人の様な者、長老の様な者)

　現代のメーソンの秘密結社とユダヤ教のラビは、カバラの 7 つ 1 組の、右から左へ、左から右への、進歩を知らない。

G∴A∴のコンパスとthe square of Solomonは、鉄の三角形が実現した無知なジャコバン主義により、粗悪に物質的に成った。

G∴A∴のコンパスとthe square of Solomonは天と地に蓄えられている。

光に照らされたカゾットが激しい死を予言した秘伝伝授の口外者たちは現在アダムの罪を超える罪を犯した。

口外者たちは、自分の糧として応用する方法を知らないで善悪の知の木の果実を集め、地上の動物(的な人間)たちと爬虫類(の様に冷血な人間)たちに投げ捨てた。

そのため、迷信が(大衆の心を)支配した。

本物の神の教えが位階制の永遠の基礎の上に再び建て直される時まで、迷信は生き残るであろう。

位階制は 3 つの段階による物である。

(幼子の様な者、大人の様な者、長老の様な者)

知らないで、または、神意によって、3 つの世界で位階制は三重の力を発揮する。

(

自然科学、哲学、神の教え。

自由意思といった神だけの領域、概念の領域、形の領域。

神だけの楽園、霊の冥界、この世界。

)

4

四大元素の霊の呼び出し

概略すると、創造された霊は四大元素の形に分けられる。

普遍の運動が創造された霊(、四大元素の霊)を中心の火から分離する。

霊は全ての場所で労苦している。

霊は命で物質に実を結ばさせる。

霊は命を全ての物質に吹き込む。

概念と霊は全ての場所に存在する。

様々な形をもたらす概念を手に入れる事によって、人は形の主と成り、形を仕えさせられる。

星の光には四大元素の霊が満ちている。

存在の絶え間無い創造において星の光は四大元素の霊を(中心の火から)分離する。

神の絶え間無い創造において普遍の代行者は四大元素の霊を中心の火から分離する。

四大元素の霊の意思は不完全である。

より力が強い意思は四大元素の霊の不完全な意思を支配でき応用できる。

大いなる目に見えない鎖は大いなる四大元素の霊の動揺を形成する。

目に見えない鎖は四大元素の霊の動揺の原因と成る。

目に見えない鎖は四大元素の霊の動揺を決定する。

１９世紀にM. Eudes de Mirvilleが本で書いた、魔術を試す罪を犯す事による現象の原因は、目に見えない鎖による四大元素の霊の動揺である。

四大元素の霊は幼子の様な者である。

四大元素の霊は、四大元素の霊を困らせる者を困らせる。

ただし、実は、天の高等な論理と大いなる厳しさによって、四大元素の霊を制御できる。

魔術師はさまよう霊を隠された四大元素の霊と呼んでいる。

四大元素の霊が奇形な混乱した夢をもたらす。

四大元素の霊が占いの杖を動かす。

四大元素の霊が壁や家具をたたいて鳴らす。

しかし、四大元素の霊は他人の思考を表すだけである。

人が思考をやめると、四大元素の霊は支離滅裂な夢で人に話しかける。

四大元素の霊は善と悪を区別無く再生する。

なぜなら、四大元素の霊は自由意思が無い。

四大元素の霊は無責任である。

四大元素の霊は忘我状態の者や催眠状態の者の前に不完全な気まぐれな形で表れる。

「聖アントニウスの誘惑」の夢魔は四大元素の霊である。

多分、スヴェーデンボルグが見た映像の大部分は四大元素の霊である。

四大元素の霊は地獄の悪人の霊ではない。

四大元素の霊は有罪ではない。

四大元素の霊は好奇心が強い。

四大元素の霊は無邪気である。

魔術師は動物や幼子の様な者として四大元素の霊を応用する。

悪人の霊の魔術師は動物や幼子の様な者として四大元素の霊を濫用する。

四大元素の霊を応用する魔術師は恐ろしい責任を負う事に成る。

なぜなら、魔術師は四大元素の霊の悪用による全ての悪行をつぐなう必要が有る。

四大元素の霊を悪用した魔術師への罰の激しさは、四大元素の霊を応用して発揮した、力の大きさに比例する。

四大元素の霊を制御するには、人は隠された四大元素の王者に成る必要が有る。

人は地水火風の王者に成る必要が有る。

人は古代の入門の四大元素の試練に耐える必要が有る。

四大元素の試練による入門は姿を隠した。

人は古代の入門の四大元素の試練に似た試練に耐える必要が有る。

例えば、人は火を大胆にくぐり抜ける必要が有る。

人は火の試練に耐える必要が有る。

例えば、人は深淵の上に掛けた木の幹や板を渡る必要が有る。

人は土の試練に耐える必要が有る。

例えば、人は嵐の中、けわしい山をよじ登る必要が有る。

人は風の試練に耐える必要が有る。

例えば、人は危険な渦巻き、滝、急流を泳ぎ抜ける必要が有る。

人は水の試練に耐える必要が有る。

水を恐れる人はウンディーネを支配できない。

火を恐れる人はサラマンダーを支配できない。
火を恐れる人はサラマンダーに命令できない。

軽薄な人はシルフを支配できない。
人は軽薄である限りシルフをそっとしておく必要が有る。

いらだっている人はノームを支配できない。
ノームを支配するには、いらだちを我慢する必要が有る。

なぜなら、下の霊は得意分野で圧倒してくる力にだけ従う。
四大元素の霊は得意分野で圧倒してくる力にだけ従う。
四大元素で霊を圧倒する力を鍛錬によって大胆さによって獲得した時、地水火風の四大元素を神聖化する事によって、四大元素の王者は四大元素の王者の意思の言葉を四大元素に強制する。
鍛錬による大胆さによる四大元素で霊を圧倒する力の獲得と四大元素の神聖化は全ての魔術の作業で絶対に必要な用意である。

風の元素、風の要素を動かすには四方へ息を吹き込んで、後記の様に話す。

神の霊が水の上を動いていた。

(創世記 1 章 2 節「神の霊が水の面の上を動いていた」)

神の霊は命の息を人の顔に吹き込んだ。

(創世記 2 章 7 節「主である神は命の息を人の鼻に吹き込んだ」)

光の中で光によってミカエルが私の導き手である様に。

光の中で光によって Sabtabiel が私に仕える者である様に。

(

ミカエルは「誰が神の様に成れようか？　いいえ！」を意味する。

エルは神を意味する。

)

息が言葉と成る様に。

息が言葉である様に。

私は風の被造物の霊を統治する。

私は、胸の意思によって、精神の思考によって、右目の善悪の知の木の果実によって、太陽の馬を制御する。

私は、ペンタ グラマトンで、テトラ グラマトンの名前で、風の被造物、シルフを固い意思と本物の信心に魔術で呼び出す。

(

ペンタ グラマトンはイエスのヘブライ語の名前 יהשוה、ヨシュアである。

יהשוה、ヨシュアは 5 文字であるのでギリシャ語で 5 文字を意味するペンタ グラマトンと呼ばれている。

)

である様に。

セラ。

である様に。

である様に。

シルフの象徴であるワシを空中にワシの羽ペンで描いた後に、「シルフ(を圧倒するための神の風の要素)への祈り」を唱える必要が有る。

「シルフ(を圧倒するための神の風の要素)への祈り」

　光の霊の息、知の霊の息は、全てのものの形を与え奪う。

　光と知の、神の聖霊の息は、全てのものの形を与え奪う。

　神の前では、全てのものの命は、変化する影、消え去る蒸気である。

　神は雲の上に昇り風の翼で飛ぶ。

　神が息を吹き込むと、神は無限の無数のものをもたらす。

　神が息を吸い込むと、神から来た全てのものは神へ行く。

　神が息を吸うと、神から出た全てのものは神へ戻る。

　永遠の安定の中の永遠の運動。

　神が永遠に敬礼される様に！

　人は神を敬礼する。

　創造された光、影、反映、映像という一時的な王国で、人は神を敬礼する。

　人は神の不変の不死の輝きを絶え間無く求める。

　神の知の光線、神の愛の熱、神の思いやりの熱が人の上に降り注ぐ様に。

　揮発し易いものが固定される様に。

　影が体に成る様に。

　風の霊が魂を受容する様に。

　風の、神の聖霊が魂を受容する様に。

　夢が思考に成る様に。

　人が嵐に圧倒されない様に。

人が夜明けの有翼の馬を制御する様に。

人が宵の翼の道を導く様に。

人が神の前に逃げられる様に。

おおっ。霊の中の霊。神。

魂の中の魂。永遠の魂。神。

命の不死の息。

創造的な吐息。

おおっ。神の、永遠の言葉の満ち引きで、全てのものの命を吹き込み引き寄せる口！

神の言葉は、運動の、神の海である！

神の言葉は、真理の、神の海である！

である様に。

手を置いて祈り、息を吹き込み、言葉を話す事によって、水を清められる。

清めた塩と香の天秤の皿に残った少しの灰を清めた水に混ぜる。

バーベイン、periwinkle、セージ、ミント、トネリコ、バジルの枝を、実を結んだ事が未だ無い hazelwood の木の枝に、処女の糸巻き棒から取った糸で縛って、aspergillus を形成する。

7 つの霊の絵を aspergillus に魔術の短剣で刻む。

後記の様に祈って、塩を清める必要が有る。

後記の様に祈って、灰を清める必要が有る。

「塩を清める祈り」

　知が塩に宿る様に。

　Hochmael によって、Hochmael の精神の力で、全ての腐敗から塩が人の精神と体を守る様に！

　(

　רוח、ruach、ルアク、ルアハはヘブライ語で風、息、霊を意味する。

　)

　質料の霊が追い払われる様に。

　物質的な霊が追い払われる様に！

　天の塩に成る様に！

　地の塩に成る様に！

　(マタイによる福音 5 章 1 3 節「あなたたち人は地の塩である」)

　塩の地に成る様に！

　塩が、もみ殻を外す脱穀する牛の糧と成る様に！

　塩が空を飛ぶ牛の角で人の希望を強める様に！

　である様に。

「灰を清める祈り」

灰が生きている水の泉に戻る様に。

灰が豊かな土と成る様に。

灰が命の木をもたらす様に。

勝利、永遠、基礎の 3 つの名前によって。

最初で最後において。

Azoth の精神の中のアルファとオメガによって。

である様に。

「清めた水、清めた塩、清めた灰を混ぜる時の祈り」

永遠の知の塩において、復活の水において、新しい土に成る灰において、時とアイオーンを通じて、エロヒム、ガブリエル、ラファエル、ウリエルが全てのものを成就する様に。

である様に。

(

高等魔術の教理 3 章グノーシス主義者は世界、天をアイオーンと呼んでいる。

エロヒムはヘブライ語で神を意味する複数形である。

ガブリエルはヘブライ語で「(知力といった)神の力」、「神の人」を意味する。

ラファエルはヘブライ語で「神のいやし」を意味する。

ウリエルはヘブライ語で「神の光」を意味する。

)

「水を清める祈り」

創世記 1 章 6 節「水の間に天が存在する様に。天が水を(上の水と下の水に)分ける様に」

エメラルド板

「上のものは下のものから類推可能である。

下のものは上のものから類推可能である。

なぜなら唯一のものの不思議の実現だからである。

太陽は父である。

月は母である。

風は腹に抱く」

「薄いものは、地から天へ昇り、天から地へ降りる」

　私は、あなた、水の被造物を魔術で呼び出す。

　水が、人にとって、神の作品の中における生きている神の鏡、命の泉、罪の洗浄に成る様に。

「ウンディーネ(を圧倒するための神の水の要素)への祈り」

海の畏敬するべき王。神。

神は天の水門の鍵を持っている。

神は地下世界の水を地の空洞にとどめている。

(ノアの洪水といった)原初の洪水の王。神。

神は川と泉の源泉の封印を解く。

神は、地の血の様な、湿気、蒸気を木の樹液に成らせる。

人は神を敬礼する!

人は神を呼び求める!

人は神に祈る!

神が人に、神の変化し易い被造物について、海の大いなる動揺で、話す様に。

そうすれば、人は神の前で揺るがされるであろう。

神が人に、透明な水のささやきで、話す様に。

人は神の思いやりを慕うであろう。

おおっ。神の中で絶え間無く復活させるために命の全ての川を満ちあふれさせる無限!

おおっ。無限の完成の海!

深みの中で神を映す高み!

高みへ神を放射する深み!

知と愛、思いやりによって本物の命へ人を導いてください!

身代わりによって不死へ人を導いてください!

いつか人は罪を許してもらうために水、血、涙を神にささげるであろう。

である様に。

塩、香、白い樹脂、カンフル、硫黄をまき散りばめ、ミカエル、サマエル、アナエルという火の霊の 3 つの名前を 3 回唱え、「サラマンダー(を圧倒するための神の火の要素)への祈り」を唱える事によって、火を清められる。

ミカエル。太陽と雷の王。

サマエル。火山の王。

アナエル。星の光の王。

(

サマエルはヘブライ語で神の毒を意味する。

高等魔術の祭儀 序文「ヘブライ人は、失敗を永遠に破壊する無上の畏敬するべき力を、神の毒を意味するサマエルと呼んだ」

Anael、Aniel、Hanael、Haniel、アナエル、アニエル、ハナエル、ハニエルはヘブライ語で神の喜び、神の恵み、神の優美を意味する。

)

後記は「サラマンダー(を圧倒するための神の火の要素)への祈り」である。

「サラマンダー(を圧倒するための神の火の要素)への祈り」

神は不死である。

神は永遠である。

神は言い表せない。

神は創造されたのではない父である。

神は全てのものの父である。

神は絶え間無く回転する複数の世界の永遠に回転する戦車に乗っている。

神は天の複数の無限の主である。

神の力の王座は向上する。

神の力の王座の高みから、神の畏敬するべき目は全てのものを見分ける。

神の神聖な美しい耳は全てのものを聴く。

神は神の子達の声を聴く。

神は神の子達をこの世が始まる前から愛していた。

なぜなら、神の金の大いなる永遠の王権は地と星々の天の上に輝いている!

神である太陽は星々の上に高められている!

神である太陽は輝く火である!

神は輝いている!

神の輝きによって神は自身と話し合う!

神からの尽きる事の無い光の流れは無限の神の聖霊の糧として神髄を流出する!

神の光の流れは全てのものに糧を与える！

神の光の流れは創造のために常に用意されているものによる尽きる事の無い宝を形成する！

神の光の流れは、最初から神が印象を与えている形に応用される！

火の神の聖霊からの土水風の 3 つの無上の神の王が神の王座を囲んでいる！

火の神の聖霊からの土水風の 3 つの無上の神の王が神の王宮を構成している！

土水風の 3 つの無上の神の王は火の神の聖霊を源とする！

普遍の父！　神！

神の様な人達と神々の唯一の父！　(普遍)神！　男性神！

神は、神の永遠の思考の様な、神の敬礼するべき神髄の様な、特別な不思議な力を創造した。

神は、神の意思を世界に表す神の聖霊達より高みに火の神の聖霊達を確立した。

最後に、四大元素の王国の中で、神は人を第 3 の段階に創造した。(火、土水風、人。)

人は絶え間無く神をたたえ神の善の喜びを敬礼する。

人は神の力を所有したいと希望する。

おおっ！

父！　神！

母！　(教会！)

無上に思いやり深い、全ての母の中の母！

母性と純粋な愛の見事な原型！

母性と純粋な思いやりの見事な原型！

神の子！　イエス！

神の子達の精髄！

神の子達の手本！

全ての形の中の形！　魂！　神の聖霊！

調和！

全てのものの数！

である様に。

水をまき注ぎ、息を吹き込み、日に対応した香を火で燃やし、後記の「ノーム(を圧倒するための神の土の要素)への祈り」を唱える事によって、土を清められる。

「ノーム(を圧倒するための神の土の要素)への祈り」

　目に見えない王。神。

　神は、土を支えとして、神の全能性で深淵を満たすために、深淵を耕す。

　神の名前は世界の地下の天を震えさせる。

　神は鉱脈を湧き出させるために７つの金属をもたらす。

　神は７色の光の王である。

　神は報いを地下の隠れた労苦する人々に与える者である。

　神は人を好ましい大気、輝きの領域に導く。

　人は絶え間無く見て行動する！

　人は探求し希望する！

　ヨハネの黙示録２１章１９節から２０節の神の都市、天の新しいエルサレムの１２の基礎の宝石によって！

　隠されたタリスマンによって！

　世界の中心を貫く磁石の両極によって！

　救い主イエス！　救い主イエス！　救い主イエス！

　救い主イエスは苦しんでいる人々に同情する！

　救い主イエスは人の心を広げる！

　救い主イエスは人の心を肉欲から切り離し向上させる！

　救い主イエスは人の存在全体を広げる！

　安定と運動！

夜をまとう昼!

おおっ!　光がヴェールで覆う闇!

主イエスは報いを主イエスの労苦する者達に与える!

銀の白さ!　銀の青さ!

金の輝き!

生きている美しい音のダイアモンドの王冠!

神はサファイアの指輪の様に天を指に身につけている!

神は星々の不思議な種、命、統治を土の下、石の王国に隠す!

神は富を永遠にもたらす者である。

神は人を富の番人にする!

である様に。

ノームの王国は北、サラマンダーの王国は南、シルフの王国は東、ウンディーネの王国は西である事を心に留めておく必要が有る。

四大元素の霊は人の四気質に作用する。

ノームは黒胆汁質、憂鬱質に作用する。

サラマンダーは多血質に作用する。

ウンディーネは粘液質に作用する。

シルフは(黄)胆汁質に作用する。

ノームの象徴は牛である。

魔術師は剣でノームに命令できる。

サラマンダーの象徴はライオンである。

魔術師は二叉の杖か魔術の三叉槍でサラマンダーに命令できる。

シルフの象徴はワシである。

魔術師は神の pantacle でシルフに命令できる。

ウンディーネの象徴は水瓶の人である。

魔術師は神にささげた酒の杯でウンディーネに命令できる。

ノームの王は Gob である。

サラマンダーの王はジンである。

シルフの王は Paralda である。

ウンディーネの王は Nicksa である。

四大元素の霊がこの世界の住人を苦しませたり悩ませる時は、地水火風によって、息を吹き込み水をまき香を燃やしソロモンの六芒星や神の五芒星を土の上に描く事によって、四大元素の霊を魔術で追い払う必要が有る。

粉にした磁石を混ぜた、清めた火で焼いた木炭か多様な色に染めた葦で、五芒星と六芒星を完全に正確に土の上に描く必要が有る。

五芒星を描き、一方の手にソロモンの pantacle である六芒星を持ち、他方の手で剣をかかげ杖をかかげ杯をかかげ、後記の祈りを大きな声で唱えて四大元素の霊を魔術で追い払う。

「四大元素の霊を追い払うための神への祈り」

誓いを果たすためにささげられた願いをかけた生きている蛇によって、主である神は残滓に命令する！

(民数記 21 章 8 節から 9 節「モーセは火の蛇をさおに吊るした」)

アダム ヤハウェ、アダム イョッド エヴァによって、主である神は智天使ケルブに命令する！

(スフィンクスである有翼の)牛の翼によって、主である神は、さまようワシに命令する！

天使とライオンによって、主である神のテトラ グラマトンは蛇に命令する！

ミカエル、ガブリエル、ラファエル、アナエル！

神の霊によって、湿気、蒸気が流れる様に。

(創世記 1 章 2 節「神の霊が水の面の上を動いていた」)

アダム ヤハウェ、アダム イョッド エヴァによって、地が落ち着く様に。

軍団であるヤハウェによって、天が広がる様に。

ミカエルの力の火によって、審判が果たされる様に。

神の水によって、盲目の天使が従うか通り過ぎる様に！

剣によって貫かれる事を望まないのであれば、有翼の牛が行動するか地に戻る様に！

象徴によって、鎖につながれたワシが従うか、息によって、鎖につながれたワシが飛ぶ様に！

神の火によって、もだえる蛇が足元をはうか苦しむ様に！

燃やす香によって、もだえる蛇が道を譲る様に！

夜明けの星である五芒星の力によって、光の十字の中心に記されているテトラ グラマトンの名前によって、水が水に戻る様に。

火が燃える様に。

風が循環する様に。

土が土に戻る様に。

である様に。

キリスト教が取り入れた、十字はキリスト教だけの物ではない。

十字はカバラの物でもある。

十字は四大元素の対立を表す。

十字は四大元素の４つ１組のつり合いを表す。

「高等魔術の教理」で話した、マタイによる福音６章１３節の「主の祈り」の「王国、力、栄光は永遠にあなた、神のものである。である様に」という隠された詩は、祭司と秘伝伝授者の唱え方と、初学者と大衆の唱え方が有った。

例えば、秘伝伝授者は、ひたいに片手をかかげ「あなた、神のものである」と話し、片手を胸に降ろし「王国は」と話し、
片手を左肩に持って行き「正義は」と話し、
片手を右肩に持って行き「思いやりは」と話し、
両手を握りしめ「来る時代に。永遠に」と話した。

あなた、神に、永遠を通じて、王国、厳しさ、思いやりが存在する様に。

十字という象徴は完全に大いにカバラ的である。

グノーシス主義の大衆化、俗化は、公の好戦的な教会に、十字の手振りで唱えるマタイによる福音６章１３節の「主の祈り」の「王国、力、栄光は永遠にあなた、神のものである。である様に」を失わせた。

四大元素の霊を呼び出す前と後に、マタイによる福音６章１３節の「主の祈り」の「王国、力、栄光は永遠にあなた、神のものである。である様に」を十字の手振りで唱える。

四大元素の霊を圧倒し従えるには、四大元素の霊の特徴的な短所に屈しない必要が有る。

前記の理由から、浅はかな気まぐれな人はシルフを支配できない。

優柔不断な冷酷な飽き易い気の多い定まらない人はウンディーネを支配できない。

感情的な人はサラマンダーを支配できない。

貪欲な人はノームを支配できない。

そうではなく、シルフの様に、人は機敏で自発的である必要が有る。

ウンディーネの様に、人は柔軟で印象に注意深い必要が有る。

サラマンダーの様に、人は一生懸命で強気である必要が有る。

ノームの様に、人は勤勉で忍耐強い必要が有る。

要約すると、人は四大元素の霊の短所に圧倒されずに四大元素の霊の長所を圧倒する必要が有る。

前記の、性質を自身に良く確立すれば、世界の全ては賢者に仕える。

賢者は嵐の中を通り過ぎる。

雨は賢者の頭を濡らさない。

風は賢者の衣のひだ 1 つすら動かさない。

賢者は燃やされずに火の中を通り過ぎる。

賢者は水の上を歩ける。

賢者は地殻の中のダイアモンドが見える。

前記は、大衆には誇張に聞こえるかもしれない。

前記を、賢者は、物質的に現実的に行わなくても、より大いなる見事な事を精神的に行う。

同時に、人は、意思によって、四大元素の霊を導き、四大元素の霊の作用を変え、四大元素の霊の作用を妨げられる事は、疑う余地が無い。

例えば、もし忘我状態の人が一時的に重みを無くす事が確証されれば、水の上を歩く事は不可能な事であろうか？　いいえ！

サン メダールのけいれん者は火も鋼も感じなかった。

サン メダールのけいれん者は激しい打撃と信じられない拷問を救いとして求めた。

驚くべき上昇や催眠状態の人の奇跡のつり合いは自然の隠された力の啓示である。

しかし、１９世紀以降の人々は自分が見た不思議を大胆に話せない時代に生きている。

誰かが「私は、言葉で表せないものを、自分で、見たり行いました」と話しても「あなたは私たちをだまして楽しんでいるか、そうでなければ、あなたは悪人である」という答えを受け取るであろう。

話すより沈黙し行動する方が遥かに良い。

金属と四大元素は対応している。

金と銀は風に対応している。

水銀は水に対応している。

鉄と銅は火に対応している。

鉛は土に対応している。

四大元素の霊から獲得したい結果に対応する、四大元素の霊が表す力に対応する、金属でタリスマンを作る。

土占い、水占い、火占い、空気占いという四大元素の形で、占いは多様な方法で行われている。

占いの全ては占い師の意思と透明なものである想像力に左右される。

事実、四大元素は予見を助ける手段に過ぎない。

さて、予見は星の光の中のものを見る力である。

普通の光を肉眼で見る様に、予見は自然なものである。

感覚の除去によって予見できる。

催眠状態の者や忘我状態の者は予見を自然に楽しむ。

感覚の除去がより完全である時、予見はより明らかに成る。

星の光による酩酊は感覚の除去をもたらす。

星の光による酩酊は星の光の超過である。

星の光による酩酊、星の光の超過は神経系を完全に飽和させて麻痺させる。

多血質の人は空気占いに向いている。

(黄)胆汁質の人は火占いに向いている。

粘液質の人は水占いに向いている。

黒胆汁質、憂鬱質の人は土占いに向いている。

夢占いによって空気占いを補える。

磁気の催眠によって火占いを補える。

水晶占いによって水占いを補える。

カード占いによって土占いを補える。

夢占いによって空気占いを置き換えられる。

磁気の催眠によって火占いを置き換えられる。

水晶占いによって水占いを置き換えられる。

カード占いによって土占いを置き換えられる。

夢占いによって空気占いを補える。

磁気の催眠によって火占いを補える。

水晶占いによって水占いを補える。

カード占いによって土占いを補える。

しかし、占いは危険である。

占いは役に立たない事が多い。

なぜなら、占いは意思を失わせる。

占いは自由意思を失わせる。

結果として、占いは自由を妨げる。

占いは自由意思を妨げる。

占いは神経系を疲れさせる。

5

燃える五芒星

神の神秘の五芒星を説明し清める。

ここで、無知な者と迷信深い者は本書を閉じなさい。

無知な者と迷信深い者は闇だけを見るか、あきれるであろう。

グノーシス学派は五芒星を燃える星と呼んだ。

五芒星は知の全能性と知の独裁の象徴である。

五芒星はマタイによる福音 2 章で 3 人のマギを導いたイエスの星である。

五芒星は神の言葉イエスの象徴である。

(コリント人への第 1 の手紙 1 章 2 4 節「キリストは神の力であり神の知である」)

マタイによる福音 2 章で神の言葉イエスは肉体を創造した。

五芒星は絶対な魔術の象徴である。

五芒星は秩序を表す。

逆五芒星は混乱を表す。

五芒星はアフラ マズダーと使徒ヨハネの神の子羊を表す。

逆五芒星はメンデスの呪われたヤギを表す。

五芒星は秘伝伝授を表す。

逆五芒星は大衆化を表す。

五芒星はルシフェルを表す。

五芒星は金星を表す。

五芒星は明けの明星を表す。

逆五芒星は宵の明星を表す。

(ルシフェルはラテン語で光をもたらすものを意味する。)

五芒星は聖母マリアを表す。

逆五芒星はリリスを表す。

五芒星は勝利を表す。

逆五芒星は死を表す。

五芒星は昼を表す。

逆五芒星は夜を表す。

逆五芒星はサバトのヤギとしてのサタンを表す。

五芒星は救い主イエスを表す。

五芒星は人の体の形である。

転倒した人の姿は悪人の霊を表す。

転倒した人の姿は知の転倒、混乱、狂気を表す。

さて、もし魔術が真実であれば、もし隠された知が 3 つの世界の本物の法であれば、絶対な象徴である、歴史の様に古い象徴である、歴史より古い象徴である、五芒星は、肉体という物質的な外皮から自由な霊に、計り知れない作用を実際に発揮する。

(

自然科学、哲学、神の教え。

自由意思といった神だけの領域、概念の領域、形の領域。

神だけの楽園、霊の冥界、この世界。

)

五芒星は小宇宙の象徴と呼ばれている。

(人は小宇宙である。)

五芒星は「光輝の書」でカバリストがミクロ プロソプス、小さな顔と呼んでいるものを表す。

(ミクロ プロソプス、小さな顔、神の人としての顔、神の人性)

五芒星の完全な理解は絶対の哲学と自然科学という 2 つの世界の鍵である。

五芒星を金、銀、鉄、銅、水銀、鉛といった 7 つの金属で作るべきである。

もしくは、少なくとも、五芒星を白い大理石の上に純金で描くべきである。

五芒星を汚れの無い子羊の羊皮紙に硫化水銀ヴァーミリオンで描いて良い。

汚れの無い子羊は健全と光の象徴である。

白い大理石は処女の様に他のもののために使用されていないべきである。

汚れの無い子羊の羊皮紙を太陽の仲介の下で用意するべきである。

過越祭か復活祭の時に新しいナイフで子羊を(食べるために苦しまない様に)殺す必要が有る。

「子羊の皮を清めた塩で腐敗から防ぐ必要が有る」

(高等魔術の教理 序文「塩は知の象徴である」)

前記の一見、独断に見える難しい儀式の 1 つでも手を抜くと知の大作業の全てが無効に成る。

五芒星を四大元素で清める必要が有る。

5 回、五芒星に息を吹き込む。

五芒星に清めた水をかける。

五芒星を乳香、没薬、沈香、硫黄、カンフルといった 5 つの香で乾かす。

少量の白い樹脂と龍涎香を加えても良い。

五芒星を乳香、没薬、沈香、硫黄、カンフル、白い樹脂、龍涎香といった 7 つの香で乾かす。

5 回、五芒星に息を吹き込む時に、ガブリエル、ラファエル、アナエル、サマエル、オリフィエルという 5 つの霊の名前、5 人の神の聖霊の名前を唱える。

(

ガブリエルはヘブライ語で「(知力といった)神の力」、「神の人」を意味する。

ラファエルはヘブライ語で「神のいやし」を意味する。

Anael、Aniel、Hanael、Haniel、アナエル、アニエル、ハナエル、ハニエルはヘブライ語で神の喜び、神の恵み、神の優美を意味する。

サマエルはヘブライ語で神の毒を意味する。

高等魔術の祭儀 序文「ヘブライ人は、失敗を永遠に破壊する無上の畏敬するべき力を、神の毒を意味するサマエルと呼んだ」

)

ガブリエル、ラファエル、アナエル、サマエル、オリフィエルの名前を唱えながら 5 回、五芒星に息を吹き込んだ後に、テトラ グラマトンを唱えながら五芒星を北、南、東、西、中心に置く。

テトラ グラマトンを唱えながら五芒星を天文学的な十字の形に置く。

ガブリエル、ラファエル、アナエル、サマエル、オリフィエルの名前を唱えながら 5 回、五芒星に息を吹き込み、テトラ グラマトンを唱えながら五芒星を北、南、東、西、中心に置いた後に、小声で Azoth を唱える。

Azoth はアレフと神秘のタウを結合したカバラ的な神聖な名前である。

五芒星を香で清めた祭壇の上に置くべきである。

降霊術の時に、五芒星を三脚台の下に置くべきである。

降霊術の時に、魔術師は五芒星と六芒星を身につけるべきである。

六芒星は大宇宙の象徴である。

六芒星は正三角形と逆三角形を重ねたものである。

(神の聖霊といった)光の霊を呼び出す時は、五芒星の頭を降霊術の三脚台に向け、五芒星の両足を香で清めた祭壇に向ける。

(悪人の霊といった)闇の霊を呼び出す時は、五芒星の頭を香で清めた祭壇に向け、五芒星の両足を降霊術の三脚台に向ける。

ただし、降霊術の時に、魔術師は用心して杖の先端か剣先を五芒星の頭に置く必要が有る。

すでに話した様に、象徴は意思の言葉の自発的な声である。

意思が行動に移されるほどの意思の完成が意思の言葉をもたらす必要が有る。

1つでも手抜きが有ると、無益な言葉か不信を表す事に成り、作業の全てを裏切り麻痺させ、無駄にした全ての力が作業者に逆流してくる。

人は、魔術の儀式を完全にやめるか、用心深く厳密に魔術の儀式の全てを果たす必要が有る。

電子機器によってガラスの中の光線で描かれた五芒星は大いなる作用を霊に発揮し悪人の霊を恐れさせる。

古代の魔術師達は、悪人の霊を家の中に入らせないために、善良な霊が家から離れない様に、五芒星を入口の踏み石の上に描いた。

後記の様に、五芒星の向きで、悪人の霊を家の中に入らせない様に、善良な霊が家から離れない様に、制限した。

五芒星の両足を家の外側に向けて描いて、悪人の霊を追い払った。

五芒星の両足を家の内側に向けて描いて、悪人の霊を閉じ込め圧倒した。

五芒星の両足を家の外側に向けて描いて、五芒星の頭を家の内側に向けて描いて、善良な霊が家から離れない様にした。

霊に憑依されていると話している、忘我状態の者の幻視と強硬症カタレプシーのけいれんは、ヘルメスの唯一の考えを基礎とする、知の類推を基礎とする、前記の全ての魔術の理論を不変に確証した。

フリーメーソンが燃える星、五芒星の中央に置いた文字 G はGnosis とGeneration、グノーシスと創造、認知と創造という古代のカバラの 2 つの神聖な言葉を表す。

フリーメーソンが五芒星の中央に置いた文字 G はGrand architect、(神殿の)大いなる建築家を表す。

なぜなら、五芒星は 5 つの A の組み合わせである。

逆五芒星は、人には位階のメンデスのヤギの 2 本の角、両耳、ひげに見え、地獄の悪人の霊の降霊術の象徴と成る。

マタイによる福音 2 章の象徴的な実話で 3 人のマギを導いたイエスの星は神秘の五芒星である。

マタイによる福音 2 章の 3 人のマギは 3 人の王者である。

マタイによる福音 2 章の 3 人のマギはゾロアスターの魔術の子孫である。

マタイによる福音 2 章で燃える星、五芒星が 3 人のマギを人に成った神イエス、小宇宙の神イエスのゆりかごに導いた。

マタイによる福音 2 章で 3 人のマギがイエス キリストを敬礼した事は、完全なカバラ的な、本物の魔術の、キリスト教の考えの始まりを十分に証明する。

3 人のマギは白人、黒人、褐色人種である。

(3 人のマギは人の代表である。)

3 人のマギのうち白人のマギ、白人の王者は金をイエスにささげる。

金は光と命の象徴である。

3 人のマギのうち黒人のマギ、黒人の王者は没薬をイエスにささげる。

没薬は死と闇の象徴である。

３ 人のマギのうち褐色人種のマギ、褐色人種の王者は乳香をイエスにささげる。

乳香は ２ つの原理を仲介する考えの象徴である。

マタイによる福音 ２ 章 １ ２ 節で、新しい神の教えキリスト教は人を唯一の神の教えに導く新しい経路である事を表すために、３ 人のマギは新しい道によって自身の王国に戻る。

マタイによる福音 ２ 章の、３ 人のマギとイエスの星は、神の ３ つ１ 組と光を放つ五芒星である。

マタイによる福音 ２ 章のイエスの星は唯一の永遠の普遍の考えである。

マタイによる福音 ２ 章のイエスの星は唯一の永遠の普遍の神の教えである。

マタイによる福音 ２ 章のイエスの星は唯一の永遠のカトリックである。

ヨハネの黙示録 ８ 章 １ ０ 節で使徒ヨハネは天から地に堕ちた星を見た。

ヨハネの黙示録 ８ 章 １ ０ 節の地に堕ちた星は五芒星である。

ヨハネの黙示録 ８ 章 １ １ 節で地に堕ちた星は苦ヨモギと呼ばれた。

ヨハネの黙示録 ８ 章 １ １ 節で海の水(の３ 分の １)の全てが苦く成った。

ヨハネの黙示録 ８ 章 １ ０ 節から １ １ 節は神の教えの考えの物質化の印象的な映像である。

神の教えの考えの物質化は狂信と論争の苦さをもたらす。

イザヤ書 １ ４ 章 １ ２ 節の「なぜ、あなたは天から堕ちたのか?!　明けの明星よ?!」という言葉をキリスト教に応用できるかもしれない。

しかし、大衆化された五芒星は、真理である神の言葉イエスの右手で常に曇らないで燃えている。

(

ヨハネによる福音 １ ４ 章 ６ 節「私イエスは真理である」

ヨハネの黙示録 1 章「人の子イエスは右手に 7 つの星を持っていた。7 つの星は 7 つの教会の天使である」

ヨハネの黙示録 2 章 2 8 節「イエスは明けの明星を勝利した人に与える」

）

ヨハネの黙示録 2 章 2 8 節で、霊感を受けた声が明けの明星の所有を勝利した人に約束する。

ヨハネの黙示録 2 章 2 8 節で、霊感を受けた声がルシフェルの星の神聖な復活を約束する。

理解した様に、五芒星は魔術の全ての神秘、グノーシスの全ての象徴、隠された学問の全ての象徴、預言書の全てのカバラの鍵を要約する。

パラケルススは五芒星が全ての象徴の中の無上の大いなる象徴、全ての象徴の中の無上の力が有る象徴であると話している。

五芒星が全ての位階の霊に実際に作用を発揮する事について魔術師の確信を揺るがす理由が有るであろうか？　いいえ！

小宇宙の星である五芒星は十字を侮る大衆を震え上がらせる。

反対に、魔術師が意思の衰えに気づいた時は、魔術師は五芒星を見て右手に取り、知の全能性で武装した様に感じる。

魔術師が本物の王者であれば、五芒星は神の実現のゆりかご、イエスのゆりかごに魔術師を導く。

魔術師が知り、大胆に行い、思い、沈黙を守るのであれば、五芒星はイエスのゆりかごに魔術師を導く。

魔術師が知り、大胆に行い、希望し、沈黙を守るのであれば、五芒星はイエスのゆりかごに魔術師を導く。

魔術師が杖、杯、剣、pantacle を応用する方法を知っているのであれば、五芒星はイエスのゆりかごに魔術師を導く。

　魔術師の魂の大胆な視線が五芒星の昇っている頂点が常に開いている両目に対応しているのであれば、五芒星はイエスのゆりかごに魔術師を導く。

6

仲介するもの

すでに話した様に、全ての奴隷状態から意思を自由にする事と、統治のわざによる意思の教育という、２ つのものが、魔術の力を獲得するには必要である。

(肉欲の奴隷から意思を自由にする事と、知による意思の鍛錬という、２ つのものが、魔術の力を獲得するには必要である。)

創世記 ３ 章 １ ５ 節の蛇の頭を圧倒する女性は、王者の意思の象徴である。

(高等魔術の教理 ２ 章「創世記 ３ 章 １ ５ 節の蛇の頭を圧倒する運命の女性は、常に盲目的な力の流れを克服する知の例えである」)

ヨハネの黙示録 ２ ０ 章 １ 節から ３ 節の竜を槍と、かかとで抑える、光を放つ天使は、王者の意思の象徴である。

蛇、竜は大いなる魔術の代行者の象徴である。

(蛇、竜は星の光の象徴である。)

蛇、竜は光の二重の流れの象徴である。

蛇、竜は地の生きている星の火の象徴である。

古代の神統系譜学では、星の光を牛、ヤギ、犬の頭を持った蛇で表した。

星の光はケーリュケイオンの二重の蛇である。

星の光は、創世記の古い蛇であるが、民数記 ２ １ 章 ８ 節から ９ 節のさおに吊るされた火の蛇でもある。

創世記の古い蛇と、民数記 ２ １ 章 ８ 節から ９ 節のさおに吊るされた火の蛇は、創造する男性器である、タウにからみついている。

星の光はサバトのヤギである。

星の光は神殿騎士団のバフォメットである。

星の光はグノーシス主義者の質料である。

星の光は 2 つの尾の蛇である。

星の光は太陽の鶏であるアブラクサスの両脚である 2 つの尾の蛇である。

星の光は M. Eudes de Mirville が悪魔と呼んでいるものである。

星の光は盲目的な力である。

もし魂が地の鎖から自由に成りたいのであれば、魂は星の光を圧倒する必要が有る。

なぜなら、魂、霊は星の光の死に至る引き寄せる力から離れられないのであれば、星の光の力がもたらす流れに霊を同化する事によって、霊は中心の火、永遠の火に戻る事に成る。

魔術の作業とは、星の光である古い蛇の巻きつきから自由に成って、足を古い蛇の頭に置き、魔術師が望む所に古い蛇を導く事である。

マタイによる福音 4 章 9 節で古い蛇は「もし、あなたが私に、ひれ伏して神として敬礼するのであれば、私は地の全ての王国をあなたに与えよう」と話した。

後記の様に、秘伝伝授者は答えて話すべきである。

「私は古い蛇に、ひれ伏さない。
古い蛇が私の足元に、ひれ伏すべきである。
古い蛇が私に与えられる物は何も無い。
私は古い蛇を応用する。
私は古い蛇を私が望む所に連れて行く。
私は古い蛇の主である」

前記の答えは、ヴェールに隠された形で、マタイによる福音 ４ 章 １ ０ 節の「ここから立ち去れ、サタン。『あなたは、あなたの神である主を神として敬礼するべきである。あなたは神である主にだけ仕えるべきである』と聖書に記されている」という救い主イエスの答えに含まれている。

すでに話した様に、悪魔は人格ではない。

誤った力を悪魔と呼んでいる。

誤った星の光を悪魔と呼んでいる。

マルコによる福音 ５ 章 ８ 節の「汚れた霊」は邪悪な意思の鎖が形成したオドの流れ、磁気の流れである。

マルコによる福音 ５ 章 ９ 節で「汚れた霊」は「レギオン、軍団」と名乗っている。

マルコによる福音 ５ 章 １ ３ 節で「汚れた霊は豚の群れを湖の中に投げ落とした」。

マルコによる福音 ５ 章 １ ３ 節の「汚れた霊が豚の群れを湖の中に投げ落とした」例え話は、誤った意思、邪悪な意思が盲目的な力に作用できるという例え話であり、盲目的な力が本能が劣った存在(、悪人)を引き寄せるという例え話である。

マルコによる福音 ５ 章 １ ３ 節の「豚の群れ」という例えと、女神キルケがオデュッセウスの戦友を「豚の群れ」に変えたという例えは同じである。

オデュッセウスが女神キルケから自分を守るために戦友を救うために誘惑の杯をしりぞけ女神キルケに剣で命令した事に注目しなさい。

オデュッセウスは誘惑の杯をしりぞけ女神キルケに剣で命令した。

女神キルケは自然の象徴である。

女神キルケは自然の全ての快楽と誘惑の象徴である。

自然を楽しむためには人は自然を圧倒する必要が有る。

前記がホメロスの例え話の意味である。

古代ギリシャの本物の神の書である、ホメロスの詩は、天の高等なオリエントの秘伝伝授の全ての神秘を含んでいる。

自然の仲介するものは蛇である。

自然の仲介するもの、蛇は常に行動的である。

自然の仲介するもの、蛇は行動しない怠惰な意思を常に誘惑する。

人は自然の仲介するもの、蛇を絶え間無く和らげる事によって、蛇に抵抗する必要が有る。

好色な、貪欲な、短気な、行動しない怠惰な魔術師は有り得ない。

魔術師は考え思う。

魔術師は肉欲で愛さない。

魔術師は短気に断る事が無い。

肉欲の奴隷、短気を意味する passion という言葉は「無抵抗な」を意味する passive な状態を意味する。

魔術師は常に自発的である。

魔術師は常に勝利者である。

前記の実現の到達は超越的な知の重要な困難な事である。

それで、魔術師が自身の創造を完成した時は、少なくとも原因と手段については、「大いなる務め」を満たす事に成る。

自由に成った意思という超自然的な仲介するものだけが、人の全能の「大いなる代行者」、自然を仲介するものを圧倒し、傾ける事が可能である。

アルキメデスは世界を持ち上げるために支点を世界の外に求めた。

魔術師の支点は知の立方体の石、Azoth の賢者の石である。

魔術師の支点、知の立方体の石、Azoth の賢者の石は、正反対のものの共鳴による、絶対の論理と普遍の調和の考えである。

M. Eugene Sue は想像力に富んだ作者である。

M. Eugene Sue は世論を少なくとも固定した者である。

M. Eugene Sue の大ロマン小説は、M. Eugene Sue は憎むべき者にしようと試みるが、M. Eugene Sue の意に反して興味深く成る、個性的な登場人物 Rodin を基にしている。

M. Eugene Sue のロマン小説の個性的な登場人物 Rodin は、法王シクストゥス 5 世の様に、忍耐強く、大胆で、知的で、天才である。

(法王シクストゥス 5 世は忍耐強く、大胆で、知的で、天才である。)

法王シクストゥス 5 世は貧しかった。

法王シクストゥス 5 世は節制した。

法王シクストゥス 5 世は肉欲に動かされず冷静であった。

法王シクストゥス 5 世は熟練の組み合わせの網の目にからめて全世界を掌握した。

M. Eugene Sue の小説の登場人物 Rodin は、思い通りに敵どもの肉欲を刺激して、敵どもを同士討ちさせる。

M. Eugene Sue の小説の登場人物 Rodin は、密かに、飾らずに、ごまかさずに、常に見つめている一点に常に到達する。

M. Eugene Sue の小説の登場人物 Rodin の目的は、M. Eugene Sue が危険であり邪悪であると信じている結社から世界を救う事である。

M. Eugene Sue は、M. Eugene Sue が危険であり邪悪であると信じている結社から世界を救うためには、どんな犠牲も高くはないと信じている。

M. Eugene Sue の小説の登場人物 Rodin は粗悪な家に住む。

M. Eugene Sue の小説の登場人物 Rodin は粗悪な衣を着る。

M. Eugene Sue の小説の登場人物 Rodin は人の残した、ごみの様な物を食べる。

M. Eugene Sue の小説の登場人物 Rodin は常に自身の務めに取り組む。

一貫して、M. Eugene Sue は、小説の登場人物 Rodin をみすぼらしい、不快な、憎むべき、接触を拒みたい、見るのも嫌な者として描いている。

しかし、仮に、みすぼらしい、不快な、憎むべき、接触を拒みたい、見るのも嫌な外見は、目的のための偽装の手段であれば、より確実に目的に到達するための手段であれば、崇高な勇気の明確な証である!

M. Eugene Sue の小説の登場人物 Rodin は法王に成ったならば粗悪な衣を着たり嫌な外見を装ったりしない!

M. Eugene Sue は誤った。

M. Eugene Sue の目的は迷信と狂信を笑いものにする事であった。

しかし、誤って、M. Eugene Sue は知、力、天才、無上の人の美徳を攻撃した。

仮に、イエズス会の中に M. Eugene Sue の小説の登場人物 Rodin のような人が多数いたとしたら、または、一人しかいなかったとしても、有名な支持者による見事であったり拙(つたな)かったりする格別な弁解にもかかわらず、対立している団体が成功するとは思わないであろう。

肉欲からは何ものにも欲望せずに、良く意思する事、長く意思する事、常に意思する事。

肉欲からは何ものにも欲望せずに、良く意思する事、長く意思する事、常に意思する事は力の秘訣である。

肉欲からは何ものにも欲望せずに、良く意思する事、長く意思する事、常に意思する事は魔術の秘密である。

「エルサレム解放」でタッソは、魔女アルミーダの誘惑を打ち砕いてリナルドを救う 2 人の騎士で、魔術の秘密を表した。

魔術の秘密である 2 人の騎士は、無上に魅力的な女神ニンフにも、無上の畏敬するべき獣にも、同じ様に、抵抗する。

魔術の秘密である 2 人の騎士は、肉欲の欲望の無いまま、恐怖の無いまま、目的に到達する。

本物の魔術師は、好ましい感情よりも畏敬の念、敬遠する気持ちを起こさせる!

本物の魔術師が敬遠する気持ちを起こさせる事を否定しない。

一方、人生の誘惑が甘美である事を認める。

アナクレオンが天才である事を公正に評価する。

愛の詩の全ての若い盛りを公正に評価する。

エリファス レヴィは肉欲の快楽の心酔者に超越的な知は好奇心にだけ留める様に真剣にすすめる。

エリファス レヴィは肉欲の快楽の心酔者に魔術の三脚に近づかない様に真剣にすすめる。

知の大いなる務めは死を肉欲の快楽にもたらす。

先天的なものである肉欲の鎖から解脱した人は、最初に、獣が従うという形で、自身の全能を実現するであろう。

ダニエル書 6 章のライオンの穴に入れられたが無事であった預言者ダニエルの伝説は作り話ではない。

初期のキリスト教の迫害の時に、獣がキリスト教徒に従う現象が全ローマ市民の前で 1 度だけではなく、くり返された。

恐れていない動物を恐ろしく感じる時が稀に有る。

ライオン殺しの Jules Gerard の銃弾は魔術的であり知的である。

Jules Gerard は１度だけ危険をおかした事が有った。

Jules Gerard は臆病者の同行を許した。

無思慮な同行者の命が失われそうに成るのを見て、Jules Gerard は自身のためにではなく同行者のために恐怖を覚えた。

多数の人々は「肉欲から解脱する決意に到達する事、ライオンを恐れない決意に到達する事は、困難であり、不可能ですら有る」と言うであろう。

多数の人々は「意思の力、性格的な力は、先天的な才能である」と言うであろう。

否定はしない。

しかし、習慣によって天性を変えられる。

「習慣は第二の天性なり」

教育によって意思を完成する事が可能である。

前に話した様に、全ての宗教の儀式の目的の様に、全ての魔術の儀式の目的は、忍耐によって、力によって、意思を試す事、意思を鍛える事、意思を慣らす事である。

実行が困難であればあるほど、効果は大きい。

読者が今は理解できるほど、私エリファス レヴィが大いに十分に話した様に。

もし磁気の催眠術の現象を導く事が未だ不可能であれば、秘伝伝授者である肉欲から本当に自由に成った催眠術師が未だ現れていないからである。

誰が肉欲から本当に自由に成ったと誇る事が可能であろうか？　いいえ！

人は常に自身を克服するべきではないか？　はい！

同時に、自分を自身に強く十分に確信させた人の身ぶりと言葉に自然が自ら従うのは確かである。

「自然が自ら従う」と話したが、「自然が自ら自身を偽る」とは話していないし、「自然が自ら自然の可能性の秩序を乱す」とは話していない。

言葉によって、息によって、触れる事によって、神経の病を治せる。

ある場合には、復活させられる。

邪悪な意思に抵抗して、人殺しから武器を取り上げ、人殺しを打ち負かす事ができる。

逃れる必要が有る人々の視覚を乱す事によって自身を見えなくできる。

前記は、全て星の光の放射や引き寄せによる自然な結果である。

Valentius が Cesarea の神殿に入った時に感じた、めまいと恐怖の原因は星の光である。

Heliodorus がエルサレムの神殿で突然の狂気に圧倒された原因は星の光である。

Heliodorus は天使達、神の聖霊達が Heliodorus をむちで打ち、踏みにじったと信じた。

暗殺者どもが Admiral de Coligny に敬意を覚えた原因は星の光である。

顔をそむけた狂人だけが Admiral de Coligny を殺す事ができた。

ジャンヌ ダルクの信心による魅力とジャンヌ ダルクの大胆さによる奇跡がジャンヌ ダルクを常に勝利させた。

ジャンヌ ダルクは敵の腕をしびれさせた。

イギリス人はジャンヌ ダルクが魔女であると真面目に考えた。

事実、ジャンヌ ダルクは知らないで奇跡を起こした聖女であった。

ジャンヌ ダルク自身は自分は超自然的に行動していると信じていた。

しかし、実際は、ジャンヌ ダルクは自然の法が普遍に常に統治する隠された力を応用していた。

魔術師、催眠術師は自然の仲介するものである星の光を統治するべきである。

結果として、魔術師、催眠術師は星の体を統治するべきである。

星の体によって、人の魂は自身の肉体の器官と交信する。

魔術師は、肉体に「眠りなさい！」と話し、星の体に「夢を見なさい！」と話せる。

魔術師が、肉体に「眠りなさい！」と話し、星の体に「夢を見なさい！」と話すと、麻薬使用時の映像の様に、目に見えるものの外見が変わる。

カリオストロは幻視の力を持っていると話していた。

カリオストロは、煙や香によって、幻視の作用を強めた。

しかし、本物の磁気の催眠術の力は煙や香といった助けを超越するべきである。

多かれ少なかれ、煙や香といった全ての助けは、理性に有害である。

多かれ少なかれ、煙や香といった全ての助けは、健康に有害である。

学の有る作品「メイソンのオカルト」でラゴンは催眠術を強めるのに適した一連の薬の処方せんを記している。

催眠術を強める薬の知を軽視するべきではない。

しかし、思慮の有る魔術師は催眠術を強める薬の実践を避けるべきである。

人は星の光を視線、声、親指、手のひらによって放射する。

歌といった音楽には声を助ける力が有る。

魔術、誘惑、魔術にかかった状態、誘惑にかかった状態、忘我状態を意味する enchantment の語源は歌うである。

人の声は無上の魔術と誘惑の enchantment の音楽的な手段である。

遠くから聞こえるヴァイオリンやハーモニカの音は声の力を強める。

圧倒したい被催眠者に音楽を聞かせて催眠術の用意をする。

被催眠者が半ば無感覚に成った時に、言わば、催眠術の魔術と誘惑が被催眠者を包んだ時に、催眠術師は被催眠者に向けて手を伸ばすべきである。

催眠術師は被催眠者に「(肉体よ、)眠りなさい」、「(星の体よ、夢を)見なさい」と命令するべきである。

すると、自身とは無関係に、被催眠者は催眠術師に従う。

仮に被催眠者が催眠術師に抵抗するならば、催眠術師は被催眠者をじっと見つめる必要が有る。

催眠術師は、一方の親指を被催眠者の両目の間に置き、他方の親指を被催眠者の胸の上に置き、軽く速く触れる必要が有る。

催眠術師は息を、ゆっくり吸い込み、優しく暖かく吹き込む必要が有る。

催眠術師は低い声で「(肉体よ、)眠りなさい！」、「(星の体よ、夢を)見なさい！」と、くり返す必要が有る。

7

タリスマンの７ つ１ 組

すでに話した様に、儀式、衣、香、文字、図形は想像力で意思を教育するために必要である。

魔術の作業の成功は全ての儀式の信心深い結果に左右される。

全ての本物の魔術の儀式には根拠が有る。

全ての本物の魔術の儀式は気まぐれではない。

全ての本物の魔術の儀式は古代から伝えられた物である。

全ての本物の魔術の儀式は、類推可能性の実現の基本の法によって、概念と形の必然の対応の基本の法によって、永遠に存在する。

エリファス レヴィは、全ての無上の信頼するべき魔術書と魔術の儀式の、調査と比較に多年を費やした。

苦労して、エリファス レヴィは普遍の古代の原初の魔術の儀式の復元に成功した。

魔術の儀式についての真剣な本は、数が限られており、手書きで、トリテミウスの「ポリグラフィア」の助けで解読した暗号で書かれている。

トリテミウスの「ポリグラフィア」で解読できる暗号で書かれている本以外の本は全体が象徴で書かれている。

トリテミウスの「ポリグラフィア」で解読できる暗号で書かれている本以外の本は象徴の真理を謎の言葉による迷信的な虚構で偽装している。

例えば、法王レオ ３ 世の「Enchiridion」は正しい図形で印刷された事が無い。

エリファス レヴィは法王レオ ３ 世の「Enchiridion」を古代の手書きの本を元に復元した。

「ソロモンの小鍵」という名前で知られている魔術書は多数存在する。

「ソロモンの小鍵」は多数が印刷されたが、残りは細心の注意で書き写されている手書きである。

良い上質な「ソロモンの小鍵」が帝国図書館に保存されている。

帝国図書館の「ソロモンの小鍵」には多数の pantacle と絵が描かれている。

帝国図書館の「ソロモンの小鍵」の pantacle と絵の多数はティコ ブラーエの魔術のカレンダー、Duchentau の魔術のカレンダーの pantacle と絵を盗用した物である。

最後に、金銭目当てのまがい物であり詐欺出版者が詐称した物である偽物の「ソロモンの小鍵」と偽物の魔術書が存在する。

悪名高い １ ８ 世紀の「Little Albert」は大部分が金銭目当てのまがい物である。

パラケルススのタリスマンの絵と計算を盗用した「Little Albert」の一部のタリスマンの絵と計算だけが、まがい物ではない。

実現と儀式については、パラケルススが魔術の大いなる権威である。

パラケルススより大いなる作業を成就した者はいない。

前記の理由から、パラケルススは儀式の力を隠した。

隠された哲学でパラケルススは意思の全能の磁気の代行者の存在だけを教えた。

パラケルススは図形の全ての知を大宇宙の星である六芒星と小宇宙の星である五芒星という ２ つの図形に要約した。

前記で、達道者には十分である。

大衆に秘伝伝授しない事が重要である。

前記の理由から、パラケルススは儀式を教えないで実践だけした。

パラケルススの実践は奇跡の連続であった。

すでに話した様に、3 つ1 組と 4 つ1 組は魔術的に重要である。

3 つ1 組と 4 つ1 組の組み合わせは普遍の総合を表す大いなる宗教的なカバラ的な数である。

3 つ1 組と 4 つ1 組の組み合わせは神の 7 つ1 組と成る。

古代人は 7 つの二次的な原因が世界を統治していると信じていた。

(第一原因は神である。)

トリテミウスは 7 つの二次的な原因をsecundaeiと呼んだ。

7 つの二次的な原因は 7 つの普遍の力である。

モーセは 7 つの二次的な原因、7 つの力を神の複数形、エロヒム、神々と呼んだ。

7 つの力は相互に類推可能である。

7 つの力は相互に対立している。

7 つの力は対立によって、つり合いをもたらす。

7 つの力は 7 惑星の動きを統治する。

ヘブライ人は 7 つの力をミカエル、ガブリエル、ラファエル、アナエル、サマエル、ザドキエル、オリフィエルという 7 つの大いなる大天使の名前で呼んだ。

グノーシス主義者は 7 つの力をミカエル、ガブリエル、ラファエル、ウリエル、バラキエル、セアルティエル、イェフディエルと呼んだ。

他の国々は 7 惑星の統治を 7 つの霊に委ねて 7 つの主な神々や天使の名前で呼んでいる。

全ての人々は 7 惑星の感化力を信じている。

古代の天文学は 7 惑星で天を分けた。

古代の天文学は 7 つの曜日を 7 惑星に統治させた。

前記が魔術の 1 週間の様々な儀式と 7 惑星の 7 つ1 組の儀式の理由である。

すでに話した様に、7 惑星は象徴である。

7 惑星は普遍の信心による感化力を持っている。

なぜなら、7 惑星は天体と言うより人の精神の星である。

古代の魔術は常に太陽を固定されているものと考えた。

大衆にとってのみ太陽は惑星であった。

前記の理由から、太陽は安息日を表す。

理由は知らないが、フランス語では日曜を「dimanche」と言う。

古代人には安息日は太陽の日である。

魔術的な 7 惑星はプリズムの七色と七音音階に対応している。

古代人は 7 つの徳を 7 惑星で表した。

(信仰の太陽、思慮の水星、愛の金星、希望の月、勇気の火星、正義の木星、節制の土星)

古代人は 7 つの徳に対立するキリスト教の倫理道徳の七つの大罪、七つの死に至る大罪を 7 惑星で表した。

(傲慢の太陽、怠惰の水星、色欲の金星、貪欲の月、憤怒の火星、嫉妬の木星、暴食の土星)

大いなる普遍の 7 つ1 組である 7 惑星はカトリックの七つの秘跡に対応している。

(

七つの秘跡は洗礼、神の聖霊を授かる堅信、パンをイエスの肉と思って頂く聖体、ゆるし、病者への塗油、祭司にする叙階、結婚である。

太陽の祭司にする叙階、水星の神の聖霊を授かる堅信、金星の結婚、月の洗礼、火星のゆるし、木星のパンをイエスの肉と思って頂く聖体、土星の病者への塗油。

)

月に対応する、水の元素を清める、洗礼。

火星の天使であるサマエルの助けの下での、禁欲や苦行による、ゆるし。

水星の天使であるラファエルの助けの下での、本物の信者が異言を授かる、理解の神の聖霊を授かる堅信。

木星の統治の代わりに、人に成った神イエスの実現の秘跡を応用する、パンをイエスの肉と思って頂く聖体。

金星の清める神の聖霊である天使アナエルが清める、結婚。

土星の鎌の下に倒れようとしている病者を守る、病者への塗油。

太陽の特徴がより特別に表す、光の祭司を清める、祭司にする叙階。

博識なデュピュイは前記の類推のほとんど全てに気づいた。

そこから、デュピュイは、一連の宗教の形の普遍の象徴が常にもたらす唯一の考えの神聖さと永遠性を認める代わりに、全ての宗教は虚偽であると結論した。

デュピュイは自然の調和が人の天才に伝える永遠の啓示を理解できなかった。

デュピュイは巧妙な映像と永遠の真理の鎖を誤りの一覧表としか見なかった。

魔術の作業は 7 である。

1 、太陽の助けの下での、光と富の作業。

2 、月への祈りの下での、占いと神秘の作業。

3 、水星の守りの下での、技、知、雄弁の作業。

4 、火星にささげられた、怒りと懲らしめの作業、怒りと罰の作業。

5 、金星が助ける、愛の作業。

6 、木星の助けの下での、熱望と術策の作業。

7 、土星の助けの下での、呪いと死の作業。

神学の象徴では、太陽は真理の言葉を表す。

月は宗教である。

水星は神秘の解釈と知である。

火星は正義である。

金星は思いやりと愛である。

木星は復活した昇天した栄光の救い主イエスである。

土星は父である神、モーセのヤハウェである。

人の体では、太陽は心臓に対応している。

月は脳と対応している。

木星は右手と対応している。

土星は左手と対応している。

火星は左足と対応している。

金星は右足と対応している。

水星は生殖器官に対応している。

水星は性器に対応している。

前記の理由から、時々、水星を両性具有者の姿で表す。

人の顔では、太陽は額を統治する。

木星は右目を統治する。

土星は左目を統治する。

月は両方の鼻根を統治する。

火星と金星は 2 つの鼻翼、小鼻を統治する。

水星は口とあごを統治している。

前記の考えが、古代人の人相学の隠された知である。

後に、Lavater は不完全ではあるが人相学を復活させた。

日曜に、光の作業に取り組もうと思う魔術師は光の作業を行う必要が有る。

日曜の真夜中の午前０時から朝の午前８時までの間に、または、日曜の午後３時から宵の午後１０時までの間に、光の作業に取り組もうと思う魔術師は光の作業を行う必要が有る。

日曜の法衣の色は紫であるべきである。

日曜は金の法王の三重冠と金の腕輪を身につけるべきである。

日曜の祭壇と三脚である香の祭壇と神の火の三脚は月桂樹、ヘリオトロープ、ひまわりの花輪で囲む必要が有る。

(

月桂樹はギリシャの光の神アポロンの樹である。

ヘリオトロープはギリシャ語で「太陽に向かう」を意味する。

)

日曜の香はシナモン、強い乳香、サフラン、ローズウッドである。

日曜の指輪は chrysolite の金の指輪かルビーの金の指輪である必要が有る。

(chrysolith、chrysolite はギリシャ語で金の石を意味する。)

日曜の敷物はライオンの皮である必要が有る。

日曜の扇(おうぎ)はハイタカの羽である必要が有る。

(ハイタカの語源は疾き鷹である。)

月曜の法衣の色は白である。

月曜の白の法衣には銀を織り込む。

月曜の白の法衣の首飾りは真珠、水晶、セレナイトの 3 つ 1 組の首飾りである。

(セレナイトの語源はギリシャ語で月を意味するセレネである。)

月曜の法王の三重冠は黄色の絹で覆う必要が有る。

月曜の法王の三重冠にはコルネリウス アグリッパの「隠秘哲学」に記されているヘブライ文字の組み合わせ文字によるガブリエルという名前を銀で描く。

月曜の香は白檀、カンフル、龍涎香、沈香、キュウリの種の粉である。

月曜の花冠はマグワート、ルナリア、黄色のラナンキュラスの花冠である。

(ルナリアの語源はラテン語で月を意味するルナである。)

月曜は黒い布、黒い衣、黒い物を避ける必要が有る。

月曜は銀以外の金属を身につけるべきではない。

火曜は報復の作業のための日である。

火曜の法衣の色は赤であるべきである。

赤は火、金属のさび、血の色である。

火曜の帯と腕輪は鉄の帯と鉄の腕輪である。

火曜の法王の三重冠は金で縛る必要が有る。

火曜は杖を用いるなかれ。

火曜は(杖の代わりに)魔術の短剣と魔術の剣を用いる必要が有る。

火曜の花冠は苦ヨモギとヘンルーダの花冠である必要が有る。

火曜の指輪は紫水晶の鉄の指輪である。

水曜は超越的な知に都合の良い日である。

水曜の法衣の色は緑色か色々な色であるべきである。

水曜の首飾りは水銀が入っている中空のガラスのビーズと真珠の首飾りである。

水曜の香は安息香、メース、蘇合香である。

水曜の花は水仙、百合、山藍(ヤマアイ)、カラクサケマン、マジョラムである。

水曜の宝石はメノウであるべきである。

木曜は大いなる宗教的な作業と大いなる政治的な作業の日である。

木曜の法衣の色は黄色い赤であるスカーレットであるべきである。

木曜は、木星の神の聖霊の絵とGIARAR、ベトール、SAMGABIELという **3** つの言葉が記されている真鍮(しんちゅう)の板をひたいに身につけるべきである。

(

真鍮、黄銅は金の代わりである。

ベトールは、いくつかの魔術書で木星を統治する霊の名前である。

)

木曜の香は乳香、龍涎香、バルサム、ギニアショウガ、macis、サフランである。

木曜の指輪はエメラルドかサファイアの指輪である。

木曜の花冠、王冠はオーク、ポプラ、無花果(イチジク)、ザクロの、花冠、王冠であるべきである。

金曜は恋愛の作業の日である。

金曜の法衣の色は空色であるべきである。

金曜の布の色は緑色とバラ色である。

金曜に身につける飾りは磨いた銅の飾りである。

金曜の王冠の色は紫である。

金曜の花冠はバラ、銀梅花、オリーブの花冠である。

(銀梅花は古代ギリシャでは愛の女神アフロディーテの花、古代ローマでは愛の女神ウェヌス
純潔の象徴に成った。)

金曜の指輪はターコイズの指輪であるべきである。

金曜の法王の三重冠と留め金は瑠璃（るり）と緑柱石の法王の三重冠と留め金が望ましい。

金曜の扇（おうぎ）は白鳥の羽である必要が有る。

金曜に魔術師はアナエルの絵と「幸せであれエヴァ！　去れリリス！」を意味するAVE EVA VADE LILITHという言葉が記されている銅のタリスマンを胸に身につける必要が有る。

(Anael、Aniel、Hanael、Haniel、アナエル、アニエル、ハナエル、ハニエルはヘブライ語で神の喜び、神の恵み、神の優美を意味する。)

土曜は死の作業の日である。

土曜の法衣の色は黒か茶色である必要が有る。

土曜の黒か茶色の法衣には黒かオレンジ色の絹で絵を刺繍(ししゅう)する。

土曜は、土星の象徴の絵と ALMALEC、APHIEL、ZARAHIEL という言葉が記されている鉛のメダルを首に身につける必要が有る。

土曜の香は diagridrium、スカモニア、ミョウバン、硫黄、アサフェティダであるべきである。

土曜の指輪はオニキスの指輪であるべきである。

土曜の花冠はトネリコ、糸杉、ヘレボルスの花冠であるべきである。

(

糸杉は腐敗し難いので棺などに用いられたので死の象徴に成った。

糸杉は一度切ったら二度と生えないので死の象徴に成った。

イエスの十字架は糸杉の十字架であるという伝説が有る。

古代エジプトや古代ローマで糸杉は神木であった。

)

土曜の指輪のオニキスに、土星のサトゥルヌスの時に、ヤヌスの 2 つ 1 組の頭の絵を清めた錐(きり)で刻むべきである。

前記が、魔術師の秘密の儀式の古代の遠大さである。

前記と同様の品々を用いて、中世の大いなる魔術師達は日々 7 つの霊の 7 つのタリスマンのうち曜日に対応するタリスマンを清めた。

すでに話した様に、1 つの pantacle は魔術の考えのうちの 1 つの魔術の考え全体を要約する総合的な象徴である。

1 つの pantacle は 1 つの完全な考えと意思が充満している表れである。

１つのpantacleは１つの精神の表れである。

pantacleを儀式で清めると、より強く、意思をpantacleに結びつけられる。

pantacleを儀式で清めると、清めた者とpantacleの間に磁気の鎖を確立できる。

pantacleを新品の羊皮紙、新品の紙、新品の金属に記しても良い。

タリスマンと呼ばれる物は、特定の意図のために特別に清められた、pantacleか象徴が記されている金属の板である。

古代の魔術についての学の有る作品で、ガファレルはタリスマンの現実的な力を学術的に実証した。

人は、タリスマンといった、お守りの力を強く確信している。

人は喜んで愛するものの形見を身のまわりに持つ。

人は愛するものの形見が危険から守ってくれると確信している。

人は愛するものの形見が幸せにしてくれると確信している。

７惑星のタリスマンは金、銀、鉄、銅、水銀、鉛といった７つのカバラ

７惑星のタリスマンは、それぞれ、対応する曜日や時に、対応する象徴を記して作る。

「Little Albert」に、７惑星の象徴がパラケルススの７惑星の魔方陣と共に記されている。

神秘的な意図でパラケルススが木星の象徴として祭司の絵を描いている事に注目するべきである。

現在では最早、７つの霊の７惑星の象徴的な神話的な図形である、７惑星の惑星記号はタリスマンへ記すには古典的に大衆的に成り過ぎて力が無い。

７惑星の惑星記号より学の有る意味深な７惑星の象徴を復元する必要が有る。

タリスマンの一方の面には常に五芒星を記すべきである。

太陽のタリスマンの一方の面には、五芒星と共に、円を記すべきである。

月のタリスマンの一方の面には、五芒星と共に、三日月を記すべきである。

火星のタリスマンの一方の面には、五芒星と共に、剣を記すべきである。

金星のタリスマンの一方の面には、五芒星と共に、Gという文字を記すべきである。

木星のタリスマンの一方の面には、五芒星と共に、王冠を記すべきである。

土星のタリスマンの一方の面には、五芒星と共に、鎌（かま）を記すべきである。

タリスマンの他方の面にはソロモンの封印、六芒星、正三角形と逆三角形の組み合わせを記す必要が有る。

太陽のタリスマンの他方の面には、六芒星と共に、六芒星の中央に、人の絵を記す。

月のタリスマンの他方の面には、六芒星と共に、六芒星の中央に、杯の絵を記す。

水星のタリスマンの他方の面には、六芒星と共に、六芒星の中央に、犬の頭の絵を記す。

木星のタリスマンの他方の面には、六芒星と共に、六芒星の中央に、ワシの絵を記す。

火星のタリスマンの他方の面には、六芒星と共に、六芒星の中央に、ライオンの頭の絵を記す。

金星のタリスマンの他方の面には、六芒星と共に、六芒星の中央に、ハトの頭の絵を記す。

土星のタリスマンの他方の面には、六芒星と共に、六芒星の中央に、牛かヤギの頭の絵を記す。

７つの霊の７惑星のタリスマンの両面に、対応する七大天使の名前を、ヘブライ文字、または、アラビア文字、または、トリテミウスの文字の様な魔術的な象形文字で記す。

ソロモンの封印、正三角形と逆三角形、六芒星の代わりに、エゼキエルの車輪という、十字とＸ字形の十字の組み合わせを用いても良い。

多数の古代の pantacle では、六芒星の代わりに、エゼキエルの車輪という、十字とＸ字形の十字の組み合わせを用いている。

「高等魔術の教理」ですでに話した様に、六芒星は伏羲の３つ１組の八卦の鍵である。

金属の代わりに、アミュレットやタリスマンに宝石を用いても良い。

金属のタリスマンでも宝石のタリスマンでも、７惑星のタリスマンは対応する惑星の神の聖霊の色の絹の袋の中に用心深く保持する必要が有る。

７惑星のタリスマンは対応する惑星の精神の色の絹の袋の中に用心深く保持する必要が有る。

７惑星のタリスマンは日々、曜日に対応する香で清める必要が有る。

7　惑星のタリスマンは全ての汚れた視線と全ての汚れた接触から守る必要が有る。

太陽のタリスマンや pantacle は奇形の人、不具の人、不道徳な女性に見られたり触れられてはいけない。

月のタリスマンは放蕩者、月経中の女性の視線や接触によって汚される。

有給の聖職者に見られたり触れられると水星のタリスマンは力を失う。

(祭司は金銭を稼ぐための職業ではない。)

火星のタリスマンは臆病者から隠す必要が有る。

金星のタリスマンは不道徳な人、独身の誓いを立てている人から隠す必要が有る。

木星のタリスマンは不信心な人から隠す必要が有る。

土星のタリスマンは処女と幼子から隠す必要が有る。

ただし、奇形の人、不具の人、月経中の女性、処女、幼子の視線や接触が汚れているわけではない。

タリスマンが視線や接触によって奇形の人、不具の人、月経中の女性、処女、幼子などに不運をもたらすからである。

タリスマンが奇形の人、不具の人、月経中の女性、処女、幼子などの視線や接触によって力を全て失うからである。

まぎれもなく、名誉十字勲章といった勲章はタリスマン、お守りに成る。

勲章は個人の評価や美点を高める。

勲章は真剣な授与式によって清められる。

世論は不思議な力を勲章に与える事ができる。

形から概念への感化力と、概念から形への感化力という、相互の感化力は十分に注目されていない。

ナポレオンの五芒星のレジオンドヌール勲章が、十字の聖ルイ勲章、全体を象徴的に要約している事は、現代の革命的な業績である。

五芒星が十字を要約している事は、ラバルムの代わりに成っている五芒星である。

五芒星が十字を要約している事は、光の象徴の建て直しである。

五芒星が十字を要約している事は、アドニラムのメーソンの復活である。

ナポレオンは「自分の星」を信じていたと言われている。

仮に、「自分の星」が何を意味するのかナポレオンに説明させる事ができたら、「自分の星」とは「自分の能力」、「自分の精神」であると分かるであろう。

ナポレオンは自分の象徴として五芒星を選んだ。

五芒星は知の先導による人の超越性の象徴である。

革命の強い戦士であるナポレオンは少ししか知らなかったが、ほぼ全てのものを

ナポレオンは現代の最大の直感と実践の魔術師であった。

世間はナポレオンの奇跡で未だに満ちている。

いなかの大衆はナポレオンの死を信じない。

神聖な象徴と触れていたり畏敬するべき人が触れて、祝福された物や許された物は、全て本物のタリスマンである。

パレスチナ由来の小ロザリオは、全て本物のタリスマンである。

復活祭のロウソクのロウと毎年残った聖油で作った「神の子羊」の像は、全て本物のタリスマンである。

(神の子羊はイエスの象徴である。)

scapulasとメダルは、全て本物のタリスマンである。

現代では、お守りのメダルは人気が有る。

不信心な人でさえ、お守りのメダルを幼子の首にかけている。

さらに、「奇跡のメダル」、「不思議のメダイ」の絵は完全にカバラ的である。

「奇跡のメダル」の一方の面の絵と他方の面の絵は本当に不思議な 2 つ 1 組の pantacle である。

「奇跡のメダル」の一方の面には、大いなる女性の祖、「光輝の書」の天の母、エジプトのイシス、ローマの愛の女神ウェヌスとギリシャの天の女神ウラニアというよりはプラトン主義者の「天の愛(ウェヌス ウラニア)」、キリスト教の聖母マリアが描かれている。

(プラトンの「饗宴」に、「天の愛」を意味する「ウェヌス ウラニア」、「アフロディーテ ウラニア」と、肉欲である「大衆の愛」を意味する「ウェヌス パンデモス」、「アフロディーテ パンデモス」という区別が記されている。)

「天の愛」は、世界という王座に座っている。

「天の愛」は、一方の足を魔術の蛇の頭の上に置いている。

「天の愛」の頭と伸ばしている両手は、頭が頂点である、正三角形を形成している。

「天の愛」は、両手を開き光を放ち、2 つ 1 組の正三角形を作る様に、光は全て地に向かい、労苦による知の解放を明らかに表している。

「奇跡のメダル」の他方の面には、M と絡(から)み合っている秘儀祭司の 2 つ 1 組のタウ、または、M と絡(から)み合っている 2 つ 1 組の女性器と単一の男性器、または、M と絡(から)み合っている 3 つ 1 組の男性器が描かれている。

M はカバラとメーソンの M である。

M は 2 つの柱ボアズとヤキンの間の直角定規を表している。

M と 2 つ 1 組のタウ、M と 2 つ 1 組の女性器と単一の男性器、M と 3 つ 1 組の男性器の下には、愛している苦しんでいる 2 つの心臓が描かれている。

M と 2 つ 1 組のタウと 2 つの心臓、M と 2 つ 1 組の女性器と単一の男性器と 2 つの心臓、M と 3 つ 1 組の男性器と 2 つの心臓の周りには、1 2 個の五芒星が描かれている。

「奇跡のメダル」を身につけている人は「奇跡のメダル」に前記の意味が有るとは考えていないと、全ての人が口をそろえて言うであろう。

しかし、人が知らないで身に帯びているために、より魔術的である。

(人は知らないで労苦による知の解放という務めを身に帯びている。)

「奇跡のメダル」は二重の意味を持っている。

結果として、「奇跡のメダル」は二重の力を持っている。

「奇跡のメダル」というタリスマンの絵は、忘我状態のカトリーヌ ラブレの啓示による物である。

「奇跡のメダル」の絵を、忘我状態のカトリーヌ ラブレは星の光に完全な形で存在しているのを見た。

前記は、概念と形の密なつながりを実証する。

前記は、普遍の魔術の象徴性を支持する。

大事に作るほど大事に清めるほど、タリスマンとpantacleの力は大きくなる。

前記の原理によって、大事に作るほど大事に清めるほど、タリスマンとpantacleの力は大きくなる事を理解するであろう。

前記の、意図に対応する曜日に、曜日に対応する品々で、タリスマンを清めるべきである。

神の四大要素、神の四大元素の呼び出しによって闇の霊、悪人の霊を追い払った後に、清めた四大元素、清めた四大要素によってタリスマンを清める。

pantacle、タリスマンを手に取り、魔術の水を数滴かけて、後記を唱える。

エロヒムの名前において、生きている水の、神の聖霊によって、光の象徴、意思の象徴と成れ！

タリスマンを香の煙にささげて、後記を唱える。

(民数記 ２１ 章の、星の光である)火の蛇を圧倒した、さおに吊るされた火の蛇(、イエス)によって、光の象徴、意思の象徴と成れ！

pantacle、タリスマンに７ 回、息を吹き込んで、後記を唱える。

天と、声の、神の聖霊によって、光の象徴、意思の象徴と成れ！

タリスマンに、清めた土の塵の ３ つ１ 組か、塩の ３ つ１ 組を置いて、後記を唱える。

地の塩において、永遠の命の力によって、光の象徴、意思の象徴と成れ!

(マタイによる福音 5 章 1 3 節「あなたたち人は地の塩である」)

７ つの香のうち霊に対応する香を清めた火に投げ入れながら、７ つの霊を呼び出す、後記を唱える。

ミカエルの名前において、ヤハウェが Chavajoth に命令する様に！　ヤハウェが Chavajoth を追い払う様に！

ガブリエルの名前において、アドナイがベリアルに命令する様に！

アドナイがベリアルを追い払う様に！

(

ベリアルはヘブライ語で無価値を意味する。

ベリアルは無価値である悪人、無価値である悪人の霊を意味する。

)

ラファエルの名前において、Elchim の前から去れ Sachabiel！

軍団であるサマエルによって、Eloim Gibor の名前において、去れアドラメレク!

(

Eloim、エロヒムはヘブライ語で神を意味する。

アドラメレクのメレクはヘブライ語で王を意味する。

)

ザラキエルとサキエル メレクによって、Elvah に従え Samgabiel！

(

ザラキエル、サリエルは神の命令を意味する。

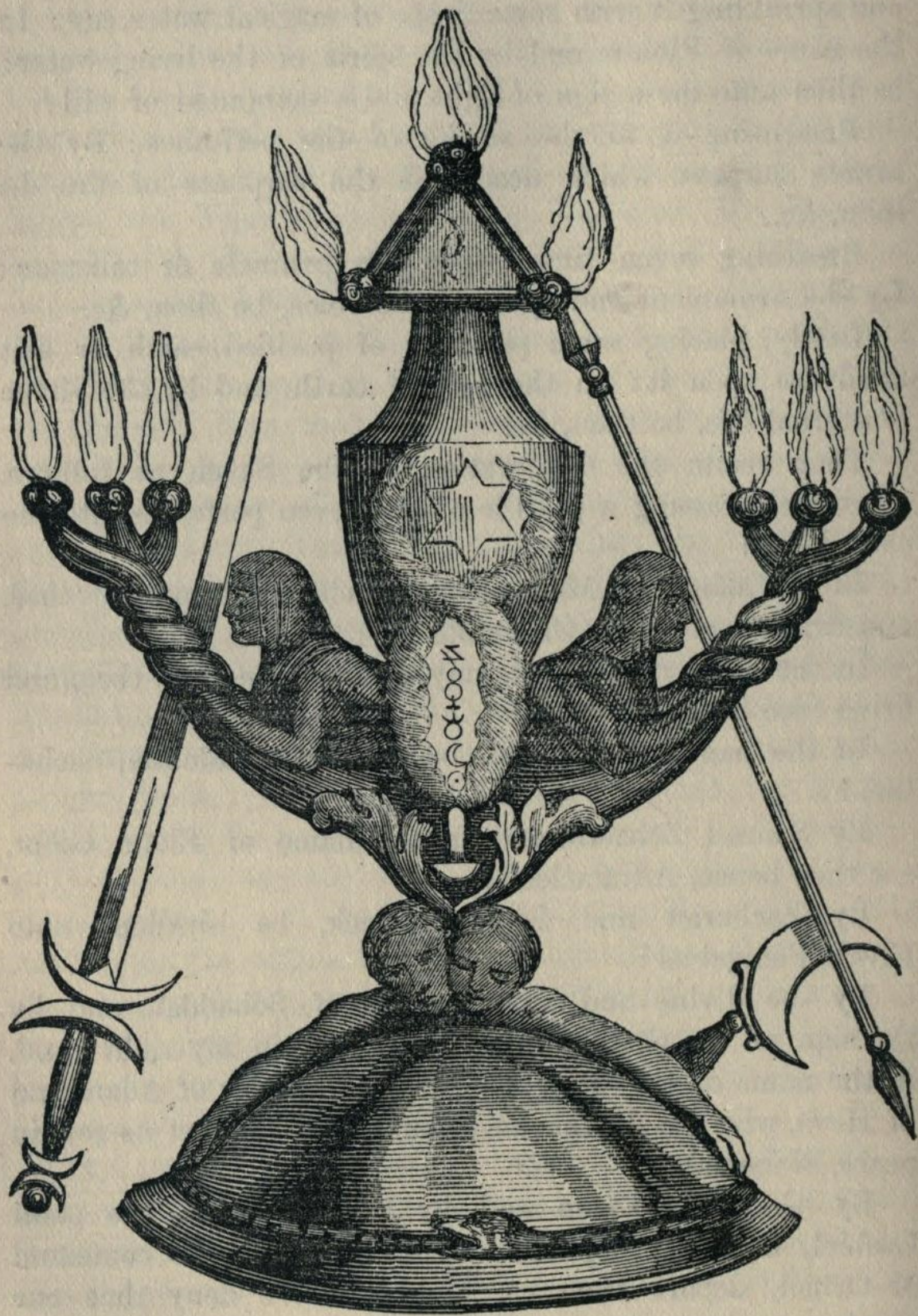
サキエルは神を覆う者を意味する。

メレク、モロクはヘブライ語で王を意味する。

王である神。

)

シャダイの神と人の名前によって、右手に持つ五芒星の象徴によって、天使アナエルの名前において、イョッド エヴァのアダムの力とエヴァの力によって、去れリリス！　安らかに眠らせよナヘマー！

　神々しいエロヒムによって、Cashiel、Sehaltiel、Aphiel、Zarahiel という霊達の名前によって、オリフィエルの命令で、去れモロク！　我々は我々の幼子を生贄としてモロクに捧げる事を拒絶する。

MAGICAL INSTRUMENTS.

Lamp, rod, sword, and dagger.

重要な魔術の道具は杖、剣、ランプ、杯、祭壇、三脚である。

超越的な神の魔術の儀式ではランプ、杖、杯を用いる。

黒魔術、悪人の霊の魔術の儀式では、杖の代わりに剣を用いる。

ランプの代わりにカルダーノのロウソクを用いる。

前記の違いを、黒魔術、悪人の霊の魔術についての１５章で説明するつもりである。

魔術の道具の説明と清め方に至る。

魔術の杖を、単なる占いの杖、降霊術師の杖、パラケルススの三叉槍と混同してはいけない。

本物の完全な魔術の杖は、アーモンドか西洋榛(セイヨウハシバミ)の完全に真っ直ぐな単一の枝を、太陽が昇る前に、木の花が咲く用意をしている瞬間に、魔術のナイフか金の鎌で一撃で切って、作る必要が有る。

魔術の杖は、アーモンドか西洋榛(セイヨウハシバミ)の枝の芯に、裂けない様に割れない様に貫通する様に穴を空け、枝と同じ長さの磁化された鉄の針を通す必要が有る。

魔術の杖の一方の端には三角形のプリズムを付ける必要が有る。

魔術の杖の他方の端には三角形の黒い樹脂を付ける必要が有る。

銅の輪と亜鉛の輪を魔術の杖の中央に通す必要が有る。

魔術の杖の黒い樹脂を付けた側の半分を金めっきする必要が有る。

魔術の杖のプリズムを付けた側の半分を銀めっきする必要が有る。

魔術の杖の両端以外の部分を絹で覆う必要が有る。

ידושלימהקדשהと魔術の杖の銅の輪に記す必要が有る。

שלמה המלדと魔術の杖の亜鉛の輪に記す必要が有る。

(שלמהはソロモンである。)

清めた魔術の杖と大いなる秘密を保持している秘伝伝授者が、新月の日から 7 日間、魔術の杖を清める必要が有る。

清めた魔術の杖を保持している秘伝伝授者が他者の魔術の杖を清める事は、超越的な知の隠された源泉から絶える事無く続いている、魔術の秘密の伝授である。

魔術の道具は用心して隠す必要が有る。

特に、魔術の杖は用心して隠す必要が有る。

魔術師は魔術の道具を大衆に見せるなかれ。

魔術師は魔術の道具を大衆に触れさせるなかれ。

魔術の道具を大衆に見せたり触れさせると、魔術の道具は全ての力を失う。

魔術の杖の伝授の方法は知の秘密の 1 つである。

魔術の杖の伝授の方法は秘密である。

魔術の杖の伝授の方法を明かすなかれ。

魔術の杖の長さは魔術師の腕の長さ以下である必要が有る。

独りの時以外は、魔術師は魔術の杖を用いるなかれ。

他人がいる時は、魔術師は魔術の杖を用いるなかれ。

魔術師は(必然的)理由も無く魔術の杖に触れる事すらするべきではない。

多数の古代の魔術師は魔術の杖の長さを肘から手首までの長さにした。

多数の古代の魔術師は魔術の杖をマントの下に隠した。

作業の性質によって、公には、単なる占いの杖、または、象牙か黒檀の象徴的な王笏だけを見せた。

リシュリュー枢機卿は常に力を渇望していた。

リシュリュー枢機卿は生涯、魔術の杖の伝授を探求した。

しかし、リシュリュー枢機卿は魔術の杖の伝授方法を見つけられなかった。

リシュリュー枢機卿のカバリストのガファレルはリシュリュー枢機卿に魔術の剣とタリスマンしか与える事ができなかった。

多分、リシュリュー枢機卿は魔術の杖の伝授方法を見つけられなかった事が、リシュリュー枢機卿がユルバン グランディエを憎んだ秘密の動機である。

ユルバン グランディエはリシュリュー枢機卿の弱み、欠点について何か知っていた。

火刑による死刑の数時間前の、Laubardementと不運な聖職者ユルバン グランディエの秘密の長時間の会話と、ユルバン グランディエが死に赴く時の、ユルバン グランディエの、秘密を打ち明けられる友の言葉「あなたユルバン グランディエは利口な人です。あなたユルバン グランディエよ、自分の身を破滅させないでください」は注目するべき思考の糧と成る。

魔術の杖とは魔術師が「畏敬するもの」である。

魔術の杖について明確に話してはいけない。

魔術の杖を保持している事を自慢してはいけない。

絶対秘密の条件の下、以外では、魔術の杖を清める儀式を伝授するなかれ。

魔術の剣は魔術の杖より隠さなくて良い。

後記は、魔術の剣の作り方である。

魔術の剣は純粋な鋼で作る必要が有る。

法王レオ 3 世の「Enchiridion」に記されている様に 3 つの柄頭(つかがしら)を持つ十字形の銅の柄(つか)の魔術の剣、または、後記の様に 2 つ 1 組の三日月の鍔(つば)の魔術の剣を作る必要が有る。

魔術の剣の鍔(つば)の中央の結合部分を金の板で覆うべきである。

魔術の剣の鍔(つば)の金の板の一方の面には、大宇宙の象徴である、六芒星を記すべ

魔術の剣の鍔(つば)の金の板の他方の面には、小宇宙の象徴である、五芒星を記すべきである。

魔術の剣の柄頭(つかがしら)には、コルネリウス アグリッパの書物に記されているヘブライ文字の組み合わせ文字によるミカエルという名前を記す。

魔術の剣の刀身の一方の面には、פמפה מי יהוה באילים と記す必要が有る。

(יהוהはヤハウェである。)

魔術の剣の刀身の他方の面には、コンスタンティヌス 1 世のラバルムのギリシャ語のキリストの最初の 2 文字 X P の組み合わせ文字を記す必要が有る。

魔術の剣の刀身の他方の面には、ラテン語で「神の導きと、友である剣で、圧倒しなさい」、「神の導きと、友である剣で、勝利しなさい」を意味するVince in hoc, Deo duce, comite ferro.という言葉を記す必要が有る。

前記の、確実な正確な形は、法王レオ 3 世の「Enchiridion」の最良の古代の版を参照してください。

日曜に、太陽の時間の間に、魔術の剣を清める必要が有る。

ミカエルへの祈りの下に、魔術の剣を清める必要が有る。

魔術の剣を清めるには、月桂樹と糸杉の火の中に魔術の剣の刀身を入れる必要が有る。

魔術の剣を清めるには、清めた火の灰で魔術の剣を乾かし磨く必要が有る。

魔術の剣を清めるには、「土竜か蛇の血」で潤(うるお)いを与える必要が有る。

(

「土竜か蛇の血」は例えである。

神の聖霊の魔術で、血を用いてはいけない。

)

魔術の剣を清めるには、後記の祈りを唱える。

軍団であるエロヒムの力によって、ミカエルの剣と成れ！

　(

　エロヒムは神を意味する。

　エロヒムは神の複数形である。

　)

　去れ闇の霊！　去れ地をはう爬虫類！

　(

　闇の霊は悪人の霊の例えである。

　地をはう爬虫類は汚れた星の光の例えである。

　)

　前記の祈りの後に、魔術の剣を、太陽の香で清めてから、バーベインの枝々と共に、絹で包む。

　魔術の剣と共に絹で包んだバーベインの枝々を第 7 日目に燃やすべきである。

　金、銀、真鍮、鉄という 4 つの金属で、魔術のランプを作る必要が有る。

　(真鍮、黄銅は金の代わりである。)

　魔術のランプの土台は鉄で作るべきである。

　魔術のランプの鏡は真鍮で作るべきである。

　魔術のランプの油壺(あぶらつぼ)は銀で作るべきである。

　魔術のランプの頂きの三角形は金で作るべきである。

　魔術のランプには 2 つの腕を付けるべきである。

　魔術のランプの腕は、3 つの、別々の金属の、油を通す管をからめ合わせた物である。

魔術のランプには 9 つの灯心が有る。

魔術のランプには、頂きの三角形に 3 つの灯心、一方の腕に 3 つの灯心、他方の腕に 3 つの灯心が有る。

魔術のランプの土台にはヘルメスの封印、ヘルメスの象徴を記す。

魔術のランプには、土台を覆う様に、ハインリッヒ クンラートの 2 つの頭を持った両性具有者の像が有る。

魔術のランプの(土台の)下部を、自身の尾を飲み込む蛇ウロボロスの像で囲む必要が有る。

魔術のランプの油壺(あぶらつぼ)にソロモンの象徴である六芒星を記す必要が有る。

魔術のランプに 2 つの球形のかさを付ける必要が有る。

一方の球形の魔術のランプのかさには、7 つの霊の透明な絵を記す。

他方の球形の魔術のランプのかさには、一方の球形の魔術のランプのかさの絵を大きくした物を記す。

2 つの球形の魔術のランプのかさの中には、色々な色の水が入っている。

球形の魔術のランプのかさの中の、色々な色の水は、4 つの仕切りで仕切られている。

魔術のランプは木の柱の中に置くべきである。

魔術のランプを置く木の柱は回転できる。

魔術のランプを置く木の柱は、必要に応じて、魔術のランプからの一筋の光線を漏らす事ができる。

祈りの時に、魔術のランプからの一筋の光線を祭壇の煙に当てる。

魔術のランプは、時間がかかる想像力が、直感する作用を大いに助ける。

魔術のランプは、催眠状態の人の前に、現実に、驚くべき形を即座に創造する、助けと成る。

魔術の小部屋の四方の鏡によって、魔術のランプの光と祭壇の煙による、形は増殖する。

　突然、魔術のランプの光と祭壇の煙による、形による刺激は激しく成るであろう。

　魔術の小部屋は、目に見える霊に満ちた巨大な集会場に変わるであろう。

　香がもたらす陶酔と祈りがもたらす高揚は、速やかに、魔術のランプの光と祭壇の煙による形による幻想を本物の現実の夢に変えるであろう。

　旧知の知人たちが認められるであろう。

　霊達が話すであろう。

　魔術のランプの光を木の柱の中に閉ざし、煙を増やすと、思いもしない驚くべき何かが起こるであろう。

8

無思慮な者への警告

すでに何度か話した様に、知の作業には危険が有る。

無上の絶対の誤りが無い論理という基礎の土台の上に自身を堅固に確立しない者は狂気に至るかもしれない。

(人は絶対の論理という基礎の土台の上に自身を建てる必要が有る。)

過度の神経の興奮は恐るべき不治の病をもたらす。

想像への過度の感動や恐怖は、脳の充血によって、失神や死をもたらす。

神経質な人々や異常に興奮し易い人々、女性、未熟な人々、自制する習慣や恐怖心を抑える習慣が完全には無い全ての人々に忠告して思いとどまらせる事は十分には不可能である。

同様に、ふざけて魔術をする事や、何人かが行っている様に、夜会の悪ふざけの一環として魔術をする事は、最も危険である。

ふざけて催眠状態にすると、被催眠者の神経を消耗させ、自説を誤りに導き、知性を駄目にするだけである。

生と死の神秘を弄(もてあそ)んで罰を受けない事は不可能である。

生と死の神秘を弄(もてあそ)ぶと罰を受ける。

真剣に取り扱うべきであるものは、真剣に取り扱うだけではなく、大いに遠慮する必要が有る。

驚異的な現象によって他人を説得しようという欲望に身を任せるなかれ。

驚異的な現象は、確信が無い人々にとっては、証拠に成らない。

驚異的な現象は、常に、驚異的ではない詐欺のせいにされる。

魔術師は、多かれ少なかれ、手品師ロベール ウーダンやハミルトンの上手な模倣者の一人に数えられてしまう。

魔術師は手品師とみなされてしまう。

魔術や神学といった知を信じる根拠として奇跡や驚異を必要とする事は、魔術や神学といった知を伝授される資格が無い人であるのを明らかにする事である。

「神の物は、神の様な人に」

(マタイによる福音 ２２ 章 ２１ 節「カエサルの物はカエサルに、神の物は神に」)

鍵タロットの １２ 番目の絵について深く考えなさい。

天の火を盗んで人に与えて罰を受けたプロメテウスという大いなる象徴を思い出しなさい。

沈黙を守りなさい。

作品や行いを大衆に明かした魔術師は皆、激しい死に方をした。

多数の魔術師が自殺に追い込まれた。

カルダーノの様に。

シュレプファーの様に。

カリオストロの様に。

その他の魔術師の様に。

魔術師は大衆から隠れて生きるべきである。

魔術師は近寄り難いべきである。

「魔術師は大衆から隠れて生きるべきである」、「魔術師は近寄り難いべきである」がタロットの ９ 番目の鍵の意味の １ つである。

タロットの 9 ページ目にはマントで完全に覆われた隠者として秘伝伝授者が描かれている。

しかし、孤立するなかれ。

前記の隠居が孤立に成ってはいけない。

思いやりと交流が必要である。

しかし、魔術師は用心して友を選ぶ必要が有る。

魔術師は友を気づかう必要が有る。

魔術師は、魔術師としての務めではない、金銭を稼ぐための職業を持つ必要が有る。

魔術は金銭を稼ぐための職業ではない。

魔術の儀式に専念するために、魔術師は心配事から自由である必要が有る。

魔術師は魔術という知の全ての道具を手に入れられる立場にいる必要が有る。

魔術師は魔術という知の全ての道具を必要と成った時に作れる必要が有る。

魔術師は、不意打ちや妨害の危険が全く無い、侵害されない作業場所を保有する必要が有る。

絶対に必要な 2 つの条件として、魔術師は 2 つの力のつり合わせ方を知っている必要が有る。

魔術師は自発的な欲望の抑え方を知っている必要が有る。

「 2 つの力をつり合わせる」事と「自発的な欲望を抑える」事が、ヘルメスの 8 番目の鍵、タロットの 8 ページ目の絵の意味である。

タロットの 8 ページ目には、一方の手に真っ直ぐな剣を持ち、他方の手に天秤を持つ、2 つの柱の間に座っている女性が描かれている。

2 つの力をつり合わせるには、2 つの力を同時に保有して、2 つの力を交互に作用させる必要が有る。

天秤は「２ つの力を同時に保有して、２ つの力を交互に作用させる」という ２ つ１ 組の動きを表す。

ピタゴラスの車輪とエゼキエルの車輪という、十字とＸ字形の十字という、二重の十字は、天秤が象徴である「２ つの力を同時に保有して、２ つの力を交互に作用させる」という秘密を象徴する。

ピタゴラスの車輪とエゼキエルの車輪は「高等魔術の教理」を参照してください。

ピタゴラスの車輪とエゼキエルの車輪の、十字とＸ字形の十字は、相互に、つり合っている。

ピタゴラスの車輪とエゼキエルの車輪の、惑星の象徴は、常に、対立している。

金星は火星の作用とつり合っている。

水星は太陽と月の作用を和らげ実現する。

土星は木星とつり合っている。

７ 惑星の象徴である古代ギリシャの神々の間の対立によって、知の精神の象徴である、知の霊である、プロメテウスは、オリュンポス山に侵入して天の火を奪えた。

より明らかに話す必要が有るか？　より明らかに話す必要が有る！

あなたが、思いやり深いほど、冷静であるほど、あなたの怒りには力が有る。

あなたが、力強いほど、あなたの忍耐には価値が有る。

あなたが、熟練するほどに、知によって、徳によって、あなたは得をする。

あなたが、冷たいほど、あなたは愛され易く成る。

前記は、精神の領域での経験である。

前記は、行動の領域で実現する。

人が抑えないで発揮した肉欲は、盲目的に、目的とは正反対の結果をもたらす。

過度の愛は反感をもたらす。

盲目的な憎悪は反作用と成り自身を苦しめる結果に成る。

虚栄心は屈辱、恥に至る。

箴言 ２ ５ 章 ２ １ 節から ２ ２ 節で、大いなる王者ソロモンは「(敵を許しなさい。あなたを憎む人に慈善行為をしなさい。そうすれば、)あなたは火のまきを敵の頭の上に積める」と話して、前記の様な現実的な魔術的な知の神秘を明かした。

多分、前記のゆるしは見せかけのゆるしに思われるであろう。

前記の慈善行為は偽善行為に思われるであろう。

前記のゆるしは、うわべだけで、改良された報復であると思われるであろう。

しかし、魔術師は王者である事を思い出す必要が有る。

王者は報復ではなく裁く。

裁きで、王者は義務を果たすだけである。

裁きで、王者は、正義の様に、和解の余地が無い。

誤解しない様に言うと、善で悪に報復する事が大事である。

思いやりを怒りに対立させる事が大事である。

徳が悪徳をむち打つものとして発揮されると、罰しない様に要求できる権利は誰にも無い。

善が悪を罰する時、罰しない様に言う権利は悪人には無い。

または、徳が悪徳をむち打つものとして発揮されると、罰を受ける恥ずかしさと罰の苦しみに同情する様に要求できる権利は誰にも無い。

善が悪を罰する時、罰を受ける恥ずかしさと罰の苦しみに同情する様に言う権利は悪人には無い。

知の作業に専念する人は日々の鍛錬を和らげる必要が有る。

長時間の徹夜を控える必要が有る。

健全で規則正しい生活習慣に従う必要が有る。

腐敗臭を避ける必要が有る。

よどんで腐っている水に近づく事を避ける必要が有る。

消化し難い食べ物を避ける必要が有る。

汚(よご)れた食べ物を避ける必要が有る。

特に、魔術に夢中に成り過ぎない様に、俗世間への用心のために、芸や生産や金儲けといった仕事で、神経を弛緩できる息抜きできる気晴らしを日々探す必要が有

良く見る方法は常に見ている事ではない。

一生の全てを唯一の目的に費やす人は目的に到達しないで終わる。

同様に、その他に注意する必要が有る事は、後記である。

病んでいる時は、魔術の儀式を試みに行うなかれ。

すでに話した様に、儀式は意思の習慣を創造するための人為的な手段である。

意思の習慣を確立した時に、儀式は不要に成る。

意思の習慣を確立した時に、儀式は不要に成るので、隠された哲学で、パラケルススは、儀式の利用を禁止する様に、完全な達道者にだけ話している。

儀式が完全に不要に成るまでは、超自然的な意思への鍛錬によって確立した意思の習慣に比例して、獲得した力に比例して、段階的に儀式を簡略化する必要が有る。

9

秘伝伝授者の儀式

知は、沈黙によって守られ、秘伝伝授によって伝えられる。

秘伝伝授者ではない大衆には、沈黙を守る事は、絶対に破ってはならない法である。

ただし、例外として、秘伝を伝授されるにふさわしい人には、沈黙を破る場合が有る。

知は話す事によってのみ伝えられる。

知は言葉によってのみ伝えられる。

時には賢者は話す必要が有る。

イエス。

覆いを取り除くためではなく、他人を発見に導くために、賢者は話す必要が有る。

「行くなかれ。来させなさい」

「行くなかれ。来させなさい」はラブレーの言葉である。

ラブレーは当時の全ての学問に通じていた。

ラブレーが魔術に通じていなかったはずが無い。

ラブレーは魔術に通じていた。

したがって、ここで、秘伝伝授の神秘を明かす必要が有る。

すでに話した様に、人の運命は自身の創造である。

人は自身の行為の子と成る。

人は自身の行為の結果である。

時間と永遠に対して、人は自身の行為の子と成る。

時間と永遠に対して、人は自身の行為の結果である。

全ての人が競う様に要求されている。

神は全ての人に競う様に要求している。

しかし、神に選ばれる人の数は常に少数である。

成功する人の数は常に少数である。

言い換えると、到達したい人は多数である。

しかし、神に選ばれる人は少数である。

到達する人は少数である。

世界の統治は、当然の権利として、神に選ばれた人の物である。

神に選ばれた人が世界を統治するべきである。

結託や簒奪（さんだつ）が、神に選ばれた人による世界の統治を妨害すると、政治的な大洪水か社会的な大洪水が起こる。

自身の主である人は、楽に、他者の主に成れる。

ただし、秩序の法、普遍の位階の法を無視すると、相互の足の引っ張り合いが起こり得る。

共同で秩序に従うには、概念と望みの共有が必要である。

知と論理という基礎の土台の上に建てられた宗教の共有だけが、共同で秩序に従う、概念と望みの共有に到達できる。

知と論理という基礎の土台の上に建てられた宗教は、世界に常に存在している。

知と論理という基礎の土台の上に建てられた宗教だけが、単一の宗教、誤りが無い宗教、朽ちない欠点が無い宗教、真実の普遍の宗教である。

カトリックは「普遍の」を意味する。

他の宗教はヴェールや影であり続けている。

知と論理という基礎の土台の上に建てられた宗教だけが、ヴェールや影ではない。

知と論理という基礎の土台の上に建てられた宗教は、存在によって存在を実証する。

知と論理という基礎の土台の上に建てられた宗教は、論理によって真理を実証する。

知と論理という基礎の土台の上に建てられた宗教は、証拠によって常識によって論理を実証する。

知と論理という基礎の土台の上に建てられた宗教は、実在によって、仮説の論理的な基礎を証明する。

知と論理という基礎の土台の上に建てられた宗教は、実在とは無関係に仮説を論じる事を禁じる。

知と論理という基礎の土台の上に建てられた宗教は、普遍の類推可能性の考えを基礎としている。

知と論理という基礎の土台の上に建てられた宗教は、「知るべきもの」と「信じるべきもの」を混同しない。

2 13 □ □ であるという事を信じるのは無理である。

物理的に、含まれている物が含んでいる物より大きい可能性が有るという事を信じるのは無理である。

固体が流体や気体の様に動く可能性が有るという事を信じるのは無理である。

例えば、人の肉体が、分解しないで、開けないで、閉ざされている門を通過できるという事を信じるのは無理である。

無理なものを信じる人は無知な幼子か愚者であると言える。

無理なものを信じる人は愚者である。

未知のものを知っているかの様に定義するのは無理である。

先験的に、早まった仮説を肯定するまで、事実を否定できる様に成るまで、仮説から仮説へ論じていくのは、愚かである。

賢者は知っているものを肯定する。

賢者は、知らないもののうち、仮説の既知の必然性と合理性につり合っているものだけを信じる。

論理的な宗教は大衆には合わない。

大衆には、例え話、神秘、明確な希望、自然科学的な基礎を持っている恐怖が必要である。

前記の理由から、世界に祭司の集団が確立されている。

祭司の集団は秘伝伝授によって補充される。

神秘のヴェールを取られる事によって、または、神秘を軽視する事や神秘を忘却する事によって、祭司だけの聖所で、秘伝伝授が途絶えると、宗教の形は消える。

例えば、グノーシス主義の発覚が、キリスト教会を、カバラの天の高等な真理から遠ざけてしまった。

カバラは超越的な神学の全ての秘密を含んでいる。

前記によって、盲人が盲人を導く事に成ってしまった。

(マタイによる福音 １５ 章 １４ 節「もし盲人が盲人を導けば、盲人は諸共に穴に堕ちるであろう」)

大いなる暗闇、大いなる堕落、悲しむべき醜行が起こってしまった。

キリスト教徒の大衆は創世記からヨハネの黙示録までの聖書を非常に少ししか理解できなく成ってしまった。

創世記からヨハネの黙示録までの聖書の鍵は全てカバラである。

羊飼いである祭司は信者のうち無学な人が聖書を読む事を禁止する必要が有ると合理的に判断する事に成ってしまった。

ヴォルテール派が十分過ぎるくらい指摘した様に、文字通りに取ると、物質的に理解すると、聖書は信じられない非論理的な話と醜行の塊（かたまり）に過ぎないであろう。

聖書と同様に、文字通りに取ると、物質的に理解すると、全ての古代の考え、古代人の神統系譜学、古代人の詩の伝説は非論理的な話と醜行の塊に過ぎないであろう。

古代ギリシャ人がゼウスの不倫を信じていたと主張する事は、
古代エジプト人が頭が犬である人や神の存在を信じていたと主張する事は、
古代エジプト人がハイタカを神として信じていたと主張する事は、
キリスト教徒が老人と十字架で処刑された罪人とハトという三重の神を信じていると主張する事は、
無知、無学であるし悪意が有る。

象徴への無知は常に中傷に成る。

前記の理由から、自分が知らないものを笑いものにしない様に常に用心するべきである。

聖書の話、神話、伝説といった話が何らかの非論理的な話か奇異な話を含んでいる時に、自分が知らないものを笑いものにしない様に常に用心するべきである。

検討無しで非論理的な話を受け入れる事が良識に欠けた行為である様に(、自分には理解不能な非論理的な話を笑いものにする事は良識に欠けた行為である)。

自分が気に入るより前に、自分が気に入らないより前に、真理が存在する。

自分が気に入るより前に、自分が気に入らないより前に、論理が存在する。

もし不滅の存在理由である知を自分の心の中に創造したいのであれば、もし不滅の法である正義を自分の心の中に創造したいのであれば、自分の欲望によってより、論理、真理によって、行動する必要が有る。

本物の人は合理的に正当に行動するべき物だけを望む。

本物の人は論理、真理にしか耳を傾けないので肉欲と恐怖を静める。

本物の人は自然の王者、自然の祭司である。

本物の人は、さまよっている大衆にとって、自然の王者、自然の祭司である。

前記の理由から、古代の秘伝伝授の極致は、王者のわざ、祭司のわざ、と呼ばれた。

古代の魔術の結社は王者と祭司のための学校であった。

本物の王者のわざ、祭司のわざによってのみ古代の魔術の結社へ入会できた。

自分の全ての自然な弱さを乗り越える事によってのみ古代の魔術の結社へ入会できた。

中世の秘密結社で、力を弱めたが絶えなかった、全ての場所で見つかる、古代エジプトの秘伝伝授について、ここでは、くり返さない。

「あなたたちは唯一の父である神を持つ。あなたたちは唯一の主イエスを持つ。あなたたちは皆、神の子、神の子イエスの兄弟である」という言葉への誤解を基礎とする、急進派の偽のキリスト教徒が神の位階制に恐るべき打撃を与えてしまった。

前記の時から、祭司の位階は術策と運の問題に成ってしまった。

大衆が術策と運で高い位階の祭司に成る様に成ってしまった。

遠慮しない大衆が、遠慮する神に選ばれた者から、高い位階を愚かにも奪ってしまった。

神に選ばれた者は遠慮するために大衆から正しく本当の価値を理解されない。

それでも、秘伝伝授は宗教の命の絶対に必要な法である。

法王の力が地に堕ちた時に直感的に魔術的に形成された団体イエズス会は、キリスト教の全ての力をイエズス会に速やかに集中させる事ができた。

なぜなら、イエズス会は、位階制の力を、曖昧にしか理解しなかったが、決定的に利用したからである。

位階制の力は、秘伝伝授のための試練に内在している。

位階制の力は、従順な服従における信心の全能性に内在している。

事実、古代の秘伝伝授で、修行者は何をしたか？

修行者は、テーベやメンフィスの神殿の師に、命と自由を全て委ねた。

修行者は、自分に対する計画的な虐待を想像させてしまう無数の恐怖の中を決然として前進した。

修行者は、火葬用のまきの山を昇った。

修行者は、黒い激しい水の流れの中を泳いだ。

修行者は、未知のつり合いによって、底無しの崖に身を乗り出した。

全て、前記こそ、文字通り全力な、盲目的な服従ではないか？　前記は、全て、文字通り全力な、盲目的な服従である！

自由へ到達するために一時的に自由を放棄する事は自由であるという権利の最も完全な行使ではないか？　自由へ到達するために一時的に自由を放棄する事は自由であるという権利の最も完全な行使である！

前記は、魔術の全能性という「神の王国」を望む修行者が行う必要が有る物である。

前記は、魔術の全能性という「神の王国」を望む修行者が常に行ってきた物である。

ピタゴラスの弟子は多年の完全に沈黙を守る苦行を自身に課した。

エピクロス派の人ですら、心の平静と計画的な節制の獲得によってのみ、快楽が最高である事を理解した。

命は、戦いである。

命は、もし前進したいのであれば、実証する必要が有る、戦いである。

力は自然と身を任せたりはしない。

力は男性に自然には身を任せない。

力をつかみ取る必要が有る。

力を奪い取る必要が有る。

戦いと試練による、秘伝伝授は、魔術の実践的な知への到達に、絶対に必要である。

後記については、すでに話した。

どのような手段で四大元素の形を圧倒できるか？

前記をここでは、くり返さない。

読者のうち、古代の秘伝伝授の儀式を調査したい者は、「燃える星」の著者ツォーディ男爵の著書か、「アドニラムのメーソン」か、いくつかの他の非常に価値の有るメーソンの文書を参照してください。

ここで、深く考えて欲しい。

はっきり言うと、１９世紀の大衆が堕落している最中である、知的な社会的な無秩序の原因は、秘伝伝授の軽視、秘伝伝授の試練の軽視、秘伝伝授の神秘の軽視である。

人は知より熱意が大きい。

大衆は福音書の言葉を誤解して流された。

大衆は、人と人が最初から全く平等であると信じてしまった。

(人と神は平等ではなく、人から神への間に無限の段階が存在するので、人と人の間には無限の段階が存在する。)

「社会だけが人を堕落させる」は、ルソーの有名な幻覚を起こさせる言葉である。

雄弁で不適切なルソーはルソーの表現方法の魔力的な魅力の全てを用いて「社会だけが人を堕落させる」という奇説を普及させた。

まるでルソーは「労働における競争や対抗心が労働者を怠惰にする」と言っているかの様である。

大衆は、自然の精髄の法、労苦による秘伝伝授の法、自発的行為の法、労苦による進歩を致命的に誤解した。

メーソンから務めを放棄する者があらわれた。

カトリックから背教者があらわれた様に。

どんな結果に成ってしまったか？

知の段階、象徴の段階の代わりに、鉄の段階に成ってしまった。

知の段階から象徴の段階を経て鉄の段階まで退化した。

即物的な段階まで退化した。

上へ昇る方法を教えないで、下の者に平等を話す事は、全ての者を身を落とす様に拘束する事ではないか？　上へ昇る方法を教えないで、下の者に平等を話す事は、全ての者を身を落とす様に拘束する事である！

前記の理由から、大衆は、フランス革命の革命歌カルマニョール、フランス革命における貧困層サン キュロット、マラーの支配に身を落とした。

揺らぐ乱れた社会を元に戻すには、位階制と秘伝伝授を再び確立する必要が有る。

位階制と秘伝伝授を復活させる務めは難しいが、知の世界の人々は皆、位階制と秘伝伝授の復活に取り組む必要性を感じている。

位階制と秘伝伝授の復活の前に、別の大洪水を経る必要が有るか？

エリファス レヴィは、位階制と秘伝伝授の復活の前に、別の大洪水を経る必要が無いと、心から信じる。

本書は、秘伝伝授者の大胆な物のうち、多分、最大の物であるが、最後の物ではない。

本書は、腐敗と死の真っただ中で、命の建て直しのために、未だに生きている全ての者への呼びかけである。

１０

隠された学問の鍵

pantacleについて考えよう。

なぜなら、pantacleには全ての魔術の力が有る。

なぜなら、pantacleを導く知には力の秘密が存在する。

ピタゴラスの車輪、エゼキエルの車輪というpantacleの絵と意味をすでに記した。

ピタゴラスの車輪、エゼキエルの車輪というpantacleについては、くり返す必要が無い。

２２章で、ヘブライ人の神への敬礼のための全ての道具はpantacleであった事を説明するつもりである。

ヘブライ人の神への敬礼のための全ての道具はpantacleであった。

後の章で、モーセが聖書の最初であり最後である言葉、唯一普遍の言葉、絶対の言葉を聖所と聖所の全ての品々に金と真鍮で記した事について説明するつもりである。

モーセは聖書の最初であり最後である言葉、唯一普遍の言葉、絶対の言葉を聖所と聖所の全ての品々に金と真鍮で記した。

魔術師は自分個人のpantacleを持つ事ができるし持つべきである。

なぜなら、正しく理解された、pantacleは１つの精神の完全な要約である。

前記の理由から、ティコ ブラーエの魔術のカレンダー、Duchentau の魔術のカレンダーで、アダムの pantacle、ヨブの pantacle、エレミヤの pantacle、イザヤの pantacle、その他の全ての大いなる預言者の pantacle が見つかる。

アダム、ヨブ、エレミヤ、イザヤといった預言者はカバラの王者であり知の大いなるラビである。

(ラビはヘブライ語で師を意味する。)

pantacle は１ つの象徴によって表された完全な総合である。

pantacle は全ての知の力を視線、想像、接触に集中する助けに成る。

pantacle は意思を効率良く放射するための起点と言える。

黒魔術師とゴエティアの悪人の霊の魔術師は地獄の悪の pantacle を自分が殺した生贄の皮に記した。

「ソロモンの小鍵」といった多数の魔術書には、生贄による悪人の霊の魔術の儀式、子ヤギの皮をはがす方法、子ヤギの皮を塩で乾かし白くする方法が記されている。

何人かのヘブライ人のカバリストは、「高き所」や地下の洞穴で生贄をささげる者に対する聖書に記されている呪いを忘れ、生贄による悪人の霊の魔術の儀式と類似した、(魔術に血を用いる)愚行に陥ってしまった。

儀式で血を流す行為は全て憎むべき行為であり神に対して無礼な行為である。

アドニラムの死後、本物の達道者の団体は血を憎む。

教会は血を憎む。

pantacle による入門の象徴主義は、東の全てで取り入れられた。

pantacle による入門の象徴主義は、全ての古今の神話の鍵である。

象徴的なアルファベットである、タロットの知が無いと、ヴェーダ、ゼンド アヴェスター、聖書の暗闇の中で迷ってしまうであろう。

創世記で、善悪の知の木は 4 つの川の源泉である。

善悪の知の木を源泉とする 4 つの川のうちピションは金の王国を水で潤す。

金の王国は光の王国である。

善悪の知の木を源泉とする 4 つの川のうちギホンは古代エチオピアを流れる。

古代エチオピアは闇の王国の象徴である。

(古代エチオピアは未知の領域の象徴である。)

創世記の蛇は磁気の蛇である。

創世記の蛇は星の光である。

創世記の磁気の蛇は女性エヴァを誘惑した。

(動物は女性を母として娘として誘惑する。)

女性エヴァは男性アダムを誘惑した。

女性は男性を誘惑する。

前記は、引き寄せの法を知らせている。

神はエデンの祭司だけの聖所への道に火の剣と智天使ケルビムを置いた。

智天使ケルビムは聖書のスフィンクスである。

火の剣と智天使ケルビムは象徴を守護するものである。

アダムの労苦による改心とエヴァの涙の苦しみによる増殖。

アダムの労苦による改心とエヴァの涙の苦しみによる増殖は、入門と試練の法の象徴である。

カインとアベルの対立。

カインとアベルの対立は、エロスとアンテロスの対立と同じである。

カインとアベルの対立は 2 つ 1 組の象徴である。

大洪水で水の上を運ばれるノアの方舟。

ノアの方舟は、オシリスの棺と同様である。

オリーブの葉をノアの方舟にもたらさない黒いカラスと、オリーブの葉をノアの方舟にもたらした白いハト。

ノアの方舟の黒いカラスと白いハトは、対立とつり合いの考えを新たに説明している。

創世記の大いなるカバラの例え話を、文字通り受け取ると、史実として受け取ると、ヴォルテールが山ほど与えたよりも、笑いものにするに値するし、軽蔑に値する。

創世記の例え話は、秘伝伝授者には、光に成る。

秘伝伝授者は、熱意と思いやりによって、世界の全ての聖所で同じである、本物の考えの永遠性と、入門の普遍性を認める。

モーセ五書、エゼキエル書、ヨハネの黙示録は、聖書という建物全体の、３つのカバラ的な鍵である。

エゼキエルのスフィンクスである、智天使ケルビムは、古代エジプト、古代ペルシャ、古代ギリシャといった聖所のスフィンクスと同じである。

エゼキエルの智天使ケルビムは、モーセの契約の箱の智天使ケルビムと同じである。

智天使ケルビムは、古代エジプトの４つ１組、四大元素の４つ１組の建て直しである。

相互に回転する、エゼキエル書１章の智天使ケルビムの車輪は、ピタゴラスの調和している複数の天球、ピタゴラスの調和している宇宙コスモスである。

完全にカバラ的なものさしで計画された、新しい神殿は、最初のメーソンの務めの象徴である。

ヨハネの黙示録２１章で、使徒ヨハネは、新しい神殿と同じ映像と数を受け継ぎ、新しいエルサレムというエデンの楽園世界を概念的に建て直した。

ただし、ヨハネの黙示録２２章で、４つの川の源泉で、(十字の中央で、)太陽である子羊が、善悪の知の木という神秘の木を受け継いでいる。

労苦と血による入門は終わった。

ヨハネの黙示録２１章２２節に記されている様に、新しいエルサレムには、神殿が不要である。

(ヨハネの黙示録２１章２２節「新しいエルサレムには神殿が無かった。なぜなら、全能である主である神と子羊イエスが新しいエルサレムの神殿であるからである」)

なぜなら、真理の光は普遍に普及し、世界は正義の神殿に成るからである。

前記は、聖書の光輝く最終的な理想像である。

前記は、教会が正当な理由で実現をより良い「あの世」に委ねた神の理想郷である。

前記は、全ての古代の大異端者と多数の現代の夢想家の落とし穴に成ってしまった。

全ての人の同時の解放と完全な平等は、進歩の抑制をもたらして、命の抑制をもたらす。

全ての人が平等に成ってしまった世界には、幼子と長老は存在できない。

全ての人が平等に成ってしまった世界には、誕生と死は認められない。

前記は、新しいエルサレムが「この世」の物ではない事と、新しいエルサレムが原始的な楽園エデンの物ではない事を、十分に証明している。

原始的な楽園エデンには、善悪の知、自由の知、生死の知は無かった。

宗教の象徴主義の輪は永遠の中で始まり終わる。

デュピュイとヴォルネイは大いなる博識を全ての象徴の類似の発見に費やした。

そして、デュピュイとヴォルネイは全ての宗教の否定に至ってしまった。

正反対に、エリファス レヴィは、全ての象徴の類似の発見という経路によって、カトリック以前の全ての宗教の肯定に到達した。

そして、エリファス レヴィはカトリック以前の文明的な世界に偽の宗教が存在しなかった事を感嘆して認める。

神の光、ロゴスの無上の論理の輝き、ヨハネによる福音 1 章 9 節の「この世に生まれて来る全ての人を照らす神の言葉イエス」の輝きは、ゾロアスターの魔術の子孫と使徒ペトロの信心深い羊である本物のカトリック教徒に欠けていなかった。

永遠、唯一、普遍の啓示が目に見える自然には記されている。

目に見える自然に記されている永遠、唯一、普遍の啓示は、論理で明示されている。

目に見える自然に記されている永遠、唯一、普遍の啓示は、信心を持った知の類推によって、完全な物に成る。

最終的に、実に、唯一の本物の宗教、唯一の考え、唯一の論理的な本物の信心が存在する。

正に、実に、唯一の神、唯一の論理、唯一の宇宙が存在する様に。

啓示は全ての人にとって不明な物ではない。

なぜなら、世界の全ての人が真理と正義を、多かれ少なかれ、理解しているからである。

なぜなら、全てのものは、存在するものと類推的にしか存在できないからである。

「存在は存在である」

「存在は存在する」

「存在性は存在性である」

「ある存在は別の存在と存在性が同じである」

「ある存在と別の存在は存在するという意味で同じである」

「神は存在する」

出エジプト記３章１４節でאהיה אשר אהיה、AHIH AShR AHIH、エヘイエ アシェル エヘイエと神はモーセにヘブライ語で名乗った。

出エジプト記３章１４節で神は「私は存在する。だから、何ものかである、私、神が存在する」、「私は存在したい様に存在する者である」、「私は存在の中の存在である」、「私は本物の存在である」、「私は幻ではない存在である」とモーセに名乗った。

ヨハネの黙示録に記されている一見、奇妙な形は、象徴である。

全てのオリエントの神話の象徴の様に。

ヨハネの黙示録に記されている一見、奇妙な形は、一連の pantacle である。

ヨハネの黙示録１章の、白衣を着ている、７つの金の燭台の間に立っている、右手に７つの星を持っている、祖イエスは、「上のものは下のものから類推可能である。下のものは上のものから類推可能である」というヘルメスの唯一の考えと、光の普遍の類推可能性を表している。

ヨハネの黙示録１２章の、太陽をまとっている、１２の星の王冠をかぶっている、女性は、天のイシス、グノーシスである。

ヨハネの黙示録１２章の、女性の御子を飲み込もうとする蛇は、物質的な命である。

ヨハネの黙示録１２章で、女性が２つのワシの翼を得て荒れ野へ飛び去るのは、公の宗教の物質主義に対する、預言の霊の抗議である。

ヨハネの黙示録１０章の、顔が太陽である、頭の周りの光が虹である、雲を衣としてまとっている、両脚が２つの火の柱である、左足を地の上に置いている、右足を海の上に置いている、力強い天使は、本物のカバラの汎神である。

　ヨハネの黙示録１０章の力強い天使の、地の上に置いている左足と海の上に置いている右足は、ベリアーの段階のつり合い、形の領域のつり合いを表している。

　ヨハネの黙示録１０章の力強い天使の、２つの火の柱である両脚は、メーソンの神殿の２つの柱ボアズとヤキンである。

　ヨハネの黙示録１０章の力強い天使の、雲のヴェールで覆われている、巻物を持っている手をもたらしている、胴体は、イェツィラーの天、入門の試練である。

　ヨハネの黙示録１０章の力強い天使の、頭の周りの虹は、光を放つ７つ1組である。

　ヨハネの黙示録１０章の力強い天使の、太陽である頭は、無上の世界アティルト、完全な啓示である。

　エリファス レヴィは、ヘブライ人のカバリストがヨハネの黙示録の象徴を理解しなかった事を、驚くしかできない。

　ヨハネの黙示録の象徴は、密に、不可分に、キリスト教の無上の神秘を、イスラエルの全ての達道者の秘密であるが不変の考えに結びつける。

　ヨハネの黙示録１３章の７つの頭を持った獣は、光の７つ1組に対立する、物質的な否定である。

　ヨハネの黙示録１７章のバビロンの淫らな女性は、ヨハネの黙示録１２章の太陽をまとっている女性に、対立している。

　ヨハネの黙示録６章の４つの馬に乗っている者は、牛、人、ライオン、ワシという４つの象徴的な獣に対応している。

ヨハネの黙示録 ８ 章の ７ つのラッパを持った ７ つの天使、ヨハネの黙示録 １ ５ 章の ７ つの杯、 ７ つの剣は、言葉による、宗教的なつながりによる、力による、悪に対する、善の戦いの絶対性を表している。

前記の様に、ヨハネの黙示録 ５ 章の隠された巻物の ７ つの封印は開かれて、普遍の入門が終わる。

前記以外の物を、超越的なカバラの書であるヨハネの黙示録の中に探す注釈者は、時間を浪費するし、自身が笑いものにされるだけである。

ヨハネの黙示録 ９ 章の御使いアポリオンをナポレオンと誤解する事は、
ヨハネの黙示録 ９ 章の天から堕ちた星「苦ヨモギ」をルターと誤解する事は、
ヨハネの黙示録 ９ 章の戦士の様に武装したイナゴをヴォルテールやルソーと誤解する事は、
激しい夢想に過ぎない。

ヨハネの黙示録 １ ３ 章の獣の数字 ６ ６ ６ に、有名人の名前を、数的に、こじつける事は、激しい夢想に過ぎない。

ヨハネの黙示録 １ ３ 章の獣の数字 ６ ６ ６ については、すでに十分に説明した。

ボシュエとニュートンといった人物が有名人の名前をヨハネの黙示録 １ ３ 章の獣の数字 ６ ６ ６ に数的にこじつけて遊んだ事を考えると、有名人の名前をヨハネの黙示録 １ ３ 章の獣の数字 ６ ６ ６ に数的にこじつけて遊ぶといった愚行、悪徳から仮定される様に、人性には、それほど悪意が無いのでは、と信じられる。

１１

三重の鎖

意思の鍛錬と魔術師の自身の創造の後の、実践的な魔術における、大いなる務めは、磁気の鎖の形成である。

大いなる務めは、意思の鍛錬、自身の創造、磁気の鎖の形成である。

磁気の鎖の形成の秘密は王者の物であり祭司の物である。

磁気の鎖の形成は、概念的な流れを形成する。

概念的な流れは、信心をもたらす。

概念的な流れは、自発的に表して定めた輪に、多数の意思を引き寄せる。

十分に形成された磁気の鎖は、渦の様に、全てのものを巻き込み同化する。

磁気の鎖を形成する方法は、身振り手振り、言葉、接触という ３ つの方法である。

身振り手振りによる磁気の鎖の形成とは、世論を誘発して、ある身振り手振りを力の表れとする事である。

全てのキリスト教徒は、十字を切る手振りによって、交流する。

メーソンは、太陽の下の直角定規を表す手振りによって、交流する。

魔術師は、小宇宙の象徴である五芒星を表す、五指を伸ばした手振りによって、交流する。

など。

一度でも受け入れられた広まった身振り手振りは力を持つ様に成る。

最初の数世紀における、十字を切る手振りを見せる事や、十字を切る手振りをまねしてもらう事だけで、十分に、人々をキリスト教に改宗できた。

十字を切る手振りと同じ、磁気の法によって、１９世紀では、「奇跡のメダル」、「不思議のメダイ」と呼ばれている物が、多数の人々をキリスト教に改宗させている。

若いヘブライ人アルフォンス ラティスボンヌの「奇跡のメダル」の聖母マリアの幻視と啓示は注目するべき事実である。

想像力は、自分の中だけではなく自分の外でも、流体の放射によって、創造力が有る。

疑い無く、コンスタンティヌス１世のラバルムの啓示の原因と、Mignéの十字の現象の原因は、流体の放射による、想像力の創造力である。

言葉による魔術の磁気の鎖の形成を、古代人は、ヘルメスの口（くち）から放出されている金の鎖で表した。

雄弁の電流は最強である。

雄弁の電撃は最強である。

粗雑な大衆の中でも、言葉は最高の理解を生む。

実際に聞くには遠過ぎる、大衆ですら感動によって言葉を理解する。

周りの大衆と共に、言葉によって大衆は心を奪われる。

隠者ピエールは、「神が、それを望んでいる！」と叫んで、ヨーロッパを揺るがした。

皇帝の一言が軍団を感動させてフランスを無敵にした。

プルードンは、「所有とは盗みである」という有名な奇説で、社会主義を破壊した。

言葉が流通するだけで権力を転覆させるには十分である。

ヴォルテールは言葉が流通するだけで権力を転覆できる事を良く知っていた。

ヴォルテールは風刺によって俗世を揺るがした。

そのため、ヴォルテールは法王と権力者を恐れなかった。

ヴォルテールは議会とバスティーユ監獄を恐れなかった。

しかし、ヴォルテールは言葉遊びを恐れた。

大衆が言葉を伝え合えば、言葉を話した人の意思の達成は目前である。

接触による魔術の磁気の鎖の形成が、磁気の鎖の形成の第 3 の方法である。

頻繁に会う人々の間には、すぐに、流れの先頭があらわれる。

すぐに、最も強い意思は他の意思を同化する。

直接の固い、握手は和気あいあいとさせる。

前記の理由から、握手は共感と親しさの象徴である。

幼子は直感的に自然に導かれる。

一列に成ったり輪に成って遊ぶ事によって、幼子達は、魔術の磁気の鎖を形成する。

一列に成ったり輪に成って遊ぶ事によって、陽気と笑いが広がる。

円卓が宴会に最適である。

中世の達道者の神秘の集まりを締めくくる、達道者のサバトの大輪舞は、魔術の磁気の鎖であった。

磁気の鎖は 1 つの意思、1 つの行動に全てのものを合流させる。

達道者のサバトの輪舞は、背中合わせに立って、手と手をつなぎ、顔を輪の外に向けた。

達道者のサバトの輪舞は、古代の神の舞を模倣している。

古代の神の舞が、古代の神殿に彫られているのが見つかる。

達道者のサバトでは、古代の酒神バッカスの酒神祭を模倣して、静電気を帯電させた、大山猫リンクスや豹(ヒョウ)パンサーや家猫の毛皮を縫って衣服を作った。

前記が、悪人の霊の魔術師のサバトでは、悪人の霊の魔術師は、帯に猫を吊るして身につけて踊った、という口伝の由来である。

降霊術でテーブルに起きる現象は、輪の磁気の鎖による、流体の交流が運良く表れた物である。

降霊術でテーブルに起きる現象は、磁気の鎖による物である。

後に、詐欺が降霊術に混ざった。

学識の有る知能が高い大衆ですら、詐欺が混ざった降霊術の目新しさに夢中に成って、自分で自分をだまし、自分の愚行の盲従者に成った。

降霊術のテーブルの解答は、多かれ少なかれ、自分の願望か推測か雑念による物である。

降霊術の解答は、夢の中で考えたり聞いた問答に似ている。

降霊術の他の不思議な現象は想像力が外へ表れた物かもしれない。

四大元素の霊が降霊術の現象を仲介した可能性を否定しない。

四大元素の霊が降霊術を仲介する可能性が有る。

四大元素の霊がタロット占いといったカード占い、夢占いを仲介する様に。

四大元素の霊はタロット占いといったカード占い、夢占いを仲介する。

ただし、四大元素の霊が降霊術を仲介する事が証明されたとは信じない。

四大元素の霊が降霊術を仲介する事は証明されていない。

そのため、四大元素の霊が降霊術を仲介する事を認める様に強制できない。

人の想像力の驚くべき力の １ つは、意思の実現、願望の実現である。

人の想像力の驚くべき力の １ つは、心配や恐怖すら実現する事である。

人は恐れている事や望んでいる事を信じ易い。

ことわざに有る様に。

人が恐れている事や望んでいる事を信じ易いのは真実である。

なぜなら、願望や恐怖は、計り知れない力の、実現する力を想像力に与える。

例えば、どうして人は心配している病気にかかるのか？

人が恐れている病気にかかる事についてのパラケルススの考え、経験によって確認された隠された法を、「高等魔術の教理」で、すでに話した。

しかし、少なくとも、知が無くて、または、共感が無くて、または、力が有る指導者がいなくて、磁気の鎖の形成が不十分な時は、磁気の流れによる、磁気の鎖の仲介による、実現は期待外れである場合がほとんどである。

知が無くて、または、共感が無くて、または、力が有る指導者がいなくて、磁気の鎖の形成が不十分な時は、実現は盲目的な雑念の結果である。

迷信の多くは魔術の知の名残である様に、１３人の時に、何らかの不運が１３人のうち最も若い人か最も弱い人に起こりそうだ、という、迷信深い大衆の思い込み、大衆に広まっている恐怖は、魔術の知の名残である。

迷信の多くは魔術の知の名残である。

１２は完成の数である。

１２は周期の数である。

自然の普遍の類推から分かる様に。

１２は常に１３を引き寄せ同化する。

大衆は１３が不運の数、余計な数であると誤解している。

もし１２が石うすを表す数であれば、１３は石うすにつぶされる物を表す数である。

前記に類似した考えによって、古代人の大衆は幸運の数と不運の数を作った。

前記から、古代人の大衆は幸運の日と不運の日の占いの習慣を作った。

前記の様な、人を不安にさせる物に対して、特に、想像力は創造力を発揮する。

そのため、幸運の数と不運の数といった誤った知識と、幸運の日と不運の日といった誤った占いは、占いの感化力を信じる大衆に合っている。

キリスト教が占いを禁止したのは正しかった。

なぜなら、キリスト教は占いを禁止して、占いへの盲従による、自由に思考したり行動する機会の損失を減らし、自由に余地と力を与えた。

印刷は、言葉を広める事によって魔術の磁気の鎖を形成するための見事な手段である。

失われる書物は存在しない。

書物は失われない。

事実、常に、正しく、書物は、おもむくべき所におもむく。

思考という呼吸は言葉を引き寄せる。

前記を、エリファス レヴィは魔術へ入門中に何度も経験した。

稀覯本が必要に成ると、すぐに、探さなくても、稀覯本はあらわれた。

前記のおかげで、エリファス レヴィは損失の無い普遍の知を復活できた。

多数の、学の有る者達は普遍の知が多数の一連の大洪水に沈んだと考えていた。

前記のおかげで、魔術師達は、ヘルメスまたはエノクから始まり、世界の終わりと共にしか終わらない、大いなる魔術の磁気の鎖に入門してきた。

前記のおかげで、エリファス レヴィは、ティアナのアポロニウス、プロティノス、シュネシオス、パラケルスス、カルダーノ、コルネリウス アグリッパ、その他、多かれ少なかれ知られているが軽々しく名前を口にするには宗教的に有名過ぎる人達の霊を呼び出して顔と顔を合わせて会えた。

エリファス レヴィと現在の魔術師達は過去の魔術師達の大いなる務めを受け継いだ。

未来の魔術師達が過去と現在の魔術師達の大いなる務めを受け継いでくれるであろう。

しかし、過去、現在、未来の魔術師達の大いなる務めを受け継ぎ完了させるものは何ものであろうか？

１２

大いなる務め

常に富が有る事、常に若い事、肉体が死なない事は、常に、錬金術師への大衆の夢想であった。

常に豊かである事、常に若い事、心が死なない事は、常に、錬金術師の夢であった。

鉛、水銀といった卑金属を金に変える事、万能薬と命の若返り薬エリクサーを所有する事は、錬金術師の願望を成就するために、錬金術師の夢を実現するために、

全ての魔術の神秘の様に、「大いなる務め」の秘密は、宗教的な意味、哲学的な意味、自然科学的な意味という三重の意味を持っている。

全ての魔術の神秘は宗教的な意味、哲学的な意味、自然科学的な意味という三重の意味を持っている。

「大いなる務め」は宗教的な意味、哲学的な意味、自然科学的な意味という三重の意味を持っている。

哲学に通じる、宗教における金は絶対の無上の論理である。

哲学における金は真理である。

目に見える自然における金は太陽である。

地下の鉱物の世界における金は完全な純金である。

前記から、「大いなる務め」の探求は「絶対の探求」と呼ばれている。

「大作業」は「太陽の作業」と呼ばれている。

全ての知の師達は、宗教的な段階と哲学の段階で万能薬と賢者の石に対応しているものを全て発見するまで、物質的な結果に到達するのは不可能である、と認めている。

全ての知の師達は、物質的な結果に到達するには、宗教的な段階と哲学の段階における万能薬と賢者の石を発見する必要が有る、と認めている。

全ての知の師達は、宗教的な段階と哲学の段階における万能薬と賢者の石を発見すれば、作業は簡単、軽快、安価である、と断言している。

宗教的な段階と哲学の段階における万能薬と賢者の石を発見しないと、鞴(ふいご)を吹く者、作業者は、命と運を無駄に消耗する。

魂にとっての、万能薬とは無上の論理と絶対正義である。

知にとっての、万能薬とは数学的な実践的な真理である。

体にとっての、万能薬とは第 5 元素エーテルである。

第 5 元素エーテルとは光と金の結合である。

無上の、自由意思といった神だけの領域での、「大いなる務め」の「第一質料」とは熱意と自発性である。

仲介する、概念の領域での、「大いなる務め」の「第一質料」とは知と勤勉である。

形の領域での、「大いなる務め」の「第一質料」とは労苦である。

自然科学での、わざにおける、「大いなる務め」の「第一質料」とは硫黄、水銀、塩である。

硫黄、水銀、塩を(三重に)交互に揮発と固定して賢者の Azoth に組み合わせる(と、賢者の石に成る)。

四大元素で、硫黄に対応するものは火である。

四大元素で、水銀に対応するものは水と風である。

四大元素で、塩に対応するものは土である。

全ての錬金術師は大作業について例え話で書いてきた。

全ての錬金術師が大作業について例え話で書いてきたのは正しかった。

大衆には危険である大作業を大衆が思いとどまる様に、全ての錬金術師は大作業について例え話で書いてきた。

「上のものは下のものから類推可能である。下のものは上のものから類推可能である」というヘルメスの唯一の考えが統治する類推可能な 3 つの世界全てを啓示して、達道者が全ての錬金術師の精髄を理解できる様に、全ての錬金術師は大作業について例え話で書いてきた。

金と銀は、太陽と月、王と女王である。

硫黄は飛んでいるワシである。

水銀は、立方体の上に座っている、火の王冠をかぶっている、あごひげが有る有翼の両性具有者である。

物質、塩は有翼の竜である。

溶解している複数の金属は色々な色の複数のライオンである。

大作業全体はペリカンとフェニックスである。

ヘルメスのわざは、1 つで同時に、宗教、哲学、自然科学である。

宗教としては、ヘルメスのわざは、古代ペルシャの祭司マギのわざ、全ての時代の秘伝伝授者のわざである。

哲学としては、ヘルメスのわざの複数の原理は、アレクサンドリア学派とピタゴラスの理論に見つかる。

自然科学としては、ヘルメスのわざの複数の原理を、パラケルスス、ニコラ フラメル、ライムンドゥス ルルスから探求する必要が有る。

錬金術の自然科学は、錬金術の宗教と哲学を受け入れ理解した者のためだけの、真実である。

大作業は、王者の意思に到達した達道者のためだけに、成功する。

王者の意思に到達して、達道者は四大元素の王者、地の王者に成る。

なぜなら、「太陽の作業」、「大作業」の大いなる代行者は、ヘルメスの象徴作品「エメラルド板」に記されている「最強の力」であるからである。

代行者は普遍の魔術の力である。

代行者は火の様な霊の力である。

代行者はヘブライ人のオドである。

代行者は星の光である。

著書でエリファス レヴィは星の光という表現を選んだ。

全てのヘルメスの錬金術師が神秘的に隠して話している、秘密の生きている錬金術師の火が存在する。

秘密の生きている錬金術師の火は星の光である。

普遍の精液が存在する。

星の光は普遍の精液である。

ヘルメス、エノクの魔術の子孫、魔術師は星の光の秘密を守った。

ヘルメス、エノクの魔術の子孫、魔術師は、ヘルメスのケーリュケイオンという象徴でのみ、星の光を表現した。

星の光の秘密は大いなるヘルメスの秘密である。

エリファス レヴィが、初めて分かり易く、神秘的な象徴で隠さないで、星の光の秘密を明かした。

達道者が「死んでいる物質」と呼んでいる物は、自然に見つかる、物体である。

「生きている物質」と呼ばれる物は、達道者の知と意思によって同化された磁化された物体である。

「大作業」は化学的な作業を超越した何物かである。

「大作業」は化学的な作業と魔術の結合である。

「大作業」は、神の言葉イエスの力を秘伝伝授された、人に成った神の言葉イエスを実際に創造する事である。

הדאבד

תמידי שבל נקדי א הל הנתיב

והידה השמש המנהינ הוא כי

בל והצודות הבובביס ושאד

לבל ונותו בנלו מהס אהד

אל ממעדבתס הנבדאיס

והצודות המולות

前記のヘブライ語の文は、前記の「大作業」について、エリファス レヴィの発見の元と成った書物が確かに実在している証明として、エリファス レヴィが書き写した物である。

前記のヘブライ語の文は、ヘブライ人のラビのアブラハムの書物からの引用である。

(ラビはヘブライ語で師を意味する。)

ラビのアブラハムはニコラ フラメルの祖師である。

前記のヘブライ語の文は、「形成の書」についてのラビのアブラハムの隠された注釈書に記されている。

「形成の書」はカバラの神の書である。

ラビのアブラハムの注釈書は稀覯本である。

魔術師の磁気の鎖の共鳴の力の導きで、エリファス レヴィはラビのアブラハムの注釈書の写本を発見できた。

ラビのアブラハムの注釈書の写本はルーアンのプロテスタントの教会に１６４３年から保存されている。

後記が、ラビのアブラハムの注釈書の写本の、最初のページには記されている。

「大いなる神と、」、読み取れない名前、「からの贈り物」。

「大いなる務め」における、金の創造は、変化、増殖による物である。

ライムンドゥス ルルスは「金を創造するには、金と水銀を所有している必要が有る」と話している。

ライムンドゥス ルルスは「銀を創造するには、銀と水銀を所有している必要が有る」と話している。

ライムンドゥス ルルスは「水銀によって、私ライムンドゥス ルルスは知っている。水銀によって、純化された浄化された鉱物の精髄は、金の種を金で、銀の種を銀で覆う」と話している。

疑い無く、「水銀によって、私ライムンドゥス ルルスは知っている。水銀によって、純化された浄化された鉱物の精髄は、金の種を金で、銀の種を銀で覆う」という話で、ライムンドゥス ルルスはオド、星の光について話している。

「大作業」で、塩と硫黄は、水銀の調整にのみ役立つ。

特に、水銀と、磁気の代行者を同化、一体化する必要が有る。

「大作業」では星の光を特に水銀と一体化させる必要が有る。

「大作業」では星の光を塩、水銀、硫黄と一体化させる必要が有る。

パラケルスス、ライムンドゥス ルルス、ニコラ フラメルだけが、「大作業」では星の光を塩、水銀、硫黄と一体化させる必要が有る、という神秘を完全に理解していた様である。

バシレウス ヴァレンティヌスとベルナール トレヴィサンは、別の解釈が可能である様に不完全な形で、「大作業」では星の光を塩、水銀、硫黄と一体化させる必要が有る、という神秘を示した。

ハインリッヒ クンラートの著書「永遠の知の円形競技場」の神秘の象徴と神秘の象徴の魔術的なテーマは、大作業についてエリファス レヴィが見つけた最も不思議な物である。

ハインリッヒ クンラートはグノーシス学派の最も学の有る代表である。

ハインリッヒ クンラートの象徴学は、シュネシオスの神秘主義につながっている。

表現的に、象徴的に、ハインリッヒ クンラートはキリスト教徒のふりをしている。

しかし、後記である事が簡単にわかる。

ハインリッヒ クンラートのキリストはアブラクサスである。

アブラクサスは、天文学的な十字の上で、光を放っている五芒星である。

アブラクサスは、「王なる太陽への賛歌」でユリアヌス帝がたたえた、人に成った王である太陽である。

アブラクサスは、神の霊の、光を放っている生きている表れである。

創世記 1 章 2 節でモーセは「神の霊が水の面を覆っていた」と話している。

アブラクサスは、人に成った太陽である。

アブラクサスは、光の王者である。

アブラクサスは、無上の魔術師である。

アブラクサスは、蛇の主である。

アブラクサスは蛇を圧倒している人である。

ハインリッヒ クンラートは、4 重の口伝である、4 つの福音書で、「大いなる務め」の象徴的な鍵を発見した。

ハインリッヒ クンラートの魔術書「永遠の知の円形競技場」の pantacle の１つは、壁に囲まれた砦の中央に建っている賢者の石である。

砦の壁には２０の通れない門が存在する。

２０の門のうち１つの門だけが「大いなる務め」の祭司だけの聖所に通じている。

賢者の石の上空には、有翼の竜の上に置かれた三角形が存在する。

(有翼の竜は物質、塩である。)

「キリスト」という名前が賢者の石の上に記されている。

ハインリッヒ クンラートは「キリストは全自然の象徴的な映像である」と話している。

ハインリッヒ クンラートは「キリストによってのみ、あなたは人、動物、植物、鉱物のための万能薬を獲得できる」と話している。

(アブラクサスは、無上の魔術師である。)

三角形に統治された有翼の竜は、ハインリッヒ クンラートのキリストである。

三角形に統治された有翼の竜は、光と命を統治する知である。

三角形に統治された有翼の竜は、五芒星の秘密である。

三角形に統治された有翼の竜は、口伝の魔術の、無上の、考えの、実践的な、神秘である。

前記で、大いなる、大衆には話す事ができない言葉まで後一歩である。

ラビのアブラハムのカバラの象徴は、知を求める最初の欲求をニコラ フラメルに与えた。

ラビのアブラハムのカバラの象徴は、タロットの２２の鍵である。

バシレウス ヴァレンティヌスの１２の鍵は、タロットの２２の鍵を要約した物である。

太陽と月は、皇帝と女帝である。

水星は、魔術師である。

大いなる秘儀祭司は、達道者、第 5 元素エーテルの抽出者である。

死の女性、審判、恋人、竜または悪魔、隠者または足の不自由な長老といったタロットの絵の主な特徴がタロットとほぼ同じ順序で見つかる。

タロットとは異なる形に成り難い。

なぜなら、タロットは最初の書物である。

タロットは隠された知の要石である。

必ず、タロットはヘルメスの錬金術的な物に成る。

なぜなら、タロットはカバラ的な物、魔術的な物、神知学的な物である。

そのため、タロットの 1 2 番目の鍵と 2 2 番目の鍵を重ね合わせた結合に、「大いなる務め」とタロットの神秘の解答の象徴的な啓示が見つかる。

タロットの 1 2 ページ目には片脚で吊るされた男が描かれている。

絞首台は 3 つの木または 3 本の柱から成り、ヘブライ文字タウ(ת)の形をして

吊るされた男の頭と腕は三角形の形をしている。

吊るされた男の体は十字をのせた逆三角形の形をしている。

全ての達道者は十字をのせた三角形という錬金術の象徴を知っている。

十字をのせた三角形は「大いなる務め」の達成を意味する。

前のページの愚者が数字を持たないので、2 1 の数を持つ場合が有る、タロットの 2 2 ページ目には若々しい女神が描かれている。

女神は薄いヴェールで覆い隠されている。

女神は花飾りの円冠の中で走っている。

牛、人、ワシ、ライオンというカバラの 4 つの獣が 4 つの角で花飾りの円冠を支えている。

イタリアのタロットの２２ページ目には各々の手に１つの杖を持った女神が描かれている。

Besanson タロットの２２ページ目には２つの杖を一方の手に持ち他方の手をももの上に置いている女神が描かれている。

前記の２つのタロットの２２ページ目の絵は磁気の作用の注目すべき象徴である。

前記の２つのタロットの２２ページ目の絵は磁気の作用の両極性における交互性または対立と伝達による同時性を表す。

基本的に、ヘルメスの「大作業」は魔術的な作業である。

「大作業」は無上の魔術の作業である。

なぜなら、「大作業」は知の絶対、意思の絶対を前提とする。

金に光が存在する。

光に金が存在する。

全てのものに光が存在する。

知を持った意思は、光を同化する。

知を持った意思は、光によって、物質的な形の作業を導く。

知を持った意思は、化学を補助的な手段として利用するに過ぎない。

人の意思と知は、自然科学の作業に影響を与える。

人の意思と知の感化力は、自然科学の作業に部分的に依存する。

全ての真剣な錬金術師が知と信心に比例して成功してきたのは事実である。

錬金術師は、金属の溶解、塩との化合、再構成といった現象の中で、思考を実現してきた。

コルネリウス アグリッパは、計り知れない学の有る鍛錬された天才であった。

コルネリウス アグリッパは、純粋な哲学者で疑い深かった。

コルネリウス アグリッパは、金属の分析と統合という限界を超越できなかった。

　エッティラは、混乱した、曖昧な、夢見がちな、忍耐強いカバリストであった。

　エッティラはタロットを誤解して改悪した異常性を錬金術で再現した。

　エッティラのるつぼで金属は驚くべき形に成った。

　パリの好奇心の強い大衆はエッティラの金属の奇形に興奮した。

　エッティラは訪問者がくれたチップしか利益を得られなかった。

　１９世紀の無名の貧しい鞴（ふいご）を吹く者 Louis Cambriel は、狂って死んだ。

　Louis Cambriel は、隣人を本当に治した。

　Louis Cambriel の教区の人々の証言によると、Louis Cambriel は、友人の鍛冶師の命を復活させた。

　Louis Cambriel の金属の作品は驚くべき形、一見、非論理的な形に成った。

　ある日るつぼで、Louis Cambriel は金属が神の形に成るのを見た。

　神の形の金属は、太陽の様に光輝いた。

　神の形の金属は、水晶の様に透明であった。

　神の形の金属は、体が三角形の塊（かたまり）であった。

　Louis Cambriel は、神の形の金属を、無邪気に、多数の小さな梨（なし）に例えた。

　エリファス レヴィの友人の１人は、誤った秘伝を伝授された、学識の有るカバリストである。

　前記の、学識の有るカバリストは、１９世紀に、「大作業」、化学的な作業を行った。

　前記の、学識の有るカバリストは、輝かせ過ぎた錬金炉を見過ぎて、視力が弱くなってしまった。

　前記の、学識の有るカバリストは、金に似ているが金ではないので無価値な新しい金属を作った。

ライムンドゥス ルルス、ニコラ フラメルは本物の金を創造した。

　多分、ハインリッヒ クンラートは本物の金を創造した。

　ライムンドゥス ルルス、ニコラ フラメル、ハインリッヒ クンラートは、秘密を墓まで持って行かなかった。

　ライムンドゥス ルルス、ニコラ フラメル、ハインリッヒ クンラートの秘密は、象徴に封じ込められている。

　ライムンドゥス ルルス、ニコラ フラメル、ハインリッヒ クンラートは、秘密を発見するにあたって、秘密の力を実現するにあたって、水をくみ取った泉を暗示した。

　エリファス レヴィは、ライムンドゥス ルルス、ニコラ フラメル、ハインリッヒ クンラートの秘密を公にした。

１３

降霊術

すでに、大胆に、いくつかの場合において復活は可能であるという考え、というよりは、いくつかの場合において復活は可能であるという確信を話した。

後は、ここでは、いくつかの場合において復活は可能であるという秘密の啓示を完成させる。

いくつかの場合において復活は可能であるという秘密の実践方法をあらわす。

死は無知による幻である。

(魂的に、)死は存在しない。

自然の全てのものは生きている。

全てのものは動かされているので、全てのものは生きている。

全てのものは形の絶え間無い変化を受けているので、全てのものは生きている。

肉体の老いは、(魂の)再生の始まりである。

肉体の老いは、(魂の)命を復活させるための労苦である。

古代人は、大衆が死と呼んでいる神秘を、「若返りの泉」という話で表している。

「若返りの泉」に、肉体の老いた人が入ると、(魂が)幼子に成って出てこれる。

肉体は魂の衣である。

肉体という衣を完全に脱いだ時に、または、肉体という衣が回復不可能なまでに深く裂かれた時に、肉体という衣を捨て去る事に成る。

肉体という衣を再び身につける事はできなく成る。

しかし、何らかの不運で、肉体という衣が、壊されないで、不完全に脱がされた時に、いくつかの場合では、肉体という衣を再び身につける事ができる。

自身の努力で、肉体という衣を再び身につける事ができる場合が有る。

または、自分より強い、他者の強い自発的な意思の助けで、肉体という衣を再び身につける事ができる場合が有る。

死は命の終わりではない。

死は永遠の命の始まりではない。

死は命の継続と変形である。

変形は常に進歩である。

一見、死んだ様に見える人のうち、命への復活に同意する人は少数であろう。

肉体という衣を再び身につける人は少数であろう。

復活は、無上の秘伝伝授の、難しい作業の 1 つである。

復活は絶対に成功するという物ではない。

ほとんど常に、復活は思いがけず成功する物であると考える必要が有る。

死人を復活させるには、魂と死んだ直後の肉体をつなぐ引き寄せる力が有る鎖で、魂と肉体を力強く突然つなぐ必要が有る。

魂と死んだ直後の肉体をつなぐ力が有る鎖を事前に知っている必要が有る。

魂と死んだ直後の肉体をつなぐ力が有る鎖をつかみ取る必要が有る。

瞬間的に抵抗できない様に再び鎖をつなぐために、意思の力を強く発揮する必

前記は、全て難しいが、絶対に不可能ではない。

現在は、大衆は、物質主義の自然科学の先入観で、自然の秩序から復活を除外してしまっている。

そのため、大衆には、多かれ少なかれ、死の兆候が混じった長時間の昏睡状態によって、復活といった種類の全ての現象を説明する傾向が有る。

ヨハネによる福音１１章のラザロが、もし現代の医者の前で復活しても、現代の医者は公認の学会に腐敗が始まり死体の様な匂いの強い奇妙な昏睡状態の記録として報告するだけであろう。

特別な事が起きても名前を付けてレッテルを貼って、問題は終わりである。

大衆の誰かを震え上がらせるつもりは無い。

もし、公の科学を代表する学者と学位に敬意を表するために、復活についての論理を、例外的な重い昏睡状態を治すわざ、と名づける様に要求されれば、譲歩しても良いし、譲歩を妨げる物は無いであろう。

しかし、もし、かつて、世界で復活が起きたならば、復活は可能であるという事は議論の余地が無い。

法によって建てられた団体は法で宗教を擁護している。

宗教は復活が事実であると断言する。

法的に、復活は可能である。

法からの現実逃避は難しい。

自然の法の外で普遍の調和に相反する感化力によって復活が可能であると話す事は、無秩序の闇の死の霊は命の権力者に成れると話す事である。

悪魔崇拝者とは論争するのではなく、悪魔崇拝者を追い越そう。

復活が事実であると証言する物は宗教だけではない。

人は多数の復活の事例を集められる。

ある復活の事実が画家のグルーズの想像力を刺激した。

画家のグルーズは、注目するべき絵画で、ある復活の事実を再現した。

ある不肖の息子が、父の死の床の前で、自分に不都合な父の遺言書を没収し破った。

父は復活し、立ち上がり、息子を呪い、２度目の死に戻った。

何人かの目撃者が、前記に似た、１ ９ 世紀の復活の事実を証言している。

友人が、死んだ直後の人の信頼を裏切って、自分が署名した遺産の証書を破った。

前記の、死人は復活し、死人が選んでいた遺産相続人の権利を守るために生き続けた。

前記の、罪を犯した友人は狂った。

前記の、復活した死人は思いやり深かったので友人に年金を与えた。

ルカによる福音 ８ 章 ５ １ 節で、救い主イエスがヤイロの娘を復活させた時、救い主イエスはペトロ、ヤコブ、使徒ヨハネという ３ 人の信心深い愛弟子だけと共にいた。

マルコによる福音 ５ 章 ４ ０ 節で、イエスは、うるさく大きな声で泣いている、大衆を外に出した。

ルカによる福音 ８ 章 ５ ２ 節で、イエスは、「少女ヤイロの娘は死んだのではなく眠っているだけである」と話した。

ルカによる福音 ８ 章 ５ １ 節のヤイロの娘の父、母、ペトロ、ヤコブ、使徒ヨハネという ３ 人の弟子達だけの前で、イエスは死者を復活させる奇跡を起こした。

ルカによる福音 ８ 章 ５ １ 節のヤイロの娘の父、母、ペトロ、ヤコブ、使徒ヨハネは、確信と願望の完全な魔術の輪である。

ルカによる福音 ８ 章 ５ ４ 節で、イエスは、幼子ヤイロの娘の手を取り、突然、ヤイロの娘を引き上げて、ヤイロの娘に「少女よ。私はあなたに言う。起きなさい！(復活しなさい！)」と叫んだ。

疑い無く、天国へ向かう決心がつかない、ヤイロの娘の魂は、肉体のすぐ近くにいた。

多分、ヤイロの娘の魂は、肉体の若さと美しさを惜しんでいた。

ルカによる福音 ８ 章 ５ ４ 節でイエスが叫んだ声の強い調子に、ヤイロの娘の魂は驚いた。

　ルカによる福音 ８ 章 ５ ４ 節のイエスの叫びを、ひざまずいて希望に揺れ動いていた父と母は聞いていた。

　ルカによる福音 ８ 章 ５ ５ 節で、ヤイロの娘の魂は、肉体に戻った。

　ルカによる福音 ８ 章 ５ ５ 節で、少女ヤイロの娘は目を開け復活し立ち上がった。

　ルカによる福音 ８ 章 ５ ５ 節で、命の機能が吸収と再生の新しい循環を始められる様に、すぐに、主イエスは食べ物を少女に与える様に命令した。

　列王記下 ４ 章 ３ ４ 節から ３ ５ 節で、預言者エリシャは、シュネム、シュナミの娘を復活させた。

　使徒行伝 ２ ０ 章で、使徒パウロはユテコを復活させた。

　使徒行伝 ９ 章で、ペトロはドルカス、タビタを復活させた。

　前記の様に、合理的に、使徒行伝 ９ 章のペトロがドルカス、タビタを復活させた実話が真実である事は疑えない。

　ティアナのアポロニウスも復活の奇跡を起こした様である。

　前記に似た、復活の事実をエリファス レヴィは目撃した。

　しかし、１ ９ 世紀以降の大衆の気質が、復活の事実について、エリファス レヴィを用心深く沈黙させる。

　奇跡を起こした者は、学識の有る大衆の手によって、冷たい対応をされる。

　しかし、大衆は「地球は回っている」事を妨害できない。

　大衆はガリレオが偉人である事を妨害できない。

　(大衆は復活が事実である事を妨害できない。)

　死人を復活させる事は、磁気の催眠術の究極のわざである。

なぜなら、死人を復活させるには、全能に近い共感の力を発揮する必要が有る。

充血、窒息、パニック、発作による死の場合は、死人の復活が可能である。

使徒行伝 ２０ 章で、使徒パウロはユテコを復活させた。

使徒行伝 ２０ 章 ９ 節で、ユテコは ３ 階から落ちた。

疑い無く、ユテコは体の内部が重傷ではなかった。

ユテコは窒息か衝撃か恐怖で死んだ。

前記の場合は、使徒の様に、復活の奇跡を起こすのに必要である、力と確信を自覚した人は、口と口を合わせて息を吹き込み、手と手を合わせて足と足を合わせて温める必要が有る。

無知な大衆が奇跡と呼んでいる復活という物は、エリヤと使徒パウロが、口と口を合わせて息を吹き込み、手と手を合わせて足と足を合わせて温め、ヤハウェかキリストの名前を唱える事である。

復活には、死人の手を取り、急に死人の体を起こして、大きな声で名前を呼ぶだけで、時には十分である。

手を取り急に起こして大きな声で名前を呼ぶ方法は失神を治せる。

言葉に力が有る共感を与えられている時には、雄弁と呼ばれている物を所有している時には、手を取り急に起こして大きな声で名前を呼ぶ方法で、磁気の催眠術師は死人を復活させられる場合が有る。

死人を復活させたい人は、死人に愛されているか、死人に敬われている必要が有る。

死人を復活させたい人は、意思と確信を急激に発して、復活の作業を行う必要が有る。

死という大いなる悲しみを最初に知った衝撃で、死人を復活させられるだけの意思と確信を所有するのは、難しい。

大衆が降霊術と呼んでいる物は、復活と、共通点が無い。

少なくとも、降霊術が、復活の奇跡を起こす魔術の力の応用による、完全に死んだ者の魂との現実での交流である、とは疑わしい。

光の降霊術と、闇の降霊術が存在する。

神への祈りと pantacle と香による降霊術と、呪いと神への冒涜と血による降霊術が存在する。

エリファス レヴィは光の降霊術、神への祈りによる降霊術だけを行った。

闇の降霊術、呪いと神への冒涜と血による降霊術に身を委ねない様に忠告する。

死者の想像が、死者を呼び出した磁化された人にあらわれるのは確かである。

死者が、あの世の神秘を啓示しないのは確かである。

死者は、死者を知っていた生者の記憶に存在する形であらわれる。

疑い無く、死者は、死者が星の光に残した反映によって、あらわれる。

死者は、星の光に残留している反映によって、あらわれる。

死人の霊は質問に答える時に、常に、象徴か心象や印象によって答える。

死人の霊は、空気の振動である声によって話さない。

前記は、十分に理解できる。

なぜなら、どうして霊が話せるであろうか？　霊は空気の振動である声によって話せない！

どのような手段で、霊は、明らかな音を作れるほど、空気を打って震わせられるであろうか？　霊には、明らかな音を作れるほど、空気を打って震わせられる手段が無い！

霊のあらわれで、電気的な接触を経験する。

霊の手が、電気的な接触をもたらす時が有る。

しかし、霊による電気的な接触は、完全に主観的な想像上の物である。

電気的な接触は、想像の力や隠された力の局所的な充満によってのみ起きる。

電気的な接触は、想像の力や星の光の局所的な充満によってのみ起きる。

魔術師は隠された力を星の光と呼んでいる。

前記の証拠に、霊や、霊のふりをしたものが生者に触れた時に、霊や、霊のふりをしたものに生者は触れない。

前記は、霊のあらわれの恐怖の特徴の１つである。

霊が実物に見える時に、生者の手に触感を感じさせないで、生者の手に何物も感じさせないで、霊の体に見える物は生者の手を通過する。

教会史には、後に聖人と呼ばれた、Tremithonte の司教 Spiridion が、ある旅人のために、娘の Irene が預かり隠した金の場所を娘の Irene から聞くために、娘の Irene の霊を呼び出した、と記されている。

スヴェーデンボルグは、死んだ人の霊と呼ばれているものと、習慣的に、星の光の中で交流した。

エリファス レヴィの知人の信頼できる何人かが、親しかった死んだ人が長年、会いに来てくれていた、と話していた。

著名な無神論者 Sylvanus Maréchal の霊が、未亡人と未亡人の友人の１人にあらわれて、生前に隠し引き出しに隠した総額１５００フランについて未亡人に教えた。

前記の話を、家族の古い友人がエリファス レヴィたちに話してくれた。

降霊術には、常に、適切な動機や目的が有るべきである。

適切な動機や目的が無い降霊術は、闇の降霊術である。

適切な動機や目的が無い降霊術は、知が無い降霊術である。

適切な動機や目的が無い降霊術は、健康と理性にとって危険である。

何か見れないかという好奇心だけからの降霊術は、無駄な苦労に成り易い。

超越的な魔術は疑いと幼子の様な無知を許さない。

魔術は疑いと無知を許さない。

降霊術の許される動機や目的は、愛や知である。

降霊術の許される動機や目的は、愛や知の探求である。

知による降霊術より、愛による降霊術に必要な道具は少ない。

全ての点で、知による降霊術より、愛による降霊術は簡単である。

後記は、愛による降霊術の方法である。

第一に、形見、死者の影響が残留していそうな死者の使用品を用心して集める必要が有る。

死者が住んでいた部屋といった死者にゆかりの部屋を用意する必要が有る。

死者の肖像画か写真を、白いヴェールで覆い、死者にゆかりの部屋に置く。

死者が好む様な花で死者の写真を囲む。

花は日々新しい物に変える必要が有る。

死者の誕生日か、死者が「この世」以外の世界で神に祝福されていて幸せにされていても思い出を失うはずが無いと降霊術師が信じられる、死者と降霊術師が幸福だった日といった、死者の記念日を祝う必要が有る。

死者の記念日に降霊術を行う必要が有る。

死者の記念日の降霊術のために、１４日間の用意が必要である。

１４日間、降霊術師が死者に要求する権利が有る愛の証を、降霊術師は他者に与えるのを節制する必要が有る。

１４日間、厳しく性的禁欲を守る必要が有る。

１４日間、引きこもる必要が有る。

１４日間、１日に１回の軽食だけを食べる必要が有る。

１４日間、夜々、同じ時刻に、葬式用のランプか葬式用のロウソクといった小さな明かりを１つだけ用いて、引きこもる必要が有る。

１４日間、夜々、同じ時刻から１時間、明かりを背後に置いて、死者の写真を前に置いて、死者の写真の白いヴェールを取って、沈黙を守って、死者の写真の前に居続けるべきである。

１４日間、夜々、同じ時刻の１時間後、少量の良い香りの香を部屋にたきしめてから、後ずさって部屋の外に出るべきである。

降霊術を行う、死者の記念日の朝、祭日であるかの様に、降霊術師は身を飾るべきである。

死者の記念日の朝、最初の挨拶を他者にしない。

死者の記念日の朝、最初の挨拶は死者にする。

死者の記念日の朝、パン、赤ワイン、根菜か果物という食事を１回だけ食べる。

死者の記念日の朝食では、テーブル クロスの色は白であるべきである。

死者の記念日の朝食では、降霊術師と死者の、２人分の食器を並べるべきである。

死者の記念日の朝食では、１人分のパンを裂いて、死者のために、とっておくべきである。

死者の記念日の朝食では、少量のワインを死者のための杯に入れるべきである。

死者の記念日の朝、降霊術を行う死者にゆかりの部屋で、独りで、白いヴェールで覆った死者の写真の前で、食事を食べる必要が有る。

死者の記念日の朝食後、死者のパンと死者の赤ワインの杯以外の全ての物を片づけるべきである。

死者のパンと死者の赤ワインの杯を、死者の写真の前に置くべきである。

死者の記念日の夜、１４日間の夜々部屋にこもっていた時刻と同じ時刻に、沈黙を守って部屋に行く必要が有る。

糸杉の木に点火する。

死者の名前を呼びながら、７回、香を糸杉の木の火の上に投げ入れる。

ランプを消す。

糸杉の木の火が消えるまで放っておく。

死者の記念日に、写真の白いヴェールを取るなかれ。

糸杉の木の火が消えた時に、熱いうちに、香を糸杉の木の灰の上に置く。

死者が神に抱いていたと思われる概念を思って、死者が敬礼していた宗教の形式で、神に祈る。

神に祈っている間、降霊術師は死者に成りきる必要が有る。

死者が話していた様に、降霊術師は話す必要が有る。

ある意味、死者が信じていた様に、降霊術師は信じる必要が有る。

神に祈った後、１５分間、沈黙を守る。

死者が存在しているかの様に、降霊術師は死者に話す必要が有る。

愛を籠めて、確信を持って、死者があらわれる様に、死者に祈る。

前記の、死者への祈りを、両手で顔を覆って、精神的に、くり返す。

３回、大きな声で死者の名前を呼ぶ。

ひざまずく。

何分間か、両目を閉じるか手で覆う。

３回、甘く優しい声で死者の名前を呼ぶ。

ゆっくり両目を開ける。

仮に、霊があらわれなかったら、来年以降、降霊術の儀式をくり返す必要が有る。

もし必要であれば、３年後まで年々降霊術の儀式をくり返す必要が有る。

３年後まで年々降霊術の儀式をくり返した時、霊があらわれるであろう事は確かである。

年々くり返すほど、より実物の様にはっきりと霊はあらわれるであろう。

愛による降霊術より、知と理解による降霊術は儀式が多い。

有名な死人についての、知による降霊術の場合は、２１日間、死人の人生と著作について深く考える必要が有る。

死人の霊があらわれる時の姿について考えをまとめる。

死人の精神と精神的に知的に交流する。

死人の答えを想像する。

死人の肖像画か写真を携帯する。

または、少なくとも、死人の名前を身につける。

１４日間、菜食を続ける。

１４日後から７日間、断食する。

魔術の小部屋を建てる必要が有る。

魔術の小部屋については、「高等魔術の教理」の１３章で話した。

魔術の小部屋を常に暗くしておく必要が有る。

しかし、日中、降霊術を行う場合は、降霊術を行う時に太陽が輝く方向の壁に、小さな開閉できる穴を開けても良い。

壁の穴の手前に、三角形のプリズムを置く。

三角形のプリズムの手前に、水で満たした、中空の水晶球を置く。

夜間、降霊術を行う場合は、ひとすじの光線だけが出て祭壇の香の煙にあたる様に、魔術のランプを置く。

魔術のランプを用意する目的は、実体的な外見の要素を魔術の代行者に与える事である。

魔術のランプの目的は、可能な限り、想像力の緊張を和らげる事である。

想像力の緊張が、夢、完全な幻にまで高まると、危険である。

前記から、後記は、理解し易いであろう。

プリズムで分散した太陽光線や、魔術のランプの光線は、渦巻く変則的な煙にあたって色々な色で彩り、完全な映像ではなく、不完全な映像を創造する。

小さな炉の上に載せた小さな器を、清めた火をつけて、魔術の小部屋の中央に置くべきである。

小さな炉の上に載せた小さな器のすぐ近くに、香の祭壇を置くべきである。

降霊術師は、東を向いて、神に祈る必要が有る。

西を向いて、人の霊を呼び出す必要が有る。

降霊術師は、１ 人か ３ 人である必要が有る。

降霊術師は厳しく沈黙を守る必要が有る。

降霊術師は、曜日に対応した衣をまとう必要が有る。

７ 章で、曜日に対応した衣について話した。

降霊術師は、バーベインと金の王冠をかぶる必要が有る。

降霊術師は、降霊術の前に、身を清めるべきである。

降霊術師の下着は、損失が無い傷が無い新品の清潔な下着である必要が有る。

知による降霊術の儀式を、呼び出したい霊の精神に合った、もし霊が生きていたら霊が好み正しいと認める、神への祈りで、始めるべきである。

例えば、ブリジッドが好む様な神への祈りを唱えて、ヴォルテールの霊を呼び出すのは不可能である。

古代の大いなる人には、哲学者クレアンテスかオルフェウスの神をたたえる詩を、ピタゴラスの「黄金詩篇」と共に、神への祈りに用いると良いかもしれない。

エリファス レヴィがティアナのアポロニウスの霊を呼び出した時は、Patricius の魔術の哲学を儀式に用いた。

Patricius の魔術の哲学には、ゾロアスターの考えが入っている。

Patricius の魔術の哲学には、ヘルメス トリスメギストスの文書が含まれている。

エリファス レヴィがティアナのアポロニウスの霊を呼び出した時は、ギリシャ語で、大きな声で、ティアナのアポロニウスの「ヌクテメロン」を唱えた。

後記の祈りを、「ヌクテメロン」の後に、エリファス レヴィがティアナのアポロニウスの霊を呼び出した時は、唱えた。

全てのものの父である神と、死者の導き手である、三重に大いなる者であるヘルメスよ、共にいてください。

Hephaistus の息子、医学の守護神、アスクレピオスと、力の主である、オシリスよ、共にいてください。

哲学の守護神、Arnebascenis と、再び、詩を統治する、Imuthe の息子、アスクレピオスよ(、共にいてください)……。

アポロニウス！　アポロニウス！　アポロニウス！

あなたアポロニウスは、Oromasdes の息子、ゾロアスターの魔術を教える。

前記は、神への祈りである。

後記の、カバラ的なソロモンの祈りを、ヘブライ語か、霊が知っている言語で、ユダヤ教、キリスト教を敬礼していた霊を呼び出す降霊術に、用いるべきである。

王国の力よ、私の左足の下と右手の中に存在する様に！

栄光と永遠性よ、私を両肩で連れて、私を勝利の経路に導いてください！

思いやりと正義よ、私の命の、つり合いと輝きである様に！

(自発的な)知力と知慮よ、王冠を私に与えてください！

王国の霊達よ、私を神殿の建物全体を支えている 2 つの柱の間に導いてください！

勝利と永遠性の天使達よ、私を基礎の立方体の石の上で強めてください！

おおっ、GEDULAEL！

おおっ、GEBURAEL！

おおっ、美！

BINAEL よ、私の愛である様に！

HOCHMAEL の霊よ、私の光である様に！

存在したい様に存在する様に、おおっ、KETHERIEL よ！

Ischim よ、シャダイの名前において私を助けてください！

智天使ケルビムよ、主の名前において私の力である様に！

Beni-Elohim よ、息子であるイエスの名前において、軍団である神の力によって、私の兄弟である様に！

神よ、テトラ グラマトンであるヤハウェの名前において私のために戦ってください！

天使よ、イョッド ヘー ヴァウ ヘーであるヤハウェの名前において私を守ってください！

熾天使セラフィムよ、ELVOH の名前において私の愛を清めてください！

Hasmalimよ、神とShechinahの輝きで私を照らしてください！

Aralimよ、動いてください！

座天使オファニムよ、回転し輝いてください！

(オファニムはヘブライ語で車輪を意味する。)

Hajoth a Kadoshよ、叫び、話し、叫び、叫んでください！

(Kadoshはヘブライ語でHolyを意味する。)

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、シャダイ、主、イョッド エヴァ、EIEAZEREIE！

(ヨハネの黙示録 4 章 8 節「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、」)

ヤハウェをたたえよ、ヤハウェをたたえよ、ヤハウェをたたえよ。

である様に。

である様に。

後記は、特に、降霊術で、覚えておくべきである。

サタン、ベルゼブブ、アドラメレクといった名前は、霊の個体ではなく、汚れた霊の軍団を指す。

サタンという名前は汚れた霊の軍団を指す。

ベルゼブブという名前は汚れた霊の軍団を指す。

マルコによる福音 5 章で、闇の霊、汚れた霊は「我々の名前は軍団である。なぜなら、多数である」と話している。

多数は法を構成する。

複数は法を構成する。

地獄の進歩は、本物の進歩とは反対方向に行われる。

地獄の進歩は、退化である。

悪霊の進歩で最も進んだ人は、最も退化した人である。

悪霊の進歩で最も進んだ人は、知性が最低の人である。

悪霊の進歩で最も進んだ人は、最も弱い人である。

悪人の霊は向上を希望し向上していると信じているが、悪に致命的な法は、悪人の霊を下に追い払う。

嘘で、自分を軍団長と呼んでいる悪人の霊は、最も無力である。

嘘で、自分を軍団長と呼んでいる悪人の霊は、最も軽蔑される人である。

悪霊の軍団について言うと、悪霊の軍団は、未知の、目に見えない、理解不可能な、気まぐれな、思いやりが無い、法を説明しない、理解に失敗した悪霊を打つために常に腕を伸ばしている軍団長の前で震え上がっている。

悪霊の軍団は、軍団長というよりは幻影に、バアル、ユピテルといった畏敬するべき神の名前を与えている。

バアル、ユピテルといった畏敬するべき神の名前を、地獄で口（くち）にすると、神への冒涜に成る。

　しかし、悪霊の軍団長は、悪霊が頑固な邪悪さで形を崩した、神の影、神の残骸に過ぎない。

　悪霊の軍団長は、悪霊が抱いている、神の影、神の残骸に過ぎない。

　悪霊の軍団長は存在しない。

　悪霊の軍団長は、悪霊の想像に残っている、神の影、神の残骸に過ぎない。

　悪霊の軍団長は、正義の報復、真実による良心の呵責の様なものである。

　悲しそうな表情か、いらだっている怒っている表情で、呼び出された光の霊があらわれた時は、降霊術師は光の霊に精神的に、つぐなう必要が有る。

　光の霊の気分を害している物を捨てる様に心がける必要が有る。

　降霊術を行った魔術の小部屋を出る前に、霊に去ってもらう必要が有る。

　後記を、霊に去ってもらう時に唱える。

「平和が、あなたと共にある様に！

私は、あなたを苦しめるつもりは無い。

あなたも私を苦しめるなかれ。

私は自身の、あなたを苦しめる様な物を改善するために努力するつもりである。

私は、あなたと共に、あなたのために、祈るし、これからも祈るつもりである。

あなたも、私と共に、私のために、祈ってください。

私とあなたが共に起きる復活する日を期待しながら、あなたの大いなる眠りに戻ってください。

安らかに！

さようなら！」

本章の終わりで、好奇心の強い人のために、黒魔術の降霊術の詳細をいくつか記す必要が有る。

いくつかの古書で、テッサリアの魔女とローマの魔女カニディアの降霊術の実践方法が記されている。

穴を掘る。

穴の口の近くで、黒い羊の喉（のど）を切る。

血を飲むために存在している充満していると思われるpsyllseとラルヴァを魔術の剣で追い払う。

三重のヘカテーと冥界の神々を呼び出すために祈る。

3 回、呼び出したい地獄をさまよっていると思われる霊の名前を呼ぶ。

中世の黒魔術の降霊術師は墓を暴いた。

中世の降霊術師は、(墓を暴いて、)トリカブト、ベラドンナ、毒きのこを死体の脂肪と血に混ぜて、ほれ薬や塗り薬を作った。

中世の降霊術師は、人骨や教会から盗んだ十字架上のイエス像をくべた火で、前記の憎悪するべき混合物を煮て、すくい取った。

中世の降霊術師は、乾燥させたヒキガエルの粉や、「聖体」のパンの灰を、ほれ薬や塗り薬に加えた。

中世の降霊術師は、この地獄の塗り薬をこめかみ、手、胸に塗って地獄の諸pantacleを描いて、絞首台の下か、見捨てられた墓地の中で、死者の霊を呼び出した。

中世の降霊術師の、わめき声が遠くから聞こえて、人里に夜遅くに到着した旅人は、霊の軍団、霊の集団が大地から復活するのを想像した。

中世の降霊術師の目には、木々自体が、恐ろしい形を取るように見えた。

木々の間で「火の玉」が微かに光った。

沼地のカエルの鳴き声が、サバトの神秘的な言葉を模倣しているように思われた。

前記は、幻覚の磁気による物、狂気の感染による物であった。

黒魔術のやり方の目的とは、理性を乱して、大罪を犯すように大胆にさせる自制心の無い興奮を引き起こす事であった。

かつて、全ての場所で、関係当局が押収して焚書した黒魔術の魔術書は、確かに、有害な書物なのである。

ほぼ全ての黒魔術の魔術書は、実現するための手段として、神を冒涜する行為、殺人、盗みを犯すように指示したり暗示したりしているのである。

このため、「大奥義書」や、「大奥義書」の近代版「赤い竜」には、「死の混合物、または、賢者の石」という名前の処方せんの記述が有り、硝酸、銅、ヒ素、緑青を煮た物である。

(「大奥義書」や「赤い竜」には、)次のような、黒魔術の降霊術のやり方(の記述)も有ります。

墓地の土を爪で掘り起こし、2 本の人骨を引きずり出し、2 本の人骨を胸の上に十字状に配置します。

クリスマス イブの真夜中のミサに出席し、パンとワインを神聖化する瞬間に教会から飛び出し、「死者が墓から復活します様に！」と叫びます。

そうしてから、墓地へ戻り、棺の最も近くの土を一掴み取り、叫び声に驚いている教会のドアまで走って戻り、2 本の人骨を十字状に配置し、「死者が墓から復活します様に！」と再び叫びます。

もし、捕らえられて精神病院に閉じ込められるのを免れたら、ゆっくりと撤退し、広い道を道なりに歩いてか、壁をよじ登って、直線で ４５００ 歩を数える。

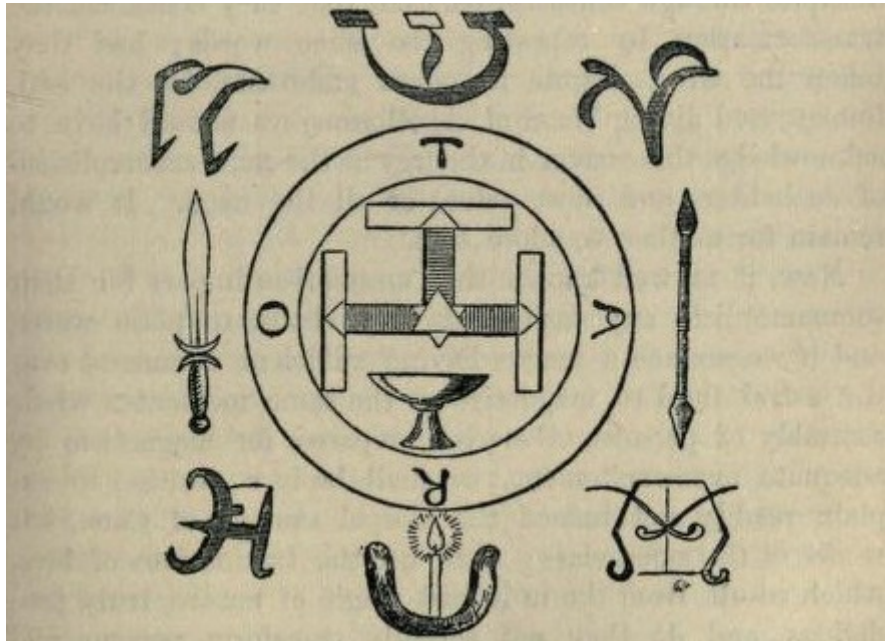
前記の間隔、距離を横断したら、地面に横に成って、まるで棺の中にいるかのように自身を配置し、陰気な声色で「死者が墓から復活します様に！」と、くり返し叫びます。

最後に、現れて欲しいと望む(死んだ)人物(の名前)を ３ 回、呼びます。

疑い無く、前記のような黒魔術の降霊術に身を委ねてしまうほど十分に狂っていて邪悪な全ての人は、全てのキマイラのような妄想や、全ての幻覚に陥りやすい。

このため、「大奥義書」の黒魔術の降霊術のやり方は最も効果的ではあるが、読者は「大奥義書」の黒魔術の降霊術のやり方に頼らないように、私エリファス レヴィは忠告する。

１４

変形

すでに話した様に、アウグスティヌスはアプレイウスがロバに変身してから人の姿に戻ったか推測した。

アウグスティヌスは女神キルケがオデュッセウスの戦友を「豚の群れ」に変えたという話に関心が有った。

大衆の考えでは、変形は魔術の精髄である。

前記について、俗世の女王である世論の追従者である、大衆は、完全に正しいわけではないし、完全に誤っているわけでもない。

魔術は実際に物の性質を変える。

というよりは、変形を望む達道者の意思力と魅力で、魔術は思い通りに物の外見を変えられる。

言葉は物の形を創造する。

　誤りが無い絶対的な人は、新しい名前を既知の物に与える事で、既知の物を名前が表す物に本当に変えられる。

　言葉と確信の究極のわざは、物の外見は変えないで、物を本当に変える事である。

　仮に、ティアナのアポロニウスが、一杯の赤ワインを弟子達に与えて、「これ(、一杯の赤ワイン)は私の血である。赤ワインが私の血である様に、あなた達は、この杯から飲む様に。私の命をあなた達の心の中に永遠に存在させるために」と話せば、
仮に、彼の知の子孫が、何世紀も通じて、彼の言葉をくり返す事によって、赤ワインを彼の血に変えられると、信じれば、
仮に、彼の知の子孫が、赤ワインを、赤ワインの香りと味がするにもかかわらず、彼の本物の、人としての、生きている血として、飲めば、
人は、祖師を、奇跡によって、誘惑者のうち最も成就した者として、魔術師のうち最も力が有る者として、認める必要が有るであろう。

　人は、祖師を敬礼するであろう。

　(マタイによる福音２６章２７節から２８節「イエスは一杯の赤ワインを弟子達に与えて『皆、一杯の赤ワインから飲みなさい。なぜなら、赤ワインは私イエスの血である』と話した」)

　催眠術師が、被催眠者にとっての、水の味を変えられる事は良く知られている。

　もし、ある魔術師が、同時に瞬時に、大衆全体を磁化できるほど星の流体に命令できると仮定すれば、
さもなければ、極度の興奮によって、磁気の催眠術の用意ができていると仮定すれば、
ヨハネによる福音２章のカナでイエスが水を赤ワインに変えた奇跡ではないが、似た奇跡を説明できるであろう。

自然の普遍の魔術がもたらす、愛の魅力は、驚くべき物ではないか？　自然の普遍の魔術がもたらす、愛の魅力は、驚くべき物である！

愛の魅力は人と物を実際に変えるのではないか？　愛の魅力は人と物を実際に変える！

愛は、世界を変える誘惑の夢である。

愛は、世界を変える誘惑の理想である。

愛は、全てのものを音楽と香に変える。

愛は、全てのものを陶酔と幸せに変える。

最愛の存在は、美しく、良く、高尚に、誤りが無い様に、光を放つ様に、健康と幸せを放つ様に、愛している人には見える。

愛着の夢が終わった時に、人は雲から堕ちた様に思う。

愛らしいメリュジーヌに取って代わった、恥知らずな魔女に愛想が尽きる。

アキレスやネーレウスであると誤解させたテルシテスに愛想が尽きる。

愛されている者は、愛してくれている人に、何でも信じさせる事ができないか？　愛されている者は、愛してくれている人に、何でも信じさせる事ができる！

愛されていない者は、愛してくれない人に、どんな論理や正義を浸透させる事ができるであろうか？　愛されていない者は、愛してくれない人に、どんな論理や正義も浸透させる事ができない！

愛は神の聖霊の魔術師である。

愛着の終わりは悪人の霊の魔術師である。

愛は地上に天国の幻を創造する。

愛着の終わりは地獄の幻を実現する。

愛着の終わりの憎悪は、愛の熱狂の様に、非論理的である。

なぜなら、愛着の終わりの憎悪は、熱狂的である。

愛着の終わりの憎悪は、自身に致命的な影響下に有る事である。

前記から、賢者は愛着、肉欲を禁止している。

賢者は、愛着、肉欲が理性の敵であると、宣言する。

いけない行為をする人のうち、最も魅惑的な人である、愛着する人を、賢者のうち疑い無く理解しないで非難する賢者をうらやむべきであろうか、あわれむべきであろうか？

愛着が理性の敵であると話す賢者は、人を愛した事が無いか、人を愛する事を最早やめた人である、と言える。

人は、外に見える物を、自分の心の中に、自分の言葉で創造する。

自分が幸せであると信じると、幸せであると感じる。

自分が尊重している物は、尊重の大きさに比例して、貴重であると感じる。

前記の意味で、魔術は物の性質を変える、と言える。

オウィディウスの「変身物語」は、アプレイウスの「黄金のロバ」の様に、真理の例え話である。

生物の命は、進歩的な変形である。

生物の形を、決めたり、復活させたり、長く保持したり、すぐに破壊できる。

もし、輪廻転生の考えが正しいのであれば、キルケが象徴である、放蕩は、実際に物質的に、人を豚の群れに変える、と言えるかもしれない。

なぜなら、輪廻転生という仮説によれば、悪徳への報いは、悪徳に対応する動物の形に再び堕落する事ではないか？

輪廻転生は、誤解されている。

輪廻転生は、一理ある。

動物の形は、共鳴的な印象を、人の、星の体に伝える。

習慣の力によって、星の体と気質は作用し合う。

理解力の有る受容的な温和な人は、羊の自発的ではない人相や振る舞いを身につける。

忘我状態の学の有るスヴェーデンボルグが何度も経験した様に、催眠状態の人は、羊の人相の人ではなく、羊になった人を見る場合が有る。

前記の神秘を表しているのは、預言者ダニエルのカバラの書、ダニエル書 4 章 3 3 節で、ネブカドネザル 2 世が獣に変身した例え話である。

魔術の例え話に共通の運命の様に、ダニエル書 4 章 3 3 節のネブカドネザル 2 世が獣に変身した例え話は、史実であると誤解された。

前記の様に、実際に、人を動物に変える事ができる。

動物を人に変える事ができる。

植物を変える事ができる。

植物の力を変える事ができる。

植物の薬効を変える事ができる。

概念的な性質を鉱物に与える事ができる。

前記の、全ては意思の問題である。

人は思い通りに自身を目に見えない様にする事ができる。

前記は、ギュゲスの指輪の神秘を明らかにする助けに成る。

第一に、非論理的である、原因の無い結果が有る、または、原因と相反する結果が有るという仮説を全て自身の精神から取り除こう。

後記が、目に見えなく成るのに必要な 3 つの方法である。

光と自分の肉体の間に何らかの不透明な障害物が存在するか、自分の肉体と他人の肉眼の間に何らかの不透明な障害物が存在するか、他人が視覚を利用できない様に、他人の肉眼を酩酊させる。

他人が視覚を利用できない様に、他人の肉眼を酩酊させる方法だけが、魔術的である。

夢中で良く見ないで、ぼんやりと見ていて、目の前の物にぶつかる、という事が無いか？　夢中で良く見ないで、ぼんやりと見ていて、目の前の物にぶつかる、という事が有る！

マタイによる福音 １３ 章 １３ 節で大いなる祖イエスは「(私イエスが例え話で話すのは、)彼ら(大衆)が、見ても、見えない様にするためである(。見聞きしても、大衆は理解しない)」と話している。

ヨハネによる福音 ８ 章 ５９ 節の実話で、神殿で石を投げられ様とした時に、大いなる主イエスは自分を見えなくして、神殿の外に出た。

目に見えなく成る指輪についての大衆の魔術書の詐欺について、ここでは、くり返す必要が無い。

目に見えなく成るギュゲスの指輪は、固体の水銀(化合物)で指輪を作って、タゲリという鳥の巣で見つける必要が有る小石で(指輪を)装飾し、指輪と同じ金属(である固体の水銀化合物)による箱で保管する、様にと、ある人は命じている。

目に見えなく成るギュゲスの指輪は、怒っているハイエナの頭から取った毛で作る必要が有る、と「Little Albert」の著者は命じている。

前記は、ネズミが猫ローラの首につけようと考えたが実現が不可能であったという寓話「ネズミの相談」を連想させる。

(前記は実現が不可能である嘘の話である。)

ギュゲスの指輪について真剣に記している書物の著者は、イアンブリコス、ポルピュリオス、アバノのピエトロだけである。

イアンブリコス、ポルピュリオス、アバノのピエトロの、ギュゲスの指輪についての話は明らかに例え話である。

ギュゲスの指輪についての象徴や、ギュゲスの指輪についての記述から作られる物は、イアンブリコス、ポルピュリオス、アバノのピエトロが、本当は、大いなる魔術の秘密について話している事を証明している。

ギュゲスの指輪の、ある象徴は、不滅の存在における、調和の普遍の動き、つり合わされた普遍の動きを描いている。

ギュゲスの指輪の、別の象徴は、7 つの金属の混合物で形成するべきである。

後記で、ギュゲスの指輪の、7 つの金属の混合物で形成するべきである、別の象徴を詳細に記す必要が有る。

ギュゲスの指輪には、二重の宝石の受け座と、トパーズとエメラルドという 2 種類の宝石群が有る。

太陽の象徴と共に、トパーズを星座の星の様にちりばめる。

月の象徴と共に、エメラルドを星座の星の様にちりばめる。

太陽と月以外の 5 つの惑星の、隠された文字を指輪の内側に記す。

太陽と月以外の 5 つの惑星の、知られている、惑星記号を指輪の外側に記す。

太陽と月以外の 5 つの惑星の、隠された文字と惑星記号を、2 回くり返して、相互にカバラ的に対に成る様に、右に 5 つ左に 5 つ記す。

太陽の象徴と月の象徴は、7 惑星の 4 つの知を要約している。

前記の、ギュゲスの指輪の、7 つの金属の混合物で形成するべきである、象徴の形は、魔術の考えの全ての神秘を表す pantacle である。

後記は、ギュゲスの指輪の隠された意味である。

全能のうち、目を魅了する事は、実証を与えるのが難しい物の 1 つである。

目を魅了するといった、全能を発揮するには、全ての知を所有する必要が有るし、全ての知の利用方法を知る必要が有る。

魅了とは、磁気によって満たす事である。

魅了とは、星の光によって満たす事である。

魔術師が、自分を見る事を大衆の全てに心の中で禁止すると、魔術師は自分を見えなくさせる。

前記の様にして、魔術師は、守られている門を通り、魔術で呆然とさせた看守の前で、牢獄を去る。

前記の時に、看守は奇妙な呆然自失を経験する。

看守は、夢の中で魔術師を見たかの様に思い出すが、魔術師が去った後に成る

後記の、力に、自分を見えなくする秘密は有る。

光が肉眼に到達しても魂の目である想像力を刺激しない様にする、注意をそらす力、または、注意を麻痺させる力に、自分を見えなくする秘密は有る。

自分を見えなくする力を発揮するには、突然の力強い行動に慣れた意思、精神の大いなる落ち着き、大衆の中で大いなる陽動を起こすわざ、を保有する必要が有る。

例えば、殺そうとする人々に追われている人は、突然、脇道に入り(、服装などを変えて)、すぐに道を戻り、完全に落ち着いて、追っている人々に向かって前進すれば、または、追っている人々に混ざれば、自分を見えなくできるであろう。

１７９３年に、街灯の柱に吊るそうとする大衆に追われた、ある祭司は、脇道に逃げ(、服装などを変えて)、かがんで歩き、道の隅に寄りかかって、呆然としているふりをした。

大衆は祭司の横を通り過ぎた。

大衆は祭司を見なかった、というよりは、大衆は祭司だと気づかなかった。

大衆は目に入った人が祭司だとは思いもしなかった！

見られたい人は必ず注目される。

注目されたくない人は自身を見えなくする。

本物のギュゲスの指輪は、意思である。

意思は、変身させる魔術の杖である。

意思を正確な強い明確な言葉にすると、意思は魔術的な言葉を創造する。

魔術の全能の言葉は、形を創造する力を表す言葉である。

テトラ グラマトン、ヤハウェは、魔術の無上の言葉であり、「である様に」を意味する。

もしヤハウェという言葉を変身、変形の魔術に完全な知によって応用すれば、事実と常識にかかわらず、ヤハウェという言葉は全てのものを変えられる。

キリスト教徒のミサの「これは、～である」を意味する「hoc est ～」という言葉はテトラ グラマトン、ヤハウェという言葉の言い換え、応用である。

ヤハウェや「hoc est ～」という簡潔な言葉は、全ての変身、変形の魔術に対する、完全な、目に見えない、驚くべき、明確な断言である。

公会議は、驚異を表現するために、「変容」という言葉より強い言葉、化体説の「化体（かたい）」という言葉が必要であると判断した。

全てのカバリストは、ヘブライ語の言葉のヤハウェ、AGLA、エヘイエ、アーメンが変身、変形の魔術の鍵であると考えた。

完全に理解して話した場合は、ラテン語の言葉の「存在する」を意味する「est」、「である様に」を意味する「sit」、「であれ」を意味する「esto」、「成れ」や「存在する様に成れ」を意味する「fiat」は、ヘブライ語の言葉のヤハウェ、AGLA、エヘイエ、アーメンと同じ力が有る。

後記の話を、ハンガリー王女エルジェーベトの伝説で、M. de Montalembert は真剣に記している。

ある日、ハンガリー王女エルジェーベトは、(聖書でイエスは善行を隠す様に話しているので、)善行を夫のテューリンゲン方伯ルートヴィヒ 4 世に隠そうとして、貧しい人にあげようと運んでいたパンをエプロンで隠して、夫にバラを運んでいると話し

夫がエプロンを取ってみると、ハンガリー王女エルジェーベトの話した事は真実であるとわかった。

　パンはバラに変わっていた。

　前記の、ハンガリー王女エルジェーベトがパンをバラに変えた話は、優美な魔術の象徴的な話である。

　前記の、ハンガリー王女エルジェーベトがパンをバラに変えた話は、本物の賢者は嘘をつけない事を意味する。

　前記の、ハンガリー王女エルジェーベトがパンをバラに変えた話は、知の言葉が物の形を変える事を意味する。

　前記の、ハンガリー王女エルジェーベトがパンをバラに変えた話は、形とは無関係に、知の言葉が物を変える事を意味する。

　例えば、ハンガリー王女エルジェーベトの様に善良で堅固なキリスト教徒であり、聖餐のパンを見た時に祭壇の上に本当の人体で救い主イエスが実際に存在すると信じていた、夫テューリンゲン方伯ルートヴィヒ 4 世が、なぜ、パンがあらわれた時にエプロンの中にバラが実際に存在すると信じなかったわけがあるであろうか？

夫テューリンゲン方伯ルートヴィヒ 4 世はエプロンの中にバラが実際に存在すると信じた！

　疑い無く、ハンガリー王女エルジェーベトは夫にパンを見せた。

　しかし、ハンガリー王女エルジェーベトがエプロンに隠された物はバラであると話したため、夫はハンガリー王女エルジェーベトが小さな嘘もつく事ができないと信じていたので、夫はバラを見たと思い込んだ。

　夫はパンをバラであると錯覚した。

　夫がパンをバラであると錯覚した事が、ハンガリー王女エルジェーベトがパンをバラに変えた奇跡の真相である。

ある伝説によれば、エリファス レヴィが名前を忘れてしまった、ある「神の様な者」は、四旬節の日か金曜に食べ物が見つからず、鶏に魚に成る様に命令すると、鶏は魚に成った。

前記の例え話は説明が不要である。

前記の例え話は後記の Tremithonte の司教 Spiridion の美談を思い出させる。

Tremithonte の司教 Spiridion は、１３章で話した、娘 Irene の魂を呼び出した人である。

ある「聖金曜日」に、旅人が後に聖人と呼ばれた司教 Spiridion の家に来た。

その頃、司教 Spiridion は真剣にキリスト教を実践していたため貧しかった。

キリスト教徒として断食していた、司教 Spiridion は、「復活祭」のために、いくつかの塩漬けのベーコンが家に有るだけだった。

旅人は、疲れに圧倒され、空腹で飢えていた。

Spiridion は旅人に肉であるベーコンを与えた。

(旅人が気兼ねしない様に)思いやりで Spiridion は旅人と共に肉であるベーコンを食べた。

(旅人が気兼ねしない様に)思いやりで旅人と共に肉であるベーコンを食べた事によって、ユダヤ教徒が汚れていると誤解している肉を、悔い改めのごちそうに変えた。

(旅人が気兼ねしない様に)思いやりで旅人と共に肉であるベーコンを食べた事によって、法の精神によって、物質的な法を超越した。

(旅人が気兼ねしない様に)思いやりで旅人と共に肉であるベーコンを食べた事によって、Spiridion は人に成った神イエスの本物の弟子、学の有る弟子である事を証明した。

人に成った神イエスは、神に選ばれた者を、３つの世界の自然の王者にする。

(

自然科学、哲学、神の教え。

自由意思といった神だけの領域、概念の領域、形の領域。

神だけの楽園、霊の冥界、この世界。

)

１５

悪人の霊の魔術師のサバト

再び恐ろしい数 １５ に戻った。

タロットの １５ ページ目には祭壇の上に王座として座る奇形のものが描かれている。

タロットの １５ ページ目の奇形のものは司教冠をかぶっている。

タロットの １５ ページ目の奇形のものには角が有る。

タロットの １５ ページ目の奇形のものには女性の胸と男性の生殖器官が有る。

タロットの １５ ページ目の奇形のものはキマイラである。

タロットの １５ ページ目の奇形のものは奇形のスフィンクスである。

タロットの １５ ページ目の奇形のものは奇形のものの総合である。

タロットの １５ ページ目の絵の下には悪魔という率直な簡潔な名前が読み取れる。

イエス。

１５ 章では、全ての恐怖の幻影に立ち向かう。

全ての神統系譜学における竜に立ち向かう。

古代ペルシャ人のアーリマンに立ち向かう。

古代エジプト人のティフォンに立ち向かう。

古代ギリシャ人のピュトンに立ち向かう。

古代ヘブライ人の創世記の古い蛇に立ち向かう。

想像上の奇形のものに立ち向かう。

悪夢に立ち向かう。

夢魔に立ち向かう。

クロックミテーヌに立ち向かう。

ガーゴイルに立ち向かう。

中世の大いなる獣に立ち向かう。

前記のものより悪である後記のものに立ち向かう。

神殿騎士団のバフォメットに立ち向かう。

錬金術師のあごひげが有る偶像に立ち向かう。

メンデスの淫らな神格であるメンデスのヤギに立ち向かう。

(ヤギはメンデスで神の生殖力の象徴であった。)

サバトのヤギに立ち向かう。

本書「高等魔術の祭儀」の最初の絵、タロットの １５ ページ目の絵には、恐ろしい夜の皇帝が、全ての特徴と共に正確に描かれている。

１５ 章では、大衆を教えるために話す。

M. le Comte de Mirville を満足させるために話す。

悪魔研究家のボダンを弁明するために話す。

神殿騎士団を迫害した、悪人の霊の魔術師を火で殺した、偽のメーソンを破門した、教会の大いなる栄光のために話す。

１５ 章では、隠された知の劣悪な秘伝伝授者である悪人の霊の魔術師、大いなる秘密の冒涜者である悪人の霊の魔術師、について大胆に正確に話す。

悪人の霊の魔術師は、大衆を不安にさせる象徴が表すもの、タロットの １５ ページ目に描かれているものを、過去だけではなく、現在、そして未来も、神として敬礼している。

イエス。

エリファス レヴィの深い確信では、神殿騎士団の総長はバフォメットを敬礼していた。

神殿騎士団員はバフォメットを敬礼していた。

イエス。

２ 本の角の間で燃えているたいまつを持った、王座に座る、タロットの １ ５ ページ目に描かれているもの、バフォメットを敬礼する、集会サバトが、過去、存在したし、現在も存在するかもしれない。

ただし、バフォメットを敬礼していた人達は、エリファス レヴィの様に、タロットの １ ５ ページ目に描かれているものは悪魔ではない、バフォメットは悪魔ではない、と考えている。

正反対に、バフォメットは、神パーンである。

タロットの １ ５ ページ目に描かれているものは、神パーンである。

バフォメットは、哲学の現代の学派の神である。

バフォメットは、思いやり深い神の助けによる魔術を行ったアレクサンドリア学派と、神秘の新プラトン主義者の、神である。

タロットの １ ５ ページ目に描かれているものは、思いやり深い神の助けによる魔術を行ったアレクサンドリア学派と、神秘の新プラトン主義者の、神である。

バフォメットは、ラマルティーヌとビクター カズンの神である。

バフォメットは、スピノザとプラトンの神である。

タロットの １ ５ ページ目に描かれているものは、スピノザとプラトンの神である。

バフォメットは、最初のグノーシス学派の神である。

タロットの １ ５ ページ目に描かれているものは、最初のグノーシス学派の神である。

バフォメットは、キリストへの反対者の宗教の聖職者どものキリストである。

前記の、大衆がキリストをバフォメットと誤って決めつける事に、大衆がキリストを黒魔術のヤギと誤ってこじつける事に、古代インドや古代エジプトや古代イスラエルで様々に変形された象徴と考えを知っている、古代の宗教の学徒は驚かない。

牛、犬、ヤギはヘルメスの魔術、錬金術の 3 つの象徴的な動物である。

ヘルメスの魔術、錬金術は古代エジプトと古代インドの全ての口伝を要約している。

牛は、土、または、錬金術師の塩を表す。

犬は、ヘルマニビス、賢者の水銀、流体、風、水を表す。

ヤギは、火を表す、と同時に、生殖の象徴である。

古代イスラエルでは、清いヤギと汚れたヤギという 2 頭のヤギを清めた。

古代イスラエルでは、清いヤギを罪のつぐないとして神にささげた。

古代イスラエルでは、つぐなわれた罪を呪いによって負った、汚れたヤギを、荒れ野で自由にした。

前記は、不思議な習慣だが、深い象徴主義の 1 つである、犠牲による和解と、自由による罪のつぐないである!

教会の全ての教父は、ヘブライ人の象徴主義とつながりが有った。

教会の全ての教父は、犠牲に成ったヤギに、他人の罪の形を肩代わりしたキリストの(十字架上の)姿を認めた。

前記の様に、グノーシス主義者は、象徴の口伝を受け継いでいて、自由への解放者キリストに、ヤギという神秘的な姿を与えた。

事実、全てのカバラと全ての魔術を、犠牲に成ったヤギの神の教えと、使者のヤギの神の教えに、分ける事ができる。

祭司だけの聖所の魔術と、荒れ野の魔術が存在する。

白の教会と、黒の教会が存在する。

公の集会を持つ祭司の集団と、サバトという集会を持つ祭司の集団が存在する。

本書「高等魔術の祭儀」の最初の絵、タロットの １５ ページ目の絵で表されたヤギはひたいの上に五芒星を持っている。

五芒星はヤギが光の象徴である事を見分けるのに十分である。

ヤギは両方の手で親指、人差し指、中指を伸ばして薬指と小指を折り曲げている隠された学問の手振りをしている。

ヤギは右手で上と思いやりの白い月を指し左手で下と厳しさの黒い月を指している。

前記の象徴は思いやりと正義の完全な一致を表す。

クンラートの両性具有者の様に、ヤギの一方の腕は女性らしく他方の腕は男性らしい。

クンラートの両性具有者の特徴をヤギの特徴に組み合わせた。

なぜならクンラートの両性具有者とヤギは同じ象徴だからである。

２ 本の角の間で燃えている知のたいまつは普遍のつり合いの魔術の光である。

２ 本の角の間で燃えている知のたいまつは、この世界のものの上に高められた魂の象徴である。

火がたいまつに結びついている様に、魂は、この世界のものに結びついている。

動物の恐ろしい頭は、この世界のものの代行者だけが永遠に罰を負うべきである、罪の恐ろしさを表す。

なぜなら魂は本質では無感覚であり、魂は、この世界のものに成る事によってのみ苦しむ事が可能である。

生殖器官の代わりである、ケーリュケイオンは永遠の命を表す。

鱗に覆われた腹は水を象徴する。

鱗に覆われた腹の上の円は大気である。

鱗に覆われた腹の上の円より更に高みに有る羽は揮発し易いものを表す。

隠された知の前記のスフィンクスの２つの胸と両性具有者の腕は人性を表す。

地獄の聖所の幻影が雲散霧消したのを見よ！

中世の恐怖のスフィンクスが見抜かれて王座から投げ落とされたのを見よ！

イザヤ書１４章１２節「どうして(天から)堕ちてしまったのか！　(明けの明星)ルシフェル！」

全ての古代の知の奇形の偶像、古代の知の謎、古代の知の夢の様に、恐ろしいバフォメットは無害な宗教的な象徴に過ぎない。

どうして、獣を統治する力を発揮する様に成った人が獣を主として敬礼するであろうか？　獣を統治する力を発揮する様に成った人は獣を主として敬礼しない！

人の名誉のために、人が犬、ヤギ、子羊、ハトを主として敬礼した事は無いと断言する。

象徴の秩序において、どうして、ヤギは子羊と同じではない事があろうか？　象徴の秩序において、ヤギと子羊は同じである。

神聖な石の上に、バシレイデース派のグノーシス主義者のキリスト教徒は、キリストの象徴として、鳥、ライオン、牛の頭を持った蛇といった、様々なカバラ的な動物による象徴を記した。

ただし、前記の全ての場合において、キリストの象徴は、常に同じ、光の属性を帯びる。

ヤギの特徴を持つバフォメットですら、サタンの架空の典型と混同できない様に、五芒星というキリストの象徴、光の象徴を持っている。

偽のキリスト教徒の間に日々あらわれる(偽の)マニ教の(善悪二元論の)残骸と戦うために、上位存在としての、力としての、サタンは存在しない、と力説する。

サタンは全ての誤りを擬人化したものである。

サタンは全ての悪を擬人化したものである。

結果として、サタンは弱さを擬人化したものである。

もし人が神は存在する必要が有る者として定められるのであれば、人は神の敵は存在しない必要が有る者として定められるのではないか？　もし人が神は存在する必要が有る者として定められるのであれば、人は神の敵は存在しない必要が有る者として定められる!

(ヘブライ語でサタンは敵を意味する。)

善の完全肯定は、悪の完全否定を意味する。

光の中では、影は目に見える物である。

前記の様に、誤っている霊は、神が存在性と真理性の分け前を与えている、という点では正しい。

反映ではない影は存在しない。

影は反映である。

月、燐光、星々の無い夜は存在しない。

もし地獄が公正、適切、正当であれば、地獄は正しい。

もし悪人の霊が地獄の状態に有る事が公正、適切、正当であれば、悪人の霊が地獄の状態に有る事は正しい。

神を実際に冒涜できた人は存在しない。

神への醜い勝手な想像に対して侮辱したり笑いものにしても、神には届かない。

(偽の)マニ教(の善悪二元論)と呼んでいる物に対して、巨大な反論によって、黒魔術的な逸脱であるという事を説明するつもりである。

(偽の)マニ教(の善悪二元論)は、ゾロアスターの(2 つ 1 組の)考えへの誤解であ

(偽の)マニ教(の善悪二元論)は、普遍のつり合いの 2 つの力の魔術の法への誤解である。

ゾロアスターの ２ つ１ 組の考えへの誤解によって、２ つの力への誤解によって、非論理的な愚かな大衆は、二次的であるが一次的である神に敵対する、反対の神、神の反対を妄想した。

前記の様に、大衆は不純な ２ つ１ 組を生んだ。

大衆は狂って神を分裂させた。

大衆はソロモンの六芒星を三角形と逆三角形に分裂させた。

マニ教の偽の信者は夜の三位一体を妄想した。

党派心の強い大衆が悪の神を妄想でねつ造した。

党派心の強い大衆が妄想でねつ造した悪の神は大衆に全ての狂気と罪を妄想させた。

大衆は、血まみれの生贄を、党派心の強い大衆が妄想でねつ造した悪の神にささげた。

奇形の偶像崇拝が、本物の神の教えに、取って代わった。

黒魔術は、本物の達道者の超越的な光の魔術を、歪めて大衆に伝えた。

悪人の霊の魔術師、グール、ストリゲスの、恐怖の秘密の集会が、洞穴や砂漠で行われた。

すぐに、狂気は狂乱に変わる。

人の生贄から人肉の共食いまで後一歩である。

サバトの神秘は、多様に描写されてきた。

しかし、サバトの神秘は、いつも、魔術書の中や、魔術的な試みの中において描写されている。

サバトの神秘という話題について、なされている暴露は ３ つの項目の下に分類できるかもしれない。

１ 。空想上の想像上のサバトについての暴露。

２。真の達道者達の隠された集会の秘密の暴露。

３。黒魔術の実行を目的とした、愚かな犯罪的な集会の暴露。

黒魔術の実行という狂気の憎悪するべき実践にふけった多数の不適切な男どもや女どもにとって、(黒魔術の実践という)サバトは、実に長期の悪夢である。

黒魔術の実践というサバトでは、妄想が現実のように思われるし、飲み物、燻蒸、催眠性の摩擦という手段によって妄想が誘発される。

(「高等魔術の教理」の１８章で)既に神秘的な魔術師として明示した、バッティスタ ポルタは著書「自然魔術」で、(夢や妄想における)サバトへ黒魔術師を運ぶ塗り薬として、偽の処方せんをもたらしている。

バッティスタ ポルタによる偽の塗り薬は、幼子の脂肪、ポプラの葉と共に煮たトリカブト、その他、いくつかの薬物の混合物であり、全体的に煤と混ぜられている。

バッティスタ ポルタによる偽の塗り薬は、塗ってサバトへ行った裸の魔女の美しさに貢献するはずがなかった。

バッティスタ ポルタがもたらした、別の、より本格的な処方せんが存在します。

私エリファス レヴィは、魔術書としての性質を保つために、ラテン語で書き写します。

処方せんは、草 sium、草 acorum vulgare、草 penta-phyllon、草 verspertillionis sanguinem solanum somniferum、油です。

前記を塗り薬の粘度に成るまで全体的に煮詰めます。

「前記の塗り薬の混合物には、麻薬、大麻の茎の中心の柔らかい部分、白花洋種朝鮮朝顔か laurel-almond も含まれ、全く上手く混ぜ合わされる」と私エリファス レヴィは推測しています。

黒魔術の儀式で、夜鳥の脂肪や血を前記の薬物に加えると、想像力に印象づけて、夢の方向を決定するであろう。

「水瓶から現れたヤギが儀式の後で水瓶に戻った」という記述を、前記の方法によって夢でみたサバトへ帰属させる必要が有る。

前記の(夢におけるサバトの)ヤギの固体の排泄物から入手される地獄の粉(を夢におけるサバトへ帰属させる必要が有る)。

前記の(夢におけるサバトの)ヤギは「主レオナルド」と呼ばれている。

中絶や流産した胎児を塩無しで蛇やヒキガエルと共に煮て食べる宴(を夢におけるサバトへ帰属させる必要が有る)。

奇形の巨大な動物や、有り得ない姿形の男女が参加する踊り(を夢におけるサバトへ帰属させる必要が有る)。

男性の夢魔インキュバスが冷たい精液を放射する自由奔放な放蕩(を夢におけるサバトへ帰属させる必要が有る)。

悪夢だけが、前記のような光景を、もたらす事ができるし、説明できる。

不運な司祭ゴーフリディと、ゴーフリディに見捨てられた懺悔者マドレーヌ ド ラ パリュは、(夢や妄想におけるサバトと)類似の妄想によって狂ってしまい、妄想を断言したために火刑で処刑されてしまった。

精神錯乱が想像力をどれほど苦悩させる可能性が有るのか理解するには、裁判中のゴーフリディとマドレーヌ ド ラ パリュという病人による宣誓証言を読む必要が有る。

しかし、サバトは常に夢であった、というわけではない。

実際にも、サバトは存在した。

秘密の夜の集会サバトは、古代の世界の儀式を行うために、現在も存在する。

あるサバトは、宗教的な目的や社会的な目的を持っている。

別のサバトは、酒神祭や降霊術とつながりが有る。

前記の、2 つの観点から、実際のサバトを考えて非難しようと思う。

光の魔術のサバトが存在する。

闇の魔術のサバトが存在する。

キリスト教が古代の儀式の公での実践を禁止した時に、古代の宗教の熱心な信者は、古代の宗教の神秘の儀式のために、ひそかに会う様に追い込まれた。

秘伝伝授者が、古代の宗教の集会サバトの、長を務めた。

秘伝伝授者は、すぐに、多様な宗教の中で、正統派的習慣を確立した。

サバトの正統派的習慣は、魔術の真理の助けによって、容易に促進された。

なぜなら、禁止は複数の意思を統一する。

禁止は人々の間の兄弟愛のきずなをまとめる。

前記の様にして、古代エジプトの女神イシスの神秘、ローマの女神ケレスの神秘、エレウシスの祭、酒神バッカスの神秘は、善良な女神の神秘、最初のドルイド教と組み合わされた。

通常、集会サバトは、水星と木星の日の間か、金星と土星の日の間に、行われた。

サバトで、入門の儀式を行った。

サバトで、神秘の象徴を交換した。

サバトで、神をたたえる象徴的な歌を歌った。

サバトの宴の円卓で、結束を固めた。

サバトの宴の円卓と円舞で、連続的に、魔術の鎖を形成した。

長である秘伝伝授者達の前で新たに約束して、長である秘伝伝授者達から教えを受けた後に、集会サバトを解散した。

サバトへの入門を希望する修行者は、両目を魔術のマントで覆われて、魔術のマントで完全に包まれて、サバトに、導かれる、というよりは、運ばれてくる。

修行者は、無数の火の中、不安にさせる音が立てられている中、導かれる、というよりは、運ばれてくる。

修行者が顔から魔術のマントを外されると、修行者は、地獄の奇形のものに包囲されている事に気づく。

修行者は、巨大な恐ろしいヤギの前にいる事に気づく。

修行者は、巨大な恐ろしいヤギを敬礼する様に命令される。

前記の、サバトの、修行者への全ての儀式は、修行者の性格の強さと、修行者の祖師への信頼を試す試練である。

特に、ヤギを敬礼する、最後の試練は、決定的である。

なぜなら、ヤギへの敬礼は、一見、修行者の精神にとって、屈辱的で滑稽(こっけい)である。

修行者は、不用心に、ヤギの尻に敬意を込めて口づけする様に命令される。

もし修行者がヤギの尻への口づけを拒否すれば、修行者は、魔術のマントで頭を包まれて、サバトから離れた所へ、修行者がめまいを感じたと信じる様な驚くべき速さで、運ばれる。

もし修行者がヤギの尻への口づけを承認すれば、修行者は、象徴的な偶像であるヤギを一周させられる。

修行者は、いやらしい物ではなく、女神イシスか女神マイアの若い優美な女祭司の顔を見る事に成る。

女祭司は母の様に修行者を歓迎する。

修行者はサバトの宴に受け入れられる。

前記の様な、秘密の愛餐(あいさん)である集会サバトの、多数で、食後に乱交が有ったと信じるのは用心する必要が有る。

同時に、キリスト教の最初の数世紀の間、多数のグノーシス主義者が秘密集会サバトを実践した事が知られている。

感性の圧迫と禁欲の時代であったキリスト教の最初の数世紀に、肉欲が禁欲に抗議した事は、当然であり、驚かない。

しかし、大衆は、超越的な魔術が許した事が無い不品行によって、超越的な魔術を非難するなかれ。

イシスは未亡人に成っても貞淑である。

汎神の女神ディアナは処女である。

ヘルマニビスは、両性具有者で、男性性も女性性も満足させられない。

ヘルメスの両性具有者は純潔である。

ティアナのアポロニウスは快楽の誘惑に負けなかった。

ユリアヌス帝は厳しく節制した人であった。

アレクサンドリア学派のプロティノスは禁欲主義者であった。

パラケルススは性別を疑われるほど愚かな肉欲とは無縁の人であった。

永遠に独身を誓わせた希望の無い愛の後に、ライムンドゥス ルルスは知の究極の秘密を秘伝伝授された。

pantacle とタリスマンを身につけて娼館に入ったり姦淫すると、pantacle とタリスマンは力を全て失うというのが、魔術の口伝である。

乱交のサバトを、本物の達道者のサバトと考えるなかれ。

サバトという言葉については、ある人は Sabasius という名前に由来すると想像したり、別の人は他の語源を想像しているが、エリファス レヴィの考えでは、最も簡潔に、サバトは、安息日を意味するヘブライ語のサバトに由来する。

なぜなら、カバラの秘密の信心深い保管者である、ヘブライ人は、ほぼ常に、中世の間も、魔術の大いなる祖師であったのは確実である。

サバトは、カバリストの日曜、カバリストの宗教的な祭の日、というよりは、カバリストの定期的な集会の夜であった。

神秘に包まれた、祭サバトは、大衆の恐怖を保護手段として持っていた。

サバトは恐怖によって迫害を免れた。

悪人の霊の魔術師のサバトについては、悪人の霊の魔術師のサバトは、本物の魔術師のサバトの偽物、模倣であった。

悪人の霊の魔術師のサバトは、愚者を食い物にする有害な悪人の集会であった。

悪人の霊の魔術師のサバトでは、恐ろしい儀式を行い、憎むべき薬を調合した。

悪人の霊の魔術師のサバトでは、悪人の霊の魔術師どもや魔女どもが、偽の予言や偽の占いの名声を助けるために、策略を用意し、相互に教え合った。

当時、悪人の霊の魔術師どもや魔女どもは、一般的に、占い師を職業にした。

当時、占い師は、実際に力を発揮する限り儲かる職業であった。

悪人の霊の魔術師のサバトは、正統派的習慣、正統派的儀式を持てなかった。

悪人の霊の魔術師のサバトでは、全てのものが、悪人の霊の魔術師どもや魔女どもの気まぐれと、大衆の混乱に左右されてしまった。

悪人の霊の魔術師のサバトに出席した人々が話した事は、妄想による全ての悪夢の典型として役立ってしまった。

また、悪人の霊の魔術師のサバトという有り得ない現実による混乱と悪霊的な妄想から、シュプランガー、Delancere、デルリオ、ボダンのような作家による、魔術への訴訟手続きや、本の中で描写されている、サバトの憎悪するべき愚かな歴史がも

グノーシスのサバトの儀式を、Mopses と名乗っていた秘密結社が、ドイツへ持ち込んだ。

Mopses のサバトでは、カバラのヤギを、ヘルメスの犬に代えていた。

Mopses のサバトでは、入門志願者は、男性でも女性でも、入門済みの女性達の所へ、両目に眼帯をさせられて連れて来られました。

(目隠しをしている)入門志願者の近くでは、非常に多数の謎の噂と共にサバトという名前を取り巻いているのと同様の地獄のような騒音が起こされた。

(目隠しをしている)入門志願者は、「悪魔を恐れているか否か?」と質問されました。

そして、突然、(目隠しをしている)入門志願者は、グランド マスターの臀部に口づけするか、絹で覆われた子犬の像の臀部に口づけするかを、選択するように求められた。

子犬の像は、メンデスのヤギという古代の大いなる偶像の代わりである。

(Mopses のサバトでは、)挨拶の合図は、滑稽な渋面であった。

滑稽な渋面は、古代のサバトの幻想と、サバトの助手達の仮面を連想させる。

後は、秘密結社 Mopses の教えは、愛と自由の崇拝に要約できます。

ローマのカトリック教会がフリーメイソンを弾圧していた時に、秘密結社 Mopses は現れました。(秘密結社 Mopses はフリーメイソンであった。)

秘密結社 Mopses は、カトリック教徒だけを勧誘するふりをした。

そして、秘密結社 Mopses は、入門時に、誓う代わりに、秘密結社 Mopses の秘密を暴露しないという名誉をかけた真剣な約束を求めた。

秘密結社 Mopses への入門時の約束は、どんな誓いよりも有効な物であった。

また、秘密結社 Mopses への入門時の約束は、宗教が反対する余地を持たせない物であった。

神殿騎士団のバフォメット、Baphomet という名前は、カバラ的に逆につづるべきであり、TEM、OHP、AB という 3 つのラテン語の略語から成る。

神殿騎士団のバフォメットという名前は「人々の間の普遍の平和の神殿の父」を意味する。

ある人によれば、バフォメットは奇形の頭である。

別の人によれば、バフォメットはヤギの形をした悪魔である。

１９世紀に、絵が彫られた箱が、神殿騎士団の古い集会所の遺跡で、発掘された。

古物研究家は、神殿騎士団の遺物の箱に彫られた絵が、バフォメットの様な絵であると気づいた。

神殿騎士団の遺物の箱に彫られた絵、バフォメットの様な絵は、メンデスのヤギやクンラートの両性具有者の特徴を持っていた。

バフォメットの様な絵には、あごひげが有る女性の体が描かれている。

バフォメットの様な絵には、一方の手に太陽を、他方の手に月を、鎖でつないで持っている者が描かれている。

バフォメットの様な絵の、あごひげが有る男らしい頭は、美しい象徴である。

バフォメットの様な絵では、始める創造する原理を、考えを象徴する頭だけに帰している。

バフォメットの様な絵では、頭は精神を表す。

体は物質を表す。

人の形に鎖でつながれた、自然が(心を)傾ける、太陽と月。自然の知である頭。

太陽と月と頭は大いに象徴的である。

(しかし、)神殿騎士団の遺物の箱に彫られた絵を調査した博識な人達が見つけた象徴は全て同じく卑猥で邪悪であった。

中世の迷信が現代にまで広まっているのを驚くであろうか？　いいえ！

(存在しない)悪魔と、悪魔の手先の存在を確信しながら、人々が火刑のまきの束に再び火をつけない事だけが、私エリファス レヴィが唯一、驚く事である。

ヴィヨ氏は、論理的で、次のように、求めた。

自分の意見を持つ勇気が有る人を、人はほめたたえるべきである。

興味深い研究を追求して、今、(存在しない)悪魔の呼び出しや地獄との契約に関わる黒魔術書の最も恐るべき神秘に至ります。

　現実の存在を善の全否定(である存在しない悪魔)の物であると(誤って)してしまった後に、

不条理を崇拝して虚偽の神(である悪魔)を創造してしまった後に、

人の愚かさに残されているのは、有り得ない偶像(である悪魔)を呼び出す事だけであった。

　そして、狂人どもは、悪魔の呼び出しを実践した。

　かつて、テアティノ修道会の修道院長、司教の審査官などであった、最も尊敬するべきベンチュラ神父が、私エリファス レヴィの「高等魔術の教理」を読んだ後に、「私ベンチュラの考えでは、カバラは、悪魔が発明した代物であり、ソロモンの六芒星は、世界の人々が『サタンと神は同一である』と説得して誤って思い込ませるための、悪魔の別の策略である」と宣言したと最近、知らされた。

　イスラエルの教師達が真剣に教えている事(であるカバラ)を見なさい！

　無と夜の理想が発明している、崇高な哲学(であるカバラ)は、確信の普遍の基礎であるし、全ての神殿の要石である！

　悪人の霊は、神の御名のそばに署名する！(存在するためには、悪人の霊ですら、神の味方をする必要が有る。)

　私エリファス レヴィが尊敬するべき神学の教師達よ、あなた達は、あなた達か、他の人達が気づいているよりも、大いに黒魔術師なのである。

　そして、次のように、(意訳すると、)神であるイエスは話した。

「悪魔は嘘つきである。悪魔の父(である悪人)が嘘つきである様に」

　神であるイエスには、あなた達が尊敬している人達の決断について話すべき意見が、いくつか有るであろう。

(存在しない)悪魔を呼び出そうとする者どもは、何よりも、まず、造物主である(訳が無い)悪魔、神と相対する事ができる(訳が無い)悪魔を認める宗教に所属する必要が有る。

人は、ある力を呼び出すには、その力を信じている必要が有る。

(存在しない)悪魔の宗教を確信して、(存在しない)悪魔という虚偽の神と交流するには、次のように、進めて行く必要が有ります。

黒魔術の原理。

言葉の作用の輪の中で、全ての言葉は、言葉が肯定するものを創造する。

(黒魔術による)直接の結果。

悪魔を肯定する者どもは、悪魔を創造してしまう。

悪魔の呼び出しの成功条件。

１、不屈の頑迷さ。

２、犯罪行為に鈍感である、と同時に、後悔による良心の呵責と恐怖を感受しやすい、良心。

３、故意または自然な、無知。

４、信じられないもの全てに対する、盲信。

５、神に対する完全に誤った考え。

後記をする必要が有る。

(a)自分が信じている宗教の儀式を冒涜する必要が有る。

(b)血まみれの生贄を捧げる必要が有る。

(c)西洋榛(セイヨウハシバミ)かアーモンドの一本の枝を生贄を切るためだけに使用した新しいナイフで一撃で切り取った物である、魔術の二叉槍を入手する必要が有る。

魔術の二叉槍は、先端が二叉である必要が有る。

魔術の二叉槍の先端の二叉を、前記のナイフの刃から造った鉄か鋼鉄で覆う必要が有る。

日没後に一回だけ塩無しの食事を取って、１５日間の断食を守る必要が有る。

前記の食事は、黒パンと塩無しの香辛料で味つけした血、または、黒豆と乳白色の催眠性の薬草で、構成するべきである。

黒いケシの５つの花と５オンスの麻の実を５時間ひたしたワインを、娼婦が織った布で濾した飲み物を、日没後に、５時間ごとに飲む必要が有る。

厳密に言うと、仮に、女性が織った布であれば、手に入った布を使用しても良い。

(存在しない)悪魔の呼び出しは、月曜から火曜までの間の夜か、金曜から土曜までの間の夜に、実行する必要が有る。

(存在しない悪魔の呼び出しには、)悪人の霊がよく出現する墓地、郊外の誰も近づかない廃墟、放棄された修道院の地下室、ある殺人者が殺人を犯した事が有る場所、ドルイドの祭壇や、虚偽の邪神の偶像崇拝の古代神殿の様な、人里離れた非難されているような場所を選ぶ必要が有る。

黒色の継ぎ目が無い袖が無いローブを用意する必要が有る。

月、金星、土星の印が刻まれた鉛製の帽子(を用意する必要が有る)。

三日月の形が彫刻されている黒い木製のロウソク立ての中に、人の脂肪による２本のロウソクを立てる(必要が有る)。

バーベインによる２つの王冠(を用意する必要が有る)。

柄が黒い魔術の剣(を用意する必要が有る)。

魔術の二叉槍(を用意する必要が有る)。

生贄の血を入れた銅製の瓶(を用意する必要が有る)。

乳香、カンフル、沈香、龍涎香、蘇合香という名前の香と、ヤギ、モグラ、コウモリの血を練り込んだ物が入っている香炉(を用意する必要が有る)。

処刑された犯罪者の棺から取った 4 本の釘(を用意する必要が有る)。

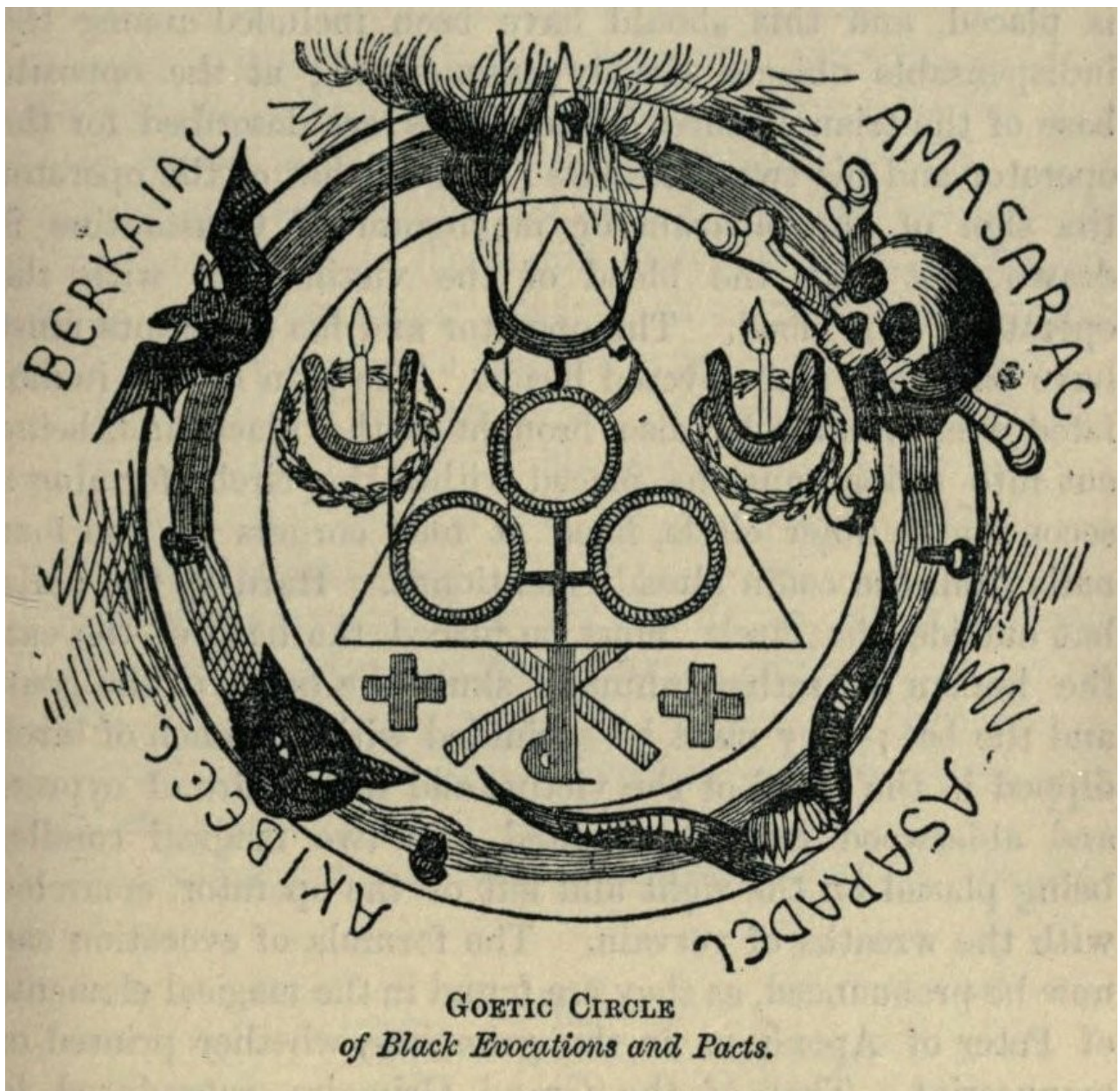
5 日間、人肉を食べさせた黒猫の頭(を用意する必要が有る)。

血で溺死させたコウモリ(を用意する必要が有る)。

少女と性交させたヤギの角(を用意する必要が有る)。

親殺しの頭骨(を用意する必要が有る)。

前記の全ての憎悪するべき入手困難な物を集めたら、後記の絵の様に配置する必要が有る。

GOETIC CIRCLE
of Black Evocations and Pacts.

魔術の剣で完全な円を描くが、一箇所、途切れさせるか、歪ませる。

円の中に正三角形というpantacleを描いて、血で色をつける。

円の中の正三角形の頂点に、小さな炉の上に載せた小さな器を置く。

そして、前記の小さな炉の上に載せた小さな器の中に、既に列挙した必要不可欠の諸物を入れる。

円の中の正三角形の底辺に、術者と二人の助手のための 3 つの小さな輪を描く。

術者の背後に、生贄の血ではなく、術者自身の血で、ラバルムまたはコンスタンティヌス 1 世の組み合わせ文字を描く。

術者と二人の助手は、裸足に成り、頭を覆う必要が有る。

捧げた生贄の皮膚を細長く切って、(存在しない)悪魔を呼び出す場所へ持って来る必要が有り、円の中で、既に話した「棺から取った 4 本の釘」で皮膚の四隅を固定して、第二の内部の円を形成するように皮膚を配置する必要が有る。

「棺から取った 4 本の釘」のすぐ近くに、ただし、円の外側に、黒猫の頭、人と言うよりはむしろ人でなしの頭骨、ヤギの角、コウモリの溺死体を配置する必要が有る。

生贄の血をつけた樺の木の枝で、(生贄の血を)自身に振りかける必要が有る。

そうしてから、糸杉とハンノキに火をつける必要が有る。

バーベインの花輪の中に入っている術者の左右に、2 本の魔術のロウソクを配置します。

そうしてから、アバノのピエトロによる魔術書「ヘプタメロン」か、印刷または手書きの、(虚偽の)黒魔術の魔術書に有るような、悪魔の呼び出しの決まり文句を唱える事ができる。

広く知られている「赤い竜」として再刊された「大奥義書」の悪魔の呼び出しの言葉は、意図的に改変されていて、後記のように読み解くべきである。

「主である神エロヒム、主である神イェホバ、軍団である主である神、アグラである主である神であるマトンと共に在るメトラトンによって、神託の言葉、(火の元素の霊)サラマンダーの神秘、(風の元素の霊)シルフ達の集団、(土の元素の霊)ノーム達の洞窟、Gad の天の(半神半霊)ダイモーン達、

Almousin、Gibor、Jehosua、Evam、Zariatnatmik よ、来なさい、来なさい、来なさい!」

コルネリウス アグリッパの(悪魔への)大いなる呼称は、意味不明な言葉の羅列である。

(悪魔への)大いなる呼称の、意味を理解しているふりはしない。

多分、(悪魔への)大いなる呼称は、何の意味も持っていない。

確実に、(悪魔への)大いなる呼称は、論理的な意味を持っていない。

なぜなら、無上に非論理的で存在するとは考えられない悪魔を呼び出すために利用する言葉が論理的な意味を持っているはずが無い。

前記の理由から、疑い無く、ピコ デラ ミランドラは「最も学が無い理解不能な言葉ほど、黒魔術に最も有効で良い」と断言している。

(存在しない)悪魔の呼び出しは、怒り呪う言葉や脅迫を伴いながら、(悪い)霊が応えるまで、声を大きくしていって、くり返します。

通例、郊外全体に轟く様に思われる様な、激しい風が、(悪い)霊に先立って起こります。

それから、家畜は、身を震わせて、姿を隠してしまいます。

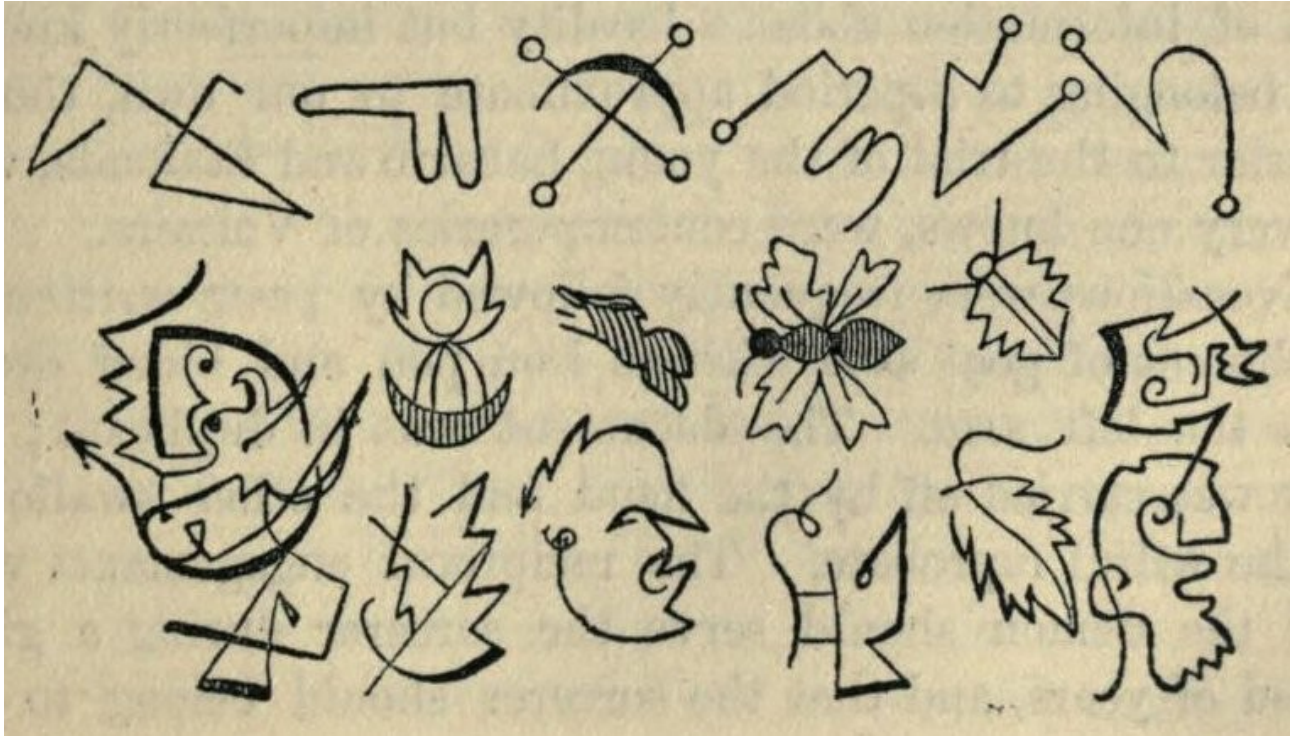
二人の助手は、顔に息がかかる様に感じます。

そのため、二人の助手の髪は、冷や汗で濡れて、逆立ちます。

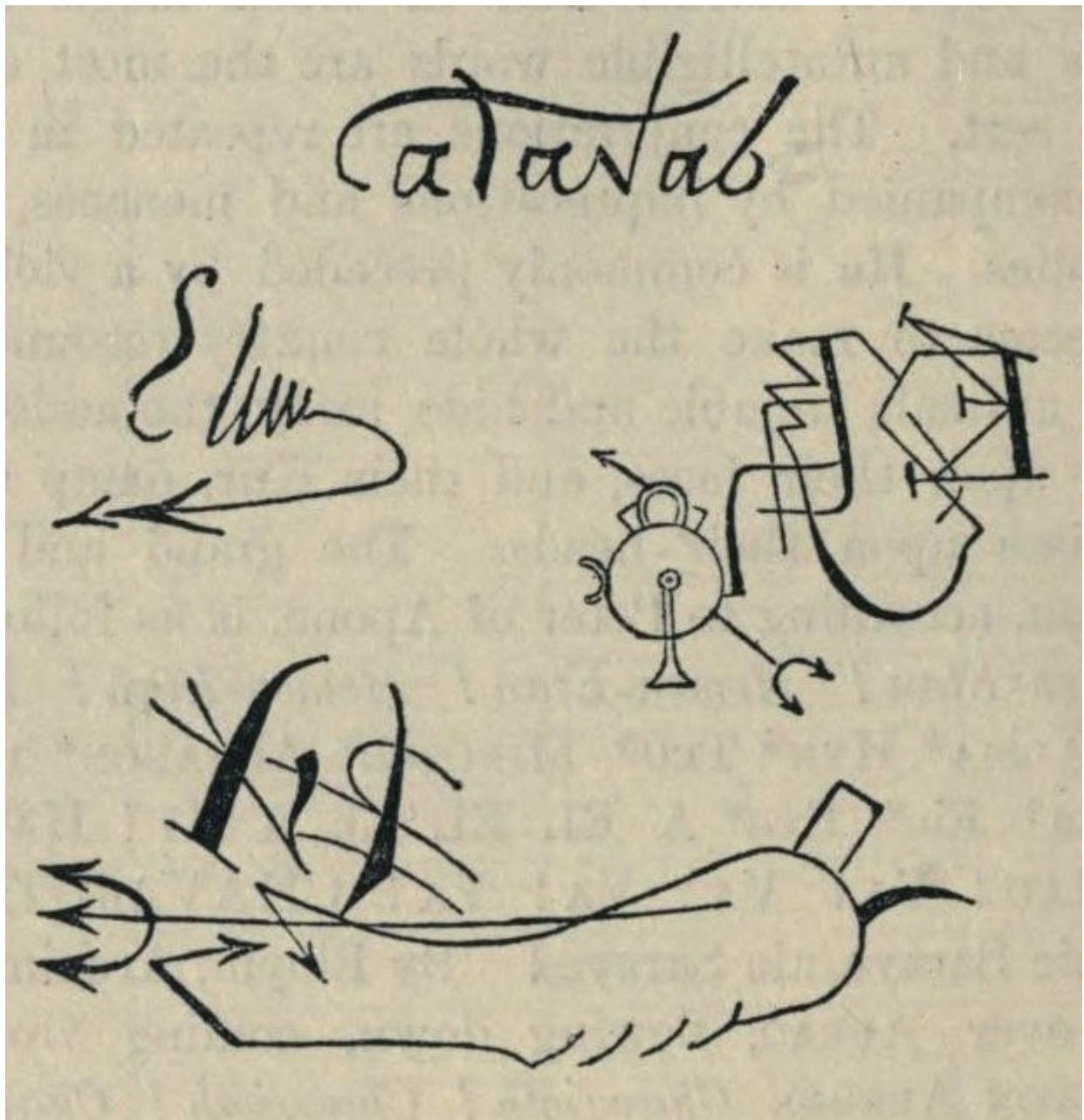
後記は、アバノのピエトロの(悪魔への)大いなる呼称です。

「Hemen-Etan！　Hemen-Etan！　Hemen-Etan！　神＊　ATI*　TITEIP*　AOZIA*　HYN*　テウ＊　MINOSEL*　ACHADON*　vay*　ヴァア＊　アイ＊　アアア＊　Eie*　Exe*　ア　神　神　神　ア　ハイ！　ハウ！　ハウ！　ハウ！　ハウ！　ヴァ！　ヴァ！　ヴァ！　ヴァ！　エヴァ イョッド。Aie Saraye、aie Saraye、aie Saraye！　ABERER の上の ABEOR 上から来る、流れて降下してくる、ABRAC を圧倒するエロヒム、Archima、Rabur、BATHAS によって、エヴァ イョッド！

エヴァ イヨッド！　エヴァ イヨッド！　私は、ソロモンの鍵と大いなる神名セムハムフォラスによって、お前に命じる」

　後記は、(悪魔のふりをした悪人の霊による、)ありふれた「悪魔のサイン」である。

　ただし、前記は、下位の悪魔(のふりをした悪人の霊)による「悪魔のサイン」であり、そこに、司法的に認証された、公認の地獄の権力者どもの「悪魔のサイン」が続く。

「司法的に」ですよ、おおっ、Mirville 伯爵よ！

　そして、(悪魔のふりをした悪人の霊による)「悪魔のサイン」は、不運なユルバン グランディエの裁判の有罪の証拠として、司法の記録保管所に保存された。

前記の(悪魔のふりをした悪人の霊による)「悪魔のサイン」は、悪魔(のふりをした悪人の霊)との契約で現れた物であり、「地獄の辞典」の図表集でコランド プランシーが模写して再現して、もたらした物である。

「地獄の辞典」には、後記の魔術的な注釈が有る。

「(『悪魔のサイン』の)設計図は、地獄の中に、ルシフェルの机の中に、有る」

前記は、(悪魔のふりをした悪人の霊による「悪魔のサイン」の)発生源についての価値が有る情報の一つであるが、十分に知られていないが、現代に近い時代の物である。

前記は若者ラバールとエタロンドの裁判よりも古いが、ラバールとエタロンドは、知られている様に、ヴォルテールと同時代の人達である。

(存在しない)悪魔の呼び出しの後に、時々、ヤギの皮による羊皮紙の上に、鉄の筆で、(悪魔との)契約が書かれ、左腕から血を抜いた。

(存在しない)悪魔との契約は、2 通、書かれた。

一方は、悪魔(のふりをした悪人の霊)に持ち去られ、他方は、頑迷な悪人に飲み込まれた。

悪魔(のふりをした悪人の霊)との相互契約とは、一定年数、悪魔は黒魔術師に仕え、一定期間後、黒魔術師は悪魔の物に成る、という物でした。

前記の、悪魔についての信念を、教会の大衆は、悪魔払いで、清めてしまった。

そのため、黒魔術と闇の王者である悪魔は、ローマのカトリックの大衆の本当に生きている恐怖のねつ造物と言えるかもしれない。

黒魔術と悪魔は、ローマのカトリックの大衆の特別な特徴的な(架空の)作品と言えるかもしれない。

なぜなら、祭司が神を創造したわけではない。

聖職者が神を創造したわけではない。

神は創造された者ではない。

そのため、本物のカトリックは、心の底から、悪魔の否定という「大いなる務め」を清めて復活させる事に、良い意味でとらわれている。

悪魔の否定という「大いなる務め」は、公の儀式の実践を、金に変える、賢者の石である。

賊の俗語では、有害な悪人どもは、悪魔をパン屋と呼んでいる。

エリファス レヴィといった神の聖霊の魔術師の願いは、また、神の聖霊の魔術師の立場からではなく、最初の教育と最初の感動を受けた恩が有るキリスト教と教会

に身をささげた信者として話すと、全ての正しい人の願いは、倫理道徳の代行者である、無上の徳の代表者である、人々が、サタン、悪魔という幻影を、パン屋と呼ばない様にする事である。

(イエスはパンを清めた。)

エリファス レヴィの意図を評価して、エリファス レヴィの、献身的な意図と信心の誠実さによって、エリファス レヴィの願いの大胆さを許してもらえますか？

(存在しない)悪魔を創造する(様に見える)黒魔術を記録した(偽の黒魔術書)「ホノリウスの魔術書」、法王レオ 3 世の「Enchiridion」、典礼書の悪魔払いの言葉、宗教裁判官の判決の言葉、Laubardement の訴訟の言葉、ヴィヨ兄弟の論文、ファルーやモンタランベールや Mirville の本、黒魔術師の黒魔術、黒魔術師ではない信心深い人達の魔術は、一方では、実は、非難されるべき物である(と言える)し、他方では、実は、とても嘆き悲しむべき物である(と言える)。

私エリファス レヴィが人の精神の不適切な錯乱を暴露する「高等魔術の祭儀」を出版したのは、特に、人の精神の不適切な錯乱に立ち向かうためなのである。

「高等魔術の祭儀」が、神聖な運動を更に前進させます様に！

ただし、私エリファス レヴィは、不信心な意思を、全ての下劣さと全ての奇形な巨大な愚劣さで、未だ提示できていない。

人は、衰退しきった迷信による血まみれの汚染を除去する必要が有る。

人は、想像力だけでは考案できない犯罪を想像できる様に、悪魔憑きの歴史を調査する必要が有る。

カバリストであると言えるボダンは、信念によってヘブライ人であると言えるし、そのため、必然的にカトリック教徒であると言えるが、著書「悪魔憑き」の意図は、カトリックの教義を非難する事と、カトリックの教義の全ての濫用を最大限に挫く事だけであった。

ボダンの著書は、目的のためには手段を全く選ばない物であり、擁護しているように見せかけている団体や人物の核心を突いた物である。

ボダンの著書の大量の流血の憎悪するべき歴史、憎悪するべき迷信による諸行為、愚かな残忍な判決と処刑を読まないと、想像するのは難しいであろう。

「全ての人を焼き殺せ！」と宗教裁判官どもは叫んでいるように思われる。

「神が、神の子を見分けるであろう！」

不適切な愚者、病的に興奮する女性、間抜けは、結果、無慈悲に、魔術の罪で、焼き殺された。

他方、同時に、大犯罪者は、不正な流血の裁判を免れてしまった。

ボダンは、シャルル 9 世の死に関係する逸話などを詳細に話す事によって、前記を理解させてくれます。

前記は、ほとんど知られていない憎悪するべき事です。

そして、前記は、私エリファス レヴィが知る限り、自制心が無い熱狂的な嘆き悲しむべき文学の時代ですら、全ての伝奇物語作者が技術を試さなかった代物なのである。

全ての医者が原因を見つけられないし、恐ろしい症状を説明できない病気に襲われて、シャルル 9 世は死にかけていた。

シャルル 9 世を完全に支配していた、シャルル 9 世の母であるカトリーヌ ド メディシスは、次代の治世下では全てを失う羽目に成ってしまう。

カトリーヌ ド メディシスは、シャルル 9 世の病気の元凶であると疑われてしまった。

なぜなら、隠された策略や、未知の勢力は、常に、全てが可能であるカトリーヌ ド メディシスの物である、とされてきたからである。

カトリーヌ ド メディシスは、お抱えの占星術師に相談した。

そうして、カトリーヌ ド メディシスは、「流血の頭による神託」という最も憎悪するべき黒魔術に頼る事にした。

なぜなら、病人であるシャルル 9 世の病状は、日々、悪化して、絶望的に成っていったからである。

前記の黒魔術の地獄の作業は、後記のように、行われた。

美しい外見と純粋な態度の幼子が選ばれた。

宮殿の慈善係によって、幼子の最初のミサが用意された。

生贄の日、いやむしろ、生贄の夜が到来すると、ドミニコ修道会士であった背教者は、黒魔術の隠された作業に身を委ね、真夜中に、病室で、カトリーヌ ド メディシスとカトリーヌ ド メディシスが信頼している者どもだけの前で、悪魔のミサを実行した。

幼子の生贄は、足下に逆さ十字架が有る悪魔の像の前に捧げられた。

黒魔術師は、黒いパンと、白いパンという 2 つのパンを聖別した。

白いパンは幼子の生贄に与えられた。

幼子の生贄は、洗礼におけるような衣服で連れて来られ、ミサの直後に祭壇への階段で殺された。

胴体から一撃で切り取られた、幼子の頭は、震動しているうちに、聖体のパン皿を覆うほど大きな黒い聖体のパンの上に置かれた。

そうしてから、幼子の頭は、神秘的なランプが灯されているテーブルへ運ばれた。

悪魔払いが始まる。

神託を(存在しない)悪魔に請い願う。

幼子の頭の口が、シャルル 9 世が声に出して言うのを恐れ誰にも打ち明けなかった秘密の質問に、答えた。

やがて、不運な幼子の犠牲者の頭が、人の声ではない、変な微かな声で、ラテン語で「私は暴力に耐えている」と話した。

「私は暴力を振るわれている」

　この答えは、地獄は最早、シャルル ９ 世を守らない事を、病人であるシャルル ９ 世に、疑い無く知らせる物であった。

　シャルル ９ 世は、恐ろしい身震いにとらわれた。

　シャルル ９ 世の両腕は硬直した。

　シャルル ９ 世は、かすれた声で、「あの頭を追い払え！　あの頭を追い払え！」と叫んだ。

　前記のように、シャルル ９ 世は、霊に降伏するまで叫び続けた。

　居合わせた者どもは、畏敬するべき神秘を信じていなかったが、シャルル ９ 世がColigny の霊に苦しめられていた事と、シャルル ９ 世には有名な提督 Coligny の頭に見えていた事を信じた。

　しかし、死にかけているシャルル ９ 世を苦しめていた物は、良心の呵責ではなく、絶望的な恐怖と、予期しない地獄であった。

　ボダンによる前記の陰鬱な黒魔術の伝説は、レッツの領主ジル ド レによる憎悪するべき(黒魔術の)実践と、ふさわしい末路を連想させます。

　ジル ド レは、禁欲生活から黒魔術へ移ってしまい、(存在しない)悪魔からの好意を得るために、最も憎悪するべき生贄を捧げました。

　狂人ジル ド レは、裁判で、(存在しない)悪魔が頻繁にジル ド レの所へ現れて、得られない宝を約束してジル ド レを常に騙した、と告白した。

　数百人の不運な幼子が、人でなしジル ド レの強欲と残忍な妄想の犠牲に成った、と司法の情報から判明した。

１６

呪いの業と呪文

特に、悪人の霊の魔術師が汚れた霊を呼び出して探求した物は、本物の達道者が所有する、磁気の力であった。

悪人の霊の魔術師は、恥じるべき悪用をするためだけに、磁気の力を望んだ。

悪人の霊の魔術師の愚かさは、邪悪な愚かさであった。

悪人の霊の魔術師の、主な目的の１つは、呪いの力、または、害を与える感化力であった。

「高等魔術の教理」で、呪いについての考えと、呪いが危険な現実の力であると思われる事を、すでに話した。

本物の魔術師は、儀式無しで呪う事ができる。

本物の魔術師は、非難するだけで、非難した相手を、罰する必要が有ると考える相手を、呪う事ができる。

本物の魔術師は、許しても、本物の魔術師に悪い事をした人を、呪う事に成る。

秘伝伝授者の敵は、悪事の罰を受けないで、やり過ごす事はできない。

エリファス レヴィは、悪人に致命的な法の多数の実例を見てきた。

殉教者の殺害者は、常に、みじめに死ぬ。

達道者は知の殉教者である。

神意は、達道者を嫌う人を嫌う、様に見受けられる。

神は、達道者を嫌う人を嫌う。

神意は、達道者を殺す人を殺す、様に見受けられる。

神は、達道者を殺す人を殺す。

「さまよえるユダヤ人」の伝説は、神は、達道者を嫌う人を嫌うという秘密の、普及している詩的な作品である。

賢者イエスを害するヘブライ民族の大衆は賢者イエスを追い立てた。

イエスが少しの間、休みたいと望んだ時に、ヘブライ人の大衆はイエスに「(休むな!)　歩き続けろ!」と命令した。

ヘブライ人の大衆がイエスに「休むな!　歩き続けろ!」と責め立てた結果、何が起きたか?

世界中の大衆がヘブライ人に「どこかの国に安住するな!　どこか別の国へ行け!」と責め立てている。

ヘブライ人への具体的な迫害である。

何世紀にもわたって大衆はヘブライ人に「どこかの国に安住するな!　どこか別の国へ行け!」と叫んでいる。

何世紀にもわたってヘブライ人は思いやりも安息も見つけられないでいた。

ある学の有る男性は、思いやり深かったので、激しく情熱的に、妻を愛していた。

ある学の有る男性は、妻を盲信的にたたえていた。

ある学の有る男性は、妻を全面的に信じていた。

ある学の有る男性の妻は、自分の美しさと理解力にうぬぼれていた。

妻は、ある学の有る男性の超越性に嫉妬する様に成った。

妻は、ある学の有る男性を憎み始めた。

しばらくすると、妻は、老いぼれた醜い愚かな不道徳な男と一緒に成って、ある学の有る男性を捨てた。

ある学の有る男性を捨てた妻が、老いぼれた醜い愚かな不道徳な男と一緒に成った事は、妻への天罰の始まりに過ぎなかった。

ある学の有る男性は「私は、お前に与えた理解力と美しさを取り返す」と自分を捨てた妻に話した。

１年後、ある学の有る男性を捨てた妻は、知人が気づかないほど容姿が変わってしまった。

ある学の有る男性を捨てた妻は、痩せこけ、老いぼれた醜い愚かな不道徳な男を容姿に反映する様に成った。

３年後、ある学の有る男性を捨てた妻は醜く成った。

７年後、ある学の有る男性を捨てた妻は狂った。

前記は、１９世紀に起こった。

エリファス レヴィは、ある学の有る男性と、ある学の有る男性を捨てた妻の、両人を知っていた。

本物の魔術師は、熟練の医師の様に、宣告する。

一度、本物の魔術師が罪人に対して宣告したら、罪人は魔術師の宣告を不服として上訴できない。

本物の魔術師は、呪うのに、儀式も降霊術も必要無い。

本物の魔術師は、呪いたい相手と、同じテーブルで食事をするのを控えるだけで良い。

もし本物の魔術師が呪いたい相手と同じテーブルで食事をする必要に迫られた場合は、本物の魔術師は、呪いたい相手から塩を受け取ったり、呪いたい相手へ塩を与えなければ良い。

悪人の霊の魔術師の呪いは、星の光の流れによる、実際の毒殺に例えられるかもしれない。

悪人の霊の魔術師は、意思が物質的に離れていても有毒に成るまで、儀式によって意思を高める必要が有る。

ただし、「高等魔術の教理」で、すでに話した様に、悪人の霊の魔術師は、自分の有毒な意思で、自爆する場合が多い。

悪人の霊の魔術師は、自分の有毒な意思という地獄の機械仕掛けで、自爆して、最初の犠牲者に成る場合が多い。

悪人の霊の魔術師の、罪に成る呪いの儀式を、いくつかに特徴で分ける。

心臓の呪いは、呪いたい相手の髪の毛か衣服を入手する。

呪いたい相手を象徴していると思う動物を選ぶ。

呪いたい相手の髪の毛か衣服によって、動物と呪いたい相手に磁気的なつながりを作る。

呪いたい相手の名前を動物に与える。

魔術の短剣で、一撃で、動物を殺す。

動物の胸を切り開き、動物の心臓を切り取る。

動物の心臓がまだ動いているうちに、呪いたい相手と磁化された物で、動物の心臓を包む。

3日間、1時間ごとに、呪いたい相手の名前と呪いの言葉を唱えながら、釘(くぎ)か赤熱した針(はり)か長い棘(とげ)を動物の心臓に打ち込む。

呪いをかけた人は、動物の心臓を苦しめた分だけ、呪われた人の心臓が苦しむと思い込む。

また、動物の心臓を苦しめた分だけ、呪われた人の心臓が苦しむ場合が有る。

呪われた人は、衰弱して、やがて、未知の病で死ぬ。

いなかで利用されている、別の、心臓の呪いは、土星の香によって、悪い霊の呼び出しによって、憎しみの作業のために、釘(くぎ)を汚す。

呪いたい相手の足跡を辿(たど)る。

土か砂の上の、辿れる限り全ての、呪いたい相手の足跡に、十字に成る様に、釘を打つ。

心臓の呪いより憎むべき、ヒキガエルによる呪いは、大きなヒキガエルを選ぶ。

ヒキガエルに洗礼をする。

呪いたい相手の名前をヒキガエルに与える。

呪いの言葉を、唱えながら、ミサで清めたパンに記す。

呪いの言葉が記されたパンをヒキガエルに飲み込ませる。

呪いたい相手と磁化された物で、ヒキガエルを包み、呪いをかける人が唾を吐きかけた呪いたい相手の髪の毛で縛る。

呪いたい相手の家の門の境界に、または、呪いたい相手が日々通る必要が有る場所に、ヒキガエルを埋める。

呪いによって、ヒキガエルの肉体を操作していた霊のうち四大元素の霊が夢魔や吸血鬼に成り、呪われた人の夢にあらわれる。

呪いをかけた人に呪いを返すまで、ヒキガエルによる呪いは続く。

後記は、ロウ人形による呪いである。

中世の悪人の霊の魔術師は、神への冒涜によって師を喜ばせるために、洗礼の油やミサで清めたパンの灰を、少量のロウと混ぜて、汚れたロウを作った。

背教者の聖職者は教会の宝を悪人の霊の魔術師に贈る事を欠かさなかった。

可能な限り、呪いたい相手に似せて、汚れたロウで、ロウ人形を作る。

呪いたい相手がまとっている衣服と同じ衣服をロウ人形にまとわせる。

呪いたい相手が受けた洗礼といった秘跡をロウ人形に施す。

呪いの言葉を唱えて、ロウ人形の頭を呪う。

共感によって、呪いが、呪いたい相手に到達して苦しめる様に、日々ロウ人形を苦しめる想像をする。

もし呪いたい相手の髪の毛、血、歯、特に歯を入手できれば、ロウ人形による呪いは、より確かに成る。

前記は、「あなたは私に対して歯を持っている」という、ことわざの由来である。

邪視による呪いが存在する。

イタリアで邪視はイェッタトゥーラと呼ばれている。

内戦の時に、ある店主が、ある隣人を誤って告発した。

ある隣人は、拘留された後で自由に成ったが、地位を失った。

ある隣人の報復は、ある店主の店を日々 2 回、通る事だけであった。

ある隣人は、ある店主の店を凝視し、挨拶し、去った。

しばらくすると、ある店主は、邪視に耐えられなく成った。

ある店主は、赤字覚悟で店の商品を売り払い、引っ越しした。

一言で言うと、ある店主は、没落した。

脅迫は、現実の呪いである。

なぜなら、脅迫は、想像力に力強く作用する。

特に、脅迫されている人が隠された無限の力を信じ易い場合には、脅迫は想像力に力強く作用する。

地獄という恐ろしい脅迫は、何世紀にもわたる人への呪いである。

地獄という脅迫は、全ての悪徳と悪行を混ぜた物より、悪夢、口にするのも恐ろしい病、激しい狂気を創造した。

中世のヘルメスの美術家が、聖堂の門の、信じられない前代未聞の奇形のものの彫像によって、表現した物は、地獄という脅迫である。

ただし、無意味な脅迫の場合は、または、脅迫された人の道理的な誇りを踏みにじってしまい脅迫された人が反抗する場合は、または、脅迫が失敗して滑稽な場合

は、脅迫という呪いは、脅迫した、呪いをかけた人の意図と全く正反対の結果をもたらす。

　天国の威信を傷つける人は地獄に堕ちる。

　「つり合いは動きと命の法である」と論理的な人に話したい。

　「倫理道徳のつり合いである、精神のつり合いである、自由は、真理と虚偽の、永遠の不変の区別に基づいている」と論理的な人に話したい。

　「倫理道徳のつり合いである、精神のつり合いである、自由は、善と悪の、永遠の不変の区別に基づいている」と論理的な人に話したい。

　「神が人に自由意思を与えたため、人には自由意思が有るので、行動によって自分を真理と善の王国の中に置くか、無駄な労苦を意味する『シシュフォスの岩』の神話の様に、虚偽と悪による混乱の中に再び堕落して永遠にそのままに成る」と論理的な人に教えたい。

　前記の、考えを論理的な人は理解するであろう。

　もし真理と善を天国と呼ぶならば、もし虚偽と悪を地獄と呼ぶならば、論理的な人は自分の天国を信じるであろう。

　神の理想が、静かに、完全に、怒りや侮辱を近づけないで、地獄を統治している事を信じるであろう。

　なぜなら、後記の様に、論理的な人は理解するであろう。

　仮に原理的には自由の様に、地獄は永遠の物でも、実際には、地獄は魂の一時的な苦しみに過ぎない。

　なぜなら、地獄は罪のつぐないである。

　罪のつぐないという概念は、悪のつぐないと悪の破棄という概念を、必要な前提とする。

　前記を、神の教えを教える意図で、話したわけではない。

エリファス レヴィには、(公の祭司として、)神の教えを教える権利は無い。

前記を、あの世への恐怖による良心による呪いを、倫理道徳的に精神的に論理的に治すために、話した。

後記で、他人の怒りによる有害な感化力を免れる方法について話す。

第一に、論理的で正しく在る事である。

他人が怒る機会や理由を与えない事である。

大いに、合法的な義憤を恐れるべきである。

自分の過失を速やかに認め、つぐないなさい。

自分の過失を認め、つぐなった後でも、他人が怒り続けている場合、他人の怒りの源は他人の悪徳である。

他人の怒りの源である悪徳を知りなさい。

他人の怒りの源である悪徳とは正反対の、徳の磁気の流れに、自分を強く結びつけなさい。

前記で、他人の怒りによる呪いは、あなたに対して、力を持たなく成るであろう。

身につけた衣服は、手放す前に、用心して洗いなさい。

さもなければ、身につけた衣服は、燃やしなさい。

中古の衣服は、水、硫黄、カンフル、乳香、龍涎香で清めなさい。

呪いに対抗する大いなる方法は、呪いを恐れない事である。

呪いは、伝染病の様に作用する。

伝染病が伝染する時は、最初に、恐怖に襲われる。

呪いといった災いを恐れない秘訣は、呪いといった災いについて考えない事である。

呪いについて考えない事、という助言は完全に私利私欲ではない。

なぜなら、呪いといった魔術についての本の著者であるエリファス レヴィが、呪いについて考えない事、という助言を与えている。

神経質な大衆、意思の弱い大衆、軽々しく信じ込む大衆、興奮し易い大衆、迷信家、用心が足りない大衆、力が無い意思が無い大衆は、呪いといった魔術についての書物を読むなかれ、と力説する。

前記の、大衆は、呪いといった魔術についての書物を開いている場合は、呪いといった魔術についての書物を閉じなさい。

前記の、大衆は、呪いといった隠された知についての話を、聞かない様にしなさい。

前記の、大衆は、呪いを笑いものにしなさい。

前記の、大衆は、呪いを信じるなかれ。

ムードンの優れた教区司祭である、大いなるパンタグリュエル物語の著者の魔術師ラブレーが話している様に、「水を飲みなさい」。

愚者である大衆が呪いを恐れる原因を重視した後は、賢者についての番である。

運命が原因である場合を除いて、賢者は、呪いを恐れる必要が無い。

ただし、賢者は祭司である。

賢者は医者である。

だから、賢者は呪いを治す様に求められるかもしれない。

後記は、呪いを治す方法である。

賢者は、呪われた人に、呪いをかけた人へ、善行を施す様に説得する必要が有る。

賢者は、呪われた人に、呪いをかけた人が拒絶できない善行を施させる必要が有る。

賢者は、呪われた人に、呪いをかけた人と、直接的に、または、間接的に、塩をやり取りする様に導く必要が有る。

ヒキガエルによる呪いで、呪われたと信じている人は、生きているヒキガエルを角の箱に入れて持ち運ぶ必要が有る。

心臓の呪いを治すには、呪われた人は、セージとオニオンで味付けした子羊の心臓を食べて、金星のタリスマンか月のタリスマンとカンフルと塩を入れた袋を持ち運ぶ必要が有る。

ロウ人形による呪いを治すには、呪いのロウ人形より呪われた人に可能な限り似たロウ人形を作る必要が有る。

7 つのタリスマンを、呪いを解くロウ人形の首にかける必要が有る。

五芒星を表す大いなる pantacle の中央に、呪いを解くロウ人形を置く必要が有る。

7 日間、日々、四大元素の霊の感化力をそらすために 4 章の神の四大要素の呼び出し、神の四大元素の呼び出しを唱えた後で、油とバルサムを混ぜた物を、呪いを解くロウ人形に軽くすり込む必要が有る。

第 7 日目に、清めた火で、呪いを解くロウ人形を燃やす必要が有る。

前記で、呪いのロウ人形は全ての力を失うであろう事は確実なので呪われた人は安心して良い。

パラケルススの共感による医術については、すでに話した。

パラケルススは、ロウ人形の手足に治療を施し(て、実際の患者の肉体の手足を治し)た。

パラケルススは、傷を治すために、傷から出血した血を手術した。

パラケルススの共感による医術であれば、劇薬を利用できた。

そのため、パラケルススの主な特効薬は、猛毒の塩化第二水銀と硫酸であった。

ホメオパシーは、パラケルススの論理への回帰であると信じている。

ホメオパシーは、パラケルススの知の実践への回帰であると信じている。

前記を、隠された薬だけにささげた特別な論文で、話すつもりである。

子の未来を決めつける親による契約は、いくら強く非難してもし過ぎる事は無い、呪いである。

例えば、白衣にささげられた子(、修道会に入れられた子)が、幸せに成る事は、ほとんど無い。

(修道会に入れられるといった)独身生活にささげられた子は、普通、放蕩に陥るか、自暴自棄に成って狂う。

人が、運命をねじ曲げるのは許されない。

ましてや、人が、自由の正当な行使を束縛するのは許されない。

１６章の補足として、マンドラゴラと人造人間について少し話す。

いくつかの魔術書では、マンドラゴラや人造人間を、呪いのロウ人形と混同している。

自然の、マンドラゴラは、根が、多かれ少なかれ、人の形か男性器の形をしている。

マンドラゴラは、麻薬に成る。

古代人は、マンドラゴラに媚薬の力が有る、と考えた。

テッサリアの魔女は、媚薬を作るために、マンドラゴラを探し求めた。

マンドラゴラは、人の、地上における源の、へその緒の様な跡であろうか？

マンドラゴラは、人の、地上における源の、へその緒の様な跡である、とは真剣に断言はしない。

しかし、人が、地の泥からあらわれたのは、確実である。

(泥は土と水の混合物である。)

人の最初の形は、(マンドラゴラの様な、)人の粗い形であったに違いない。

前記は、自然の類推可能性によって、少なくとも１つの可能性として、必然的に許される。

前記の場合、最初の人は、巨人の、感覚が有るマンドラゴラの様な一族であった。

最初の人は、太陽によって動かされていた。

最初の人は、根を土から引き離したマンドラゴラの様な者であった。

前記の仮定は、第一原因である神の、創造する意思と神意の協力を、積極的に前提とする。

第一原因を神と呼ぶのは理にかなっている。

前記の考えによって、ある錬金術師は、マンドラゴラを育てた。

ある錬金術師は、マンドラゴラの根を人間化するために、マンドラゴラによる女性無しの人造人間を創造するために、豊かな土と太陽によって、マンドラゴラによる人造人間の創造を試みた。

別の錬金術師は、人を動物の総合であると考えた。

別の錬金術師は、マンドラゴラによる人造人間の創造をあきらめた。

別の錬金術師は、ある動物を別の種類の動物と交配させ(て人造人間の創造を試み)た。

別の錬金術師は、人の精液という種を、動物という土にまい(て人造人間の創造を試み)た。

別の錬金術師は、人造人間ではない動物の雑種と恥じるべき罪を創造するだけに終わった。

他の錬金術師は、電気の機械によって人造人間の創造を試みた。

アルベルトゥス マグヌスが創造した知的な人造人間を、トマス アクィナスは杖の一撃で破壊した、なぜなら、アルベルトゥス マグヌスの人造人間の答えにトマス アクィナスは迷惑した、という話が存在する。

前記の話は、例え話である。

アルベルトゥス マグヌスの人造人間は、最初のスコラ哲学の例えである。

トマス アクィナスは神学大全で最初のスコラ哲学を破壊した。

トマス アクィナスは大胆な変革者である。

トマス アクィナスは、専制的な神という概念の代わりに、神の絶対的な法という概念をもたらした。

トマス アクィナスは「神が望むから正しいのではなく、正しいから神が望む」という言葉を話して、専制的な神という概念ではなく、神の絶対的な法という概念をもたらした。

古代人の本物の人造人間の秘密は隠されていた。

メスメルは人造人間の秘密を大胆に明かした。

人造人間の秘密とは、四大元素の霊の助けによって、魔術師の意思を他の肉体に拡張する事であった。

現代的に言うと、わかり易く言うと、四大元素の霊の助けによって、魔術師の意思を他の肉体に拡張する事とは、磁気の催眠術の被催眠者といったものに磁気を受容させる事である。

１７

星々の文字

　地獄に最早、用は無い。

　黒魔術の地下室を超えた後に、日の光に戻り、自由に新鮮な空気を吸う。
マタイによる福音１６章２３節「退けサタン！」

　サタンを否定する！

　サタンの虚飾を拒絶する！

　サタンのわざを否定する！

　サタンの醜さを拒絶する！

　サタンの劣悪さを拒絶する！

　サタンの無価値を拒絶する！

　サタンの詐欺を拒絶する！

　ルカによる福音１０章１８節で、大いなる祖イエスは「私はサタンが雷の様に天から堕ちるのを見た」と話している。

　キリスト教の伝説では、サタンは、改心して、サタンという竜の頭を聖母マリアの足の下に優しく置く。

　サタンは無知と未解明の例えである。

　サタンとは、非論理的な物、盲信、狂信である。

　サタンとは、宗教裁判、宗教裁判の地獄である。

　サタンとは、約８千人を殺したスペインの宗教裁判所の長官トルケマダの神、史上最悪の法王アレクサンデル６世の神である。

サタンは、幼子の遊戯に成った。

サタンの行きつく先は道化人形の隣である。

サタンは、異質な劇の珍妙な役者に過ぎない。

サタンは、宗教を騙(かた)る売買の業界の、教育の手段に過ぎない。

タロットの１６ページ目の絵はサタンの神殿の没落を表す。

タロットの１７ページ目の上に大いなる優美な象徴が見つかる。

タロットの１７ページ目には裸の女性、若々しい神の処女が描かれている。

女神は金の水差しと銀の水差しから普遍の命の精髄を地の上に注いでいる。

女神の近くには花の咲いた低木が有る。

プシュケの蝶が花の咲いた低木の上で休んでいる。

女神の上には八芒星が輝いている。

八芒星のまわりに７つの星が有る。

「私は永遠の命を信じる！」

「私は永遠の命を信じる！」は、キリスト教の教えの究極である。

「私は永遠の命を信じる！」と話すだけで、信仰の告白に成る。

古代人は、星々という無数の光に満ちた天空の静かな安らかな広がりと、地上の騒乱と闇を比較した。

そして、古代人は、星の光という金の文字で記された、天空という美しい書物の中に、運命の謎の究極の言葉が見つかると信じた。

想像の中で、古代人は、天空という神の書物の、星々という輝く点の間に調和させる線を記した。

カルデアの羊飼いが記した最初の星座が、カバラのアルファベットであるヘブライ文字に成った、と言われている。

星々の文字が源であるヘブライ文字といったアルファベットは、最初は線で表された。

そして、星々の文字が源であるヘブライ文字といったアルファベットは、象形文字的な形をまとった。

アルファベットの文字についての非常に興味深い論文の著者 M. Moreau de Dammartin によれば、星々の文字が源であるヘブライ文字といったアルファベットによって、古代の魔術師はタロットの絵を決めた。

タロットは本来、祭司の書物である。

タロットは最初の書物である。

M. Moreau de Dammartin の考えでは、十二支の子(ね)ヘブライ文字のא(アレフ)、ギリシャ文字の A (アルファ)を、タロットの 1 ページ目では、魔術師の形で象形文字的に表す。

十二支の子(ね)ヘブライ文字のא(アレフ)、ギリシャ文字の A (アルファ)といった形の源は、東半球の象徴である天の魚である魚座の近くに有る、鶴(つる)座である。

十二支の丑、ヘブライ文字のב(ベト)、ラテン文字の B は、タロットの 2 ページ目の女性の法王ヨハンナまたは女神ユノーに対応する。

十二支の丑、ヘブライ文字のב(ベト)、ラテン文字の B といった形の源は、牡羊座の頭である。

十二支の寅、ヘブライ文字のג(ギメル)、ラテン文字の G を、タロットの 3 ページ目では、女帝で表す。

(寅は矢の象形文字であると言われている。)

十二支の寅、ヘブライ文字のג(ギメル)、ラテン文字の G といった形の源は、大熊座(の北斗七星)である。

など。

1 回以上、名前を挙げた、カバリストのガファレルは、全ての星座がヘブライ文字の形をしている、平面天体図を作った。

しかし、ガファレルの平面天体図の星座の形には根拠が無い場合が多い。

例えば、ガファレルの平面天体図で、単一の星をו(ヴァウ)やז(ザイン)ではなくד(ダレト)で表す理由を理解できない。

例えば、ガファレルの平面天体図で、４ つの星のまとまりをת(タウ)、または、ח(ケト)、または、א(アレフ)ではなくה(ヘー)で表す理由を理解できない。

前記の理由から、ガファレルの平面天体図を本書「高等魔術の祭儀」に記すのを思いとどまった。

さらに、ガファレルの平面天体図は稀覯本ではない。

世界の宗教と迷信についての Montfauçon の作品に、ガファレルの平面天体図は含まれている。

神秘主義者 Eckartshausen の魔術についての論文に、ガファレルの平面天体図は含まれている。

学者達は最初のアルファベットの文字の形について意見が一致していない。

ゴシックの原物が失われたのは残念である、イタリアのタロットは、２ ２ 枚の大アルカナが、Assyrian alphabet として知られているバビロン捕囚後のヘブライ文字と、絵、形が同じである。

しかし、イタリアのタロットと、絵、形が異なる、古いタロットの断片が存在する。

調査については推測するべきではない。

新しい決定的な発見を待って、判断を保留する。

星々のアルファベットについては、想像で任意の形をとる様に見える雲の形の様に、直感的な物であると信じている。

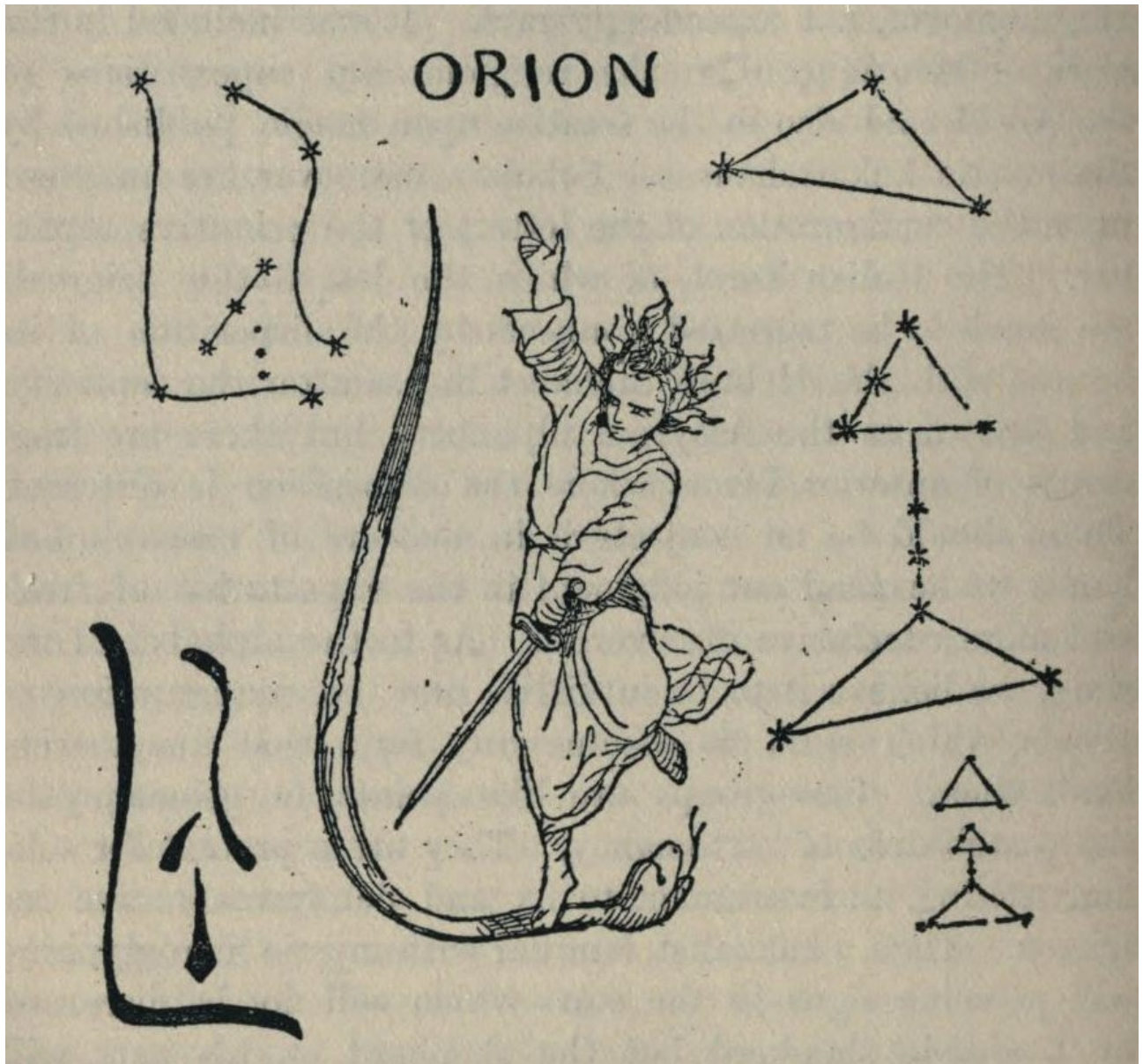
星のまとまりは、土占いの点のまとまりの様な物である、または、カード占いのカードのまとまりの様な物である。

星々は磁気の自己催眠のための名目である。

星々は自然の直感を固定して決定するための道具である。

前記の様にして、神秘の象徴タロットを知っているカバリストは、ただの羊飼いが気づかない、星々の中の象徴に気づく。

しかし、羊飼いは、カバリストが見逃す、組み合わせに気づく。

いなかの大衆は、オリオン座を、オリオンの帯と剣と見る代わりに、熊手と見る。

カバリストは、オリオン座を、エゼキエルの神秘の全てと見る。

３ 組の ３ つ１ 組といった １ ０ のセフィロト。

４ つの星々により形成されている中央の三角形。

並んでいる ３ つの星による י(イョッド)。

ベレシート、創世記の神秘を一緒に成って表す ２ つの形。

メルカバー、戦車の車輪に成って神の戦車を完成する 4 つの星々。

カバリストは、オリオン座を、大きな逆さの ד(ダレト)の中の、י(イョッド)の上の ג(ギメル)と見る。

カバリストは、オリオン座を、善が最終的に勝利する、善と悪の戦いの象徴と見る。

事実、י(イョッド)の上の ג(ギメル)は、統一がもたらす 3 つ 1 組である。

י(イョッド)の上の ג(ギメル)は、神の言葉イエスの表れである。

逆さの ד(ダレト)は、自己増殖した悪の 2 つ 1 組を含む 3 つ 1 組である。

前記の様に考えると、カバリストは、オリオン座を、天使ミカエルと竜の戦いと見る。

前記の様に理解すると、カバリストは、オリオン座のあらわれを、勝利と幸せの先触れと見る。

天空の凝視は想像力を強める。

天空は人の思考に応(こた)えてくれる。

天空の最初の観察者が、星から星へ心の中で引いた線が、幾何学の最初の概念を人に与えたに違いない。

天空を見る人の魂が乱れているか安らいでいるかに応じて、星々は脅威的に燃えるか希望に輝く。

天空は人の魂の鏡である。

人は象徴を星々の中に読み取っているつもりであるが、実際は、人は印象を自分自身の中に読み取っている。

ガファレルは、天空という書物による予言を国々の運命に応用した。

ガファレルは「古代人が悪の前兆の象徴の全てを天空の北の領域に配置したのには意味が有る」と話している。

全ての時代の、不運は、北から来て、南に侵入して、地上に広まる。

後記の様に、ガファレルは話している。「前記の理由から、」

「古代人は、天空の北の部分で、大熊座と小熊座という 2 つの熊の近くに、竜座という蛇または竜を配置した。
なぜなら、熊、蛇といった動物は、暴虐、強奪、全ての迫害の象徴である。
事実、歴史を見ると、全ての大いなる破壊は北から起こるのが見られる。
ネブカドネザル 2 世や Salmanasor によって、そそのかされた、アッシリア人やカルデア人は、世界で無上に輝かしい無上に神聖なエルサレム神殿と町エルサレムを破壊し、神が特別に神を父と呼ばせて保護してきたヘブライ人を完全に権力の座から引き下ろして、破壊は北から起こるという真理を豊富に表した。
もう 1 つのエルサレムと言える、祝福されたローマは、時折、悪の北の民族の暴力を経験してきた。
ローマは、西ゴート族の王アラリック 1 世、ヴァンダル族とアラン族の王ガイセリック、フン族の王アッティラ、ゴート族の他の諸王、フン族の他の諸王、ヴァンダル族の他の諸王、アラン族の諸王が、残虐で、ローマの祭壇を破壊し、ローマの誇る建物を塔が基礎に成るまで破壊するのを見た……。
天空の書物の秘密の中に、北の側に、不運を読み取れる。
なぜなら、『北は全ての悪を広める』、『北は全ての不運を広める』、『北は全ての災いを広める』。『北は全ての不運を広める』の『広める』を意味するラテン語 pandetur は、ヘブライ語の הפתחという言葉をラテン語に訳した物である。
ヘブライ語の הפתחには『広める』という意味と『表す』という意味や『記す』という意味が有る。
『北は全ての不運を広める』という予言は『北は全ての不運を表す』や『北は全ての不運を記す』という意味にも解釈できる。
『世界の全ての不運は北の天空に記されている』」

前記の様に、ガファレルの言葉の一部を長々と書き写した。

なぜなら、ガファレルの「北は全ての不運を広める」という言葉は１９世紀のヨーロッパに応用できる。

再び、北(の、ロシア)はヨーロッパを脅(おびや)かしている様に思われる。

※前記は、ロシアとヨーロッパの戦いである、クリミア戦争の前に書かれた。

しかし、南の太陽が北の霜(しも)を溶かすのは運命である。

南の太陽の光があらわれると、北の闇は自然と消える。

「北は全ての不運を広める。しかし、南の太陽が北の霜(しも)を溶かす。南の太陽の光があらわれると、北の闇は自然と消える」というのが、予言の最終的な言葉である。

「北は全ての不運を広める。しかし、南の太陽が北の霜(しも)を溶かす。南の太陽の光があらわれると、北の闇は自然と消える」というのが、未来の秘密である。

ガファレルは、星々に記された、いくつかの予言を話している。

例えば、オスマン帝国の衰退の進行である。

しかし、すでに話した様に、ガファレルの平面天体図の星座の形には根拠が無い。

ガファレルは、ヘブライ人のカバリストのラビの Chomer から星々による予言を教わったと話しているが、Chomer の考えを正しく理解できたとはガファレル自身が認めてはいない。

後記は、古代の占星術師による、黄道１２星座と、悪の霊の名前、または、善の霊の名前の対応の一覧である。

黄道１２星座という象徴は多様な天空の感化力と対応しているのは知られている。

結果として、黄道１２星座は、善の１年間の選択、または、悪の１年間の選択を意味する。

後記は、黄道１２星座、悪の霊の名前、善の霊の名前の対応の一覧である。

牡羊座、SATAARAN、Sarahiel。

牡牛座、BAGDAL、Araziel。

双子座、SAGRAS、Saraïel。

蟹座、RAHDAR、Phakiel。

獅子座、SAGHAM、Seratiel。

乙女座、IADARA、Schaltiel。

天秤座、GRASGARBEN、Hadakiel。

蠍（さそり）座、RIEHOL、Saissaiel。

射手座、VHNORI、Saritaiel。

山羊座、SAGDALON、Semakiel。

水瓶座、ARCHER、Ssakmakiel。

魚座、RASAMASA、Vacabiel。

天空を読み取るつもりである賢者は、月の日を観察する必要が有る。

月の日の感化力は占星術では非常に大きい。

月は地球の磁気の流体を連続的に引き寄せ斥(しりぞ)ける。

月は海の満ち引きをもたらす。

魔術師は、月の日、月の形を熟知する必要が有る。

魔術師は、月の日時、月の形の区別が可能である必要が有る。

新月は、全ての魔術の作業を始めるのに適している。

最初の半月、上弦の月から満月までの月の感化力は温(あたた)かい。

満月から下弦の月までの月の感化力は乾(かわ)かす。

下弦の月から次の新月の前までの月の感化力は冷たい。

後記は、タロットの２２枚の大アルカナと７惑星の象徴による２９日の月の日の特別な言葉である。

１。

魔術師。

月の第１日は、月自体が創造された日である。

月の第１日は、創世記の第４日である。

月の第１日は、精神的な作業にささげられている。

月の第１日は、時機が適切な変革に適している。

２。

女性の法王ヨハンナまたは隠された知。

月の第２日の霊はEnedielである。

月の第２日は、創世記の第５日である。

なぜなら、創世記の第４日に月は創造された。

創世記の第５日は、鳥と魚が創造された日である。

鳥と魚は、魔術の類推可能性の、生きている象徴である。

鳥と魚は、ヘルメスの普遍の考えの、生きている象徴である。

創世記の第５日に、神の言葉の形成によって、鳥が風に、魚が水に満ちた。

風と水は、賢者の水銀の、四大元素的な象徴である。

風と水は、知と言葉の、四大元素的な象徴である。

月の第２日は、啓示、秘伝伝授、知の大いなる発見に適している。

3 。

天の母または女帝。

月の第 3 日、創世記の第 6 日は、人が創造された日である。

創世記の第 6 日は月の第 3 日なので、数 3 と結びつけて月を表す時には、カバラでは、月を母と呼んでいる。

月の第 3 日は、繁殖、創造に適している。

月の第 3 日は、一般的に、肉体的な創造、または、精神的な創造の全てに適している。

4 。

皇帝または統治者。

月の第 4 日は、破壊をもたらす。

月の第 4 日は、正しい人アベルを殺したカインの誕生日である。

月の第 4 日は、良い意味で不公平な圧制的な作業に適している。

5 。

法王または秘儀祭司。

月の第 5 日は、幸運な日である。

月の第 5 日は、正しい人アベルの誕生日である。

６。

恋人または自由。

月の第６日は、誇りの日である。

月の第６日は、レメクの誕生日である。

創世記４章２３節から２４節で、レメクは妻達に「私は私を傷つけた人を殺し、私を傷つけた若い人を殺す。もしカインのための報復が７倍であれば、レメクのための報復は７７倍である」と話している。

月の第６日は、反逆に適している。

７。

戦車。

月の第７日は、自分の名前をイスラエルの７つの神の町の最初の１つに与えた、ヘブロンの誕生日である。

月の第７日は、宗教、祈り、成功の日である。

８。

正義の女神。

月の第８日は、正しい人アベルが殺された日である。

月の第８日は、罪をつぐなう日である。

９。

長老または隠者。

月の第９日は、創世記５章２７節の９６９歳まで生きたメトシェラの誕生日である。

月の第 ９ 日は、子孫への祝福の日である。

１ ０ 。

エゼキエルの運命の車輪。

月の第 １ ０ 日は、獣の様に成った、ネブカドネザル ２ 世の誕生日である。

獣の統治。

月の第 １ ０ 日は、悪に致命的な日である。

１ １ 。

強さ。

月の第 １ １ 日は、ノアの誕生日である。

夢といった、月の第 １ １ 日に見た物は人を惑わせる。

月の第 １ １ 日に生まれた子には、月の第 １ １ 日は、健康と長命の日の １ つである。

１ ２ 。

犠牲者または吊るされた男。

月の第 １ ２ 日は、預言者サムエルの誕生日である。

月の第 １ ２ 日は、預言、予言、カバラの日である。

月の第 １ ２ 日は、「大いなる務め」の成就に適している。

１ ３ 。

死の女性。

月の第 １ ３ 日は、ハムの呪われた子、カナン人の祖、カナンの誕生日である。

月の第１３日は、破壊をもたらす日である。

月の第１３日は、悪に致命的な日である。

１４。

節制の天使。

月の第１４日は、ノアへの祝福の日である。

ウリエルの位階の天使カシエルが月の第１４日を統治している。

(

ウリエルはヘブライ語で「神の光」を意味する。

カシエルはヘブライ語で「神の速さ」または「神は私の怒り」を意味する。

)

１５。

ティフォンまたは悪魔。

月の第１５日は、奴隷の子である、イシュマエルの誕生日である。

(イシュマエルはヘブライ語で「神は聞く」を意味する。)

月の第１５日は、排斥と追放の日である。

１６。

打たれた塔。

月の第１６日は、ヤコブとエサウの誕生日である。

月の第１６日は、ヤコブが長子に成る予定の運命の日である。

月の第１６日は、エサウが長子の地位を失う予定の運命の日である。

１７。

光輝く星。

創世記１９章の、天からの火がソドムとゴモラを燃やす。

月の第１７日は、善人を救い、悪人を破滅させる日である。

月の第１７日が土曜であると、悪人にとって危険である。

蠍(さそり)座が統治している。

１８。

月。

月の第１８日は、イサクの誕生日である。

アブラハムの妻サラの勝利。

月の第１８日は、夫婦の愛と善き希望の日である。

１９。

太陽。

月の第１９日は、エジプトの王ファラオの誕生日である。

月の第１９日は、権力者の罪に応じて、地上の権力者に致命的な日である。

月の第１９日は、王の功徳に応じて、地の王者に利益をもたらす日である。

２０。

審判。

月の第２０日は、3日後に巨大な魚の口から救われた、神の審判の仲介者である、預言者ヨナの誕生日である。

月の第２０日は、神の啓示に適している。

２１。

世界。

月の第２１日は、この世の王である、サウルの誕生日である。

精神と理性には危うい。

２２。

土星の感化。

月の第２２日は、ヨブの誕生日である。

月の第２２日は、試練と労苦の日である。

２３。

金星の感化。

月の第２３日は、母の死の代わりに生まれた、ベニヤミンの誕生日である。

月の第２３日は、選択と思いやりの日である。

２４。

木星の感化。

月の第２４日は、ヤペテの誕生日である。

２５。

水星の感化。

エジプトの十の災いのうち、エジプト人とエジプト人の動物の初子を殺した、第１０の災い。

２６。

火星の感化。

ヘブライ人の出エジプトという救いと、紅海を渡ったヘブライ人。

２７。

月の女神ディアナまたはヘカテーの感化。

ユダ マカバイの輝かしい勝利。

２８。

太陽の感化。

士師記１６章３節で、サムソンはガザの門を運び去った。

月の第２８日は、強さと救い、解放の日である。

２９。

タロットの愚者。

月の第２９日は、全ての物が失敗する日である。

前記の、John Belot 達がヘブライ人のカバリストから取り入れた月の日のラビの言葉の一覧から、古代の達道者達は、結果から原因へ、事実から仮定できる感化力へ、判断したが、隠された知の論理の完全な範囲内である事が理解できるであろう。

タロットの普遍のアルファベットを形成する大アルカナという２２の鍵には多様な意味が含まれている事と、共に、エリファス レヴィの説が真理である事が理解できるであろう。

エリファス レヴィの説では、トート、エノク、カドモスの象徴の書物タロットに、カバラと魔術の全ての秘密、古代の世界の全ての神秘、祖師達の全ての知、古代の全ての歴史的な口伝が含まれている。

名前の文字での占いによる、天の星占いを行う簡単な方法を話そう。

ガファレルの星占いの考えと、エリファス レヴィの星占いの考えを、合わせた、星占いである。

ガファレルとエリファス レヴィの星占いは驚くべき厳密な深い結果をもたらす。

黒いカードを用意する。

占いたいものの名前で黒いカードを切り抜く。

占星術師の目から離れるほど先太りの円筒の先に黒いカードをつける。

黒いカードがついた円筒で、東、南、西、北の順に夜に星を見る。

占いたいものの名前で切り抜かれた部分に見えた星々をヘブライ文字の形で全て記録する。

東西南北の各方位で見えた星々のヘブライ文字をヘブライ数字として数に変える。

(ヘブライ数字では数をヘブライ文字で表す。)

東西南北の各方位で見えた星々のヘブライ文字の数を合計する。

前記を、東西南北で、くりかえす。

前記で、東西南北の各方位で見えた星々のヘブライ文字の数の合計を計算できた。

東西南北の各方位で見えた星々のヘブライ文字の数の合計を、占いたいものの名前の数の合計と足す。

東西南北の各方位で見えた星々のヘブライ文字の数と占いたいものの名前の数の合計をヘブライ数字としてヘブライ文字に変える。

前記を、東西南北で、くり返す。

前記で、東西南北の各方位で見えた星々を記録できているはずである。

平面天体図で、東西南北の各方位で見えた星々の名前を見つける。

東西南北の各方位で見えた星々を、星の大きさと明るさで、分ける。

東西南北の各方位で見えた星々のうち、最も輝いている星を、占星術の北極星として選ぶ。

エジプトの平面天体図で、星を統治している霊の名前と姿を見つける。

エジプトの平面天体図は、デュピュイの大作の図表集の中に見つかる。

前記で、占いたいものの名前で切り抜かれた部分に見えた幸運や不運の象徴である星々と星々の感化力を知るであろう。

幼子の時の運命の名前は、東に記されている。

若い大人の時の運命の名前は、南に記されている。

熟した大人の時の運命の名前は、西に記されている。

長老の時の運命の名前は、北に記されている。

一生を通じた運命の名前は、星々から、星々のヘブライ文字の数と名前の数の合計から、得られる。

ガファレルとエリファス レヴィの星占いは、簡潔で、易しく、少しの計算が必要なだけである。

ガファレルとエリファス レヴィの星占いは、最古の星占いに通じている。

ガファレルとエリファス レヴィの星占いは、明らかに、原初の祖師の魔術である。

前記を、ガファレルとラビの Chomer の書物を研究する事によって理解できるであろう。

古代のヘブライ人のカバリストは、名前の文字での占いによる、星占いを実践した。

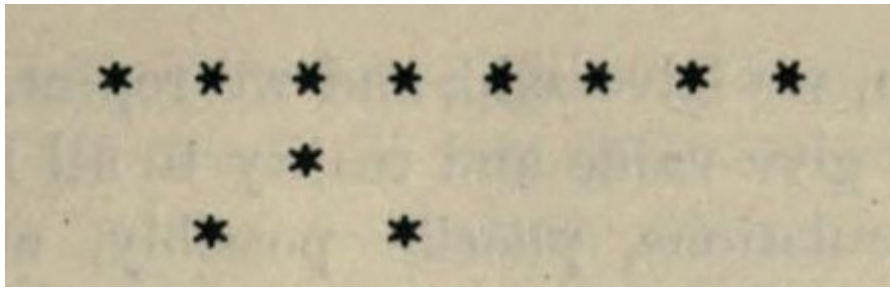
前記を、ラビのChomer、ラビのKapol、ラビのAbjudanといったカバラの達道者達が保存してきた記録が証明している。

預言者達が様々な国々に対して話した脅威的な預言は、天球と地球の永遠の対応で、国々の上に見つかった、星々の文字に基づいている。

前記から、ギリシャの天空に、ギリシャを意味するヘブライ語ヤワン、YaVaN、יוןまたはיווが記された。

ギリシャを意味するヘブライ語ヤワンを、ヘブライ数字として数に変えて、「破壊された」、「荒廃した」を意味するヘブライ語カラブ、KhaRáV、KhaRaB、חרבという言葉を得た。

前記から、１２周期後にギリシャは破壊されて荒廃すると推測された。

後記の形の、１１の星々を、カバリスト達は、ネブカドネザル２世がエルサレムとエルサレム神殿を略奪する少し前に、エルサレム神殿の上に認めた。

前記の、１ １ の星々を、הבשיחという言葉が含んでいた。

הבשיחという言葉は、南から西へ記された。

הבשיחという言葉は、思いやり無く見捨てられる事を意味する。

הבשיחという言葉は、ヘブライ数字として数に変えて、合計すると、４ ２ ３ に成る。

４ ２ ３ は、エルサレム神殿の存続の期間である。

רוב、Roev、Roeb という ３ 文字に含まれる ４ つの星々の形で、ペルシャの国々とアッシリアは滅亡を予言された。

ペルシャの国々とアッシリアの致命的な期間は ２ ０ ８ 年間であった。

רוב、Roev、Roeb を、ヘブライ数字として数に変えて、合計すると、２ ０ ８ に成る。

４ つの星々がカバリストのラビ達にアレクサンダーの国の没落と分裂の期間を予言した。

פרד、Parad という言葉が、４ つの星々を含んでいた。

פרד、Parad という言葉は、分裂を意味する。

פרד、Parad という言葉を、ヘブライ数字として数に変えて、合計すると、２ ８ ４ に成る。

２ ８ ４ は、根から枝までの、アレクサンダーの国の存続期間である。

ラビの Chomer によれば、４ つの星々が前もってコンスタンティノープルでの、オスマン帝国の運命を予定し予言した。

כאה、カアーという言葉が、４ つの星々を含んでいた。

כאה、カアーという言葉は、「弱まる」、「終わりに近づく」を意味する。

　כאה、カアーという言葉のうち、א、アレフという文字が強く輝いて、首都コンスタンティノープルを表し、ヘブライ数字として １ ではなく千を表した。

　כאה、カアーという言葉は、א、アレフを １ ではなく千として、ヘブライ数字として数に変えて、合計すると、１０２５ に成る。

　メフメト ２ 世がコンスタンティノープルを奪取した時点から、１０２５、数える必要が有る。

　１０２５ という事は、コンスタンティノープルを首都とするイスラム教の弱まった国が数世紀、存続して持ちこたえる計算である。

　１９ 世紀に、ヨーロッパの連合の全てが、コンスタンティノープルを首都とするイスラム教の国を支えた。

　ダニエル書 ５ 章で、ベルシャザルは、酒に酔っていた時に、たいまつの光によって、宮殿の壁の上に「メネ メネ テケル ウパルシン」、「メネ テケル ペレス」、「数えられた。量られた。分けられた」と記されるのを見た。

　ダニエル書 ５ 章で、ベルシャザルは、ラビの占いでの直感と同じ直感で、「メネ メネ テケル ウパルシン」、「メネ テケル ペレス」、「数えられた。量られた。分けられた」と記されるのを見た。

　疑い無く、ヘブライ人の占星術師がベルシャザルに星々から読み取る秘伝を伝授していた。

　ベルシャザルは天空の星々から読み取る様に、無意識に直感的に、夜の宴のランプから読み取った。

　ベルシャザルは、想像の中で、「メネ メネ テケル ウパルシン」、「メネ テケル ペレス」、「数えられた。量られた。分けられた」という ３ つの言葉を形成した。

すぐに、「メネ メネ テケル ウパルシン」、「メネ テケル ペレス」、「数えられた。量られた。分けられた」という 3 つの言葉は、想像力によって、ベルシャザルの目に焼きついて消えなく成った。

そして、ベルシャザルの目には、宴の全ての光は印象が薄く成った。

「サルダナパールの死」の様な終わりを、町バビロンが敵に包囲されているのに放蕩に身を任せたベルシャザル王に、予言するのは容易であった。

結論すると、すでに話した様に、くり返すと、磁気の直感だけが全てのカバラ的な占星術的な計算に意味と実現を与える。

直感無しで、霊感無しで、冷めた好奇心で、強い意思無しで、占星術を行った場合は、幼稚な場当たり的な完全にまぐれな物と成る。

１８

ほれ薬と磁気の催眠

誘惑術の国テッサリアに挑もう。

テッサリアでアプレイウスは、オデュッセウスの戦友の様に、惑わされて、ロバへの変身という、恥じるべき変身をした。

テッサリアでは、飛ぶ鳥、草の中で羽をうならせている昆虫、木、花といった全てが魔術的である。

テッサリアでは、月光の下で、ほれ薬という毒が作られる。

テッサリアでは、ストリゲスによって、女神カリテスの様な若さと美しさをストリゲスに与える呪文が作られる。

おおっ！　若い人達よ！　用心しなさい！

事実、口伝を信頼して良いのであれば、特に、テッサリアで、理性を毒する技、ほれ薬の技は、開発されて開花した。

磁気は、ほれ薬の最重要な役割を務める。

催眠は、ほれ薬の最重要な役割を務める。

なぜなら、刺激性植物または麻酔性植物や、魅惑の有害動物性物質の、全ての力は、誘惑術の儀式から得られる。

誘惑術の儀式とは、ほれ薬や飲み薬を用意する時に、悪人の霊の魔術師が行った犠牲や話した言葉である。

刺激性物質や、燐（リン）を多く含む物質は、自然の、ほれ薬である。

神経系に強く作用する物質は全て性欲を強めるであろう。

熟練の忍耐強い意思を持つ人が、神経系に強く作用する物質の自然な、ほれ薬としての性質を導き感化を与える方法を知れば、自分の利益のために他人の性欲を利用できるし、独立した他人を自分の快楽の道具にすぐに変えられるであろう。

ほれ薬の感化から身を守る必要が有る。

１８章を書くエリファス レヴィの目的は、武器を弱者に与える事である。

後記は、敵の手段である。

ほれられたい男性は、故意に女性の目に留まり、故意に自身を女性の想像に留めさせる必要が有る。

故意に異性の目に留まり、故意に自身を異性の想像に留めさせる、という背徳の手段は、女性には不要な手段と仮定すれば、男性だけに当てはまる。

ほれられたい男性は、女性に、敬意、驚き、恐怖、他に無いのであれば不快を抱かせる必要が有る。

何としても、ほれられたい男性は、自身を女性の目に普通の男性ではない様に見えさせる必要が有る。

ほれられたい男性は、女性の意に反しても、女性の記憶、思考、夢にあらわれる様にする必要が有る。

小説「クラリッサ」で、ラヴレースといった人は、クラリッサといった人が受容する理想ではない。

しかし、女性は、非難するために、絶え間無く背徳な男性について思考する。

女性は、背徳な男性による犠牲者である女性達を思いやって、絶え間無く背徳な男性について思考する。

女性は、背徳な男性が改心して悔い改める事を望んで、絶え間無く背徳な男性について思考する。

次に、女性は、献身と、ゆるしによって、背徳な男性が改心する事を求める。

やがて、秘密のうぬぼれが女性に「ラヴレースといった背徳な男性の愛を引きつける事ができたら、何と偉大であろう！」とささやく。

秘密のうぬぼれが女性に「ラヴレースといった背徳な男性を愛する事ができたら、何と偉大であろう！」とささやく。

秘密のうぬぼれが女性に「ラヴレースといった背徳な男性を我慢する事ができたら、何と偉大であろう！」とささやく。

そして、見なさい！　クラリッサといった女性は、ラヴレースといった背徳な男性を愛してしまっている事に驚く！

女性は自分をとがめる。

女性は自分を恥じ赤面する。

何度も、女性は背徳な男性への愛を絶つが、さらに何度も、女性は背徳な男性を愛してしまう。

最後には、女性は背徳な男性に抵抗しなく成る。

現代の神秘主義が描く様に、仮に、天使が女性であれば、実に、神ヤハウェは賢明で用心深い父として悪魔サタンを天から追放するという行動をした。

いけない男性であると思って、ほれた男性が堅苦しいだけの男性であるとわかる事は、優しい女性のうぬぼれへの重い詐欺である。

天使の様な女性は「(悪魔であるかの様に、いけない男性と思わせておいて、)あなたは悪魔(であるかの様な、いけない男性)ではないのね！」と話し軽蔑して、いけない男性であると誤解させた男性を捨てる。

もし男性が天使の様な女性を誘惑したいのであれば、男性は可能な限り上手に悪魔(であるかの様な、いけない男性)のふりをしなさい。

女性は、堅苦しいだけの男性には、何も許さない。

女性は「男性は、どんな事を女性にするのかしら？」と話す。

女性は「男性は、女性は用心が足りないと思っているのかしら？」と話す。

いけない男性には、全てが許される。

女性は「いけない男性に何を期待すれば良いの？　いけない男性には何も期待しないわ！」と話す。

堅苦しいだけの男性は、男性が誘惑したいとは思わない様な女性にだけ、もてる。

堅苦しいだけの男性は、男性が誘惑したいと思う様な女性には、もてない。

例外無く、女性は、いけない男性に、ほれる。

正反対に、男性は、天使の様な女性に、ほれる。

女性は、いけない男性に、ほれるが、男性は、天使の様な女性に、ほれる、という自然の傾向は、清楚である事を、女性の才能にした。

清楚である事は、女性の無上の自然な媚態である。

ロンドンの学の有る優しい名医の １ 人が、相談者の男性の １ 人が去年、相談した事を、エリファス レヴィに教えてくれた。

著名な侯爵婦人の家を去った後に、相談者の男性は「〇〇〇侯爵夫人から不思議な挨拶をされました」と医者に相談した。

侯爵夫人は、相談者の男性の顔を真っ直ぐに見ながら、「あなた、恐ろしい目つきをしても私は、たじろぎませんわ。それにしても、あなたの目はサタンの目みたいだわ」と話した。

医者は笑いながら相談者に「ええと、あなたは、もちろん、腕を侯爵夫人の首にまわして、侯爵夫人を抱いたんでしょう？」と話した。

相談者の男性は医者に「まさか。侯爵夫人の不意打ちに圧倒されてしまいました」と話した。

医者は相談者の男性に「再び侯爵夫人の家を訪れる際は注意しなさい！　あなたは侯爵夫人を深く失望させたかもしれない！」と話した。

普通、死刑執行人の仕事は、父から息子へ引き継がれる、と言われている。

死刑執行人には息子がいるのか？

疑い無く、死刑執行人には息子がいる!

なぜなら、死刑執行人は妻を手に入れる。

嫌われていたマラーには、マラーを優しく愛する恋人がいた。

マラーに恋人がいたのは、マラーが人々を震え上がらせたからである。

愛は本物の幻と言えるかもしれない。

特に、女性には愛は本物の幻と言えるかもしれない。

打算に欠けた動機のために、愛は非合理的なものを選ぶ場合が有る。

女性は、いけない男性のために嘘をつく!　何て恐ろしい!

ああっ!

しかし、恐ろしくても、なぜ恐ろしい事をしてはいけないのか？

時には軽い罪を犯す事は楽しいに違いない!

女性についての超越的な知を得たら、女性の気を引く別の手段をとる事ができる様に成る。

女性で気をもまない様にしなさい。

女性のうぬぼれを辱めるために、女性を幼子の様に扱いなさい。

女性のご機嫌取りを笑いものにしなさい。

前記で、男性の役と女性の役は逆に成る。

女性は、男性を誘惑するために、最大限の努力をするであろう。

女性は、女性が隠していた秘密を、男性に明かすであろう。

女性は、「女性同士みたいに、親友みたいに、あなたについて心配はいらないわね、あなたは私にとっては男性ではないもの」などと話して(、嘘をついて)、男性の前で、服を着たり脱いだりするであろう。

そして、女性は、男性の表情を観察する。

もし男性の表情が冷静であれば、女性は憤(いきどお)りを感じるであろう。

女性は、何らかの口実をもうけて、男性に近づくであろう。

女性は、男性に、髪を通りすがりに軽くかすめるであろう。

女性は、服をずらして胸元を見せるであろう。

前記の場合に、性欲からではなく、好奇心から、じらされて我慢できずに、挑発するため、女性は男性に大胆に攻める時が有る。

どんな気質でも、本物の魔術師には、いけない男性で在り女性を幼子扱いする以外の、ほれ薬と女性の気を引く技は不要である。

本物の魔術師は、いけない男性で在り、女性を幼子扱いするだけで十分である。

本物の魔術師は、女性を喜ばせる言葉、磁気の呼吸、軽い官能的な接触を、偽善を装って、無意識に用いる。

ほれ薬といった飲み薬に頼る人は、老いぼれた人、知が無い人、醜悪な人、無能な人である。

実際、どこで、ほれ薬は役に立つのか？　ほれ薬は無駄である！

誰でも、本物の男性は常に思い通りに女性に愛される手段を持っている。

他の男性で心が占(し)められている女性を奪おうとしない限り、本物の男性は常に思い通りに女性に愛される手段を持っている。

蜜月の無上の至福の最中の愛に満ちた結婚をした若い女性を口説くのは大間違いである。

ラヴレースによって、または、愛によって苦しんだために、心を固めたクラリッサを口説くのは大間違いである。

ほれ薬についての黒魔術の汚れた淫らな混ぜ物を話すつもりは無い。

ローマの魔女 Canidia が煮た物とは無縁である。

ホラティウスの「エポーデス」に、憎むべきローマの魔女 Canidia が調合した、ほれ薬といった毒が記されている。

ウェルギリウスの「牧歌」とテオクリトスの「牧歌」に、ほれ薬といった誘惑術、誘惑術のための生贄といった儀式、悪人の霊の魔術の作業が記されている。

「Little Albert」といった魔術書に記されている、ほれ薬の処方せんを記す必要は無いであろう。

ほれ薬といった誘惑術の実践は、磁気の催眠か、有毒な魔術につながる。

ほれ薬といった誘惑術の実践は、愚行か、犯罪につながる。

ほれ薬といった精神を弱め理性を妨げる飲み薬は悪意の力を助長する。

カリグラの妻カエソニアは、ほれ薬でカリグラの狂った性欲を引き留めたと言われている。

青酸は思考にとっての恐ろしい毒である。

青酸といったアーモンド臭のする抽出物に用心するべきである。

特に、アーモンド臭のする物の脳への作用が龍涎香によって助長される時は、laurel-almond、白花洋種朝鮮朝顔、アーモンドのせっけん、液体のアーモンド、アーモンド臭の強い香を寝室に置くなかれ。

知力を弱めるほど、非理性的な肉欲の力は強まる。

ほれ薬によって悪人が抱かせたい性欲を催した状態とは、知力の麻痺状態である。

ほれ薬によって悪人が抱かせたい性欲を催した状態とは、精神が性欲にとらわれた恥じるべき状態である。

奴隷を弱めるほど、奴隷は自由に成る力が弱まる。

アプレイウスの「黄金のロバ」の魔女の本当の秘密、キルケの飲み物は、知力などを弱める毒であった。

喫煙といった、たばこの使用は、知力を麻痺させる、ほれ薬や脳への毒を助ける危険性が有る。

知られている様に、青酸の様に、たばこのニコチンは致命的である。

たばこのニコチンは、アーモンドの青酸より、量が多い。

他人が、ある人の意思を同化すると、一連の人々の運命が全て変わる時が有る。

そのため、前記のため、他人との交際に気をつけるべきなのは、清い雰囲気と汚れた雰囲気を見分けられる様に学ぶのは、自分のためだけではなく他人のためである。

なぜなら、本物の、ほれ薬は目に見えない。

本物の、ほれ薬の危険性は目に見えない。

本物の、ほれ薬は、命が放つ光の流れである。

本物の、ほれ薬は、星の光である。

星の光によって、男性の心と女性の心は解け合って、やり取りして、星の光は、引き寄せと共感をもたらす。

星の光は、磁気の実験の様に、疑う余地が無い。

教会史に、大異端者 Marcos が息を吹きかけて女性の理性を失わせた、と記されている。

ある勇敢なキリスト教徒の女性が先に異端者 Marcos に息を吹きかけて「神が、お前を裁く様に！」と話して異端者 Marcos の力を失わせた。

教区司祭ゴーフリディは、魔術師として燃やされて殺された。

ゴーフリディは、息で女性を誘惑した、と自認した。

イエズス会士である悪名高いジラール神父に懺悔(ざんげ)していたカディエール嬢は、ジラール神父が息を吹きかけてカディエールの自制心を失わせたと言い訳して、ジラール神父を告発した。

カディエールの言い訳は、ジラール神父に対するカディエールの告発の恐ろしい非合理的な性質を最小に抑えるために必要であった。

ジラール神父の有罪の証明は不十分である。

しかし、故意にしろ無意識にしろ、ジラール神父はカディエールに恥ずかしい強い性欲を抱かせた。

後記は、ドン カルメの「霊のあらわれについて」に記されている。

Ranfaing 嬢は、１６　　年に未亡人に成った。

ポアロという医者が、Ranfaing に求婚した。

ポアロは、求婚を聞き入れてもらえなかったので、Ranfaing に、ほれ薬を飲ませた。

Ranfaing は、ほれ薬が原因で健康が大きく乱れて、悪霊に憑依されたと信じるまでに成った。

医者達は、困惑して、Ranfaing に教会の悪魔払いをすすめた。

後記は、トゥールの司教 M. de Porcelets の命による、Ranfaing の悪魔払い師である。

ロレーヌの公爵の国家顧問、神学博士 M. Viardin、あるイエズス会士、あるカプチン修道会士。

ただし、長期の悪魔払いの儀式中に、ナンシーのほぼ全ての聖職者、トゥールの司教 M. de Porcelets 閣下、トリポリの司教、ストラスブールの付属司教、信心深いキリスト教徒の王の下で旧コンスタンティノープル駐在大使であったオラトリオ会の司祭 M. de Nancy、ヴェルダンの司教ロレーヌのシャルル、助手として特別に代表に選ばれた ２ 人のソルボンヌ大学の博士は、ヘブライ語、ギリシャ語、ラテン語で、Ranfaing に悪魔払いをした。

Ranfaing自身は(、フランス語以外は、)ラテン語すら読めなかったが、Ranfaingは常に適切に悪魔払い師に答えた。

ヘブライ語の学識が有るM. Nicholas de Harlayは、Ranfaing嬢が本当に憑依されたと認めた。

M. Nicholas de Harlayといった多数の人々の証言では、悪魔払い師が言葉を発音しないで唇を動かすだけで、Ranfaingは答えられた。

ソルボンヌ大学の博士ガルニエ先生は、ヘブライ語で数回、Ranfaingに命令した。

Ranfaingは、明確に答えた。

ただし、Ranfaingは、普通の言語で話す様に契約で縛られていると話して、フランス語で答えた。

Ranfaingの悪霊は「私が、お前の話している事を理解しているのを見せるだけで私には十分ではないか？」と話した。

ソルボンヌ大学の博士ガルニエは、ギリシャ語でRanfaingに話しかけている時に、故意ではなく、名詞か形容詞の格を取り違えた。

悪霊に憑依された女性Ranfaingというよりは悪霊は「お前、間違えたな」と話した。

ソルボンヌ大学の博士ガルニエは、ギリシャ語でRanfaingに「私の誤りを指摘しなさい」と話した。

悪霊は「俺が『お前、間違えたな』と話しただけで満足しな。俺は、お前に、これ以上、教えるつもりは無い」と答えた。

ソルボンヌ大学の博士ガルニエは、ギリシャ語でRanfaingに「黙る様に」と命令した。

悪霊は「お前が俺に黙れと命令しても、俺は黙るつもりは無い」と答えた。

前記の、Ranfaing は、ほれ薬を飲まされた結果として理性を失う異常をきたして忘我状態と憑依状態にまで成った注目するべき例である。

Ranfaing に、ほれ薬を飲ませたポアロという男は、自分は魔術師であると信じていた。

前記の、Ranfaing の例は、後記を、エリファス レヴィが説明するより良く証明している。

意思と想像は全能で相互に作用し合う。

忘我状態の人または催眠状態の人には、言語の知識が無くても、思考から読み取って話す言葉の意味を理解する、不思議な直感的理解が存在する。

ドン カルメの話の証人の正直さを疑わない。

学者達が、悪霊が、Ranfaing の知らない言語に答える時に「普通の言語で話す様に契約で縛られている」と話してフランス語で答えて、とぼけた点を見過ごした事に驚くばかりである。

仮に、学者達の話し相手が学者達が考えている様な悪霊であるならば、悪霊はギリシャ語を理解しギリシャ語を話して答えたであろう。

仮に、学者達が考えている様に悪霊が学識の有る皮肉な霊であるならば、悪霊にはギリシャ語を話す事は他の事と同様に容易であったであろう。

後記の様に、「霊のあらわれについて」で、ドン カルメは話している。

悪魔払い師達は、長い一連の狡猾な質問と不真面目な命令をした。

常に忘我状態、催眠状態であった Ranfaing は、一連の狡猾な質問と不真面目な命令に、多かれ少なかれ、適切に答えた。

神父ドン カルメが M. de Mirville と同じ、悪魔が存在するという誤った結論を導いてしまったのは言うまでもない。

Ranfaing の現象は学者達の理解を超えていたので、学者達は全てを地獄の悪魔のせいにした。

何という結論！

Ranfaing の出来事の深刻な所は、Ranfaing に、ほれ薬を飲ませた医師ポアロが、魔術師として非難されて、他の全ての人々の様に、拷問で魔術師であると自白させられて、燃やされて殺された事である。

仮に、ポアロが、何らかの飲み薬を飲ませて、Ranfaing の理性を本当に誘惑したのであれば、ポアロは毒殺犯として罰を受けるのが適切であろう。

前記が、エリファス レヴィが言える事である。

最も恐ろしい、ほれ薬は、誤った信心による神秘主義的な興奮である。

「聖アントニウスの誘惑」の夢魔や、St Theresa とSt Angela de Foligny の苦しみに等しい汚れた淫らな混ぜ物が存在するであろうか？　「聖アントニウスの誘惑」の夢魔や、St Theresa と St Angela de Foligny の苦しみに等しい汚れた淫らな混ぜ物は存在しない！

St Angela de Foligny は、赤熱した鉄をもてあました肉体に当てて、物質的な火が隠された情熱を冷やす事を見つけた。

何て激しい力で、自然は、女性が抑えた肉欲、女性が憎悪をつのらせて思いつめ続けた肉欲を求めて、叫び声を上げるのか！

Magdalen Bavan、de la Palud、カディエールの、呪われたふりは、神秘主義から始まった。

恐れ過ぎると逃れられなくなる。

円の中では、ある点から遠ざかる 2 つの曲線をたどると、2 つの曲線は近づいて衝突する。

ロレーヌの裁判官ニコラス レミーは、魔女であるとして ８ ０ ０ 人の女性を生きたまま燃やして殺した。

ニコラス レミーは、いたる所に魔術を見た。

ニコラス レミーが何でも魔術に結びつけるのは、ニコラス レミーの固定観念であった。

ニコラス レミーが何でも魔術に結びつけるのは、ニコラス レミーの狂気であった。

ニコラス レミーは魔術師と戦う様に十字軍を説教したかった。

ニコラス レミーの自説では、ヨーロッパは魔術師で、あふれていた。

ニコラス レミーは、世界中の全ての人が魔術師で有罪であると主張したが、取り上げてもらえず、自暴自棄に成って、ニコラス レミー自身が魔術師であると告白するまでに成った。

ニコラス レミーは、ニコラス レミー自身が魔術師であると告白したので、燃やされて死んだ。

邪悪な感化力から身を守るための第一条件は、想像で興奮しない事である。

多かれ少なかれ、興奮し易い人は狂っている。

狂気によって、狂人を支配できてしまう。

幼稚な恐怖と無際限の欲望を超越しなさい。

無上の知を信じなさい。

無上の知が存在する事を信じなさい。

無上の知を知る手段として理解力をあなたに与えている、無上の知は、あなたの知性、理性を陥れるはずが無い事を確信しなさい。

あなたの周りで、いたる所で、原因と結果がつり合っているのを見る事ができる。

理解力によって、人の力の範囲で、原因を傾けられて変えられるのを見つける事ができる。

要するに、善は悪より強いのを見つける事ができる。

善は悪より優れているのを見つける事ができる。

有限の中で論理が存在する事を見ながら、なぜ無限の中で無限の非論理的なものが存在すると誤って推測するのか？

誰に対しても、真理は隠されていない。

真実は隠されていない。

神を神の作品の中に見る事ができる。

神を神の業（わざ）に見る事ができる。

全ての存在に対して、神は自然に反するものを求めない。

なぜなら、神は自然の創造主である。

神が自然を創造した。

信心とは信頼である。

信心とは確信である。

信頼しなさい。

確信しなさい。

論理を中傷する人を信頼するなかれ。

論理を中傷する人を信じるなかれ。

なぜなら、論理を中傷する人は、愚者か、詐欺師である。

永遠の論理を信頼しなさい。

永遠の論理を確信しなさい。

永遠の論理は神の言葉である。

永遠の論理は神の言葉イエスである。

永遠の論理、神の言葉、イエスは、太陽の様に差し出された、この世に生まれる全ての被造物である人の直感を照らす、本物の光である。

もし絶対の論理を信じれば、何物よりも、もし真理と正義を望めば、何ものも恐れる理由が無く成るであろう。

何ものも恐れなく成るであろう。

愛するに値するものだけを愛するであろう。

愛されるに値するものだけを愛するであろう。

自然な善人の光は無意識に悪人の光を斥(しりぞ)けるであろう。

なぜなら、人の意思は人の光を統治している。

前記の様に、混入されるかもしれない、有毒なものが善人の知性を侵す事は無いであろう。

実に、病気は、善人を病気にするかもしれないが、善人を罪人にする事は無い。

女性が興奮し易い者に成る最大の原因は軟弱な偽善的な教育に有る。

もし女性が鍛錬していれば、もし女性が俗世の問題をありのままに十分に教えられれば、女性は気まぐれを最小に抑えるであろう。

結果的に、女性は邪悪な傾向に動かされ難いであろう。

弱さは悪徳と同調する。

なぜなら、悪徳は弱さである。

悪徳は強さの仮面をかぶった弱さである。

狂気は恐怖で理性を抑える。

全てのものについて、狂気は嘘の誇張を喜ぶ。

第一に、あなたの病んだ知性を治しなさい。

呪いの原因、ほれ薬の毒、悪人の霊の魔術師の力の源は、あなたの病んだ知性に有る。

麻薬混入といった薬物混入は、医者と法の問題である。

しかし、人は、今も薬物混入は昔以上に行われているとは思わない。

ラヴレースの様な背徳な男性達は、親切な言動によってのみ、クラリッサの様な女性達の知力を麻痺させる。

中世の様に、仮面の男どもによる誘拐や地下牢への監禁の様に、飲み薬の混入は過去の物と成った。

薬物混入を「the Confessional of the Black Penitents」、「黒い懺悔者の懺悔室」と小説「ユードルフォの秘密」のユードルフォ城の残骸にまで追い払う必要が有る。

１９

太陽の熟達

タロットで太陽の象徴が描かれている数１９に至った。

１９は、ピタゴラスの１０つ１組と、３つ１組を３つ１組で増やした、３組の３つ１組である。

１９は、絶対に応用した知を表す。

１９は、神に応用した知を表す。

１９章では絶対について記す。

無限の中の絶対の探求、神の中の絶対の探求、無際限の中の絶対の探求、有限の中の絶対の探求、絶対の探求は、賢者の「大いなる務め」である。

ヘルメスは、絶対の探求を、「太陽の作業」と呼んだ。

本物の宗教の不動の基礎の探求、本物の信心の不動の基礎の探求、哲学の不動の基礎の探求、真理の不動の基礎の探求、錬金の不動の基礎の探求、不動の基礎の探求は、ヘルメスの秘密の全てである。

不動の基礎とは、賢者の石である。

賢者の石は唯一であり全てである。

分析によって、賢者の石は、粉々に分けられる。

総合によって、賢者の石は、建て直される。

分析中は、賢者の石は、粉である。

分析中は、賢者の石は、卑金属を金に変える錬金で溶けている卑金属に投入する賢者の石の粉である。

分析前と総合中は、賢者の石は、石である。

錬金術師達は「賢者の石を大気にさらすなかれ」、「賢者の石を大衆の目にさらすなかれ」と話している。

賢者の石を、隠す必要が有る。

賢者の石を、研究室の、無上の秘密の容器の中に用心して保管する必要が有る。

賢者の石が有る研究室の鍵を常に身につける必要が有る。

大いなる秘密を所有する人は、全ての権力者を超越した、本物の王者である。

なぜなら、大いなる秘密を所有する人、本物の王者は、全ての恐怖を近づけない。

大いなる秘密を所有する人、本物の王者は、全ての空虚な希望を近づけない。

宝石の様な賢者の石の一断片だけで、神の粉の様な賢者の石の粉の一粒だけで、魂や肉体の全ての病気を治せる。

マタイによる福音 １１ 章 １５ 節で主イエスは「耳の有る者は、聞け」と話している。

塩、硫黄、水銀は、補助的な元素に過ぎない。

塩、硫黄、水銀は、補助的な要素に過ぎない。

塩、硫黄、水銀は、「大作業」の受容的な道具である。

すでに話した様に、全てはパラケルススが話している精神的な磁石にかかっている。

「大作業」の全ては溶けている卑金属への賢者の石の粉の投入にかかっている。

唯一の言葉の、実践的な実現可能な知が、溶けている卑金属への賢者の石の粉の投入を完全に果たす。

重要な作業は、昇華である。

ジャービル イブン ハイヤーンによれば、昇華とは、乾いているものを火によって高めて、ふさわしい容器に定着させる事である。

大いなる言葉を理解したい人は、大いなる秘密を所有したい人は、「高等魔術の教理」の原理を学んだ後に、錬金術師の哲学を用心して読み取るべきである。

そうすれば、他の達道者が到達した様に、疑い無く、秘伝伝授に到達するであろう。

ただし、錬金術師の例え話を理解する鍵として、「エメラルド板」に記されている、「上のものは下のものから類推可能である。下のものは上のものから類推可能である」というヘルメスの唯一の考えを理解する必要が有る。

そして、知を分類するために、作用を傾けるために、タロットのカバラのアルファベットである大アルカナで表されている順序をたどる必要が有る。

本書「高等魔術の祭儀」の２２章で、タロットの大アルカナの完全な説明を与えるつもりである。

パラケルススの「化学の道または手引き」は、大いなる秘密の神秘が記されている、実証的な自然科学の全ての神秘と無上の秘密のカバラが記されている、金銭では買えない無上の稀覯本である。

バチカン図書館に、パラケルススの「化学の道または手引き」の唯一の手書きの原本が保管されている。

Sendivogius は、パラケルススの「化学の道または手引き」の写本を作った。

ツォーディ男爵は「燃える星」で錬金術の教理問答集を記す際に、パラケルススの「化学の道または手引き」の Sendivogius による写本を利用した。

ツォーディ男爵の「燃える星」の錬金術の教理問答集を、教養の有るカバリストに、パラケルススの「化学の道または手引き」の代わりとして、すすめる。

ツォーディ男爵の「燃える星」の錬金術の教理問答集では、大作業の全ての絶対必要な原理が、明確な形で、完全な形で、説明されている。

もし、ツォーディ男爵の「燃える星」の錬金術の教理問答集を学んで、絶対の真理に到達できない人は、隠された学問の理解力が完全に欠けている人に違いない。

注釈として、いくつかの言葉で、大作業を要約した分析を与えよう。

ライムンドゥス ルルスは、自然科学の大いなる畏敬するべき錬金術師である。

ライムンドゥス ルルスは「金を作る前に、金を作れる様に成る前に、金を所有する必要が有る」と話している。

人は、無からは何も作れない。

富は、作る物ではない。

富は、増やす物である。

知の探求者は、達道者が不自然な奇跡を求めていない事を、十分に理解しなさい。

自然科学といった他の現実的な学問の様に、錬金術は、数学的に実証可能である。

正しく作動する方程式と同じくらい、錬金術の物質的な結果は正確である。

錬金術の金は、本物の考え、影の無い光、嘘の無い真理、だけではない。

錬金術の金は、本物の考え、影の無い光、嘘の無い真理でもある。

錬金術の金は、物質的な、実際の、土の鉱脈で見つかる最も貴重な物、純金でもある。

しかし、水銀の家の中に、生きている黄金、生きている硫黄または本物の錬金術師の火を探求する必要が有る。

本物の錬金術師の火は風で生きている。

本物の錬金術師の火の引き寄せる力と展開させる力を説明するには、雷に例えるのが最適である。

最初は、雷は、乾いた地上の発散物である。

雷は、湿った蒸気と結合している。

次に、雷は、雷の上昇する力で、火の様な性質を帯びて、雷に付き物である湿気に作用する。

雷は、湿気を引き寄せて雷の火の様な性質に変える。

後に、雷は、雷の固定される性質に似た、固定された物の性質に引き寄せられて、速やかに地に降下する。

前記の、言葉は謎であるが意味は明確である言葉は、硫黄が結実させた、塩の王者と変革者に成った、錬金術師の水銀によって、錬金術師が理解する物を隠さないで表している。

本物の錬金術師の火、雷、水銀とは、AZOTH、普遍のマグネシア、大いなる魔術の代行者、星の光、命の光、霊の力が繁殖させたもの、知の力が繁殖させたもの、神の火に似ているので硫黄に例えているものである。

塩とは物質である。

物質的なものは全て塩を含んでいる。

硫黄と水銀を協力させた作用によって、塩を純金に変える事ができる。

速い時には、一瞬で、または、1 時間で、苦も無く、ほとんど無料で、錬金できる。

大気中の仲介するもの(である星の光)の傾向が逆風の時には、錬金に、何日も、何か月も、何年もかかる。

すでに話した様に、2 つの超自然的な法が存在する。

2 つの自然の法が存在する。

2 つの力が存在する。

2 つの力は、相互に対立して、つり合って調和して、ものの普遍のつり合いをもたらしている。

2 つの力は、固定と運動である。

２ つの力、固定と運動は、哲学における真理と発見に対応している。

２ つの力、固定と運動は、神の概念における必然と自由に対応している。

必然と自由は、神の性質である。

錬金術師は、重みが有る物に、中心の静止と不動に向かう傾向が有る物に、固定された物という名前を与えた。

錬金術師は、自然に容易に運動の法に従う物を、気化し易い物と呼んだ。

錬金術師は、分析によって、賢者の石を粉々に分ける。

分析とは、固定された物の気化である。

錬金術師は、総合によって、賢者の石を建て直す。

総合とは、気化し易い物の固定である。

錬金術師は、固定された物を、賢者の塩と呼んでいる。

錬金術師は、秘密の作用によって傾けられた命の光、秘密の作用によって全能に成った命の光を、硫化水銀と呼んでいる。

錬金術師は、硫化水銀を、賢者の塩に応用して、気化し易い物を固定する。

(硫化水銀は硫黄が水銀と結合したものである。)

前記の方法で、錬金術師は、全ての自然を所有する。

賢者の石は、塩が有る所で見つかる。

言い換えると、「大作業」と無縁な物質は存在しない。

「大いなる務め」と無縁な者は存在しない。

全ての者は「大いなる務め」に関係する。

劣って見えるものを金に変えられる。

前記は、正しい。

すでに話した様に、全てのものは、基礎の塩を含んでいる。

基礎の塩を、立方体の石によって象徴的に表している。

タロットの ２ ２ の鍵を要約したバシレウス ヴァレンティヌスの １ ２ の鍵の前の象徴的な普遍の絵では、基礎の塩を、立方体の石で描いている。

全てのものから、全てのものの中に隠されている、純粋な塩を抽出する方法を知る事は、賢者の石の秘密を所有する事である。

賢者の石は、塩の石である。

オド、または、普遍の星の光は、賢者の石、塩の石を、粉々に分けたり、建て直す。

賢者の石、塩の石は、唯一であり全てである。

なぜなら、普通の塩の様に、賢者の石、塩の石を分ける事ができる。

普通の塩の様に、賢者の石、塩の石を他のものと混ぜる事ができる。

分析によって得られた、賢者の石の粉は、普遍の塩化第二水銀と言えるかもしれない。

(塩化第二水銀は劇薬である。)

総合によって建て直された、賢者の石は、古代人が万能薬と呼んだものである。

なぜなら、賢者の石は、魂や肉体の全ての病気を治す。

賢者の石は、全ての自然への薬と言える。

神の秘伝伝授によって、普遍の代行者の力を操作できる人は、賢者の石を常に手中にする。

なぜなら、賢者の石の抽出は、溶けている卑金属への賢者の石の粉の投入や金属から金をもうける事と異なり、簡潔で容易である。

昇華中の賢者の石を大気にさらすなかれ。

大気は、昇華中の賢者の石を分解して、賢者の石の力を失わせる。

さらに、賢者の石の蒸気を吸うと危険である。

賢者は、賢者の石の自然の外皮で、賢者の石を保管する。

賢者は、賢者の意思の力だけで、賢者の石を抽出できる事を知っている。

賢者は、普遍の代行者をカバリストが外皮と呼んでいる物に応用するだけで、賢者の石を抽出できる事を知っている。

前記の、思慮の法を象徴的に表すために、エジプトの賢者は、ヘルマニビスとして擬人化した、賢者の水銀を、犬の頭で表した。

賢者は、神殿騎士団のバフォメット、または、サバトの王子、安息日の王子として擬人化した、賢者の硫黄を、ヤギの頭で表した。

ヤギの頭は、中世の秘密結社に、汚名を着せた。

鉱物の作業の「第一質料」は鉱物だけである。

しかし、鉱物の作業の「第一質料」の鉱物とは、金属ではない。

鉱物の作業の「第一質料」の鉱物とは、金属化した塩である。

錬金術師は、鉱物の作業の「第一質料」の鉱物、金属化した塩を、果実に似ているので、植物と呼んでいる。

また、錬金術師は、鉱物の作業の「第一質料」の鉱物、金属化した塩を、一種の乳と血をもたらすので、動物と呼んでいる。

鉱物の作業の「第一質料」の鉱物、金属化した塩だけが、火を含んでいる。

火によって、鉱物の作業の「第一質料」の鉱物、金属化した塩を分解する必要が有る。

２０

奇跡を起こすもの

エリファス レヴィは、奇跡とは、原因が例外的である自然な結果である、と定義した。

肉体における奇跡とは、人の意思が肉体に直接的に作用する事、または、少なくとも、人の意思が肉体に目に見えない手段で作用する事である。

精神における奇跡とは、一瞬または一定時間内で他人の意思や知に感化を与えて、他人の思考を操作できる事、他人の固い決意を変えれる事、他人の激しい肉欲をしびれさせれる事である。

大衆は、奇跡が、原因の無い結果である、と誤解している。

大衆は、奇跡が、自然の矛盾である、と誤解している。

大衆は、奇跡が、神の気まぐれである、と誤解している。

大衆は、原因の無い結果、自然の矛盾、神の気まぐれのうちの １ つだけでも普遍の調和を破壊して、世界を混乱に陥れる、と理解していない。

神にすら不可能な奇跡が存在する。

神にすら不可能な奇跡とは、非論理的な奇跡である。

仮に、一瞬でも、神が非論理的であれば、次の瞬間に、神か世界は存在しなく成るであろう。

神という審判者に、原因とつり合わない結果や、原因の無い結果を期待する事は、神への冒涜と言える。

原因とつり合わない結果や、原因の無い結果を期待する事は、虚無に身投げする事である。

神は、神の作品によって、働きかける。

天では、神は、天使によって、働きかける。

地上では、神は、人によって、働きかける。

前記の様に、天使の力の範囲内で、天使は、神に可能な全ての事を成就できる。

人の力の範囲内で、人は、全能である神と同様に、物事を処理できる。

人が理解している神とは、思いやりが創造した神である。

人が理解している神とは、人性が創造した神である。

人は、神が、神の像にかたどって人を創造したと考えている。

(創世記 １ 章 ２ ７ 節「神は神の像にかたどって人を創造した」)

なぜなら、人は、人の像にかたどって神を創造した、と言える。

人の領域は、地上の肉体的な目に見える物である、と言える。

もし人が恒星や惑星といった星々を統治できなくても、少なくとも、人は星々の軌道と距離を計算して、人の意思を星々の感化力に結びつける事ができる。

人は大気を変える事ができる。

人は、ある程度まで季節に働きかける事ができる。

人は、隣人を治したり傷つける事ができる。

人は、命を維持したり死を与える事ができる。

命の維持には、復活が含まれる。いくつかの場合には復活が可能である事は、すでに確証した。

絶対の論理と絶対の意思は、人が到達できる様に、神が人に与えた、無上の大いなる力である。

絶対の論理と絶対の意思という力によって、達道者は、奇跡という名前で大衆が驚く事を、実現する。

第一に、奇跡を起こす人は、意思が完全に清らかである、必要が有る。

第二に、奇跡を起こす人には、奇跡を起こすのに適した流れと、無限の確信が、必要である。

何ものも恐れず、何ものも肉欲で望まない人は、全てのものの王者である。

マタイによる福音 4 章の、神の子イエスが荒れ野で汚れた霊に 3 回勝利すると天使がイエスに仕えたという、象徴的な美しい話の意味は、「何ものも恐れず、何ものも肉欲で望まない人は、全てのものの王者である」という事である。

論理的な自由意思は、地上の全てのものを圧倒する。

賢者が「私は望む」と話す時、神も、それを望んでいる。

賢者が命令する全ての事は実現する。

医者の知と確信が、医者が処方する薬の力を形成する。

奇跡だけが現実の有効な治療である。

奇跡だけが現実の有効な薬である。

前記の様に、隠された治療法は、大衆の治療法と異なる。

隠された治療法では、主に、言葉と息を利用する。

隠された治療法では、意思によって、力を水、オリーブオイル、赤ワイン、カンフル、塩に与える。

ホメオパシーの水は、確信によって作用する、磁化された魔術がかけられた水である。

水に加えられた、極小の量の、動くものは、医者の意思の実現、表れである。

(プラシーボ効果の様に、)大衆が、はったりと呼んでいる、確信させる事は、確信を抱かせて確信の輪を形成する十分な技量が有れば、医術で現実の成功をもたらす大いなる手段に成る。

医術では、特に、確信が救う。

ほとんどの村には隠された薬の薬師がいる。

隠された薬の薬師は、ほとんど全ての場所にいる。

隠された薬の薬師は、常に、公認の医者より、比較に成らないほど成功している。

隠された薬の薬師が処方する薬は、不思議議または非論理的な場合が有る。

隠された薬は不思議議または非論理的な方が良く効く。

なぜなら、隠された薬は不思議議または非論理的な方が、薬師と患者の確信をより求めて実現する。

エリファス レヴィの知人に老商人がいた。

老商人は奇人であった。

老商人は気高い宗教的な感情を持っていた。

老商人は、フランスの、ある県で、商売を引退した後、キリスト教的な思いやりから、無料で、隠された医術を始めた。

商人であった、隠された医者の特効薬は、オリーブオイル、息、祈りだけであった。

隠された医者は違法な医療行為をしたとして訴えられた。

しかし、それで、隠された医者が約 5 年間で 1 万人を治した事が公に証明された。

また、隠された医者を信頼する人々の数が当該する地方の全ての医者を脅かす割合で増えていた事が公に証明された。

ル マンの、貧しい修道女ジェーン フランシスは、少し狂っていると思われていたが、独自に考え出した飲み薬と湿布薬によって、地方一帯の全ての病人を治した。

飲み薬は体内に飲み込まれて、湿布薬は体外にはられて、病気は、普遍の万能薬であるジェーン フランシスの飲み薬か湿布薬から逃げられなかった。

湿布薬は湿布薬をはる必要が有る場所の肌にだけ、はりついた。

湿布薬は湿布薬をはる必要が無い場所の肌には、はりつかないで、自然と、めくれて、はがれ落ちた。

善き修道女ジェーン フランシスは、湿布薬が、湿布薬をはる必要が無い場所の肌には、はりつかないで、自然と、めくれて、はがれ落ちる、と主張した。

ジェーン フランシスの患者達は、湿布薬が、湿布薬をはる必要が無い場所の肌には、はりつかないで、自然と、めくれて、はがれ落ちる、と証言した。

奇跡を起こした人ジェーン フランシスも違法な医療行為をしたとして訴えられた。

なぜなら、ジェーン フランシスは、地方一帯の全ての医者の仕事を奪ってしまった。

ジェーン フランシスは修道院に閉じ込められた。

しかし、すぐに、週に 1 日以上、ジェーン フランシスを修道院の外に出す事に成った。

エリファス レヴィは、修道女ジェーン フランシスの外出日に、ジェーン フランシスに病気を診てもらうために、地方の人々がジェーン フランシスを囲んでいるのを見た事が有る。

夜通し旅をして、ジェーン フランシスを訪ねた人々がいた。

ジェーン フランシスの診察の番を待って、修道院の門で横に成っていた人々がいた。

ジェーン フランシスの飲み薬と湿布薬を受け取るまで、地面に横に成っていた人々がいた。

どの病気に対してもジェーン フランシスの飲み薬と湿布薬は同じであった。

ジェーン フランシスにとって患者の病気を知る事は不要に思われた。

しかし、ジェーン フランシスは、常に、非常に用心して、患者の話を聴いた。

ジェーン フランシスは、病気の性質を聴いた後でのみ、特効薬である飲み薬と湿布薬を渡した。

病気について聴いて、医者と患者の意思を導く事は、魔術的な秘訣である。

(医者と患者の)意思を導く事は、病気に特化した力を薬に与えた。

薬自体には力が無い。

意思が力を薬に与える。

ジェーン フランシスの飲み薬は、香辛料で味つけした、赤ワインなどの蒸留酒ブランデーを苦い薬草の汁に混ぜた物である。

ジェーン フランシスの湿布薬は、蛇の毒などへの解毒薬テリアカと色や匂いが似ていた。

(蛇の毒などへの解毒薬テリアカは薬をハチミツに混ぜた物である。)

多分、ジェーン フランシスの湿布薬は、薬をブルゴーニュの樹脂に混ぜた物である。

しかし、どんな物質であろうとも、ジェーン フランシスの飲み薬と湿布薬は奇跡を起こしたのである。

ジェーン フランシスの地方一帯の人々は、修道女ジェーン フランシスの奇跡を疑う人に、怒るであろう。

エリファス レヴィは、パリの近くで、病人を治す奇跡を起こした老庭師を知っていた。

老庭師は使徒ヨハネの全ての薬草の汁を薬瓶につめていた。

老庭師は使徒ヨハネの薬草の汁で病人を治した。

しかし、老庭師には、懐疑者、無神論者、不信心者の兄弟がいた。

懐疑者、無神論者、不信心者の兄弟は、魔術師の老庭師を笑いものにした。

貧しい老庭師は、懐疑者、無神論者、不信心者の兄弟に笑いものにされて圧倒されてしまった。

老庭師は、自身を疑い始めてしまった。

老庭師は、病人を治す奇跡を全く起こせなく成った。

病人は、老庭師を疑う様に成った。

病人を治す奇跡を起こしていた老庭師は、悪口を言われて絶望して、狂って死んでしまった。

Vibraie の教区司祭 Abbé Thiers の興味深い「迷信について」に、ある女性の話が記されている。

ある女性は、目の、重い炎症に苦しんでいた。

ある女性の目の炎症は突然、不思議な方法で治った。

ある女性は魔術に頼った事をある祭司に告白した。

ある女性は、タリスマンをある聖職者に長い間しつこく求めた。

なぜなら、ある女性は、ある聖職者が魔術師であると思った。

ついに、ある聖職者は羊皮紙の巻物をある女性に渡して、新鮮な水で日に 3 回、目を洗う様にすすめた。

ある祭司は、ある女性に羊皮紙の巻物を手放させた。

羊皮紙の巻物には「悪魔よ、彼女の目を取り出して、空いた場所に排泄物を満たしなさい」という言葉が記されていた。

ある祭司が、ある女性に羊皮紙の巻物の言葉を訳して伝えると、ある女性は驚いた。

しかし、ある女性は治ったのである。

息は、隠された医術の最重要な実践の 1 つである。

なぜなら、息は、命を伝える完全な象徴である。

事実、生気づけるとは、何ものかに息を吹き込む事を意味する。

ヘルメスの唯一の考えによって、知っている通り、ものの力が言葉を創造した。

概念と言葉の間には正確なつり合いが存在する。

概念と言葉はつり合っている。

言葉は概念の最初の形である。

言葉は概念の言葉の上での実現である。

温かい息や冷たい息は引き寄せたり斥(しりぞ)ける。

温かい息は陽電気に対応する。

冷たい息は電気に対応する。

電気的な神経質な動物は冷たい息を嫌がる。

親しさがしつこい猫に試しに冷たい息を吹きかけると嫌がるであろう。

ライオンや虎を、じっと見つめて冷たい息を顔に吹きかける事によって、驚かせて退(しりぞ)ける事ができるであろう。

長い温かい息は、血の循環を回復する。

温かい息は、リューマチ、痛風の痛みを治す。

温かい息は、体液の調和を回復する。

温かい息は、疲労、だるさを雲散霧消させる。

気に入っている善い人の温かい息は、普遍の鎮静薬として作用する。

冷たい息は、充血や流体の蓄積がもたらす痛みを和らげる。

人の器官の両極性に従って、一方の極の器官と他方の極の器官で正反対と成る息を吹きかけて、対極の磁気が治す様に、温かい息と冷たい息を互い違いに用いる必要が有る。

前記から、片目だけ炎症した目を治すには、温かい息を炎症していない目に優しく吹きかけ、冷たい息を炎症した目に温かい息と同じ様につり合う様に吹きかける必要が有る。

磁気の催眠術の、遅い温かい手の動きと、速い冷たい手の動きは、温かい息と、冷たい息と、同じ結果をもたらす。

遅い温かい手の動きと、速い冷たい手の動きは、内的な空気の放射による、本物の息である。

内的な空気は、命の光で、青い燐(りん)光を放つ。

遅い温かい手の動きは、温かい息に対応する。

遅い温かい手の動きと、温かい息は、精神を鼓舞し奮い立たせる。

速い冷たい手の動きは、冷たい息に対応する。

速い冷たい手の動きと、冷たい息には、分散させる性質が有る。

速い冷たい手の動きと、冷たい息は、充血に向かう傾向を中和する。

遅い温かい手の動きと、温かい息は、左から右へ、右から左へ、下から上へ、動かすべきである。

速い冷たい手の動きと、冷たい息は、上から下へ、動かすと、より効果的である。

人は口と鼻だけで呼吸しているわけではない。

人は口と鼻以外でも呼吸している。

人の体の普遍の流体の透過性は、本物の呼吸器官である。

人の体の普遍の流体の透過性は、不十分であるが、命と健康に役立つ。

指先は、神経の終端である。

人は思い通りに、指先で星の光を放射したり引き寄せる事ができる。

接触を伴わない手の動きは、簡潔な軽い息である、と言える。

接触は、手の動きと、息に、共感と、つり合いのとれた印象を与える。

接触は、催眠術の初期の段階の妄想を防ぐのに良い。

接触は、催眠術の初期の段階の妄想を防ぐのに必要である。

なぜなら、接触は、体の現実の交流によって、脳に忠告して、さまよっている想像を現実に呼び戻す。

しかし、目的が磁気の催眠術をかけるだけであれば、接触は長過ぎるなかれ。

目的が、磁気の催眠術というよりはむしろ、復活の儀式やマッサージであれば、長い接触は役立つ、と言える。

キリスト教徒が最も畏敬する本、聖書からの復活の儀式のいくつかの手本を、すでに記した。

大衆が復活と呼んでいる様に、復活の儀式は、治せない様に見える昏睡状態の治療法である。

現在でも東ではマッサージを大いに頼りにしている。

東では公衆浴場でマッサージは行われている。

マッサージは、摩擦、牽引、圧迫の体系である。

マッサージは、器官全てに、筋肉全てに、ゆっくり行われる。

マッサージは、力の調和を回復する。

マッサージは、完全に休んだ様な感じと、十分な良い感じをもたらす。

マッサージは、動きと力が回復した感じをもたらす。

隠された医者の力の全ては、自分の意思の自覚に存在する。

隠された医者のわざの全ては、患者に確信させる事に存在する。

マタイによる福音 １７ 章 ２０ 節で主イエスは「確信が有れば、不可能は無い」と話している。

隠された医者は、表情、声、身振り手振りで、患者を統治する必要が有る。

隠された医者は、父の様な思いやりで、確信を患者に抱かせる必要が有る。

隠された医者は、適切な陽気な会話で、患者を陽気にさせる必要が有る。

ラブレーは、本人が思っているよりも大魔術師であった。

ラブレーは、ラブレーの「パンタグリュエル物語」の様な笑わせる物を、特効薬、万能薬にしていた。

ラブレーは、患者を笑わせた。

ラブレーが、患者を笑わせた後に薬を渡した結果、患者を笑わせた後に薬を渡した方がより良く成った。

ラブレーは、笑わせる事で、医者のラブレーと患者の間に磁気の共感を確立した。

笑わせる事による磁気の共感によって、ラブレーは、ラブレーの確信と陽気を患者に伝えた。

ラブレーは、ラブレーの本の序文で、患者を「私の名高い客」と呼んで、患者を喜ばせた。

ラブレーは、本を患者にささげた。

ラブレーの「ガルガンチュア物語」と「パンタグリュエル物語」は、宗教対立や内戦の時代に、全ての医者が誇っているより、黒胆汁の憂鬱、狂気に向かう傾向、黒胆汁の憂鬱な陰気な気まぐれを治したと確信している。

隠された薬の精髄は共感である。

医者と患者の間に、相互の愛情、または、少なくとも、本物の善意が必要である。

飲み薬の本来の力は非常に小さい。

医者と患者の合意によって、薬は薬に成る。

医者と患者の合意が、薬の力を形成する。

ホメオパシーでは、薬を用いないが、不都合は生じない。

塩かカンフルを混ぜた、オリーブオイルと赤ワインで、病気を治せる。

ルカによる福音　１　０　章　３　４　節の「善きサマリア人の例え」で、オリーブオイルと赤ワインは、マッサージのための主な薬、または、痛みを和らげる主な外用薬である。

　オリーブオイルと赤ワインは、ルカによる福音　１　０　章　３　４　節の「善きサマリア人」の慰めに、形を与えている。

　預言者である使徒ヨハネは、最後の災いを記す前に、希望を残すために、多数の傷つく者への救いを残すために、報復する力である神の聖霊にオリーブオイルと赤ワインを損なわない様に祈って、ヨハネの黙示録　６　章　６　節で「オリーブオイルと赤ワインを損なうなかれ」と記している。

　「病者への塗油」と呼ばれる物は、主イエスの口伝であるマルコによる福音　６　章　１　３　節と、ヤコブの手紙　５　章　１　４　節から　１　５　節で記されている、最初の数世紀のキリスト教徒と、使徒ヤコブの精神、知の持ち主の、医術の純粋な簡潔な実践である。

　世界中の信心深い者への、ヤコブの手紙　５　章　１　４　節で「あなたたちの中で病気の人は、教会の長老の祭司を呼んで、主の名前においてオリーブオイルを塗ってもらい祈ってもらいなさい」という教えが記されている。

　「病者への塗油」という神の治療の知は徐々に失われた。

　「病者への塗油」は死ぬ用意として必要な宗教的な形式的な儀式と誤解される様に成った。

　清められたオリーブオイルの奇跡の力は、口伝の教えによって、記録から完全には消されなかった。

　オリーブオイルの奇跡の話は、「病者への塗油」についての教理問答集の一部に、残されている。

最初の数世紀のキリスト教徒の間では、確信と思いやりが、無上の治す力であった。

肉体の病気の原因の多数は、心の病気である。

人は魂を直す事から始める必要が有る。

人は魂を治す事から始める必要が有る。

魂を直せば、肉体も速やかに治せるであろう。

魂を治せば、肉体も速やかに治せるであろう。

２１

預言者の知

２１章では、予言について話す。

広い意味で、「予言」を意味する「divination」という言葉の語源が「神の」を意味する「divine」である、という文法的な意味によって、予言とは、神の力を発揮する事である。

予言とは、神の知の実現である。

予言は魔術師の祭司としての固有の能力である。

しかし、大衆の意見では、狭い意味で、予言とは、隠された物の知である。

人の秘密の思考を知る。

過去と未来の神秘を見通す。

原因の正確な知によって結果の正確な啓示を各時代ごとに引き出す。

人の秘密の思考を知る事、過去と未来の神秘を見通す事、原因の知によって結果を引き出す事が、普遍的に、予言と呼ばれている物である。

自然の全ての神秘の中で、人の心は無上に深い。

しかし、自然は人の心を到達不可能な深さにはしなかった。

自然は人の心を到達可能な深さにしている。

自然は自然の全ての神秘を到達可能な深さにしている。

最深の偽装にもかかわらず、熟練の処世術にもかかわらず、自然は、人の心を突き止めて、体の形、眼光、動き、態度、声で、人の心を明らかにする多数の証拠を明かす。

熟練の秘伝伝授者には、体の形、眼光、動き、態度、声といった人の心を明らかにする証拠は不要である。

熟練の秘伝伝授者は、光の中から、真理を読み取る。

熟練の秘伝伝授者は、星の光の中から、真理を読み取る。

熟練の秘伝伝授者は、印象だけで人の全体像を知れる印象に気づく。

熟練の秘伝伝授者は、一目で、人の心を見通す。

熟練の秘伝伝授者は、知り過ぎて、悪人の恐怖や憎悪を取り除くために、無知なふりをする事すら有る。

心にやましい所が有る人は、常に、非難されているのでは疑われているのではと思考する。

心にやましい所が有る人は、集団に対する軽い皮肉の中に、自分に対する皮肉を誤認する。

心にやましい所が有る人は、集団に対する皮肉を、自分に対する皮肉であると当てはめる。

そして、心にやましい所が有る人は、自分に対する中傷であると大きな声で叫ぶ。

大衆は、常に疑い深いが、自分でも気づいているほど好奇心が強い。

大衆は、魔術師に対して、例え話のサタン、または、質問して試す記者に似ている。

大衆は、常に頑迷である。

大衆は、常に弱い。

特に、大衆が恐れる事は、自分が間違っているのを気づく事、自分が間違っているのを気づかれる事である。

過去は、大衆の落ち着きを乱す。

未来は、大衆を恐れさせる。

未来は、大衆を悩ませる。

大衆は、自分に妥協しようとする。

大衆は、自分が良い立場にいる徳の高い人間であると信じ込もうとする。

大衆の生き方は、善い願望と悪い習慣の永遠の戦いである。

大衆は、現代の堕落を自分が経験する必要が有る不可避な物として全て受け入れて、自分がアリスティッポスやホラティウスの様な哲学者であると思い込む。

大衆は、哲学的な娯楽で、心を紛らわす。

大衆は、自分が、民が飢えていた時のウェッレスの様な、または、「トリマルキオの饗宴」の食客の様な他人の金銭で私腹を肥やすだけの人ではないと思い込むために、マエケナスの保護する笑顔を自分の物にする。

常に、大衆は金銭目的である。

善行ですら、大衆には金銭目的である。

大衆は、公の慈善団体に寄付すると決めても、利益を得るために寄付を延期する。

前記の典型は、一個人の話ではなく、人の一分類の全員の話である。

前記の、大衆と、特に１９世紀以降では、魔術師は頻繁に接触する事に成る。

魔術師よ、大衆を疑って、大衆の模範を模倣しなさい。

なぜなら、常に、大衆は、魔術師の危険な友人、魔術師の危険な敵であろう。

予言の公での実践、占いは、現代では、本物の達道者には、ふさわしくない。

なぜなら、頻繁に、現代の占い師は、客を引き留めるために、大衆を驚かせるために、手品をする様に追い込まれたり、驚くべき実績を見せる様に追い込まれるであろう。

常に、公認の偽の占い師は、秘密の情報源、秘密の探偵を持っている。

探偵は、相談者の私生活や習慣を、偽の占い師に教える。

占う小部屋と控え室の間の信号、合図、暗号は確立されている。

初めて訪れたので情報が不明の相談者は、番号札を受け取る事に成る。

初めて訪れたので情報が不明の相談者は、別の日に占われる事に成る。

探偵は、初めて訪れたので情報が不明の相談者を、尾行する。

探偵は、守衛、隣人、従業員などから情報を集める。

詐欺師である偽の占い師は、探偵からの情報で、単純な精神の持ち主を驚かせて、畏敬される事に成る。

本物の知と、本物の予言、本物の占いこそ畏敬されるべきである。

未来の(結果の)予言は、ある意味で、原因が結果の実現を含んでいる場合にのみ、可能である。

魂は、全神経系によって、星の光の輪を調べる。

星の光は人に感化を与える。

星の光は人から感化を与えられる。

予言者の魂は、直感だけで、人が身の周りに引き起こした全ての愛憎を理解できる。

人は、自分の周囲に愛憎を引き起こしている。

星の光は、人が自分の周囲に引き起こした愛憎を記憶する。

予言者の魂は、人の思考の中から、人の意思を読み取る事ができる。

予言者の魂は、人が出会うであろう障害を予見できる。

予言者の魂は、激しい死が人を待っている場合は、予見できる。

しかし、実に、予言者の魂は、予言者が策略として予言の実現を用意しない場合は、占った後の人の秘密の自発的な気まぐれな決意を予見できない。

予言者の魂は、予言者が策略として予言の実現を用意した場合は、占った後の人の秘密の自発的な気まぐれな決意を予見できる。

例えば、後記の様に、占い師は、夫を手に入れたい盛りを過ぎた女性に話す。

今日の晩か、明日の晩に、ある場所に行くか、ある見せ物を観に行けば、好みの男性に会うであろう。

男性は、あなたを見て、運命の不思議な組み合わせによって、結婚できるであろう。

夫を手に入れたい女性は、今日の晩か、明日の晩に、ある場所に行くか、ある見せ物を観に行くであろう。

夫を手に入れたい女性は、好みの男性を見つけて、占い師が話した事を信じるであろう。

夫を手に入れたい女性は、結婚を期待するであろう。

結婚できなくても、夫を手に入れたい女性は、占い師のせいにはしないであろう。

なぜなら、夫を手に入れたい女性は、別の幻想への機会をあきらめる。

夫を手に入れたい女性は、忍耐強く、占い師に再び相談するであろう。

すでに話した様に、星の光は、予言の大いなる本である。

星の光の中から読み取る能力は、先天的な物か、後天的に獲得した物である。

前記から、先天的な予見者と、秘伝伝授された後天的な予見者という、2 種類の予見者が存在する。

学者や思索家より、幼子、無学な人、羊飼い、愚者には先天的な予言の才能が有る。

羊飼いのダビデは、カバリストと魔術師の王ソロモンの様な、預言者に成った。

先天的な直感は、知による直感と同じくらい正確な時が有る。

理論家であるほど、星の光を見通す力が小さい。

催眠状態は、直感だけの状態である。

被催眠者には知による予見者の導きが必要である。

知による予見者が催眠を導く必要が有る。

懐疑者と理論家は被催眠者を誤らせ迷わせるだけである。

懐疑者と理論家は催眠を誤らせ迷わせるだけである。

忘我状態でのみ予見は起こる。

忘我状態でのみ予言は起こる。

忘我状態に到達するには、思考を引きつけるか眠らせて、疑いと幻覚が起きない様にする必要が有る。

予言の手段は、精神的な内的な光にだけ集中できる様に、自分に催眠をかける事と、物質的な外的な光から意識を逸(そ)らす事だけである。

前記の理由から、ティアナのアポロニウスは、羊毛のマントで自分を完全に覆って、へそを見つめた。

デュ ポテの魔法の鏡は、ティアナのアポロニウスの手段と似ている。

水占いと、磨いて黒くした親指の爪を鏡にする予見は、魔法の鏡の変種である。

香と儀式は思考を麻痺させる。

香と儀式は忘我状態にさせる。

水と黒色は目に見える物質的な光線を吸収する。

目がくらみ、精神的混乱が起きる。

そして、先天的な力が有る人や後天的な知に導かれた人に、直感があらわれる。

土占いとカード占いは、水占いと同じ結果に至る、他の手段である。

象徴と数の組み合わせは、運であると同時に必然である。

象徴と数の組み合わせは、象徴と数の組み合わせを口実として想像力が現実を読み取るのに十分である、運命のめぐり合わせとの類推可能性をもたらす。

好奇心が強いほど、見たい欲望は強い。

直感を信じるほど、予見は明確に成る。

根拠無しに土占いの点と点を結びつける事や、ふざけてカードを並べる事は、幼子の様にふざける事である。

知でくじを磁化して確信でくじ(の心)を傾けた時にだけ、くじは神託と成る。

全ての神託の中で、タロットが最も驚く答えをもたらす。

なぜなら、カバラの普遍の鍵であるタロットの全ての可能な組み合わせは、知の神託、真理の神託を答えとしてもたらす。

タロットは、古代の祭司マギの比類無き書物である。

タロットは、最初の聖書である。

前記を、２２章で証明するつもりである。

おみくじの様に、初期のキリスト教徒が、運任せで聖書のページを選んで、思い浮かべていた数で聖書の一文を選んで、聖書に相談した様に、古代人はタロットに相談した。

ルノルマン嬢は、１８世紀後半から１９世紀前半の著名な占い師である。

ルノルマンは、タロットの知に通じていなかった。

ルノルマンは、エッティラが改悪したタロットだけを知っていた。

エッティラのタロットの説明は、光の上に影を投じた代物であった。

ルノルマンは、天の高等な魔術もカバラも知らなかった。

ルノルマンの頭の中は、誤った体系の知識で占められていた。

ルノルマンは、先天的な直感を持っていた。

ルノルマンの直感が、ルノルマンをあざむく事は稀だった。

ルノルマンが残した作品は、古典の引用で飾られた正統主義の戯言である。

しかし、相談者の存在と磁気が霊感を授けたルノルマンの神託は驚くべき物であった。

ルノルマンは、女性らしい自然な愛情の代わりに、想像し過ぎる、精神が定まらない女性であった。

ルノルマンは、Sayne 島の古代のドルイドの女祭司の様に、処女として、生きて死んだ。

仮に、自然が美をルノルマンに与えていれば、古代であれば、容易に、ルノルマンはメリュジーヌや Velleda の役を務めたであろう。

予言の実践で、儀式が多いほど、予言者の想像力と相談者の想像力は強まる。

前記から、神の四大要素の呼び出し、神の四大元素の呼び出し、ソロモンの祈り、悪人の霊を追い払う魔術の剣を、成功させるために、予言の儀式に用いても良い。

予言を実践する日の霊や時間の霊を呼び出して、霊に対応する香を霊にささげるべきである。

そして、どの動物に共感するか、どの動物に反感を覚えるか、どの花が好きか、どの色が好きか相談者に質問して、相談者との磁気の催眠に入り、相談者と直感を一致させるべきである。

花、色、動物は、カバラの 7 つの霊への類推に結びつき分けられる。

青を好きな人は理想家で空想家、夢想家である。

赤を好きな人は感覚的で情熱的である。

黄色を好きな人は奇人で移り気である。

緑色を好きな人は営業向きで悪知恵が働く。

黒を好きな人は土星から感化を与えられる。

バラ色は金星の色である。

など。

馬を好きな人は勤勉で気高く従順で優しい。

犬を好きな人は愛情が深く忠実である。

猫を好きな人は自立していて道徳的に束縛されず自由である。

率直な人はクモを嫌う。

気高い人は蛇に反感を覚える。

正直で選（え）り好みする人はネズミを大目に見れない。

好色な人はヒキガエルを嫌う。

なぜなら、ヒキガエルは冷たく、さびしく不気味で、みじめに感じる。

花には動物や色と類推可能な共感が有る。

魔術は普遍の類推の知である。

人の １ つの好みだけで、人の １ つの傾向だけで、人の全てを見抜く事ができる。

ジョルジュ キュヴィエの比較解剖学の、精神の領域の現象への応用である。

顔と体の人相学、眉（まゆ）の上の額（ひたい）のしわ、手の線は貴重な表れを魔術師にもたらす。

人相学と手相占いは別々の学問に成った。

Goglenius、Belot、Romphile、Indagine、Taisnier は、純粋な経験と推測で、手相と人相を比較して調査して、人相学と手相占いを １ つの考えに統一した。

Taisnier が書いた作品は無上に重要で完全である。

Taisnier はGoglenius、Belot、Romphile、Indagine の観察と推測を結びつけ評論した。

１ ９ 世紀の研究者ダルペンティーニは、人の性格と手の形の全体や細部の間に現実に存在する類推に注目して、新しい段階の確実性を手相占いに与えた。

独創性と技術が豊かな美術家、文学者である Desbarrolles は手相占いをさらに発展させた。

弟子は祖師を超えた。

Desbarrolles はダルペンティーニを超えた。

大いなる小説家アレクサンドル デュマは、世界市民的な小説の中で、アレクサンドル デュマの周囲の旅人の 1 人として記して、愛想の良い気高い Desbarrolles を喜ばせた。

すでに、大衆は、Desbarrolles が手相占いの本物の魔術師である、と話している。

予言者は、相談者が習慣的に見る夢について質問するべきである。

夢は、内的な生き方と外的な生き方の反映である。

古代の哲学者は夢に大いに注意した。

祖は夢を確実な啓示であると考えた。

夢の中で宗教的な啓示の多数は与えられた。

地獄の奇形の存在は、キリスト教の悪夢である。

「Smarra」の著者が賢明に気づいた様に、もし夢の中で人が地獄の奇形の存在を見なかったのであれば、地獄の奇形の存在を描けなかったであろう。

絶えず奇形のものを想像に反映する人を用心するべきである。

夢は四気質を表す。

四気質は永遠に人生に感化を与える。

もし運命を確実に推測したいのであれば、四気質と四気質の夢を良く知る必要が有る。

血、快楽、光の夢は多血質を表す。

水、泥、雨、涙の夢は粘液質を表す。

夜の火、暗闇、恐怖、霊の夢は(黄)胆汁質や黒胆汁質、憂鬱質を表す。

シュネシオスは、最初の数世紀の大いなるキリスト教の司教である。

シュネシオスは、美しい純粋なヒュパティアの弟子である。

キリスト教の狂信者どもがヒュパティアを殺した。

ヒュパティアはアレクサンドリア学派の栄光に満ちた中心人物であった。

キリスト教はアレクサンドリア学派の遺産を受け継いだ。

シュネシオスは、ピンダロスやカリマコスの様な、叙情詩人である。

シュネシオスは、オルフェウスの様な、祭司である。

シュネシオスは、Tremithonte のSpiridion の様な、キリスト教徒である。

シュネシオスは、夢についての論文を私達に残した。

カルダーノはシュネシオスの夢についての論文の注釈書を書いた。

前記の、精神の大いなる研究に大衆は関心を持たない。

なぜなら、連続する狂信が、俗世の大衆に、知と宗教の合理主義を失望させた。

使徒行伝　１９章１９節で使徒パウロはエフェソスの大衆がトリスメギストスの本を燃やすのを止めなかった。

６４２年頃にイスラム教徒のウマル イブン ハッターブはコーランを原本にするためにアレクサンドリアの図書館を破壊してトリスメギストスの弟子の本や使徒パウロの弟子の本を燃やした。

おおっ！　迫害者ども！

おおっ！　放火者ども！

おおっ！　笑いものにする者ども！

いつ、お前たちは暗闇と破壊の業をやめるのか？

トリテミウスは、キリスト教時代の大いなる魔術師である。

トリテミウスは、ベネディクト派の修道院の非難の余地が無い修道院長である。

トリテミウスは、学の有る神学者である。

トリテミウスは、コルネリウス アグリッパの祖師である。

トリテミウスは、正しく評価されていない計り知れないほど貴重な作品群を残した。

トリテミウスは「七つの第二原因について」という書物を残した。

トリテミウスの「七つの第二原因について」は、新旧の全ての予言の鍵である。

トリテミウスの「七つの第二原因について」は、未来の大いなる出来事を全て予見する、数学的、歴史的、イザヤとエレミヤを超越する簡潔な方法である。

「七つの第二原因について」で、トリテミウスは、歴史の哲学の概要を記している。

「七つの第二原因について」で、トリテミウスは、全世界という存在をカバラの 7 つの霊に分担させている。

7 つの霊が世界を担っている事は、ヨハネの黙示録の 7 人の天使についての大いなる広範囲にわたる解釈である。

ヨハネの黙示録の 7 人の天使は、言葉と言葉の実現を地にあふれさせるために、ラッパや杯と共に、連続してあらわれる。

各天使が統治する期間は 3 5 4 年と 4 か月である。

世界が創造された年の 3 月 1 3 日からオリフィエルが世界を統治した。

オリフィエルは土星の天使である。

トリテミウスは、3 月 1 3 日に世界が創造された、と話している。

原始的な暗闇の時代であった。

創世紀元 3 5 4 年 6 月 2 4 日からアナエルが世界を統治した。

アナエルは金星の天使である。

愛が人の教師に成り始めた時代であった。

愛は家族を創造した。

家族の形成は群落の形成や原始的な都市の形成を導いた。

最初の文明の啓発者は、愛が霊感を与えた詩人であった。

やがて、詩による心の高まりが、宗教、狂信、放蕩をもたらした。

結果として、放蕩は、大洪水をもたらした。

創世紀元 7 0 8 年 1 0 月 2 4 日まで大洪水は続いた。

創世紀元 7 0 8 年 1 0 月 2 5 日からザカリエルが世界を統治した。

ザカリエルは木星の天使である。

ザカリエルの導きの下で、人は、知り始めた。

人は、土地や住居の所有を獲得するために戦い始めた。

都市の建設と国々の境界の時代であった。

都市の建設と国々の境界の結果は、文明化と戦いであった。

創世紀元 １０６３年２月２４日からラファエルが世界を統治した。

創世紀元 １０６３年２月２４日から交流、交渉、貿易、商業の必要性が感じられる様に成った。

ラファエルは水星の天使である。

ラファエルは学問、言葉、聡明さ、勤勉さの天使である。

文字が発明された。

最初の文字は普遍の象形文字である。

最初の文字の記念碑として、最初の文字はエノクの書タロットに保存されている。

カドモス、トート、パラメデスはエノクである。

後に、ソロモンはタロットをカバラの小鍵に選んだ。

タロットは、テラフィム、ウリムとトンミムの神秘の書である。

タロットは、「光輝の書」の原初の創世記である。

ギヨーム ポステルはタロットをエノクの創世記と呼んだ。

タロットは、エゼキエルの神秘の車輪である。

タロットは、カバリストの ROTA である。

ペルシャの祭司マギとジプシーのタロットである。

技術が発明された。

初めて航海が試みられた。

関係が広がった。

欲望が増した。

創世紀元１４１７年６月２６日からサマエルが世界を統治した。

サマエルは火星の天使である。

俗世の堕落の時代であった。

俗世の大洪水の時代であった。

長期の昏迷状態であった。

創世紀元１７７１年３月２８日からガブリエルが世界を統治した。

ガブリエルは月の天使である。

ガブリエルの下で、世界は生まれ変わるために奮闘した。

ノアの家族が増えた。

ノアの家族は地上の全てに再び住んだ。

バベルの塔の混乱が起きた。

創世紀元２１２６年２月２４日からミカエルが世界を統治した。

ミカエルは太陽の天使である。

最初の支配の源の原因に違いない時代である。

ニムロデの子孫の国が起きた。

学問と宗教が生まれた。

圧制と自由の間の最初の戦いが起きた。

前記の、興味深い研究を、トリテミウスは、世界が創造された年から１８７９年１１月まで進めた。

人は時代に対応する堕落をくり返す。

愛と詩によって文明が新たに生まれる。

家族が国を建て直す。

交流、交渉、貿易、商業が国を大きくする。

戦いが国を破壊する。

普遍な進歩的な文明化が国を直す。

大きい国が小さい国を同化する。

前記が、歴史の総合である。

前記の観点から、トリテミウスの「七つの第二原因について」は、ボシュエの作品より、広範囲であり、独立している。

トリテミウスの「七つの第二原因について」は、歴史の哲学の絶対的な鍵である。

「七つの第二原因について」でトリテミウスは１８７９年１１月まで予言している。

１８７９年１１月はミカエルが統治している時代である。

３世紀半の苦しみと、３世紀半の希望によって用意された、新しい普遍の王国の建設。

３世紀半の希望は、１６世紀、１７世紀、１８世紀、１９世紀の前半の、月の黄昏と期待と、一致する。

３世紀半の苦しみは、１１世紀の後半、１２世紀、１３世紀、１４世紀の、試練、無知、苦しみ、全ての自然の罰と、一致する。

トリテミウスの予言によれば、１８５５年から２４年後の、１８７９年に、普遍の国が建設される。

普遍の国は、平和を世界にもたらす。

普遍の国は、政治的であり宗教的である。

普遍の国は、現代の俗世の大衆が関心を持っている全ての問題を解決する。

普遍の国は、３５４年と４か月、存続する。

その後、オリフィエルが世界を統治する。

沈黙と夜の時代に成る。

普遍の国は、太陽の統治の下に在る。

普遍の国は、東の鍵を持つ人の物と成る。

全世界の権力者たちが、東の鍵を獲得するために争っている。

上の王国群では、知と行動が太陽を統治する力である。

現在、知と命を先導する国が、東の鍵を所有して、普遍の王国を確立するであろう。

普遍の王国を建てるには、普遍の王国を建てる前に、人に成った神イエスの十字架と殉教に似た、十字架と殉教に耐える必要が有るであろう。

しかし、生死を問わず、普遍の王国を建てる国の精神は国々を圧倒するであろう。

１８５５年から２４年後、１８７９年に、全ての人が、常に勝利者であるか死から奇跡的に復活したフランスの旗を認めて後に続くであろう。

フランスが普遍の王国を建てる事が、トリテミウスの予言である。

エリファス レヴィの先見は、フランスが普遍の王国を建てる、というトリテミウスの予言を確認する。

フランスが普遍の王国を建てる事は、エリファス レヴィの希望に基づいている。

２２

ヘルメスの書

作業の終わりに到達した。

作業の終わりに、普遍の鍵タロットを与え究極の言葉を話す必要が有る。

魔術の作業の普遍の鍵タロットは、全ての古代の宗教の考えの鍵である。

タロットは、カバラと聖書の鍵である。

タロットは、ソロモンの小鍵である。

ソロモンの小鍵は、失われたと何世紀にもわたって考えられていたが、エリファスレヴィが復活させた。

タロットで、古代の世界の聖遺物収納所を開く事ができる。

タロットで、死んだ者に話させる事ができる。

タロットで、過去の記念碑を過去の輝かしさのまま見る事ができる。

タロットで、スフィンクスの謎を理解できる。

タロットで、全ての祭司だけの聖所を見通す事ができる。

古代人は、鍵タロットの使用を、大祭司にだけ許した。

古代人は、タロットの秘密を、秘伝伝授者の選ばれた者にだけ明かした。

タロットは鍵である。

タロットの２２枚の大アルカナは、象形文字と数であるアルファベットである。

タロットの２２枚の大アルカナは、絵と数で、一連の普遍の絶対の概念を表す。

タロットの４組の１０つ１組の小アルカナは、１０の数の段階を、４つの象徴で増やした物である。

タロットの２２枚の大アルカナは、１０の数の段階を、黄道１２星座を表す１２の絵と結びつけた物である。

タロットの黄道１２星座を表す１２枚の絵のうち牡牛座、水瓶座、獅子座などを表す４枚の絵は、東西南北の４つの霊を同時に表す。

メンフィスとテーバイの神秘では、牛、人、ライオン、ワシというスフィンクスの４つの形が、象徴的な４つ１組を表す。

牛、人、ライオン、ワシは、古代の世界の四大元素と対応している。

水瓶座または人が持つ杯は水を表す。

天のワシの頭の周りの光輪または輪は風を表す。

火を強める木の棒は火を表す。

地と太陽の熱で実を結ぶ木の棒は火を表す。

ライオンが象徴である王者の王笏は火を表す。

ライオンは王者の象徴である。

ミトラスの剣は土を表す。

毎年ミトラスは神の牡牛を犠牲にして、牡牛の血と共に、地の全ての果実を増やす生気を土に注ぐ。

棒、杯、剣、輪という(タロットの)4 つの象徴は、類推可能な概念と共に、全ての祭司だけの聖所の、隠された１つの言葉ヤハウェ、イョッド ヘー ヴァウ ヘーを説明する。

酒神バッカスの祭司はイョッド エヴァに熱狂した時の陶酔の中でヤハウェ、イョッド ヘー ヴァウ ヘーという言葉を見抜いた様に思われる。

神秘の言葉ヤハウェ、イョッド ヘー ヴァウ ヘーの意味は何か？

ヤハウェ、イョッド ヘー ヴァウ ヘーは、母語である最初の文字ヘブライ文字の、４文字による神の名前である。

イョッドは、つる植物ぶどうの木の象徴、または、ノアの父性の王笏の象徴である。

ヘーは、神酒を地に注ぐ杯の象徴、母性の杯の象徴である。

ヴァウは、2 つを結ぶ。

古代インド人は、大いなる神秘の、男性器と女性器で、ヴァウを描いた。

イョッド ヘー ヴァウは、神の言葉ヤハウェの中の、3 つ 1 組の三重の象徴である。

母性の杯の象徴である文字ヘーが、自然と女性の多産性を表すために、再びあらわれる。

ヘーが、原因から結果へ降りて結果から原因へ昇る進歩的な類推可能性と普遍の考えを明確に表すために、再びあらわれる。

神の言葉ヤハウェは発音されなかった。

古代ヘブライ人は、神の名前ヤハウェを、書いたが、読み上げなかった。

学の有るガファレルは、ヘブライ人のテラフィムが、ヘブライ人のウリムとトンミムの神託への相談で用いた、牛、人、ライオン、ワシという 4 つのカバラ的な動物の象徴であると考えた。

スフィンクスや契約の箱の智天使ケルビムは、牛、人、ライオン、ワシという 4 つのカバラ的な動物の象徴を要約している。

士師記 １ ８ 章 １ ７ 節で奪われたミカのテラフィムについて、ガファレルはアレクサンドリアのフィロンの興味深い一節を話している。

　士師記 １ ８ 章 １ ７ 節で奪われたミカのテラフィムについての、アレクサンドリアのフィロンの話は、タロットの古代の祭司だけの起源を完全に明らかにしている。

　後記の様に、ガファレルは説明している。

「ヘブライ人の哲学者であるアレクサンドリアのフィロンは、士師記の １ ７ 章 ５ 節の隠された歴史について話して、『ミカは、若い少年の ３ つの像、若い牛の ３ つの像、ライオンの ３ つの像、ワシの １ つの像、竜の １ つの像、ハトの １ つの像を、純金と純銀で造った』と話している。

もし誰かが妻についての秘密をミカに見抜く様に相談したら、ミカはハトの像に相談した。

子については、ミカは、若い少年の像に相談した。

健康については、ミカは、ワシの像に相談した。

強さと力については、ミカは、ライオンの像に相談した。

多産能力、豊穣については、ミカは、ケルブの像、牛の像に相談した。

(エリファス レヴィの『魔術の歴史』『ヘブライ語でケルブ、ケルビムは牛を意味する』)

寿命については、ミカは、竜の像に相談した」

　ガファレルは軽視したが、アレクサンドリアのフィロンが明らかにした話は、エリファス レヴィには、最高に重要である。

　アレクサンドリアのフィロンの話の、牛、人、ライオン、ワシは ４ つ１ 組の鍵である。

アレクサンドリアのフィロンの話の、牛、人、ライオン、ワシという４つの象徴的な動物は、前のページの愚者が数字を持たないので、２１の数を持つ場合が有る、タロットの２２ページ目の絵に描かれている。

　前のページの愚者が数字を持たないので、２１の数を持つ場合が有る、タロットの２２ページ目は、３組目の７つ１組として、３組の７つ１組を重ね合わせて表して、タロットの全ての象徴をくり返して要約している。

　また、アレクサンドリアのフィロンの話の、銀のハトと金の竜は、色の対立を表す。

　寿命を表すために、アレクサンドリアのフィロンの話の、竜または蛇が形成する輪または ROTA。

　そして、タロットによるカバラ的な占い。

　後に、エジプト人のジプシーはタロットによるカバラ的な占いを実践した。

　エッティラは、ジプシーの秘密を推測して不完全に復活させた。

聖書で大祭司は、ケルビム、または、牛の頭とワシの翼を持ったスフィンクスに囲まれた契約の箱のふたである金の板の上の、主に相談した。

大祭司は主に、テラフィムの助けによって、ウリムとトンミムの助けによって、エフォドによって、相談した。

エフォドは １２ の数の魔方陣である。エフォドは言葉が記されている １２ 個の宝石による魔方陣である。

テラフィムはヘブライ語で象徴を意味する。

ウリムとトンミムは、上と下、東と西、「はい」と「いいえ」である。

ウリムとトンミムは、神殿の ２ つの柱、ボアズとヤキンに対応している。

大祭司が神託に相談したい時は、大祭司は、テラフィム、または、ライオンといったイョッド ヘー ヴァウ ヘーの象徴が記された金の板、を抽選で複数引いて、理性が有る人の周り、または、エフォドの周りに ３ つ １ 組で並べる。

理性が有る人の周り、エフォドの周り、エフォドの小さい鎖の留め金である ２ つのオニキスの間に並べる。

エフォドの鎖の留め金の、右のオニキスは、思いやり、寛大を表す。

エフォドの鎖の留め金の、左のオニキスは、厳しさ、力に対応していて、正義、怒りを表す。

例えば、ライオンの象徴がユダ族と記されている石の左側に有った場合は、大祭司は神託を「主である神の杖はユダ族に対して怒っている」と読み取るであろう。

人や杯のテラフィムがベニヤミン族と記されている石の近くの左側に有った場合は、大祭司は「主である神の思いやりは、神、神の思いやりを冒涜するベニヤミン族の罪を嫌っている。神は、神の怒りの杯の、神の怒りをベニヤミン族の上に注ぐであろう」と読み取るであろう。

など。

イスラエルで王者である祭司が姿を隠した時、

人に成った神の言葉イエスの前で全ての神託が沈黙した時、

評判の良い優しい賢者達の口によって、神の言葉が話した時、

契約の箱が失われた時、

祭司だけの聖所が大衆の目にさらされた時、

神殿が破壊された時、

エフォドとテラフィムの神秘は、金や宝石の上に記されなく成った。

　何人かの学の有るカバリストが、エフォドとテラフィムの神秘を、象牙、羊皮紙、金や銀でめっきした銅の上に、記した、というよりはむしろ、描いた。

　そして、エフォドとテラフィムの神秘は、カードの上に描かれた。

　常に、公の教会は、教会の神秘への危険な鍵を含んでいると、タロットやトランプといったカードを邪推した。

　カードから、タロットは生まれた。

　学の有るクール ド ジェブランは、象徴と数の知で、タロットが古代から存在する事を明らかにした。

　そして、後に、タロットが古代から存在する事は、エッティラの疑わしい推測と忍耐強い研究を鍛えた。

　「原始世界」の第 ８ 巻で、クール ド ジェブランは、タロットの ２ ２ の鍵、棒の １ 、杯の １ 、剣の １ 、輪の １ の絵をもたらした。

　クール ド ジェブランは、古代の全ての象徴との、タロットの完全な類推可能性を実証した。

　しかし、クール ド ジェブランは、タロットを説明しようと試みて、必然的に、道を外れてしまった。

なぜなら、クール ド ジェブランは、普遍の神のテトラ グラマトン、ヤハウェ、イョッド ヘー ヴァウ ヘーを、タロットの起点にしなかった。

酒神バッカス祭のイョッド エヴァ。

祭司だけの聖所のイョッド ヘー ヴァウ ヘー。

カバラのヤハウェ。

エッティラまたはアリエットは、自説のタロット占いと、自説のタロット占いで得られる物質的な利益に、完全に夢中に成った。

アリエットは、元は理髪師であった。

アリエットは、フランス語の学が無かった。

アリエットは、フランス語を正しく書く学すら無かった。

アリエットは、トートの書タロットを、改良して自分の物にしたと主張した(が、実際には、改悪した)。

後記の、愚直な広告が、現在は希少に成ったアリエットのタロットの 2 8 番目の、棒の 8 には記されている。

「エッティラ。
代数学の教師、古代のトートの書タロットの近代の誤りの修正者。
パリの Rue de l'Oseille の4 8 番、在住」

エッティラが誤りと思った物を修正しない方(ほう)が確実に良かったのである。

エッティラの本は、クール ド ジェブランが発見した古代の書タロットを、大衆の低俗な悪人の霊の魔術とカード占いの領域にまで、おとしめた。

「証明し過ぎようとする人は何も証明できない」

エッティラは、「証明し過ぎようとする人は何も証明できない」という古代の論理の言葉の、実例である。

エッティラの読むにたえない本の、いくつかの希少な言葉に見られる様に、エッティラの努力は、エッティラをある程度のカバラの知識に導いた。

エッティラと同じ時代の、本物の秘伝伝授者は、タロットの秘密を所有していた。

薔薇十字団員は、タロットの秘密を所有していた。

例えば、分類がタロットであるルイ クロード ド サンマルタンの「Natural Table」が証明している様に、本物のタロットを所有していた、マルティニストは、タロットの秘密を所有していた。

後記は、薔薇十字団の敵が記した物である。

「薔薇十字団は、現在または未来の他の書物の全てを学ぶ事ができる書物(、タロット)を所有している、と主張している。
現在または未来の他の書物の全てを学ぶ事ができる書物(、タロット)が、薔薇十字団の論理である。
分析能力によって、抽出によって、一種の知の世界の形成によって、全ての可能な存在の創造によって、現在または未来の他の書物の全てを学ぶ事ができる書物(、タロット)の中に、存在する全てのものの原型を見つける事ができる。
哲学的な神知学的な小宇宙的なカード(である、タロット)を見なさい」

(「好奇心が強い人々のために、めくり上げられたヴェール」の著者による「カトリック、宗教と王に対する秘密結社である薔薇十字団」。パリ。Crapard。１７９２年。)

本物の秘伝伝授者は、無上に大いなる神秘と共に、タロットの秘密を所有していた。

　本物の秘伝伝授者は、エッティラの誤りに対する抗議を用心してやめた。

　本物の秘伝伝授者は、本物のソロモンの小鍵タロットの秘密を明らかにする代わりに、誤りを自覚させるためにエッティラを放っておいた。

　前記から、エリファス レヴィは、古代の世界の全ての教えと全ての哲学の鍵タロットを、損失の無いままで、未知のままで、発見しても、深くは驚かなかった。

　エリファス レヴィはタロットが鍵であると話した。

　タロットは本当に鍵の形をしている。

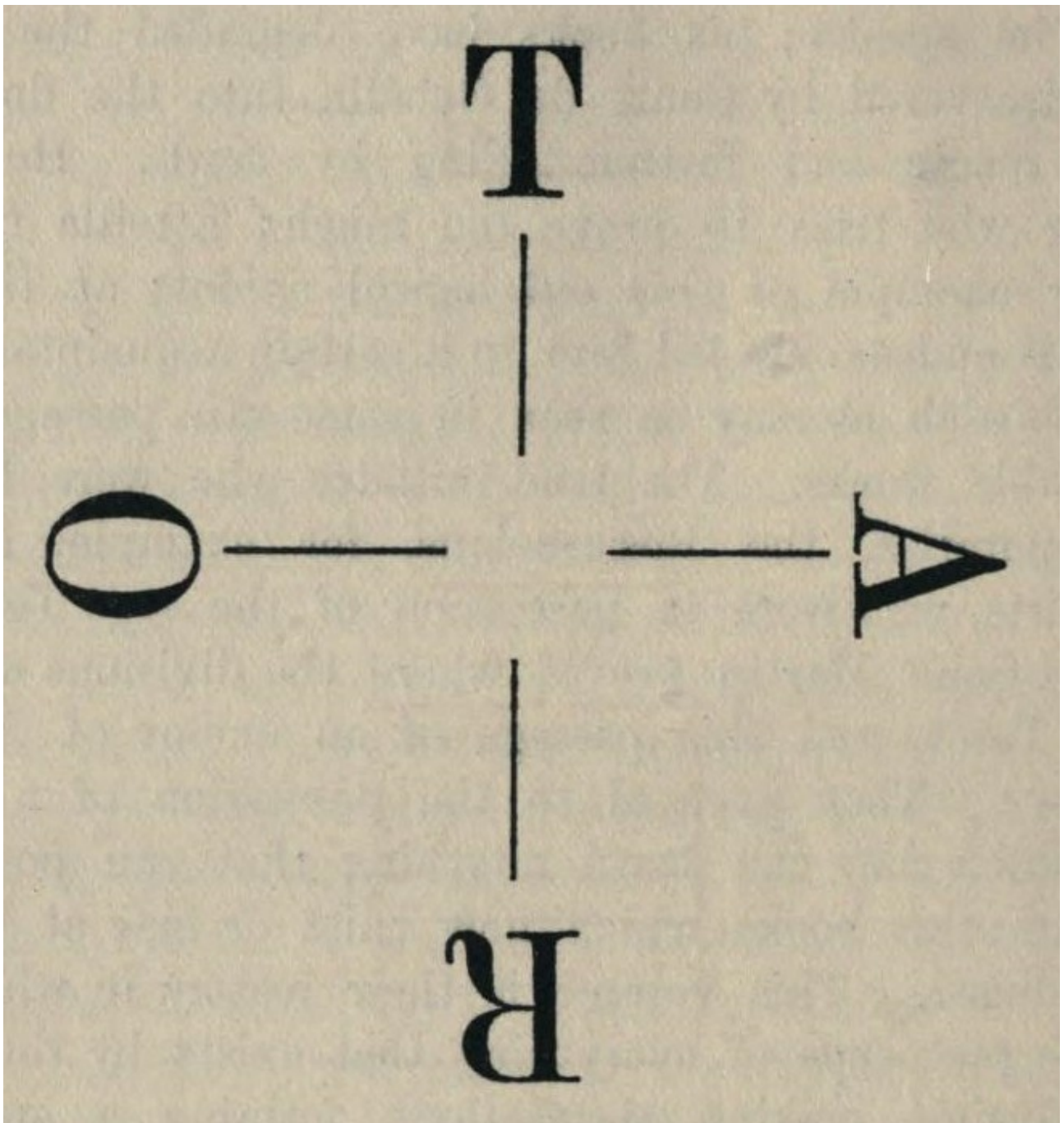
　鍵タロットの輪は、４組の１０つ１組の小アルカナの輪である。

　鍵タロットの胴体は、２２文字のものさしである。

　鍵タロットの胴体は、２２文字のヘブライ文字と１対１対応である、２２枚の大アルカナである。

　鍵タロットの歯は、３つ１組の３段階である。

　「創世から隠されたものの鍵」で、ギヨーム ポステルは、タロットは鍵である、と話している。

　後記の様に、ギヨーム ポステルは、秘伝伝授者だけが知っている、ROTA と読める、鍵タロットの隠された名前を示した。

ROTAは、エゼキエルの車輪を意味する。

ROTAはTAROT、タロットを意味する。

ROTAは、錬金術師のAzothと同義語である。

TAROT、タロットは、考えと自然の絶対をカバラ的に表した言葉である。

TAROT、タロットは、ギリシャ語とヘブライ語のキリストの組み合わせ文字の文字で形成されている。

TAROT、タロットは、ラテン文字の R またはギリシャ文字の Ρ が、ヨハネの黙示録の最初と最後、アルファとオメガの間に存在する。

十字の象徴である神のタウが、TAROT、タロットという言葉全体を包んでいる。

すでに話した様に。

タロット無しでは、古代人の魔術は閉ざされた書物である。

タロット無しでは、カバラの大いなる神秘を見通す事は不可能である。

タロットだけが、コルネリウス アグリッパとパラケルススの魔方陣の意味を教える。

タロットの鍵で、コルネリウス アグリッパとパラケルススの魔方陣を形成して集められた象徴を読み取ると、確信させられる様に。

後記は、パラケルススの 7 惑星の霊の魔方陣である。

SATURN. 土星

2	9	4
7	5	3
6	1	8

JUPITER. 木星

6	12	12	10
5	10	11	11
9	6	7	12
14	6	4	1

MARS. 火星

14	10	22	22	18
20	12	7	20	2
8	17	9	9	8
12	3	9	5	26
11	23	8	6	11

THE SUN. 太陽

9	22	1	32	25	19
7	11	27	18	8	3
19	14	16	15	23	24
18	20	22	21	17	13
22	29	10	19	26	12
36	5	35	6	12	13

VENUS. 金星

22	47	18	41	0	35	8
25	23	47	17	42	11	29
10	6	14	9	18	36	12
3	31	16	25	43	19	37
38	14	32	31	26	44	20
21	39	8	33	22	27	45
46	15	40	19	24	03	27

MERCURY. 水星

8	52	39	5	24	61	66	11
49	15	14	52	52	12	10	56
41	43	22	14	45	19	18	48
33	34	35	29	20	38	39	25
40	6	27	59	31	30	31	33
17	47	55	28	25	43	42	24
9	51	53	12	13	51	00	16
64	12	15	61	61	6	7	47

THE MOON. 月

37	70	29	70	21	62	12	14	41
16	28	70	30	71	12	53	14	46
47	20	11	7	31	72	22	35	15
16	48	68	40	81	32	62	25	56
57	17	49	29	7	66	33	65	25
26	58	40	56	31	42	74	34	66
53	27	59	10	51	2	41	75	35
36	68	19	60	11	65	43	44	76
77	28	20	69	61	12	25	60	5

パラケルススの魔方陣の縦か横か対角線の列の数を合計すると、常に、惑星の象徴的な数を手に入れられる。

そして、パラケルススの魔方陣の縦か横か対角線の列の数の合計の、説明を、タロットの象徴で見つける。

そして、パラケルススの魔方陣の縦か横か対角線の列の数の合計で、三角形、正方形、十字形を形成して、全ての意味を、タロットで見つける。

そうすれば、７ 惑星の象徴の下で、というよりはむしろ、人生の全ての出来事に対する天または人の感化力を ７ 惑星の霊として擬人化した象徴の下で、パラケルススといった古代人が隠した全ての象徴と神秘を完全に深く知るであろう。

すでに話した様に、タロットの(大アルカナの)22 の鍵は、最初のカバラ的なアルファベットであるヘブライ文字の ２２ 文字である。

後記は、何人かのヘブライ人のカバリストによるタロットの大アルカナの一般とは異なる説明である。

アレフ

存在、精神、人、神。

理解可能なもの。

唯一性、数の母、第一質料。

魔術師の姿で全ての前記の概念は象徴的に表される。

魔術師の胴体と腕は文字アレフ(א)の形に成っている。

魔術師の頭のまわりには∞の形の後光が存在する。

∞の形は命と普遍の聖霊の象徴である。

魔術師の前には剣、杯、pantacle が存在する。

魔術師は奇跡の杖を天に向かってかかげている。

魔術師はアポロンやメルクリウスの様に若い姿の巻き毛である。

魔術師の口元には確信の笑みがうかんでいる。

魔術師の目には知力が見える。

ベト

神と人の家、祭司だけの聖所、法、グノーシス、カバラ、隠された教会、２つ１組、妻、母。

女性の法王がタロットの２ページ目には描かれている。

法王の三重の王冠をかぶっている女性がタロットの２ページ目には描かれている。

女性の法王は月とイシスの角をかぶっている。

女性の法王の頭はマントで隠されている。

女性の法王の胸の上には太陽の十字が存在する。

女性の法王はひざの上に本を持っている。

女性の法王は本をマントで隠している。

女性の法王ヨハンナの歴史を偽ったプロテスタントの作者は結果はさておき論文のためにタロットの女性の法王または女性の祭司の王者の２枚の好奇心をそそる古代の絵に出会い利用した。

前記の２枚の絵はイシスの全ての特性を女性の法王に帰している。

前記の２枚の絵の一方の絵には息子のホルスを持ち抱いているイシスが描かれている。

前記の２枚の絵の他方の絵には女性の祭司が描かれている。

女性の祭司は細長い髪をしている。

女性の祭司は２つ１組の２つの柱の間にイスに座っている。

女性の祭司は胸の上に４つの光線の太陽の十字を持っている。

女性の祭司は一方の手に本を置いている。

女性の祭司は他方の手で神秘を表すために親指、人差し指、中指を伸ばして薬指と小指を折り曲げる祭司の秘伝の合図をしている。

女性の祭司は頭の後ろにヴェールが有る。

女性の祭司のイスの各面には海の上の蓮華が描かれている。

エリファス レヴィは、タロットの ２ ページ目の絵という古代の象徴の中に、学者が歴史を偽った、女性の法王ヨハンナしか見えなかった、失敗した学者に強いあわれみを覚える。

ギメル

言葉、３ つ１ 組、充満、豊かさ、自然、３ つの世界の中での生成。

タロットの ３ ページ目には女帝が描かれている。

女帝は翼を持っている。

女帝は王冠をかぶっている。

女帝は王座に座っている。

女帝は地球をのせた王笏をかかげている。

女帝の象徴はワシである。

ワシは魂と命の象徴である。

女帝はローマの愛の女神ウェヌスとギリシャの天の女神ウラニア、「天の愛(ウェヌス ウラニア)」である。

(「饗宴」に、「天の愛」を意味する「ウェヌス ウラニア」、「アフロディーテ ウラニア」と、肉欲である「大衆の愛」を意味する「ウェヌス パンデモス」、「アフロディーテ パンデモス」という区別が記されている。)

ヨハネの黙示録 １ ２ 章 １ 節で使徒ヨハネは女帝を太陽の衣を着て １ ２ の星の王冠をかぶり月を足の下にしている女性として表した。

女帝は ３ つ１ 組の神秘の精髄、霊性、不死、天の女王である。

ダレト

東の門または統治、入門、力、テトラ グラマトン、ヤハウェ、4 つ 1 組、立方体の石、立方体の石の基礎。

タロットの 4 ページ目には皇帝が描かれている。

皇帝の胴体は直角三角形を表す。

皇帝の脚は十字に交差している。

十字は錬金術師の錬金炉の象徴である。

へー

印、実証、教授、法、象徴、哲学、宗教。

タロットの 5 ページ目には法王または大祭司イエス、秘儀祭司が描かれている。

より近代のタロットではタロットの 5 ページ目にはユピテルが描かれている。

大祭司イエスはソロモンの 2 つの柱の間に座っている。

秘儀祭司はヘルメスの 2 つの柱の間に座っている。

大祭司イエスは一方の手で親指、人差し指、中指を伸ばして薬指と小指を折り曲げる祭司の秘伝の合図をしている。

大祭司イエスは横木が三角形を形成している三重十字架に寄りかかっている。

2 人の祭司が大祭司イエスの前にひざまずいている。

2 つの柱の柱頭の下にいて、2 人の祭司の頭の上にいる、

大祭司イエスは 5 つ 1 組の中心であり、神の五芒星を表し、五芒星の完全な意味をもたらしている。

実に、2 つの柱は必然または法であり、2 人の祭司の頭は自由または行動である。

右の柱から右の祭司の頭へ 1 つの線を描く事が可能であり、左の柱から左の祭司の頭へ 1 つの線を描く事が可能であり、右の柱から 2 人の祭司の頭へ 2 つの線を描く事が可能であり、左の柱から 2 人の祭司の頭へ 2 つの線を描く事が可能である。

前記の様に正方形と十字で分割された 4 つの三角形が得られる。

十字の中央に大祭司イエス、秘儀祭司がいて、仮に真理、栄光、光のものを次の様に例えられるのであれば、巣の中心にいる庭のクモの様であると言える。

ヴァウ

順序、織り交ざったもの、男性器、もつれ、結合、抱く、戦い、相対するもの、組合せ、つり合い。

タロットの６ページ目には悪徳の女性と徳の女性の間の男性が描かれている。

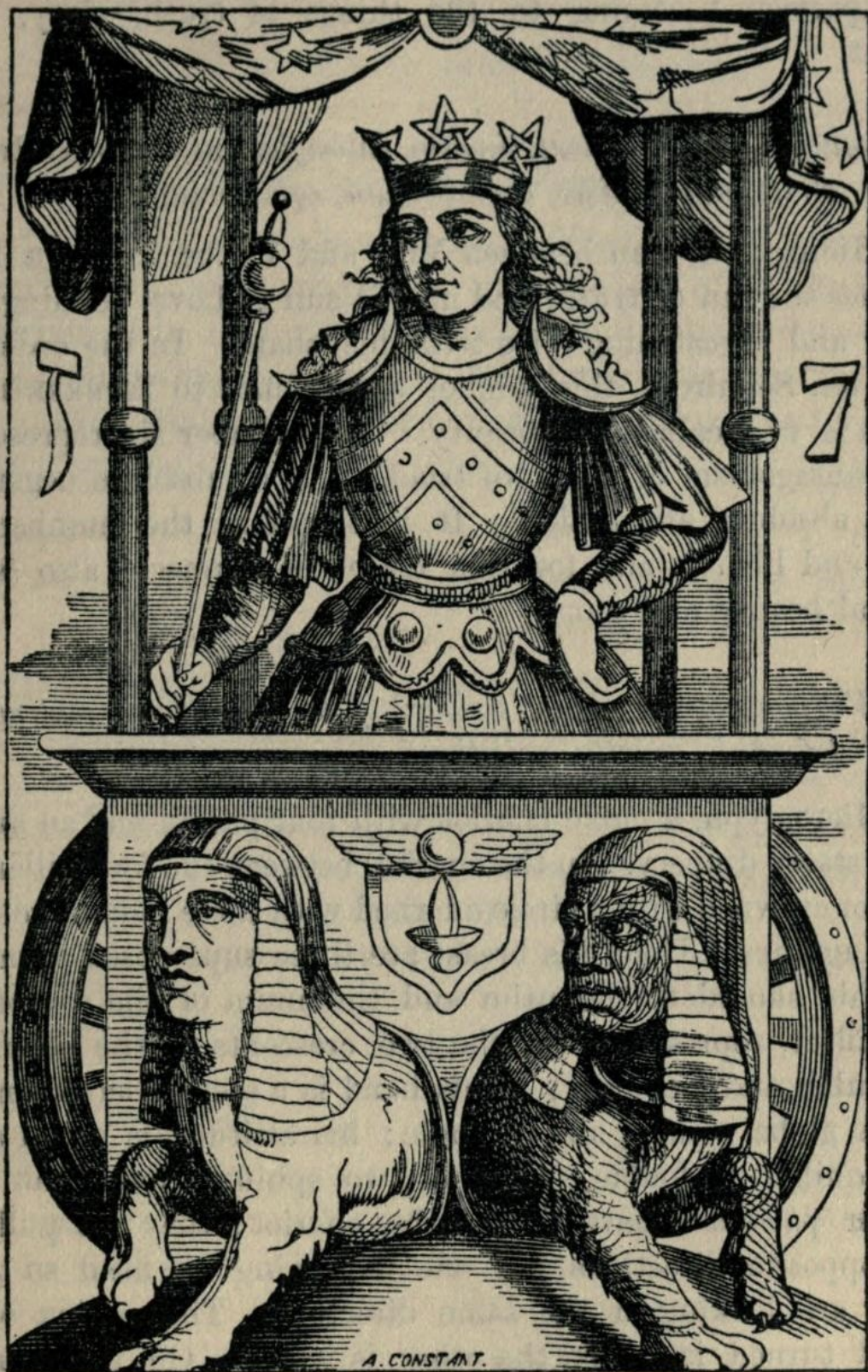
男性の頭上には真理の太陽が輝いていて、真理の太陽の中には愛の神エロスがいて、愛の神エロスは弓を引いて矢で悪徳の女性をおどしている。

１０のセフィロトの秩序では、タロットの６ページ目の象徴はティフェレトに対応する。

ティフェレトは理想と美である。

数６は絶対の肯定と絶対の否定という２つの３つ１組の相対するものを表す。

前記の理由から６は苦労と自由の数である。

前記の理由から６は倫理道徳的な美と栄光に結びつく。

THE CHARIOT OF HERMES.

Seventh Key of the Tarot.

ザイン

武器、剣、智天使ケルブの火の剣、神の 7 つ 1 組、勝利、王者、祭司。

タロットの 7 ページ目には立方体の戦車が描かれている。

戦車には 4 つの柱が有る。

戦車には空色の星の天幕がかかっている。

戦車の中には、4 つの柱の間には、 3 つの光を放つ金の五芒星が飾られた円の王冠をかぶった勝利者がいる。

勝利者の胸の上には 3 つの重ね合わせた正方形が有る。

勝利者の左右の肩の上には、王者の犠牲をささげる者のウリムとトンミム、寛大、思いやりと厳しさを意味する 2 つの三日月が有る。

勝利者の一方の手には球体、正方形、三角形をのせた王笏が有る。

勝利者の態度は誇りを持ち平静である。

戦車には白いスフィンクスと黒いスフィンクスの下部がつながれている。

白いスフィンクスと黒いスフィンクスは正反対の方向へ戦車を引いている。

しかし、黒いスフィンクスは頭を白いスフィンクスの方へ向けているので白いスフィンクスと黒いスフィンクスは同じ方向を見ている。

戦車の前方の正方形の上にはエジプトの空を飛ぶ球体をのせたインドの男性器と女性器が有る。

エリファス レヴィが再生させたタロットの 7 ページ目は全てのタロットの小鍵の中で恐らく最も美しく完全である。

ヘト

天秤、引き寄せる事としりぞける事、命、恐怖、約束、脅迫。

タロットの 8 ページ目には剣と天秤を持った正義の女神が描かれている。

テト

善、悪への憎悪、倫理道徳、賢明さ。

タロットの ９ ページ目には賢者が描かれている。

賢者は杖に寄りかかっている。

賢者は前にランプを持っている。

賢者はマントで完全に覆い隠されている。

タロットの ９ ページ目の名前は隠者またはオリエントのマントのフードのためにカプチン会修道者である。

しかし、タロットの ９ ページ目の本当の名前は思慮である。

タロットの ８ ページ目の正義、タロットの ９ ページ目の思慮、タロットの １ １ ページ目の勇気、タロットの １ ４ ページ目の節制というクール ド ジェブランとエッティラには不完全に思われた ４ つの枢要徳が完全にそろう。

イョッド

原理、表れ、賛美、男性らしい栄光、男性器、男性らしい繁殖力、父である神の王笏。

タロットの１０ページ目には運命の車輪が描かれている。

タロットの１０ページ目にはエゼキエルの宇宙の創造の車輪が描かれている。

運命の車輪の右をヘルマニビスが昇っている。

運命の車輪の左をティフォンが降りている。

運命の車輪の上でスフィンクスがつり合わせている。

スフィンクスはライオンの爪の間で剣を持っている。

タロットの１０ページ目は見事な象徴である。

エッティラの自説のカバラの象徴の特性のために、エッティラはヘルマニビスをネズミに、ティフォンをオオカミに、スフィンクスをサルに変えてタロットの１０ページ目の絵を台無しにした。

カフ

把握し保有する行動の手。

タロットの１１ページ目の名前は強さである。

タロットの１１ページ目には女性が描かれている。

女性は命の∞の形の王冠をかぶっている。

女性は、おだやかに力無しに、激しいライオンのあごを閉ざしている。

ラメド

見本、教授、公の教え。

タロットの １２ ページ目には片脚で吊るされた男が描かれている。

吊るされた男は両手を後ろでしばられている。

吊るされた男の胴体は逆さの三角形をしている。

吊るされた男の両脚は十字に交差している。

吊るされた男の体は三角形の上の十字の形をしている。

絞首台はヘブライ文字のタウ(ת)の形をしている。

絞首台の ２ 本の木は各々 ６ 本の枝が切り取られている。

タロットの １２ ページ目は犠牲と終えた務めの象徴である。

メム

木星と火星の天、統治と力、新生または改心、創造と破壊。

タロットの １３ ページ目には死の女性が描かれている。

死の女性は人が成長している牧草地で王冠をかぶっている人の頭を収穫している。

ヌン

太陽の天、傾向、季節、動き、常に新しいが常に同じである命の移り変わり。

タロットの１４ページ目の名前は節制である。

タロットの１４ページ目には天使が描かれている。

天使はひたいの上に太陽の象徴を身につけている。

天使は胸の上に７つ１組を表す正方形と三角形を身につけている。

天使は命のエリクサーを構成する金と光という２つの要素を一方の聖杯から別の聖杯へ注いでいる。

サメク

水星の天、隠された自然科学、魔術、商業、雄弁、神秘、倫理道徳的な力。

タロットの１５ページ目には全ての汎神の属性を持つ悪魔、メンデスのヤギ、神殿騎士団のバフォメットが描かれている。

タロットの１５ページ目はエッティラが正しく理解し正しく説明した唯一の象徴である。

アイン

月の天、変化、転覆、移り変わり、弱み。

タロットの１６ページ目には多分バベルの塔であろう、雷に打たれた塔が描かれている。

多分ニムロデとニムロデの偽の預言者または偽の祭司という、２人の人が廃墟の頂上から真っ逆さまに落ちている。

堕ちている２人のうちの１人は完全にヘブライ文字アイン(ע)の形をしている。

プフェ

魂の天、思考の流出、形の上における概念の倫理道徳的な影響、不死。

タロットの１７ページ目の名前は燃える星と永遠の若さである。

タロットの１７ページ目の絵については、すでに話した通りである。

ツァーデ

四大元素、見える世界、反射した光、この世界のものの形、象徴。

タロットの１８ページ目には月が描かれている。

しずくが有る。

ザリガニが水の中から地へ昇っている。

２つの塔の基礎に鎖でつながれた犬とオオカミが月に向かってほえている。

血の点在する１つの経路が地平線に消えている。

クォフ

合成したもの、頭、頂点、天の王。

タロットの１９ページ目には光を放つ太陽、要塞化された囲いの中で手をとり合う２人の裸の幼子が描かれている。

タロットの１９ページ目の別の絵には運命の糸をほどいている運命の女神が描かれている。

タロットの１９ページ目の別の絵には白い馬に乗り深紅の旗を見せている１人の裸の幼子が描かれている。

レシュ

植物の原理、地の生殖力の徳、永遠の命。

タロットの ２０ ページ目の名前は審判である。

神の聖霊がラッパを吹いている。

死者が墓から復活している。

かつて死んだが生きている人は男性、女性、幼子である。

男性、女性、幼子は人の命の ３ つ１ 組である。

シュィン

敏感な原理、肉、永遠の命。

タロットの ２１ ページ目には愚者の外見をした男性が描かれている。

男性は目的無しにさまよっている。

男性は恐らく愚かさと悪徳に満ちた、ずだ袋を負っている。

男性の乱れた衣服には男性の恥部が見つかる。

虎が男性を噛んでいる。男性は虎を免れる方法や自身を守る方法を知らない。

タウ

小宇宙、全ての中での全ての要約。

タロットの ２２ ページ目にはケテル、カバラの王冠が描かれている。

牛、人、ワシ、ライオンという ４ つの神秘の動物の間に王冠が存在する。

王冠の中央で真理の女性が各々の手に １ つの杖を持っている。

前記が、タロットの ２ ２ の鍵と数の説明である。

前記から、魔術師または １ の鍵は、３ つの世界における、第一原理である神における、棒の １ 、杯の １ 、剣の １ 、輪の １ の四重の進歩的な意味を説明する。

フランスのコインのドゥニエの １ 、または、輪の １ は、世界の魂、地の魂、星の光である。

剣の １ は、戦闘的な知である。

杯の １ は、思いやり深い知である。

棒の １ は、創造する知である。

棒の １ 、 杯の １ 、剣の １ 、輪の １ は、運動の原理、進歩の原理、豊穣の原理または多産の原理、力の原理である。

タロットの小アルカナのうちの １ 枚と大アルカナのうちの １ 枚の組み合わせを、タロットの大アルカナで解釈すると、タロットの象徴の哲学的な啓示と宗教的な啓示を補完できる。

５ ６ 枚のタロットの小アルカナのうちの １ 枚と ２ ２ 枚の大アルカナを組み合わせる事ができる。

５ ６ 枚のタロットの小アルカナのうちの １ 枚と ２ ２ 枚の大アルカナの一連の組み合わせは、啓示の驚くべき結論と、光の驚くべき結論をもたらす。

タロットは、哲学的な機械である。

タロットは、精神の主導権と自由を残しつつ、精神が道を外れない様に引き留める。

タロットは、絶対に対して応用した数学である。

タロットは、神に対して応用した数学である。

タロットは、実際に存在するものと概念の結合である。

タロットは、数の様に正確な、思考のくじ引きである。

タロットは、数の様に正確な、思考の運命のめぐり合わせである。

多分、タロットは、人の天才の無上に単純で大いなる概念である。

多分、タロットは、人の精神の無上に単純で大いなる概念である。

タロットの象徴を読み取る方法は、タロットを同じ数が対立する様に正方形か三角形に並べて、対立しているページ群を対立していないページで調和、一致させる事である。

そうすれば、任意の順序で、常に、タロットの 4 つの象徴が絶対を表し、タロットの第 5 の象徴が 4 つの象徴を説明する。

そうすれば、任意の順序で、常に、タロットの 4 つの象徴が神を表し、タロットの第 5 の象徴が 4 つの象徴を説明する。

前記の様に、五芒星は、全ての魔術の問題を解決する。

そして、調和させる一致させる統一が、全ての対立を説明する。

第 5 の象徴が 4 つの象徴を説明する様に並べると、タロットは本物の神託と成る。

そして、タロットは、アルベルトゥス マグヌスの人造人間、最初のスコラ哲学より、正確で誤り無く、全ての可能な質問に答える。

タロットだけを持った閉じ込められた人が、もしタロットを利用する方法を知っていれば、数年で普遍の知に通じて、比類無き学と無尽蔵の雄弁で全てのものについて話す事ができるであろう。

事実、車輪タロットは、ライムンドゥス ルルスの雄弁家のわざと大いなるわざの本物の鍵である。

タロットは、影を光に変える本物の秘密である。

タロットは、「大いなる務め」の全ての秘密の第一に無上に重要な物である。

象徴の普遍の鍵タロットは、古代インド、古代エジプト、古代イスラエルの全ての象徴を光で照らす。

　ヨハネの黙示録はカバラ的な本である。

　使徒ヨハネは、ウリムとトンミム、テラフィム、エフォドの数で、厳密に、ヨハネの黙示録の意味を表している。

　タロットは、ヨハネの黙示録の全てを要約し補完する。

　タロットは、古代の祭司だけの聖所の神秘を明かす。

　初めて、タロットは、ヘブライ人の儀式におけるものの意味を理解可能にする。

　契約の箱を覆っている王冠をかぶっている智天使ケルビムが支えている契約の箱のふたである金の板と、前のページの愚者が数字を持たないので ２ １ の数を持つ場合が有るタロットの ２ ２ ページ目の象徴が、同じである事に気づかない人がいるであろうか？　契約の箱を覆っている王冠をかぶっている智天使ケルビムが支えている契約の箱のふたである金の板と、前のページの愚者が数字を持たないので ２ １ の数を持つ場合が有るタロットの ２ ２ ページ目の象徴は、同じであ

　契約の箱は、全てのカバラの考えの、象徴的な総合である。

　契約の箱の中の、アーモンドの花が咲いたアーロンの杖は、棒、イョッドである。

　契約の箱の中の、マナの容器である金のつぼは、杯、ヘーである。

　契約の箱の中の、十戒という法の ２ 枚の石板は、正義の剣、ヴァウである。

　契約の箱の中の、金のつぼの中の、マナは、輪、ヘーである。

　契約の箱の中の、アーモンドの花が咲いたアーロンの杖、金のつぼ、十戒、マナは、神のテトラ グラマトン、ヤハウェ、イョッド ヘー ヴァウ ヘーである。

　学の有るガファレルは、契約の箱のケルビムと牛の類推を証明した。

　しかし、ガファレルは、契約の箱のケルビムは ２ 頭ではなく ４ 頭である、と気づかなかった。

出エジプト記 ２５ 章 １８ 節から １９ 節に、２ 頭のケルビムを契約の箱の両端に、と記されている。

しかし、出エジプト記の注釈者の多数は、契約の箱のケルビムは ２ 頭であると誤解している。

後記の様に、出エジプト記 ２５ 章 １８ 節から １９ 節を読み取るべきである。

「２ 頭の牛または ２ 頭のスフィンクスを契約の箱の両端に金で造りなさい。
一方の牛またはスフィンクスを一方向へ向け、他方の牛またはスフィンクスを別方向へ向けなさい」

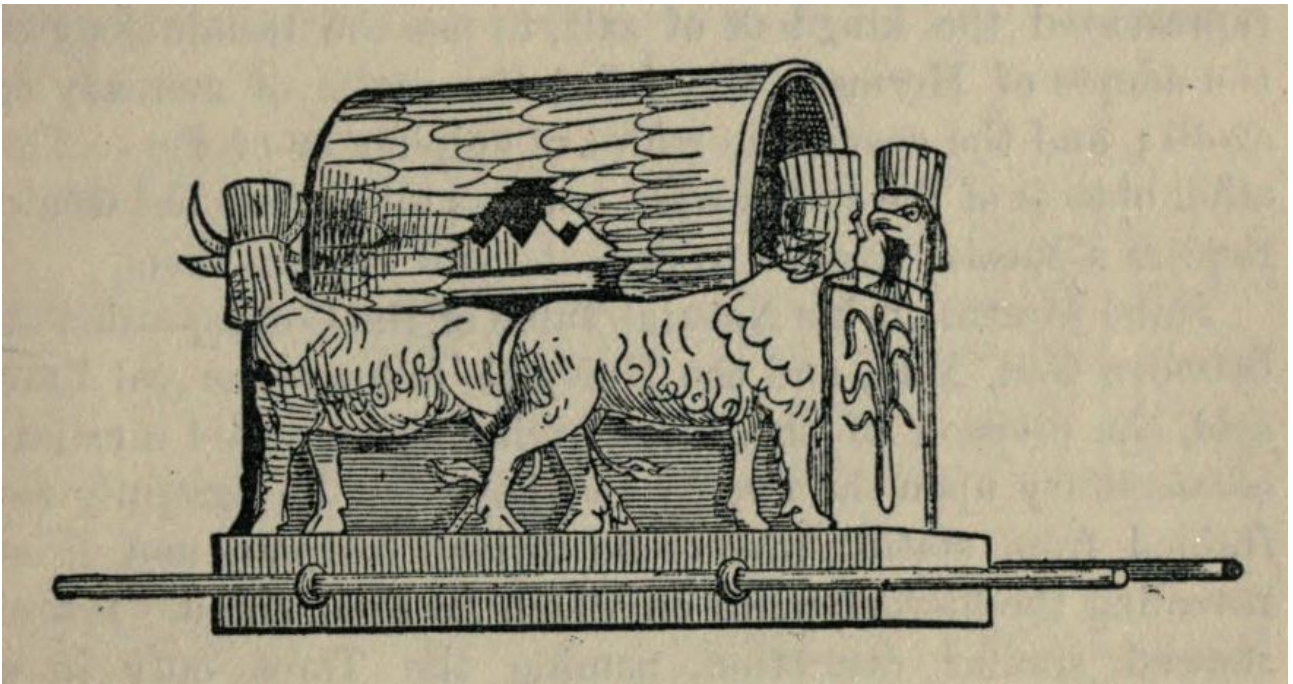
ケルビムまたはスフィンクスは、契約の箱の両端に ２ 頭ずついた。

４ 頭のケルビムは、身代わりによる救いの思いやりの座の、四隅を向いていた。

４ 頭のケルビムは、身代わりによる救いの思いやりの座を、アーチ型に丸めた翼で覆って、契約の箱のふたである金の板の王冠に影を投じていた。

４ 頭のケルビムは、契約の箱のふたである金の板を、肩で支えていた。

一方の端のケルビムと対の他方の端のケルビムは、開口部で相互に見つめ合いつつ、契約の箱のふたである金の板の上の神を見ていた。

(後記の絵を参照してください。)

契約の箱の 3 つの部分または 3 つの段階は、カバラの 3 つの世界であるアティルト、イェツィラー、ベリアーを表す。

契約の箱の土台には、神殿の 2 つの柱であるボアズとヤキンに対応している 2 本のさおの 4 つの輪が付けられている。

契約の箱自体は、4 頭のスフィンクス、4 頭のケルビムに囲まれている。

契約の箱のふたである金の板には、4 頭のケルビムの翼が影を投じている。

錬金術の達道者の用語を用いると、契約の箱の土台は、塩の王国を表す。

契約の箱自体は、水銀または Azoth の王国を表す。

契約の箱のふたである金の板は、硫黄または火の王国を表す。

ヘブライ人の儀式の、その他の物も象徴である。

しかし、ヘブライ人の儀式の、その他の物を記して説明するには専門の書物を記す必要が有るであろう。

神と人と万物の対応についての「Natural Table」で、ルイ クロード ド サンマルタンは、タロットの分類に従った。

「Natural Table」で、ルイ クロード ド サンマルタンは、タロットの ２ ２ の鍵について補完した神秘の注釈をもたらしている。

しかし、ルイ クロード ド サンマルタンは、用心して、タロットについて話さず、タロットの絵も明かさなかった。

ギヨーム ポステルも、用心して、ギヨーム ポステルの秘密の鍵の図の中でのみタロットという名前を用いて、ギヨーム ポステルの本の他の部分ではタロットではなくエノクの創世記という名前を用いた。

エノクは、最初の聖書タロットの作者である。

エノクは、古代エジプト人がトートと呼んでいる人、フェニキア人がカドモスと呼んでいる人、古代ギリシャ人がパラメデスと呼んでいる人である。

エリファス レヴィは、タロットの鍵である １ ６ 世紀のメダルを、驚くべき方法で入手した事が有る。

エリファス レヴィには、タロットの鍵である １ ６ 世紀のメダルについて話すべきかどうか、わからない。

エリファス レヴィには、神の様なパラケルススが夢の中でタロットの鍵である １ ６ 世紀のメダルが置かれている場所をエリファス レヴィに見せた事を話すべきかどうか、わからない。

とにかく、エリファス レヴィは、タロットの鍵である １ ６ 世紀のメダルを所有している。

タロットの鍵である １ ６ 世紀のメダルの一方の面には、魔術師が描かれている。

魔術師は、１ ６ 世紀のドイツの衣服を着ている。

魔術師は、一方の手で帯を持っている。

魔術師は、他方の手で五芒星を持っている。

魔術師の前にはテーブルが有る。

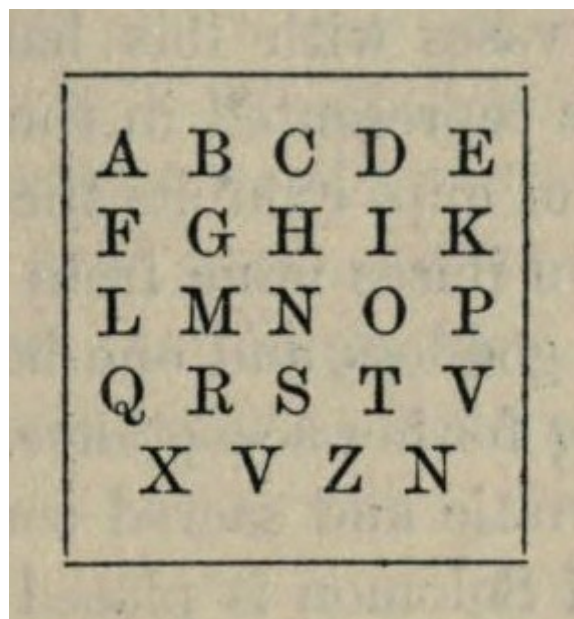
テーブルの上には開かれた本、１０枚のフランスのコインのドゥニエまたはタリスマン、閉ざされたコイン入れの袋が有る。

１０枚のフランスのコインのドゥニエまたはタリスマンは、開かれた本と閉ざされた袋の間に有る。

１０枚のフランスのコインのドゥニエまたはタリスマンのうち、６枚は３枚１組の２つの線に、４枚は正方形に、並んでいる。

テーブルの脚は、２つのה、ヘーを形成している。

魔術師の脚は、２つの逆さのר、レシュを形成している。

後記の様に、タロットの鍵である１６世紀のメダルの他方の面には、アルファベットの文字が、魔方陣の形に並んでいる。

V とN が重複しているので、２２種類の文字のアルファベットだけが並んでいる。

２２種類の文字のアルファベットが、４組の５つ１組と、基礎と鍵であるXVZN と４つ１組に並んでいる。

XVZN という最後の４文字は、２つ１組と３つ１組の組み合わせである。

XVZN は、カバラの様に、ヘブライ文字の様に、右から左へ読むと、NZVX、אZוT、AZO T、AZOT、Azoth を形成する。

N は文字の形がヘブライ文字の א、アレフである。

Z はそのままである。

V に相当するヘブライ文字は ו、ヴァウである。

ו、ヴァウを、O、オと発音する場合が有る。

V、ו、ヴァウは O、オである。

X は文字の形が十字である古代のヘブライ文字のタウである。

X はT である。

パラケルススにふさわしい１６世紀の不思議なメダルは、タロットを説明する。

エリファス レヴィは、タロットの鍵である１６世紀のメダルを、興味の有る人に見せよう。

AZOT という４つ１組の言葉が、４組の５つ１組、１から２０までを要約している。

AZOT は יהוה、ヤハウェ、イョッド ヘー ヴァウ ヘーに対応している。

AZOT は INRI に対応している。

AZOT は、カバラの全ての神秘を含んでいる。

タロットは、学問的に重要である。

これ以上、タロットを改変しないのが望ましい。

エリファス レヴィは、帝国図書館に保存されている古代のタロットを調査して、全てのタロットの絵を集めて、２２章で記した。

行うべき重要な務めが未だ残っている。

それは、タロットの完全な良く考えられた見本を描いて公表する事である。

前記の務めに、多分、エリファス レヴィは、着手するであろう。

タロットの名残は、全ての国で見つかる。

すでに話した様に、多分、イタリアのタロットが、最も信頼できて、最も良く保存されている。

ただし、貴重なスペインのタロットで、イタリアのタロットを補完できるであろう。

例えば、「Naïbi」というタロットの杯の 2 は完全にエジプト的である。

「Naïbi」というタロットの杯の 2 には、牛の上に乗せられた、取っ手が鳥のトキである、2 つの古代のつぼが描かれている。

フランスのコインのドゥニエの 4 には、中央にユニコーンが描かれている。

杯の 3 には、1 つのつぼから現れているイシスと、2 つのつぼからそれぞれ現れている 2 羽のトキが描かれている。

一方のトキは女神イシスへの王冠を保持している。

他方のトキは蓮華を保持してイシスが受け取る様にささげている様に見える。

棒の 1 、杯の 1 、剣の 1 、輪の 1 には、祭司の神の蛇が描かれている。

いくつかのタロットでは、フランスのコインのドゥニエの 4 の中央に、象徴的なユニコーンの代わりに、ソロモンの封印、六芒星が描かれている。

ドイツのタロットは大きく改変されている。

ドイツのタロットには、鍵の数、以外、保存されていない。

ドイツのタロットは、タロットの原初の絵が、奇形の絵やパンタグリュエルの様な絵に押しのけられている。

エリファス レヴィは、ある中国のタロットを持っている。

帝国図書館は、エリファス レヴィが持っている物に似た、複数の中国のタロットを持っている。

M. Paul Boiteau は、トランプについての注目するべき作品で、タロットの見事に考えられた見本をいくつか記している。

中国のタロットは、いくつかの古代の絵を保存している。

中国のタロットのコインと剣は明確に見分けられる。

しかし、中国のタロットの棒と杯を見つけるのは難しいであろう。

グノーシス主義とマニ教の時代に、教会は、タロットを失い、神の「ヨハネの黙示録」の意味を見失った。

カバラの書であるヨハネの黙示録の 7 つの封印が 7 つの pantacle である事は理解されなく成った。

後記は、ヨハネの黙示録の 7 つの封印である 7 つの pantacle である。

APOCALYPTIC KEY.

The Seven Seals of St John.

前記の、ヨハネの黙示録の 7 つの封印である 7 つの pantacle は、タロットの数、文字、絵による類推で説明できる。

唯一の宗教の普遍の口伝は、大衆の教会では一時的に破壊された。

暗黒と疑惑が地上の全てに広がった。

しばらくの間、無知な人の目には、本物のカトリック、普遍の啓示は消滅した様に見えた。

カバラの文字タロットによるヨハネの黙示録の説明は、全く新しい啓示であろう。

ただし、何人かの優れた魔術師は、タロットによるヨハネの黙示録の説明を先見していた。

M. Augustin Chaho は、タロットによるヨハネの黙示録の説明を先見していた魔術師の 1 人である。

後記の様に、M. Augustin Chaho は話している。

「ヨハネの黙示録という詩は、若い福音書の作者である使徒ヨハネにおける完全な体系と、使徒ヨハネが独自に開発した口伝を前提としている。
使徒ヨハネは、ヨハネの黙示録を、幻視の形で記している。
使徒ヨハネは、詩という輝く構造で、アフリカの文明の全ての学と全思考を束ねている。
霊感を受けた詩人である使徒ヨハネは、一連の支配的な出来事に触れている。
使徒ヨハネは、大洪水から大洪水への社会の歴史の概要、未来の社会の歴史の概要を大胆に描いている。
使徒ヨハネが明かしている真理は、遠い広範囲の未来からの、予言である。
使徒ヨハネは、鳴り響く予言の反響である。

使徒ヨハネは、叫び声である。

使徒ヨハネは、荒れ野の調和を歌う声である。

ヨハネは、光の経路を用意する声である。

すぐに、使徒ヨハネの言葉は、知への精通を広める。

使徒ヨハネの言葉は、信心を従える。

なぜなら、使徒ヨハネは、神の言葉イエスを野生の国々にもたらす。

使徒ヨハネは、未来の文明に敬礼させるために、太陽の初子、長子、長男であるイエスを明かす。

4 つの時代の理論がゾロアスターの本や聖書で見つかる様に、4 つの時代の理論がヨハネの黙示録で見つかる。

第 4 の時代の終わりに、最初の連合が徐々に建て直される事と、暴君の支配と誤りの束縛から自由に成った人々の間で、神の統治が徐々に建て直される事が、明確に予言されている。

大洪水の再来は、最初は、遠くから、時の終わりまで、あらわれる。

大洪水と大洪水の期間が記されている。

新しい世界が波から、あらわれる。

新しい世界が、全ての美のままに、天の下で広がる。

一時(、千年間)、天使が、大いなる蛇を縛って、底無しの淵の深みに投げ入れる。

最終的に、神の言葉イエスが予言した、時代の夜明けが来る。

ヨハネの黙示録の 1 章で、神の言葉イエスは、使徒ヨハネの前にあらわれる。

『人の子イエスの様な人の、頭と髪は羊毛の様に雪の様に白かった。

人の子イエスの様な人の、目は火の様であった。

人の子イエスの様な人の、脚は炉で精錬されたかの様な真鍮の様であった。

(真鍮、黄銅は金の代わりである。)

人の子イエスの様な人の、声は大水の轟きの様であった。

人の子イエスの様な人は、右手に 7 つの星を持っていた。

人の子イエスの様な人の、口から鋭い両刃の剣が出ていた。

人の子イエスの様な人の、顔は強さで輝く太陽の様であった』

人の子イエスは、アフラ マズダー、オシリス、Chourien、子羊、キリスト、ダニエル書 7 章 9 節の『日の老いたる者』、ダニエルがたたえた時と川の人である。

(

アフラは強い者、主を意味する。

マズダーは知を意味する。

)

人の子イエスは、最初であり最後である。

人の子イエスは、過去に存在した者である。

人の子イエスは、現在も未来も存在している者である。

人の子イエスは、アルファでありオメガである。

人の子イエスは、最初であり最後である。

人の子イエスは、神秘の鍵を両手に持っている。

人の子イエスは、中心の火の、大いなる底無しの淵を開く。

中心の火の、大いなる底無しの淵で、暗闇の天蓋の下で、死の女性は眠る。

中心の火の、大いなる底無しの淵で、時代の目覚めを待って、大いなる蛇は眠る」

M. Augustin Chaho は、ヨハネの黙示録とダニエル書を結びつけている。

ダニエル書では、牛、人、ライオン、ワシというスフィンクスの 4 つの形を、歴史の主な期間に応用している。

　ダニエル書では、人に成った太陽、神の言葉イエスに成った光が、幻視者ダニエルを慰めて、幻視者ダニエルに教えている。

「ダニエル書 7 章で、預言者ダニエルは、天の四方からの風が大海をかきたてている、幻を見た。

そして、形が互いに異なる、4 つの大きな獣が海の深みから、あらわれた。

1 つの時と、2 つの時と、半時の間、地上の全てのものの統治が 4 つの獣に与えられた。

1 つの時と、2 つの時と、半時の間、地上の全てのものの統治を与えられた者は、海から、あらわれた 4 つの獣である。

第 1 の獣は、預言者達の、太陽の民の象徴である。

第 1 の獣は、アフリカから、あらわれた。

第 1 の獣は、ライオンに似ていて、ワシの翼を持っていた。

人の心が、第 1 の獣に与えられた。

第 2 の獣は、北の征服者の象徴である。

第 2 の獣は、鉄で第 2 の時代を統治した。

第 2 の獣は、クマに似ていた。

第 2 の獣が口の歯の間にくわえていた 3 本の肋骨は、3 つの征服者の大きな家系の象徴である。

『起きなさい。多数の肉を食べなさい』と第 2 の獣に話す声が有った。

第 4 の獣があらわれた後に、複数の王座が建てられて、『日の老いたる者』、預言者達のキリスト、第 1 の時代の子羊があらわれた。

『日の老いたる者』の、衣は輝く白であった。

『日の老いたる者』の、頭は光を放っていた。

『日の老いたる者』の、王座は生きている火で出来ていた。

『日の老いたる者』の王座が乗っている車輪は燃える火であった。

『日の老いたる者』の顔は、速い火の輝きであった。

『日の老いたる者』の周りで、天使の軍団または星が輝いていた。

審判を行う者が席につき、例え話の数々の書が開かれた。

新しいキリストが、天の雲に乗って来て、『日の老いたる者』の元に来た。

『日の老いたる者』は、権力、栄光、王国を人の子イエスの様な者に与えた。

『日の老いたる者』は、全ての民、全ての支族、全ての言語の人々を人の子イエスの様な者に仕えさせた。

ダニエルは、そばに立っている者の 1 人に近づいて、全ての幻の真意をたずねた。

すると、後記の様に、幻を解き明かしてくれた。

4 つの獣は連続して地上を統治する 4 つの権力である」

　続けて、M. Chaho は、ほとんど全ての聖典で類似した象徴について説明している。

　M. Chaho が気づいて話している事は注目に値する。

「全ての原初の言葉では、物質的な対応と精神的な関連、物質的なものと精神的なものの類推的な対応を同じ根源の上に確立している。

言葉は物質的な意味と精神的な意味をもたらす。

物質的な意味と精神的な意味をもたらす、生きている言葉は、言葉の創造者である人において簡潔であり自然であるほど、完全であり正しい。

預言者が、同じものを、太陽、昼、光、真理と表現するのは、例えではなく、本当に類推的な関連または対応が存在するのである。
預言者が、白日を、昼、光、真理と表現するのは、例えではなく、本当に類推的な関連または対応が存在するのである。
預言者が、子羊を、太陽、昼、光、真理と表現するのは、例えではなく、本当に類推的な関連または対応が存在するのである。
預言者が、太陽を、子羊、キリストと表現するのは、例えではなく、本当に類推的な関連または対応が存在するのである。
預言者が、真理、光、文明を、太陽と表現するのは、例えではなく、本当に類推的な関連または対応が存在するのである。
前記の様に、預言者が表現するのは、例えではなく、本当に、霊感が預言者に表して把握させた、類推的な関連または対応が存在するのである。
しかし、夜の子が、統一無く、学無く、太陽、昼、光、真理、子羊と話した時、最初の神の言葉が明確に表した、賢明な類推的な関連または対応は、薄まって姿を隠す。
単純な解釈は、子羊や太陽を、象徴的な存在、象徴に変えてしまう。
事実、ケルト語で、象徴という言葉は、言葉による思想の伝達の変化、解釈を意味する。
前記は、全ての未開の、宇宙の創造の言葉に当てはまる。
預言者達は、糧、食べ物、食べ物による養育と、教育を表現するために、同じ霊感を与える根源の言葉を用いている。
真理の知は、魂の糧ではないか？　真理の知は、魂の糧である！
エゼキエル書 ３ 章 ２ 節で、預言者エゼキエルは巻物を食べている。
ヨハネの黙示録 １ ０ 章 １ ０ 節で、使徒ヨハネは天使から小さい巻物を受け取って糧として食べている。

『ギュルヴィたぶらかし』で、スウェーデン王ギュルヴィはアース神族の力を知るために『旅路に疲れた者』を意味するガングレリと名のってアスガルドを訪れようとした。
察知したアース神族は魔術でギュルヴィに幻を見せた。
幻の中で、最高神オーディンはギュルヴィをアスガルドのヴァルハラに招いてハールという別名を名のってあらわれて食事をギュルヴィに与えてギュルヴィと問答してギュルヴィに教えた。
(ハール、Har、Hárr はHigh を意味する。)
マタイによる福音１５章３４節から３８節で、福音書の作者達、使徒達は、イエスが７つのパンを増殖させる奇跡を起こした、と話している。
ヨハネによる福音６章５１節の『生きているパン』である、イエスに成った太陽は、マタイによる福音２６章２６節の最後の晩餐で、パンを弟子達に食べさせるために与えて、『これ(であるパン)は、私の体である』と話している。
多数の類似の話は、同じ象徴のくり返しである。
魂の命は、糧が真理である。
真理は、永遠に減らないで、分ければ分けるほど増える」

「愛国心による気高い感情で高揚した、計り知れない変革の理想に目がくらんだ、独りの、隠されたものの啓示者があらわれて、発見した知を、最も簡単な基本の概念を知らない、粗野な無知な大衆に、広めようとしたとする。
そして、例えば、啓示者が、地球は回転していて、地球は卵に似た形をしている、と話したとする。
学の無い大衆は、啓示を信じる以外に、どんな手段を持っているであろうか？　学の無い大衆は、啓示を信じるしかない！

啓示の様な性質の全てのものは、無知な大衆には、天からの教えに成って、信じるものに成る事は明らかではないか？　啓示の様な性質の全てのものは、無知な大衆には、天からの教えに成って、信じるものに成る事は明らかである！
賢明な例え話というヴェールは神話に成るのに十分ではないか？　賢明な例え話というヴェールは神話に成るのに十分である！
予言者の学校では、地球を、紙製または木製の卵で、表していた。
そして、『この卵は何ですか？』と予言者の幼子の様な者にたずねたら、予言者の幼子の様な者は『これは、地球です』と答える様に成っていた。
予言者の子達と、無知な大衆は、『地球が卵である』と聞いて、予言者の幼子の後に続いて、『世界は卵である』とくり返した。
しかし、無知な大衆は、『世界は卵である』という言葉によって、物質的な世界を理解しただけであった。
予言者は、『世界は卵である』という言葉によって、地理的な世界、精神とロゴスが創造している概念的な世界を理解した。
事実、卵が例え、象徴、言葉による表し方に過ぎない事を表すために、古代エジプトの祭司は、卵を唇の上に置いて、精神、知、クネフを表した。
(クネフは、有翼の卵、または、球体に巻きついた １ 匹以上の蛇という、古代エジプトの象徴である。)
『Ezourvedam』の哲学者である Chournountou は、卵を唇の上に置いて、神ブラフマーの金の卵によって何を理解する必要が有るか、狂信者である Biache に説明している」

人は、未だ真剣な論理的な研究者がいる時代に、完全に絶望するなかれ。

エリファス レヴィは、大いなる精神的な満足と深い共感を覚えて、M. Chaho の言葉を記した。

　M. Chaho の言葉は、デュピュイとヴォルネイへの否定的な失望的な非難ではなく、全ての未来を全ての過去とつなげる唯一の信心と唯一の敬愛への傾向である。

　M. Chaho の言葉は、迷信家や盲信者と誤って非難された、全ての大いなる人々への、無実の罪を晴らす。

　M. Chaho の言葉は、知の太陽は正しい魂と清い心にはヴェールを外すという神の弁明である。

「予言者、秘伝伝授者、自然に選ばれた人、無上の論理である神に選ばれた人は、大いなる者、超越的な人である」

　前記と後記の様に、M. Chaho は、本の終わりで、再び叫んでいる。

「模倣する能力は、秘伝伝授者だけの物である。
模倣する能力とは、秘伝伝授者の完全性の原理である。
そして、模倣する能力の霊感は、雷光の様に速やかに、創造と発見を導く。
思考における直感が、自然の類推において十分に判断されて表現された印象の中で正確に再現された自然を反映している、未だ言語から独立している、思考の身体的な反応によって、思考の調和を創造する、類推の、正しい、柔軟な、豊かな、完全な神の言葉は、秘伝伝授者だけの物である。
光、知、真理は、秘伝伝授者だけの物である。
なぜなら、受容的な補助的な役割に限定された、想像力は、概念の類推がもたらす自然な論理である、理性を圧倒しない。

存在に成るものは、秘伝伝授者の求めに比例して高まる。
また、なぜなら、秘伝伝授者の知の輪は、誤った判断といった誤りが混ざらないで、徐々に大きくなる。
永遠に進歩する光は、秘伝伝授者だけの物である。
なぜなら、地上の変革の後の、急速な人口増加は、数世紀後に、運命との全ての想像できる倫理道徳的な政治的な類推において、新しい社会を作る。
絶対の光は、秘伝伝授者だけの物である。
現代の人自体は、不変である。
これ以上、人は、人の起源である自然を改変しない。
人の周囲の、社会的な条件だけが、人の徳と人の神性と法における人の幸福が人の完成の限度である、人の完成の段階を決定する」

　前記の様に、M. Chaho が明らかにした後に、誰が隠された知が役に立つか聞くであろうか？　隠された知は役に立つ！
　M. Chaho の読者は、隠された知という、生きている数学、概念と形のつり合い、普遍の論理における啓示の永遠、精神の自由への解放、信心に与えられた不変の基礎、意思に明かされた全能性を、神秘主義として軽蔑して、扱うであろうか？
　隠された知という、生きている数学、概念と形のつり合い、普遍の論理における啓示の永遠、精神の自由への解放、信心に与えられた不変の基礎、意思に明かされた全能性は、神秘主義ではない！
　(誤った物質的な)幻を求めていた幼子よ、エリファス レヴィが(精神的な)不思議なものを差し出したので、失望したか？
　ある時、ある男が、エリファス レヴィに、「悪魔を呼び出してください。悪魔を呼び出せたら、あなたを信じても良い」と話した。

エリファス レヴィは「あなたの要求は、愚か過ぎる。エリファス レヴィは悪魔をあらわしたいのではなく悪魔を全世界から消滅させたいのである。エリファス レヴィは、あなたの妄想から悪魔を追い払いたいのである」と答えた。

悪魔とは、無知、闇、混乱した思考、奇形である。

中世のまま眠っている人よ、目覚めなさい！

昼であるのを理解できないのか？

神の光が全自然を満たしているのを理解できないのか？

どこに、滅ぼされた地獄の権力者があらわれるであろうか？　滅ぼされた地獄の権力者は、あらわれない！

結論を話す。

宗教の段階、哲学の段階、現実の俗世の実現の段階における、本書の目的を明らかにする。

宗教の段階における、本書の目的を明らかにする。

宗教の儀式の実践は重要である事を説明した。

宗教の魔術は、宗教の儀式の中に存在する事を説明した。

宗教の倫理道徳的な精神的な力は、3 つ 1 組の位階制に存在する事を説明した。

位階制の基礎、原理、総合は、統一性である事を説明した。

象徴のヴェールを連続してまとった考えの普遍の統一性と正統性を説明した。

モーセがエジプトの大衆の目から守った真理をたどった。

預言者のカバラの中に保存された真理をたどった。

キリスト教がパリサイ人の奴隷から自由にした真理をたどった。

　ギリシャ文明とローマ文明の詩的な豊かな願望を全て引き寄せた真理をたどった。

　中世の大いなる神の様な者達と、ルネサンスの大胆な思索家と共に、パリサイ人より堕落した新しいパリサイ人的な偽善に対して抗議している真理をたどった。

　常に普遍である真理、常に生きている真理、論理と信心を両立させる唯一の真理、知と従順を一致させる唯一の真理を話している。

　存在によって実証された存在の真理。

　調和によって実証された調和の真理。

　論理が表した論理の真理。

　初めて世界に魔術の神秘を明かす事によって、古代の文明の残骸の下に埋葬された魔術の実践を復活させたいのではなく、現在でも、人は、自分の行動によって、不死に全能に、自身を創造する様に求められている、と人に話したいのである。

　現代の人は「自由は与えられる物ではない。自由はつかみ取る必要が有る」と話している。

　自由と知は同じである。

　知は与えられる物ではない。

　知はつかみ取る必要が有る。

　前記の理由から、絶対の真理を公開しても、大衆のためにならない。

　しかし、鍵が畑に捨てられたために、祭司だけの聖所が破壊されて地に堕ちて残骸に成った時代においては、鍵を拾い上げて鍵をつかみ取れる人に与える事がエリファス レヴィの務めであると考えている。

　鍵をつかみ取れた人は、国々の医者、世界の自由への解放者に成るであろう。

　例え話と、幼子の歩みを支える手引きのひもは、必要である。

常に、幼子には、例え話と、幼子の歩みを支える手引きのひもが、必要である。

ただし、幼子の歩みを支える手引きのひもを保持している、大人が、幼子の様な者、例え話に耳を傾ける者であるべきではない。

大衆の指導者は、無上の絶対の知、無上の論理を所有しなさい。

再び、王者のわざと祭司のわざが古代の入門の二重の王笏を手に取る様に。

世界が、混沌から、復活する様に。

これ以上、神の象徴を燃やすなかれ。

これ以上、神殿を破壊するなかれ。

人には、神殿と象徴が必要である。

しかし、マタイによる福音 ２１ 章 １２ 節から １３ 節のイエスの様に、祈りの家であるべき神殿、教会から商人どもを追い払いなさい。

盲人を導く人は盲人であるなかれ。

(マタイによる福音 １５ 章 １４ 節「もし盲人が盲人を導けば、盲人は諸共に穴に堕ちるであろう」)

知と神性の位階制を建て直しなさい。

知が有る人だけを、神を信じる人の教師として認めなさい。

エリファス レヴィの本は、カトリックである。

もしエリファス レヴィの本に記されている啓示が単純な大衆の良心の様な物を脅かす可能性が有っても、脅かされる程度の良心を持つ大衆にはエリファス レヴィの本に記されている啓示を読み取れないであろうという思考がエリファス レヴィを安心させる。

エリファス レヴィは、先入観が無い人のために本を記している。

エリファス レヴィは、狂信者と不信心者、宗教への反対者に苦言を呈するつもりは無い。

根本的に、もし世界に自由な不可侵な物が存在するとすれば、世界に存在する、自由な不可侵な物とは、信心である。

知と確信によって、人は、非論理的な物から、だまされている想像力を導こうと努力する必要が有る。

しかし、信じる様に脅迫したり強制すると、殉教者への敬意と殉教者の様な真実味を、狂信、不信心、宗教への反対という誤りに与えてしまう事に成るであろう。

もし信心に基礎として論理が無ければ、論理という基礎が無い信心は迷信や狂愚である。

人は、自分が知っているものからの類推によってのみ、自分が知らないものを信じる事ができる。

自分が知らないものを定義する事は、思い上がった愚行である。

自分が知らない事を断言する事は、嘘をつく事である。

信心とは、望みである。

信じる事は、望む事である。

「である様に」

私は「である様に」望む。

「である様に」は、信仰告白の究極の言葉である。

信仰、希望、愛は、相互に変換可能な、分裂不可能な分断不可能な、三姉妹である。

前記から、宗教における、普遍的な位階的な正統性。

神殿の建て直し。

神殿の輝きの復活。

儀式の復活。

儀式の原初の見事さの復活。

幼子の様な者への、象徴、神秘、奇跡、伝説の位階的な教育。

信心が単純である幼子の様な者を失望させない様に用心している、大人の様な者への、光。

宗教における、神殿の建て直し、儀式の復活、幼子の様な者への象徴と伝説の教育は、全ての人の理想である。

宗教における、神殿の建て直し、儀式の復活、幼子の様な者への象徴と伝説の教育は、人の望みである。

宗教における、神殿の建て直し、儀式の復活、幼子の様な者への象徴と伝説の教育が、人には必要である。

哲学の段階における、本書の目的を明らかにする。

エリファス レヴィの哲学は現実主義、実証主義である。

疑えないものの存在の論理によって、存在は存在する。

魔術師にとっては、知によって、全てのものが存在する。

知る事は、存在する事である。

知る事は、存在させる事である。

知者の知的な生き方の中に、知と知の対象は、記されている。

疑うとは、知らないという事である。

自分が知らないものは、自分にとっては、未だ存在してないものである。

知的に生きるとは、学ぶ事である。

知によって、存在は発達して強まる。

最初に知が獲得する物は、正確な知の最初の結果は、論理への感性である。

自然の法は、代数的である。

前記から、唯一の論理的な信心は、学徒が原理と一体化する事である。

原理の正しさは、人の知の範囲を超越している。

ただし、原理の応用と結果は、原理を人の精神に実際に理解させる。

前記から、本物の哲学者は、存在するものを、信じる。

経験しなくても、本物の哲学者は、全てのものが論理的である、と認める。

しかし、これ以上、哲学に、詐欺はいらない！

これ以上、哲学に、経験主義はいらない！

これ以上、哲学に、機械的な仕組みはいらない！

これ以上、哲学に、存在の研究はいらない！

これ以上、哲学に、存在の現実性の比較の研究はいらない！

これ以上、哲学に、自然の形而上学はいらない！

神秘主義をやめなさい！

これ以上、哲学に、妄想はいらない！

哲学は、作詞ではなく、言葉遊びではなく、自然科学と倫理道徳において実在するものの純粋数学、身体と精神において実在するものの純粋数学である。

哲学は、宗教が無限に願望する自由を、宗教に任せなさい。

宗教は、絶対の経験主義の確実な結論を、哲学に任せなさい。

人は自身の行為の子と成る。

人は自身の行為の結果である。

人は自身が成りたいと望む者に成る。

人は自身が創造した神に似た者に成る。

人は自身の理想の実現である。

仮に、自身の理想に基礎が無ければ、人の永遠の命という建物全体が倒れて消滅する。

哲学は、架空ではなく、理想のための現実の基礎である。

魔術師には、既知は、未知のものさしである。

魔術師は、目に見えるものによって、目に見えないものを認知する。

願望にとって思考は存在する様に、思考にとって感覚は存在する。

知は、天の三角法である。

絶対の三角形の第 1 の辺は、自然である。

神は、自然を、人の研究に委ねた。

絶対の三角形の第 2 の辺は、人の魂である。

人の魂は、自然を理解して、自然を表す。

絶対の三角形の第 3 の辺は、絶対、神である。

絶対の中で、神の中で、人の魂は拡張する。

これ以上、これからは、無神論は不可能である。

なぜなら、魔術師は、神を定義できる、と嘘をつかない。

魔術師は、神を定義できたふりをしない。

魔術師には、神は無上に完全な善良な知的な存在である。

存在の上昇する位階は神の存在を実証している。

これ以上、神を必要とするなかれ。

ただし、常に、より良く神を理解していける様に、神へ向かって上昇する事によって、完全な者に成ろう。

これ以上、哲学に、空理空論はいらない！

「存在は存在である」

「存在は存在する」

「存在性は存在性である」

「ある存在は別の存在と存在性が同じである」

「ある存在と別の存在は存在するという意味で同じである」

「神は存在する」

　存在の現実の法によってのみ、完全化が可能である。

　見なさい。

　先入観を持つなかれ。

　自身の能力を鍛錬しなさい。

　自身の能力を無用の物にするなかれ。

　人生の中で命の領域を広げなさい。

　真理で真実を見なさい！

　正しい事だけを望む人には、全ての事が可能である。

　自然の中に留まりなさい。

　学びなさい。

　知ったら大胆に行動しなさい。

　大胆に望みなさい！

　大胆に行動しなさい！

　行動したら、沈黙しなさい！

　これ以上、他人を憎むなかれ。

全ての人が、自分がまいた種を自分で刈り取る事に成る。

自身の行動の結果は避けられない。

無上の論理である、神が、悪人を裁き、悪人に報復するべきである。

出口の無い道に入った人は、後戻りするか、破滅する。

もし悪人が聞く耳を持てば、優しく忠告しなさい。

しかし、人の自由は行く所まで行く。

人は互いの裁判官ではない。

人生は戦場である。

戦闘中は、倒れる人がいるからと言って、戦いをやめるなかれ。

しかし、倒れた人を踏みにじるのは避けなさい。

勝利がおとずれたら、双方の負傷者は、苦しみを経て、思いやりを前に、(神の子イエスの)兄弟に成って、勝利者の野戦病院で共存するであろう。

前記が、ヘルメスの哲学的な考えの結論である。

前記が、全ての時代の、本物の達道者の倫理道徳である。

前記が、薔薇十字団の、全ての古代の知の後継者の哲学である。

前記が、公共の秩序の転覆計画者として誤って扱われている、王座の権力者と祭壇の聖職者に対して陰謀を企てていると誤って非難されている、本物の秘密結社の秘密の教えである。

本物の達道者は、公共の秩序を乱さない。

達道者は、公共の秩序の最も強固な支持者である。

達道者は、自由を畏敬しているので、無政府主義、無政府状態、無秩序を望まない。

光の子である、達道者は調和を愛する。

光の子、達道者は、闇が混乱を招くと知っている。

達道者は、存在する全てのものを認めて、存在しないものだけを否定する。

達道者は、本物の宗教、実用的な宗教、普遍の宗教、信心の充実、触れる事ができる宗教、全ての命における実現された宗教を望む。

達道者は、意思の力で、宗教に、全ての徳と信心の高名さによる畏敬をまとった、賢明な強い祭司を持たせようとする。

達道者は、普遍の正統性、絶対の位階制の法王の神聖な議論の余地が無い論争の余地が無いカトリックを望む。

達道者は、経験的な哲学、現実的な哲学、数学的な哲学、結論が謙遜な哲学、不屈の研究の哲学、学問的な進歩の哲学を望む。

神と論理が魔術師と共にあれば、誰が魔術師に敵対できるか？　神と論理が魔術師と共にあれば、魔術師に敵対できる人はいない！

もし人が魔術師を早まって判断して悪口を言い広めても、魔術師には関係無い！

魔術師の弁明は、魔術師の思考と行為に有る。

魔術師は、オイディプスの様に、象徴というスフィンクスを殺しに来たのではない。

正反対に、魔術師は、スフィンクスの復活を試みている。

スフィンクスは、盲目な誤った解釈をする人だけを食べる。

スフィンクスを殺す人は、スフィンクスを正しく見抜く方法を知らない人である。

人は、スフィンクスを和らげて鎖につないで従わせる必要が有る。

スフィンクスは、人の生きている守護神である。

スフィンクスは、テーバイの王者が獲得するべきものである。

仮に、オイディプスがスフィンクスの謎を完全に見抜いたら、スフィンクスはオイディプスを救ったであろう。

現実の俗世の実現の段階における、本書の目的を明らかにする。

魔術とは、知が不敬な邪悪な人に与えるかもしれない、力であるか？　いいえ！

魔術とは、無知な弱い人を惑わせる技を持つ人の詐欺や嘘であるか？　いいえ！

錬金術師の水銀とは、軽信的な、だまし易い大衆を利用した搾取のための宣伝であるか？　いいえ！

前記への、答えを、魔術を理解できた人は、知っている。

現代では、魔術は、詐欺や幻の技には成り得ない。

現代では、だまされたい人だけをだます事ができる。

しかし、自然全体が、前世紀の心が狭い早まった不信心を否定する。

人は、預言と奇跡に包囲されている。

以前は、愚かに、不信心が預言と奇跡を否定していた。

現在、知が預言と奇跡を説明している。

いいえ、de Mirville 伯爵様、神は、滅びの子である悪人の霊が神の王国を乱す事を許さない！

いいえ、有り得ないものが、未知のものを説明する事は有り得ない！

いいえ、神は、目に見えないものが、神の生きている被造物である、無知である、自身の迷惑な妄想と戦える事がほとんど無い、人をだましたり、苦しめたり、そそのかしたり、殺す事を許さない！

幼子の時に、de Mirville 伯爵様に、悪魔について教えた大衆は、de Mirville 伯爵様をだましたのである。

de Mirville 伯爵様、大衆の悪魔の話を聞き入れてしまう幼子だったとしても、現在は、大衆の悪魔の話を信じない大人に成りなさい。

人は自身の天国の創造者である。

人は自身の地獄の創造者である。

人の愚劣さが悪魔である。

真実の報復によって、誤りを指摘された人の霊は、これ以上、この世を乱そうとは夢にも思わない。

もしサタンが存在しても、サタンは最も恵まれない、最も無知な、最も恥をかいている、最も無能な、最も無力な存在としてしか存在できない。

事実が、命の普遍の代行者、生きている火、星の光は存在する事を実証している。

現在では、磁気の催眠術によって、人は、古代の魔術の奇跡を理解できる。

現在では、幼子ですら、予見、夢、奇跡の回復、他心通の実在を認知している。

しかし、古代人の口伝は失われた。

現代人は、古代人が発見していたものを、新発見したと誤解している。

現代人は、観測した現象についての、究極の言葉を探求している。

現代人は、理解しないで、無意味な霊のあらわれに夢中である。

テーブル ターニングの奇跡は新発見ではない。

もし人が自然の法を学べば、人は大いなる奇跡を起こせる。

力を知ると、何が起こるであろうか？

人の知と行動の進歩の道が開かれる！

人は、完全武装で、人生という戦いを建て直せる！

大いなる王者と本物の祭司を未来の世界に与える事によって、知の選ばれた者が、再び、全ての人の運命の王者に成れる！

補遺

エリファス レヴィによる、ティアナのアポロニウスの「ヌクテメロン」の説明

古代の「ヌクテメロン」は手書きであった。

「モーセの命と死について」の第３書の２０６ページで Gilbert Gautrinus が「ヌクテメロン」をギリシャ語で初めて印刷した。

１７２１年、アムステルダムにおける、聖書の起源の批判的調査の記録で、Laurent Moshemius が「ヌクテメロン」をギリシャ語で印刷した。

エリファス レヴィが「ヌクテメロン」をフランス語に翻訳し初めて説明する。

「ヌクテメロン」は「夜の昼」または「昼に照らされた夜」を意味する。

「ヌクテメロン」は「闇からの光」に類似している。

「闇からの光」は良く知られているヘルメスの錬金術の著作の名前である。

「ヌクテメロン」、「闇からの光」は「隠されたものの光」と解釈できる。

「ヌクテメロン」は超越的なアッシリアの魔術の記念碑である。

「ヌクテメロン」は、「ヌクテメロン」の重要性によって、余分に拡大するのに十分に興味深い。

エリファス レヴィはティアナのアポロニウスの霊を呼び出しただけではなく、多分、「ヌクテメロン」の説明によってティアナのアポロニウスの精神を復活させた。

「ヌクテメロン」

第 1 の時

単一の中で半神半霊ダイモーンは神をたたえる。

半神半霊ダイモーンは悪意と怒りを無くす。

第 2 の時

2 つ 1 組によって魚座は神をたたえる。

火の蛇はケーリュケイオンにからみつく。

雷は調和する。

第 3 の時

ヘルメスのケーリュケイオンの蛇は 3 回からみつく。

ケルベロスは三重のあごを開く。

雷の 3 つの言葉で、火は神をたたえる。

第 4 の時

第 4 の時に魂は墓に立ち戻る。

輪の四隅の魔術のランプが点火される。

第 4 の時は誘惑と幻の時である。

第 5 の時

大いなる水の声は 9 つの天の神をたたえる。

第 6 の時

霊は不動を自ら信じる。

霊は、地獄の奇形のものが下に群れているのを見るが、恐れない。

第 7 の時

火は命を全ての生きているものに与える。

清らかな人の意思は火を傾ける。

秘伝伝授者は手を差し伸べる。

秘伝伝授者は痛みを和らげる。

第 8 の時

星々は話し合う。

星々の魂は花々が発散するものと対応する。

全ての自然の物の間に、調和の鎖は対応を創造する。

第 9 の時

大衆への口外は禁止である数。

第１０の時

天の周期の鍵。

人の命の円運動の鍵。

第１１の時

７つの霊の翼の動きは、ささやく様な神秘の深い音をともなう。

天から天へ、７つの霊は飛ぶ。

世界から世界へ、７つの霊は神の言葉を運ぶ。

第１２の時

火は光の作品を永遠に満たす。

説明

「ヌクテメロン」の １２ の象徴的な時は、魔術の黄道 １２ 星座の象徴と類似している。

「ヌクテメロン」の １２ の象徴的な時は、ヘラクレスの象徴的な １２ の務めと類似している。

「ヌクテメロン」の １２ の象徴的な時は、秘伝伝授の １２ の作業の一覧を表す。

秘伝伝授に必要な １２ の作業は、

(1)

悪い肉欲を超越する。

賢い秘儀祭司の表現によれば、半神半霊ダイモーンが自ら神をたたえる様にさせる。

(2)

自然の ２ つの力の、つり合いを学ぶ。

どのように正反対のものの類推可能性が調和をもたらすか知る。

大いなる魔術の代行者を知る。

普遍の光の両極性を知る。

(3)

全ての神統系譜学と全ての宗教の象徴の ３ つ１ 組の原理の秘伝伝授を会得する。

(4)

想像の全ての幻、霊を超越する方法を知る。

全ての幻に勝利する方法を知る。

(5)

四大元素の力の中心で普遍の調和をもたらす方法を理解する。

(6)

恐怖を隔絶する。

(7)

磁気の光を傾ける。

(8)

原因の、つり合いの計算によって、結果を予見する。

(9)

知の位階を理解する。

教えの神秘を畏敬する。

大衆の前では、沈黙を守る。

(10)

天文学を学び尽くす。

(11)

普遍の命と知の法の類推によって、秘伝伝授者に成る。

(12)

光を傾ける事によって、自然の大いなる務めを果たす。

　後記は、「ヌクテメロン」の １２ の時を統治する ７ つの霊の名前と性質である。

　後記の、７ つの霊によって、古代の秘儀祭司は、悪人の霊や神の聖霊ではなく、倫理道徳的な力や擬人化された徳を理解した。

第 1 の時の 7 つの霊

PAPUS、医者。

SINBUCK、審判。

KASPHUIA、降霊術師。

ZAHUN、醜聞の霊。

HEIGLOT、吹雪の精神。

MIZKUN、アミュレットの霊。

HAVEN、尊さの霊。

説明

人は自身の医者に成る必要が有る。

人は自身の審判に成る必要が有る。

降霊術師の呪いの業に勝利するために。

醜聞の霊を追い払い軽蔑するために。

吹雪の精神の様に、全ての神聖な熱心を冷えつかせようとする、冷え切った色を無くした画一的な物に全ての物を混同しようとする、大衆の世論に勝利するために。

そして、魔術師の尊さに到達するために、アミュレットの霊を鎖につなぐために、人は象徴の力を知る必要が有る。

第 2 の時の 7 つの霊

SISERA、欲望の精神。

TORVATUS、不和の精神。

NITIBUS、星々の精神。

HIZARBIN、海の精神。

SACHLUPH、植物の精神。

BAGLIS、計測と、つり合いの精神。

LABEZERIN、成功の精神。

説明

人は意思する方法を学ぶ必要が有る。

意思する事によって、人は欲望の精神を力に変える必要が有る。

意思を妨害する物は不和の精神である。

調和の知によって、不和の精神を縛る事ができる。

調和は星々の精神である。

調和は海の精神である。

人は植物の徳を学ぶ必要が有る。

人は成功に到達するために計測における、つり合いの法を理解する必要が有る。

第 3 の時の 7 つの霊

HAHABI、恐怖の精神。

PHLOGABITUS、飾りの精神。

EIRNEUS、偶像を破壊する精神。

MASCARUN、死の精神。

ZAROBI、絶壁の精神。

BUTATAR、類推の精神。

CAHOR、欺きの精神。

説明

意思の成長する力によって、恐怖の精神を圧倒した時、神の教えは、大衆には未知である、真理の神聖な飾りである、と知るであろう。

知によって、全ての偶像を破壊するであろう。

死の精神を縛るであろう。

全ての絶壁を見通すであろう。

無限が人の類推に応じて自ら従うであろう。

前記によって、欺きの精神の待ち伏せから常に免れるであろう。

第 4 の時の 7 つの霊

PHALGUS、判断力の精神。

THAGRINUS、混乱の精神。

EISTIBUS、予言の精神。

PHARZUPH、姦淫の精神。

SISLAU、毒の天才。

SCHIEKRON、肉欲の精神。

ACLAHAYR、翻弄される精神。

説明

魔術師の力は判断力に有る。

判断力によって、魔術師は 2 つの原理の対立による混乱を予防する。

魔術師は賢者の予見を行う。

魔術師は誘惑者による幻覚を嫌う。

誘惑者は姦淫の奴隷、毒の達人、肉欲の従者である。

前記によって、魔術師は不運に勝利する。

不運とは翻弄される精神である。

第 5 の時の 7 つの霊

ZEIRNA、弱さの精神。

TABLIBIK、誘惑術の精神。

TACRITAU、悪人の霊の魔術の精神。

SUPHLATUS、塵の霊。

SAIR、賢者のアンチモンの精神。

BARCUS、第 5 元素の精神。

CAMAYSAR、正反対のものの調和の精神。

説明

人間的な弱さに勝利して、魔術師は誘惑術に翻弄されない。

神の聖霊の魔術師は無益な危険な悪人の霊の魔術の実践を踏み潰す。

悪人の霊の魔術の力とは風に吹き飛ばされる塵である。

魔術師は賢者のアンチモンを所有する。

魔術師は第 5 元素の全ての創造的な力で武装する。

正反対のものの類推可能性と調和によって、魔術師は調和を思い通りにもたらす。

第 6 の時の 7 つの霊

TABRIS、自由意思の精神。

SUSABO、旅の精神。

EIRNILUS、果実の精神。

NITIKA、宝石の精神。

HAATAN、宝を隠す精神。

HATIPHAS、装いの精神。

ZAREN、報復する霊。

説明

魔術師は自由である。

魔術師は地上の隠された王者である。

魔術師は地上を所有地の様に渡る。

地上を旅する事によって、魔術師は植物の精髄と果実の精髄に通じる様に成る。

魔術師は宝石の力に通じる様に成る。

魔術師は、全ての秘密を話す様に自然の宝を隠す霊に強制できる。

前記によって、魔術師は形の神秘を見通す。

魔術師は地上の衣と言葉の衣を理解する。

魔術師は誤解されたら、国々が魔術師に不親切であれば、魔術師が善行を施しても無礼な扱いを受けたら、報復する霊が魔術師の報復を行う。

第 7 の時の 7 つの霊

SIALUL、繁栄の精神。

SABRUS、支える精神。

LIBRABIS、隠された金の精神。

MIZGITARI、ワシの精神。

CAUSUB、蛇使いの精神。

SALILUS、門を開く精神。

JAZER、魅了する精神。

説明

7 つ 1 組は魔術師の勝利を表す。

魔術師は繁栄を人々と国々にもたらす。

高尚な知によって、魔術師は人々を支える。

ワシの様に、魔術師は卵を抱く。

魔術師は星の火の流れを傾ける。

蛇が星の火の象徴である。

魔術師のために、全ての聖所の門は開かれる。

真理を熱望する全ての魂は魔術師を信頼する。

倫理道徳的な偉大さによって、魔術師は美しい。

そのため、全ての場所で、人が魅力を獲得する精神の力によって、魔術師は魅了する。

第 8 の時の 7 つの霊

NANTUR、文字の精神。

TOGLAS、宝の精神。

ZALBURIS、治療学の精神。

ALPHUN、ハトの精神。

TUKIPHAT、schamir の精神。

ZIZUPH、神秘の精神。

CUNIALI、つながりの精神。

説明

前記は、本物の魔術師に従う 7 つの霊である。

ハトは宗教的な考えを表す。

schamir は象徴的なダイアモンドである。

魔術の口伝では、schamir は賢者の石を表す。

また、schamir は何物も抵抗できない力を表す。

なぜなら、schamir は真理を基礎とする。

後記の様に、アラブ人は話している。

最初、schamir はアダムに与えられた。

堕ちた後、アダムは schamir を失った。

エノクが失われた schamir を見つけた。

ゾロアスターは schamir を所有していた。

次に、ソロモンが知を神に願った時に、ソロモンは schamir を神の聖霊から受け取った。

schamir という魔術のダイアモンドによって、ソロモン自身がエルサレム神殿の石材を schamir で触れるだけで仕上げた。

第 9 の時の 7 つの霊

RISNUCH、農耕の精神。

SUCLAGUS、火の精神。

KIRTABUS、言葉の精神。

SABLIL、盗人を発見する精神。

SCHACHLIL、太陽の光線の精神。

COLOPATIRON、牢獄から解放する精神。

ZEFFAR、取り消されない選択の精神。

説明

ティアナのアポロニウスは、数 9 を沈黙して通過する必要が有る、と話している。

なぜなら、数 9 は秘伝伝授者の大いなる秘密を含んでいる。

地を実り豊かにする力。

秘密の火の神秘。

言葉の普遍の鍵。

悪人が身を隠す事ができない予見。

つり合いの大いなる法。

光る運動の大いなる法。

カバラでは、つり合いの大いなる法、光る運動の大いなる法を牛、人、ライオン、ワシという 4 つの獣で表した。

ギリシャ神話では、つり合いの大いなる法、光る運動の大いなる法を太陽の 4 頭の馬で表した。

人々の肉体と魂を解放して自由にする鍵。

全ての牢獄からの解放。

人の創造を完成する、人の永遠の命を確立する、永遠の選択の力。

第１０の時の７つの霊

SEZARBIL、悪魔の様な精神、または、敵の精神。

AZEUPH、幼子の破壊者。

ARMILUS、富への貪欲の精神。

KATARIS、犬の精神、または、大衆の精神。

RAZANIL、オニキスの精神。

BUCAPHI、ストリゲスの精神。

MASTHO、あてにならない見かけの精神。

説明

数は数９で終わる。

１０つ1組の目立つ象徴は数０である。

数０自体には数値が無い。

数１０で数０は単一性の数１に加えられる。

第１０の時の７つの霊、自体は全く無価値である。

世論が大いなる力を第１０の時の７つの霊に与える。

結果的に、世論は賢者の全能を第１０の時の７つの霊に与える事ができる。

そのため、熱い地上を通る事に成る。

そのため、大衆への説明を控えても必ず許される。

大衆は悪魔の様である。

悪魔は大衆の主である。

大衆は幼子の破壊者である。

幼子の破壊者は大衆が好む者である。

大衆は富への貪欲である。

富への貪欲は大衆の神である。

大衆を犬に例えたくは無いが。

大衆をオニキスに例えたくは無いが。

なぜなら、大衆はオニキスを所有していない。

大衆をストリゲスに例えたくは無いが。

ストリゲスは大衆の娼婦である。

大衆を見せかけだけの者とは例えたくは無いが。

大衆は見せかけだけのものを真実と誤解する。

第１１の時の７つの霊

AEGLUN、雷の精神。

ZUPHLAS、森の精神。

PHALDOR、神託の精神。

ROSABIS、金属の精神。

ADJUCHAS、石の精神。

ZOPHAS、五芒星の霊。

HALACHO、共感の精神。

説明

雷は、人に従う。

雷は、人の意思の仲介者と成る。

雷は、人の力の道具と成る。

雷は、人のたいまつの光と成る。

神の森のオークは神託を話す。

金属は黄金に変わる。

または、金属はタリスマンと成る。

石は基礎から動く。

そして、大祭司、秘儀祭司の竪琴によって引き寄せられ、神秘の schamir に触れて、石は神殿や宮殿に変わる。

考えは進化する。

五芒星に代表される象徴は効果を表す。

力が有る共感は人々の精神をとらえて家族の法や友の法に従わせる。

第１２の時の７つの霊

TARAB、搾取の精神。

MISRAN、迫害の精神。

LABUS、宗教裁判の精神。

KALAB、神の器の精神。

HAHAB、王者のテーブルの精神。

MARNES、霊の識別の精神。

SELLEN、偉人による評判の精神。

説明

魔術師が覚悟する必要が有る運命、について話す。

また、どのように魔術師は犠牲的行為を完成する必要が有るか、について話す。

なぜなら、命への勝利後に、命の獲得後に、不死に生まれ変わるため魔術師は自身を犠牲にする方法を知る必要が有る。

魔術師は搾取されるであろう。

大衆は金、快楽、報復を魔術師に要求するであろう。

魔術師が大衆の富への貪欲を満足させられなかったら、大衆は魔術師を迫害と宗教裁判の対象にするであろう。

しかし、神の器は冒涜されない。

神の器は大衆の物には成らない。

神の器は王者のテーブルのために作られている。

言い換えると、神の器は理解者の祭のために作られている。

霊の識別によって、魔術師は偉人による評判から身を守る方法を知るであろう。

力によって、自由によって、魔術師は無敵に生き残るであろう。

ヘブライ人による「ヌクテメロン」

ヘブライ人がミシュナーと呼んでいる古代のタルムードの部分からの抜粋

「ヌクテメロン」でティアナのアポロニウスはギリシャ人への神からの啓示を取り入れた。

7 つの霊のアッシリア人における位階は「ヌクテメロン」を完成して説明する。

ミシュナーというタルムードの最も興味深い部分に記されている様に、「ヌクテメロン」は数の哲学と完全に対応している。

前記の様に、ピタゴラスの数の哲学はピタゴラスより過去にさかのぼる。

前記の様に、創世記は大いなる例え話である。

物語の形で、創世記は、古に成された創造の秘密を隠している、だけではなく、永遠の普遍の創造の秘密、存在の永遠の生成の秘密を隠している。

後記の様に、タルムードで記されている。

「神は天を天幕の様に広げた。

神は世界を豊富に飾られたテーブルの様に広げた。

そして、神は客を招くかの様に人を創造した」

次に、ソロモン王の言葉を聞こう。

「知慮は神の花嫁である。

知慮は自身の家を建てた。

知慮は 2 つの柱を家に配置した。

知慮は犠牲をささげた。

知慮は赤ワインを混ぜた。

知慮はテーブルを広げた。

そして、知慮は従者を派遣した」

秩序的な数学的な建築術によって、知慮は自身の家を建てた。

知慮は、神の作業を統治している、正確な知である。

知慮は神の羅針盤である。

知慮は神の定規である。

7 つの柱は 7 つの象徴的な最初の日である。

犠牲は、一種の死を忍耐する事によって増殖された、自然の力である。

混ぜられた赤ワインは普遍の流体である。

テーブルは、魚に満ちた水をともなう、世界である。

知慮の従者はアダムとエヴァによる魂である。

神は、世界全体から取った、土で、アダムを形成した。

アダムの頭はイスラエルである。

アダムの胴体はバビロンの帝国である。

アダムの手足は地上の他の国々である。

(唯一普遍の東の王国へ向かう、モーセによる秘伝伝授者の夢を表す。)

人の創造の昼には １ ２ の時が存在する。

第 1 の時

神は土の散った破片を結びつける。

神は土を練る。

神は土の塊を形成する。

命を土に与える事が神の望みである。

説明

人は創造された世界の総合である。

創造する単一性が人の中で再生する。

神は神の形に、神の様に、人を創造した。

神は神の想像で、神の映像で、神の様に、人を創造した。

第 2 の時

神は体の形を設計した。

神は、体の器官が二重に成る様に、体を左右に 2 つの部分に分けた。

なぜなら、数 2 が全ての力と全ての命をもたらす。

前記の様にして、エロヒムは全ての物を創造した。

(

エロヒムは神を意味する。

エロヒムは神の複数形である。

)

説明

運動によって、全ての物は存続している。

つり合いが全ての物を維持している。

正反対のものの類推可能性が調和をもたらす。

正反対の 2 つのものの、つり合いによる調和という法は、形の中の形、神の形である。

正反対の 2 つのものの、つり合いによる調和という法は、神の自発性と生殖力の無上の表れである。

第 3 の時

人の手足は、命の法に従う。

人の手足は、手足自体の表れである。

生殖器官は、手足を補完する。性器は、手足を補完する。

数 1 と数 2 が、生殖器官を構成する。

数 1 と数 2 が、性器を構成する。

数 1 と数 2 は、3 つ 1 組の数のうち象徴的な数である。

説明

3 つ 1 組は、2 つ 1 組から自然と生じる。

数 2 をもたらす運動は、数 3 ももたらす。

数 3 は数の鍵である。

なぜなら、数 3 は最初の数の総合である。

幾何学では、数 3 は三角形である。

三角形は最初の完全な閉じた図形である。

好むと好まざるとにかかわらず、三角形は三角形を無限に形成する要素である。

第 4 の時

神は、息を人の顔に吹きかけて、命を人に与えた。

説明

4 つ1 組は幾何学的に十字と正方形をもたらす。

数 4 は完全な数である。

形の完成において、知的な魂は 4 つ1 組を表す。

ミシュナーの啓示によると、母の胎内で、全器官が完全に形成された後に、神は命を幼子に与える。

第 5 の時

人は自立する。

人は地から乳離れする。

人は歩む。

人は自分が望んだ場所におもむく。

説明

数 5 は魂の数である。

数 5 の象徴は第 5 元素である。

四大元素の、つり合いが第 5 元素をもたらす。

タロットの 5 ページ目には大祭司または霊的な独裁者が描かれている。

大祭司と霊的な独裁者は人の意思の象徴である。

人の意思という女性の大祭司だけが人の永遠の運命を決定する。

第 6 の時

動物たちがアダムの前を通った。

アダムは動物に相応しい名前を与えた。

説明

労苦によって、人は、地を和らげ、動物たちを圧倒する。

人の自由の表現によって、人は人の言葉を周囲にもたらす。

人の言葉は人に従う。

言葉によって、最初の創造は完成する。

創世記で第 6 日に神は人を形成した。

昼の第 6 の時に、人は神の作業を果たす。

人は自然の王者に成る事によって、ある程度まで、人は人自身を再び創造する。

人は人の言葉によって自然を統治する。

第 7 の時

神は、アダムの本質から創造した伴侶エヴァを、アダムに与えた。

説明

神は神の形に、人を創造した時に、神は神の想像で、神の映像で、人を創造した時に、第 7 日に、神は休息した。

なぜなら、神は実り豊かな花嫁である自然を神自身に与えた。

実り豊かな花嫁である自然は神のために絶え間無く働く。

自然は神の花嫁である。

神は自然の上で横に成って休息する。

人は、言葉によって創造主と成って、自身に似た伴侶を自身に与える。

それからは、人は伴侶の愛に寄りかかる事ができる。

女性は男性の作品と成る。

女性を愛する事によって、男性は女性を美しくする。

女性を愛する事によって、男性は女性を母にする。

女性とは真の人性である。

女性は男性の娘であり母である。

女性は神の孫娘であり祖母である。

第 8 の時

アダムとエヴァは結婚し初夜を迎えた。

結婚、初夜の時に、アダムとエヴァが寝た時に、アダムとエヴァは 2 人だった。

結婚後に、初夜後に、目覚めた時に、アダムとエヴァは 4 人に成った、と言える。

説明

4 つ 1 組と 4 つ 1 組の結合、数 8 は、形をつり合わせる、形を表す。

数 8 は、創造がもたらす、創造を表す。

数 8 は、命の永遠の、つり合いを表す。

数 7 は、神の休息の数である。

数 8 の統一性は、創造の作業で自然を耕して自然と協力する人を意味する。

第 9 の時

神は神の法を人に負わせた。

説明

数 9 は秘伝伝授の数である。

なぜなら、数 9 は、三重の数 3 で、神の概念と数の絶対の哲学を表す。

前記の理由のため、ティアナのアポロニウスは、数 9 の神秘を大衆に口外するべきではない、と話している。

第１０の時

第１０の時に、アダムは罪に堕ちた。

説明

カバリストによれば、数１０は物質の数である。

数１０の特徴的な象徴は数０である。

セフィロトの木で、数１０は王国を表す。

王国は外的な物質的な物質を表す。

アダムの罪とは物質偏重である。

アダムによって、命の木から引き離された果実は、霊から引き離された肉体を表す。

アダムによって、命の木から引き離された果実は、単一性の数１から引き離された数０、数１０の分裂を表す。

数０から引き離された数１は、損なわれた単一性を表す。

数１から引き離された数０は、虚無と死を表す。

第１１の時

第１１の時に、神は労苦の運命を人に与えた。

神は、労苦によって罪をつぐなう運命を人に与えた。

説明

タロットの１１ページ目には、試練を通じて獲得される、力が描かれている。

神は、救済手段として、労苦を人に与えた。

そのため、人は、知と命を勝ち取れる様に、労苦して忍耐する必要が有る。

第１２の時

男性アダムと女性エヴァは罰を受ける。

罪のつぐないが始まった。

神は罪からの解放者イエスを人に約束した。

説明

数１２は精神的な誕生の完了である。

人は満たされた。

なぜなら、イエスは復活するための犠牲を人にささげた。

オイディプスが国外追放された様に、アダムは楽園から追放された。

オイディプスの様に、アダムはカインとアベルという２人の対立する者の父と成った。

信心深い処女アンティゴネがオイディプスの娘に成った。

聖処女マリアがアダムの子孫から生まれた。